

出雲市次期可燃ごみ処理施設整備事業に係る

環 境 影 響 評 価 書

(要 約 書)

平 成 3 0 年 8 月

出 雲 市

この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の電子地形図25000を複製したものである。
(承認番号 平29情複、第1050号)

また、本書に掲載した地図をさらに複製する場合は、国土地理院の長の承認を得なければならない。

目 次 -

第1章 都市計画決定権者の名称及び所在地	1-1
第2章 都市計画対象事業の目的及び内容	2-1
第3章 都市計画対象事業実施区域及びその周囲の概況	3-1
第4章 方法書についての意見及び都市計画決定権者の見解	4-1
第5章 環境影響評価の項目並びに調査、予測及び評価の手法	5-1
第6章 環境影響評価の結果及び環境保全措置等の概要	6-1
第7章 環境影響の総合的な評価	7-1
第8章 準備書についての意見及び都市計画決定権者の見解	8-1

第1章 都市計画決定権者の名称及び所在地

1.1 都市計画決定権者の名称
出雲市

1.2 代表者の氏名
出雲市長 長岡 秀人

1.3 主たる事務所の所在地
島根県出雲市今市町 70

第2章 都市計画対象事業の目的及び内容

2.1 都市計画対象事業の目的

現在稼働している出雲エネルギーセンター（可燃ごみ処理施設）は、平成 15 年 10 月に引渡しを受けて以来、約 14 年が経過している。同施設の維持管理については、これまで定期的に補修工事を行い、安全かつ適切な管理運営に努めてきたものの、数年後には主要機器（基幹的設備）の耐用年数が到来し、その更新が必要になる見込みである。

同施設の処理システムであるキルン式ガス化溶融炉は、建設当時、環境に配慮した最新の技術であった一方で高度な制御技術を要するシステムであったために、現在では製造・運転・維持管理を請け負うメーカーが限られてきている。そのため同施設を延命化した場合と、現在普及している処理システムを採用して新設する場合とを比較したところ、費用対効果の面で新設が有利という結果となった。

以上のことから、平成 33 年度末には同施設の稼働期間で設定した年数が到来するため、これに替わる「次期可燃ごみ処理施設」（以下「本施設」という。）を平成 33 年度末までに整備するものである。

2.2 都市計画対象事業の内容

2.2.1 都市計画対象事業の名称及び種類

名 称 : 出雲市次期可燃ごみ処理施設整備事業

種 類 : 廃棄物の処理及び清掃に関する法律（昭和45年、法律第137号）第8条第1項に規定するごみ処理施設の設置の事業で、1日当たりの処理能力の合計が100トン以上であるもの

2.2.2 都市計画対象事業の規模

想定する都市計画対象事業の規模等の概要は、表 2.2-1 に示すとおりである。

表 2.2-1 都市計画対象事業の規模

項 目		内 容 ^{注1)}
種	類	ごみ処理施設
処 理 対 象 地 域		出雲市（1市）
処 理 能 力		200 t / 日
そ の 他	施 設 の 敷 地 面 積	約 3.9ha
	煙 突 高 さ	約 59m ^{注2)}

注1) 現時点の想定であり、変更になる場合がある。

注2) 煙突高さは、煙突排ガスによる周辺への影響を可能な限り低減するため、航空法に係る制約を受けない最大の高さを設定する。

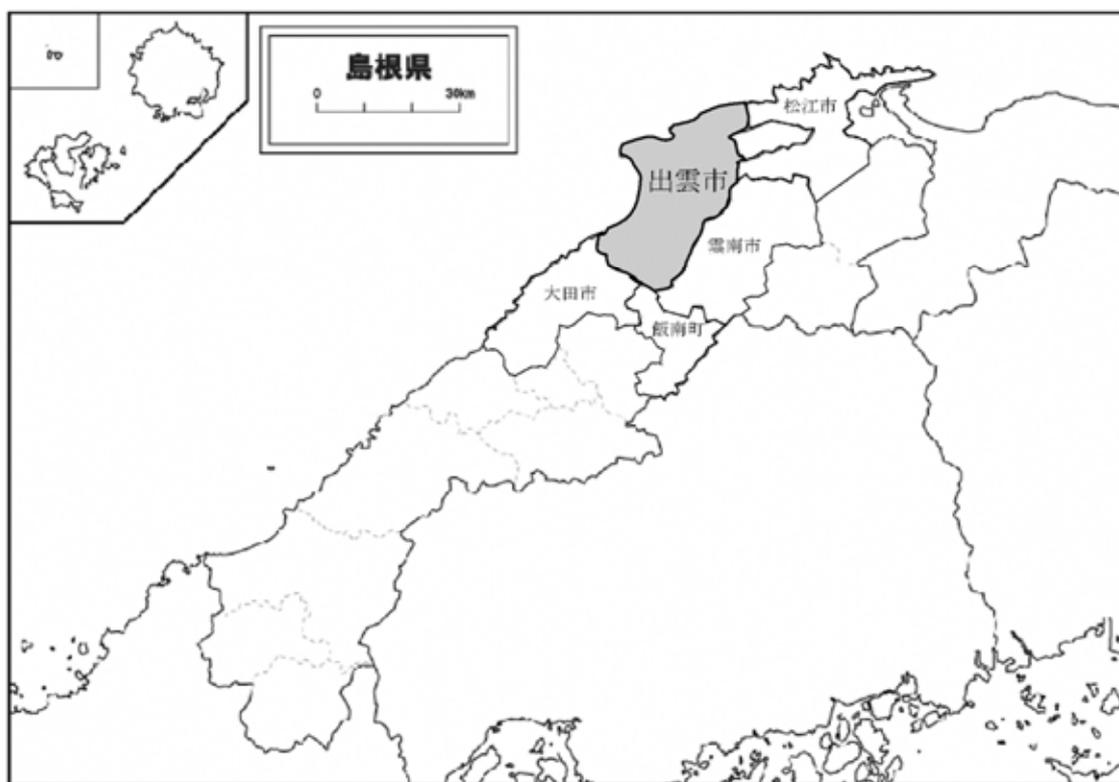


図 2.2-1 処理対象地域

なお、先に示した施設の処理能力は、「ごみ処理施設整備の計画・設計要領 2017 改定版」(公益社団法人 全国都市清掃会議) (以下「設計要領」という。) に基づき、現時点で想定される必要な規模として、以下のとおり算定したものである。

< 施設の処理能力の算定 >

$$\begin{aligned} \text{施設規模 (t/日)} &= (\text{計画年間処理量}^1) \div (\text{実稼働日数}^2) \div (\text{調整稼働率}^3) \times 1.1^4 \\ &= 49,000 \text{ t/年} \div 280 \text{ 日} \div 0.96 \times 1.1 \\ &= \mathbf{200 \text{ t/日}} \end{aligned}$$

1 計画目標年次における年間処理量で、計画一人当たり排出量に計画収集人口を乗じて求めた量に、計画直接搬入量を加算して求めた量。計画目標年次は、施設の稼働予定年度の7年後を超えない範囲内で将来予測の確度、施設の耐用年数、投資効率及び今後の他の廃棄物処理施設の整備計画等を勘案して定めた年度で、本市の場合は平成 34 年度である。

2 実稼働日数：280 日

(停止日数 85 日の内訳)

補修整備期間 30 日

補修点検期間 15 日×2 回

全停止期間 7 日

起動に要する日数 3 日×3 回

停止に要する日数 3 日×3 回

3 正常に運転する予定の日でも、故障の修理、やむを得ない一時休止等のために処理能力が低下することを考慮した係数。概ね 14 日を想定したもの。

$$(365 - 14) \text{ 日} \div 365 \text{ 日} = \mathbf{0.96}$$

4 災害廃棄物量として、本施設の施設規模に計上する量であり、出雲市災害廃棄物処理計画より、計画処理量から算出する施設規模の 10% と設定した。

2.2.3 都市計画対象事業実施区域の位置

都市計画対象事業が実施されるべき区域 (以下「都市計画対象事業実施区域」という。) 及び都市計画決定を行う本施設の位置・範囲は、以下に示すとおりである。

位 置 : 出雲市古志町地内 (古志採石場跡地) (図 2.2-2~4 参照)

なお、都市計画対象事業実施区域とは、当該事業により土地の形状の変更及び工作物の新設等が想定される概ねの範囲を指している。

本区域には、都市計画決定を行う施設の敷地の範囲のほか、工事施工ヤード等で一時的に利用する可能性のある区域も含んでいる。

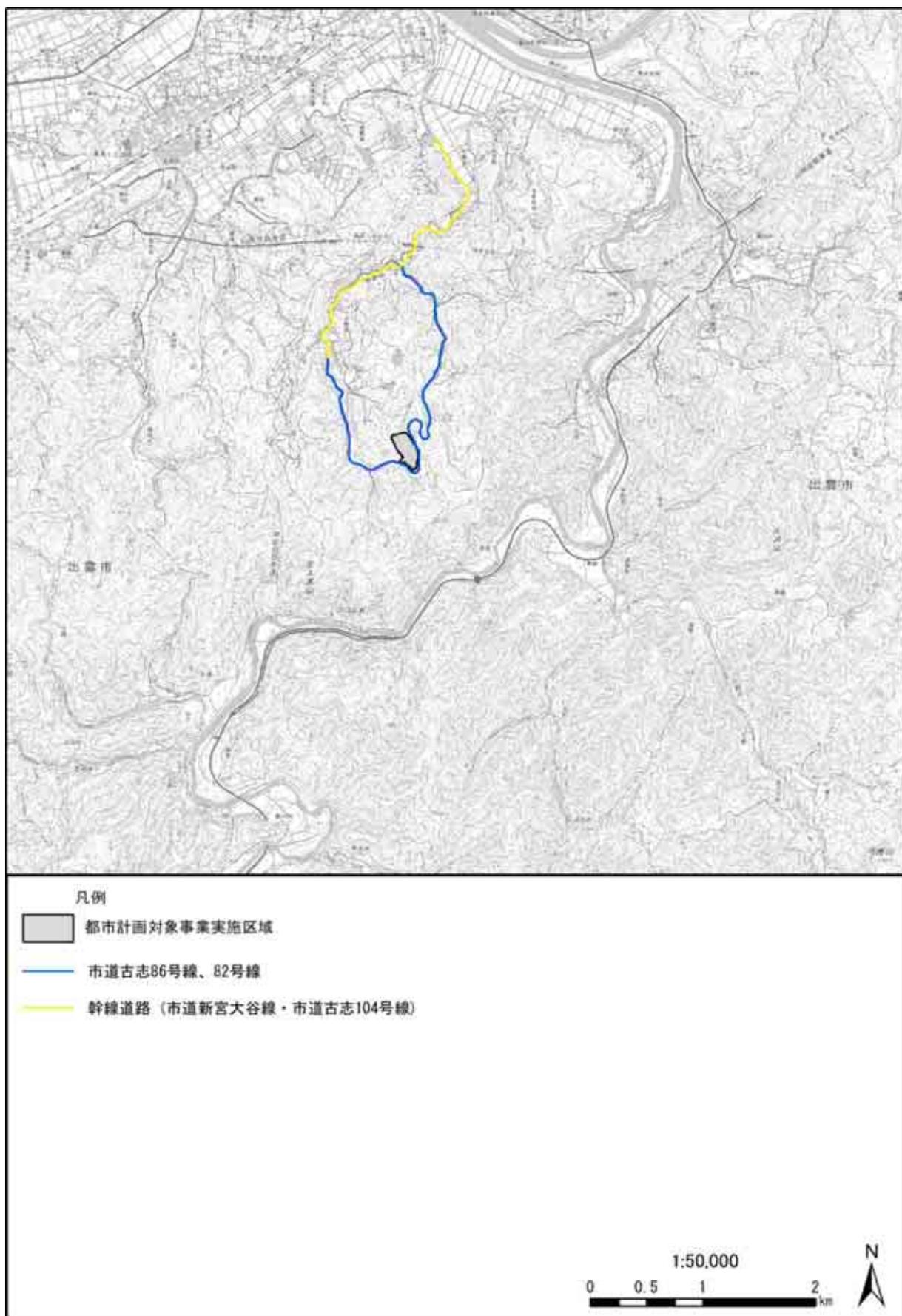


図 2.2-2 都市計画対象事業実施区域の位置（広域図）

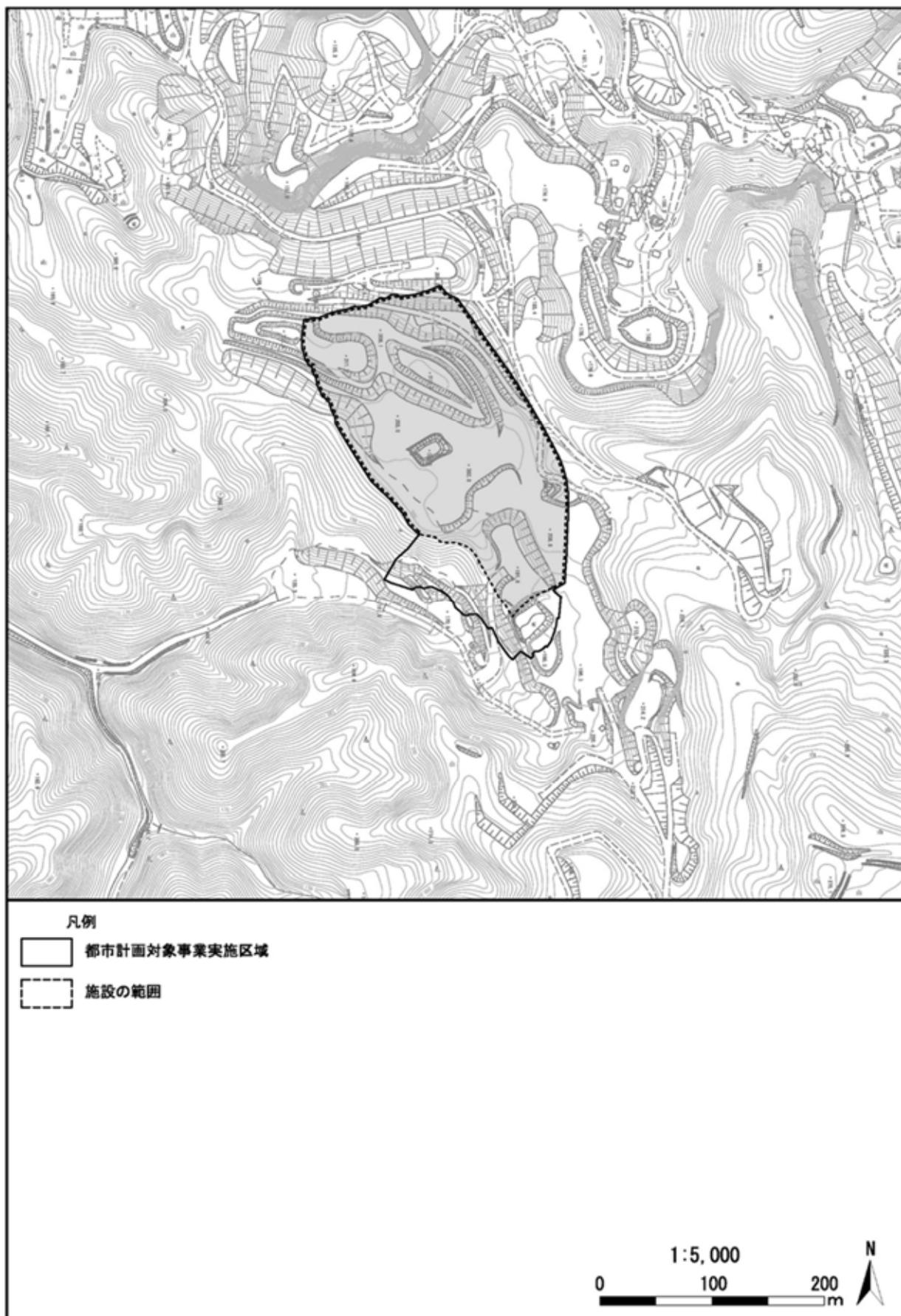


図 2.2-3 都市計画対象事業実施区域の位置（拡大図）

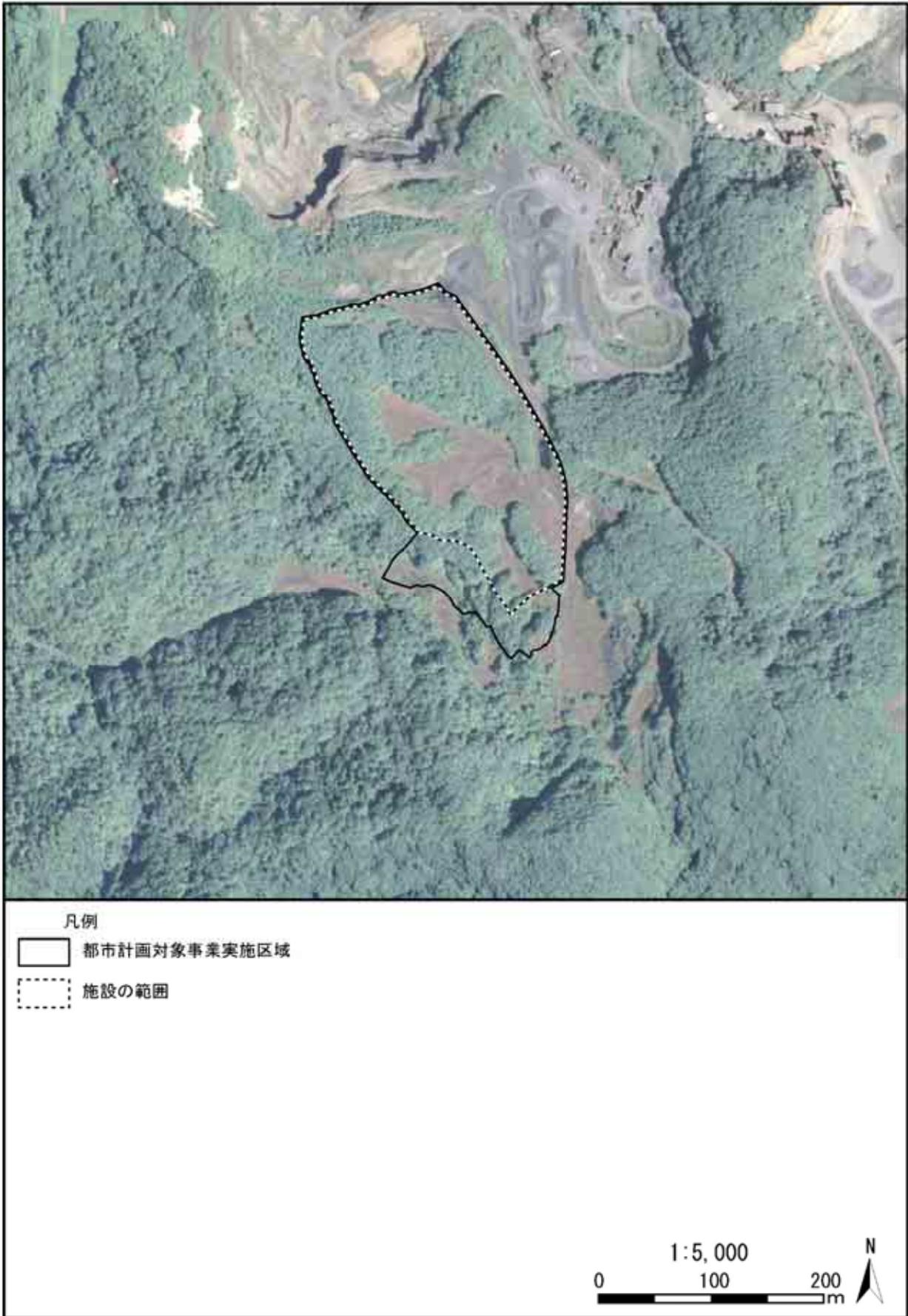


図 2.2-4 都市計画対象事業実施区域の位置（航空写真：平成 28 年 7 月撮影）

2.2.4 施設計画の内容

(1) 施設整備の基本方針

本事業の施設整備基本方針（コンセプト）は図 2.2-5 に示すとおりである。

施設計画の詳細の検討にあたっては、周辺環境に与える影響についても十分留意した計画としていく。

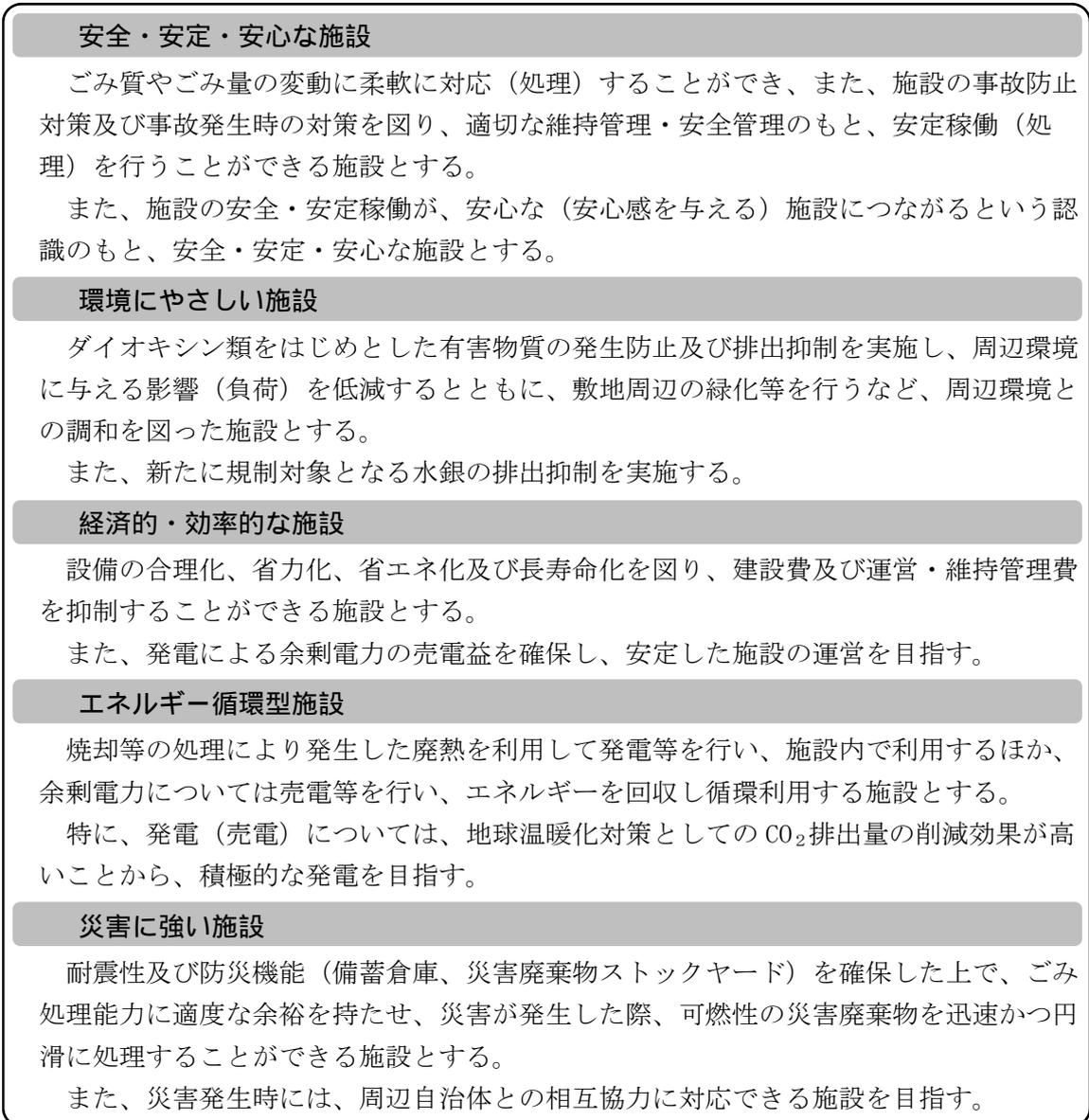


図 2.2-5 施設整備基本方針（コンセプト）

(2) 施設の基本仕様

ごみ処理施設の基本仕様は、表 2.2-2 に示すとおりである。

表 2.2-2 ごみ焼却施設の基本仕様（現段階想定）

項目		本施設	既存施設(出雲I初機 [*] -センター)
焼却方式		ストーカ式焼却炉 (全連続燃焼式)	キルン式ガス化溶融炉
施設規模		200 t/日 (100 t/日×2 炉)	218 t/日 (109 t/日×2 炉)
煙突高		59 m	59 m
排ガス諸元	排ガス量 (2 炉合計)	乾ガス量 52,000 m ³ /h (最大) 湿ガス量 62,000 m ³ /h (最大) ・・・注1)	乾ガス量 60,046 m ³ /h (最大) 湿ガス量 72,000 m ³ /h (最大) ・・・注2)
	排ガス温度	150 °C	160 °C
	硫黄酸化物	40 ppm 以下	50 ppm 以下
	窒素酸化物	50 ppm 以下	50 ppm 以下
	ばいじん	0.01 g/m ³ N 以下	0.01 g/m ³ N 以下
	塩化水素	40 ppm 以下	43 ppm 以下
	水銀	30 μg/m ³ N 以下	設定なし
	ダイオキシン類	0.01 ng-TEQ/m ³ N 以下	0.01 ng-TEQ/m ³ N 以下
余熱利用		発電設備 給湯設備等 (場内)	発電設備 給湯設備等 (場内) しまね花の郷等への電力供給
公害防止設備		排ガス処理設備 等	同左
給水計画		生活用水は上水を使用。 プラント用水は上水及び処理循環水を使用。	同左
排水計画	プラント系排水 生活排水	施設から発生する汚水は、排水処理後に再循環利用等を行うことにより、周辺河川等へは放流しない。	同左
	雨水排水	施設下流河川（新宮川）へ放流する。ただし、工場棟の屋根に降雨した雨水は、散水等に再利用する。	施設下流河川（廻田谷川）へ放流する。ただし、工場棟の屋根に降雨した雨水は施設内で再循環利用及び炉内・減温塔等に噴霧して蒸発酸化処理を行い、周辺河川等へは放流しない。

注1) 「出雲市次期可燃ごみ処理施設基本計画書」(平成29年5月、出雲市)の策定に当たり聴取した、プラントメーカーからの提案における幅をふまえ、現時点の想定として、排ガス負荷量が大きい値を設定したものである。

注2) 既存施設（出雲エネルギーセンター）の排ガス量は、出雲保健所にはばい煙発生施設設置（変更）届出書（平成14年7月26日付け）を届け出たときの数値を記載したものである。

注3) 本表に示す計画施設に係る条件は現時点の想定であり、今後変更になる場合がある。

(3) 施設整備計画（焼却施設）

1) 処理方式の選定

エネルギー回収型廃棄物処理施設には、図 2.2-6 に示す種類がある。

本事業に係る処理方式は、近年の導入実績が多い 3 つの処理方式（ストーカ式焼却炉、シャフト式ガス化溶融炉、流動床式ガス化溶融炉）を抽出したうえで、「出雲市次期可燃ごみ処理施設基本計画書」（平成 29 年 5 月、出雲市）の策定に当たり、プラントメーカーへのアンケート調査を実施し、検討を行った。

当該検討においては、複数の学識経験者等の意見を参考に、評価項目及び評価基準を設定し、プラントメーカーから提案の無かった流動床式ガス化溶融炉を除き、2 つの処理方式について評価を行った。その結果、総合的に高い評価を得た「ストーカ式焼却炉」を、本施設の処理方式に決定した。

<ストーカ式焼却炉を高く評価した主な項目>

- ・ アンケートに回答した 8 社のうち、7 社がストーカ式焼却炉を提案しており、競争性が確保できる。
- ・ シャフト式と比較して CO₂ 排出量が少なく、地球環境の保全に寄与することができる。
- ・ 助燃材が不要で売電単価が高く売電収入が多く見込まれるため、総事業費を低減することができる。

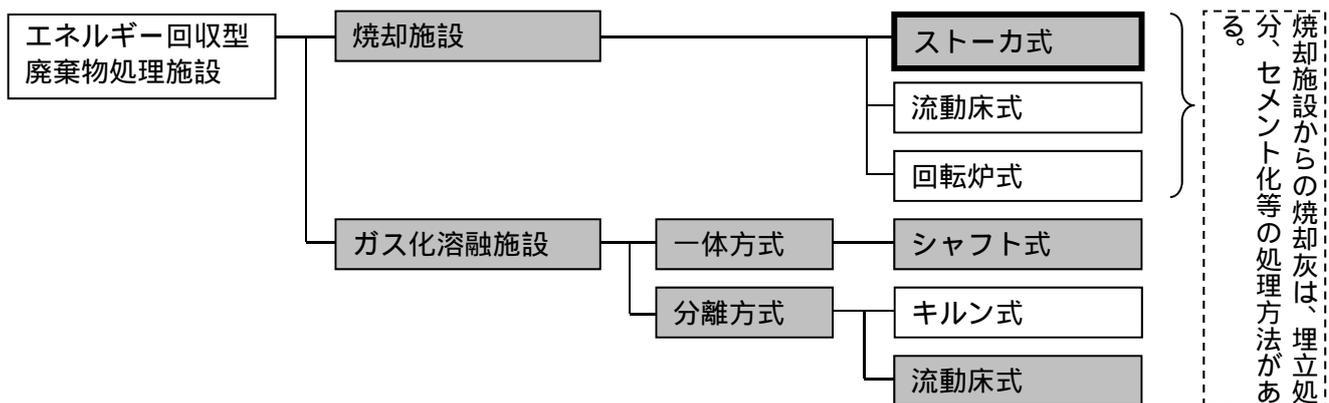


図 2.2-6 処理方式の種類

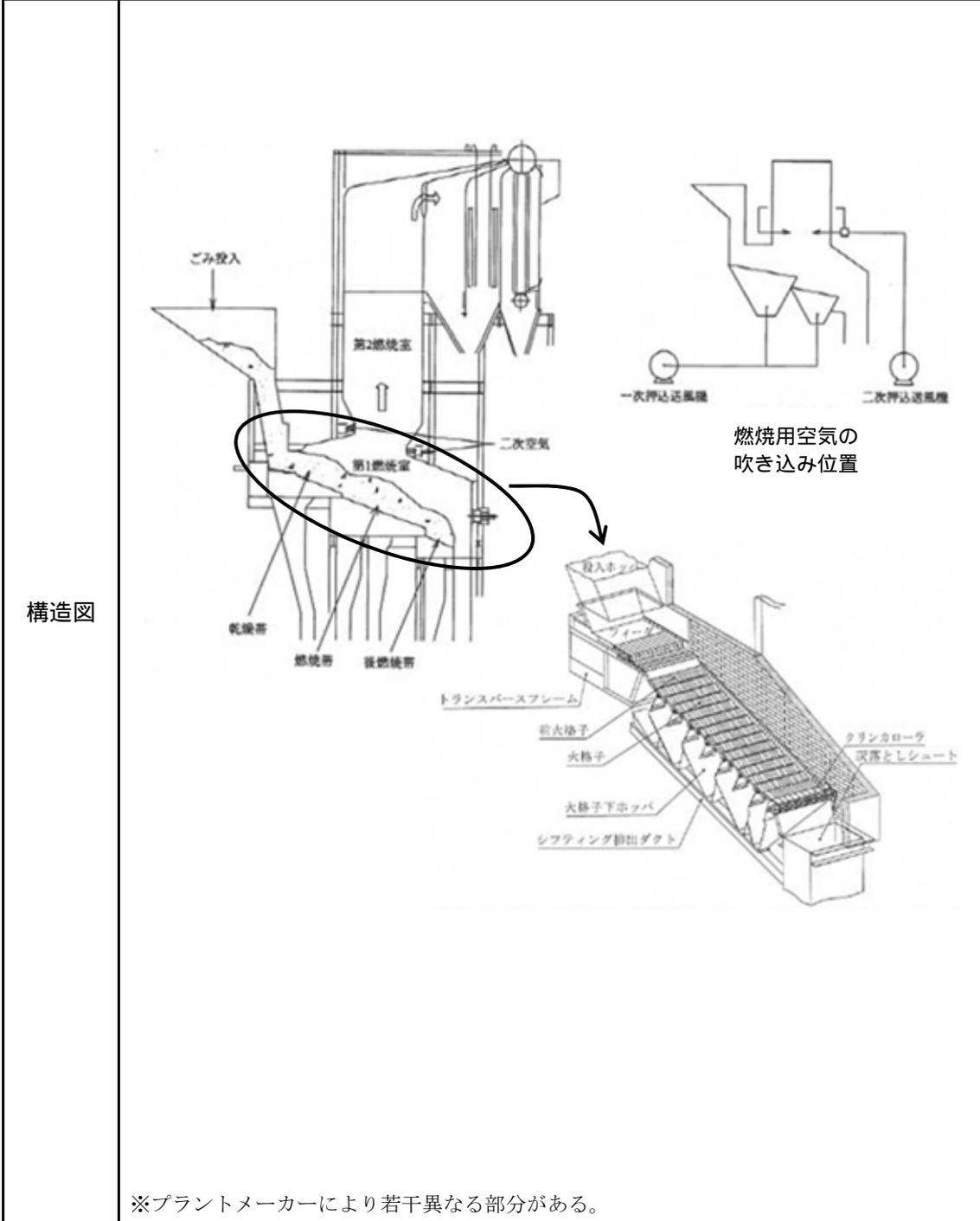
【参考：焼却施設（ストーカ式）の概要】

概要

○ごみを火格子（ストーカ）の上で移動させて処理する方式である。

○火格子（ストーカ）は、乾燥・燃焼・後燃焼の段階に分けられており、下部から燃焼用の空気を送り、炉上部からのふく射熱や燃焼ガスによる接触伝熱によって、ごみ（排ガス）を完全燃焼する。（約 900℃）

○近年では、同方式による低空気比燃焼による省エネ化、高温燃焼による排ガスのクリーン化、熱回収の効率化等の技術が進んでいる。

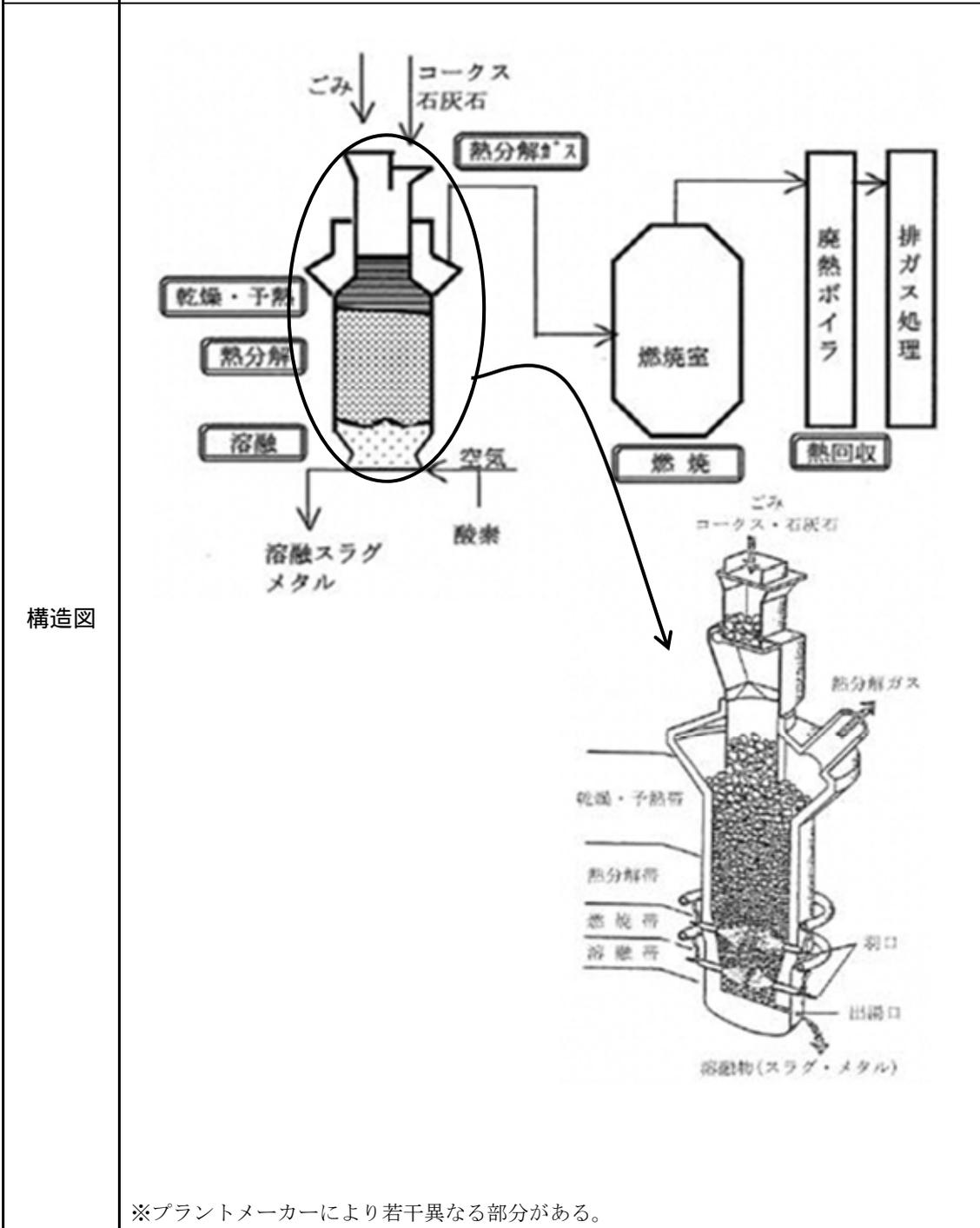


出典：設計要領

【参考：ガス化溶融施設（シャフト式）の概要】

概要

○製鉄所の高炉を応用した処理方式である。
 ○ごみを助燃材であるコークス、調整材である石灰石と一緒に炉へ投入し、熱分解帯でガス化後、燃焼帯及び溶融帯において約 1800℃で灰分等を溶融させる。

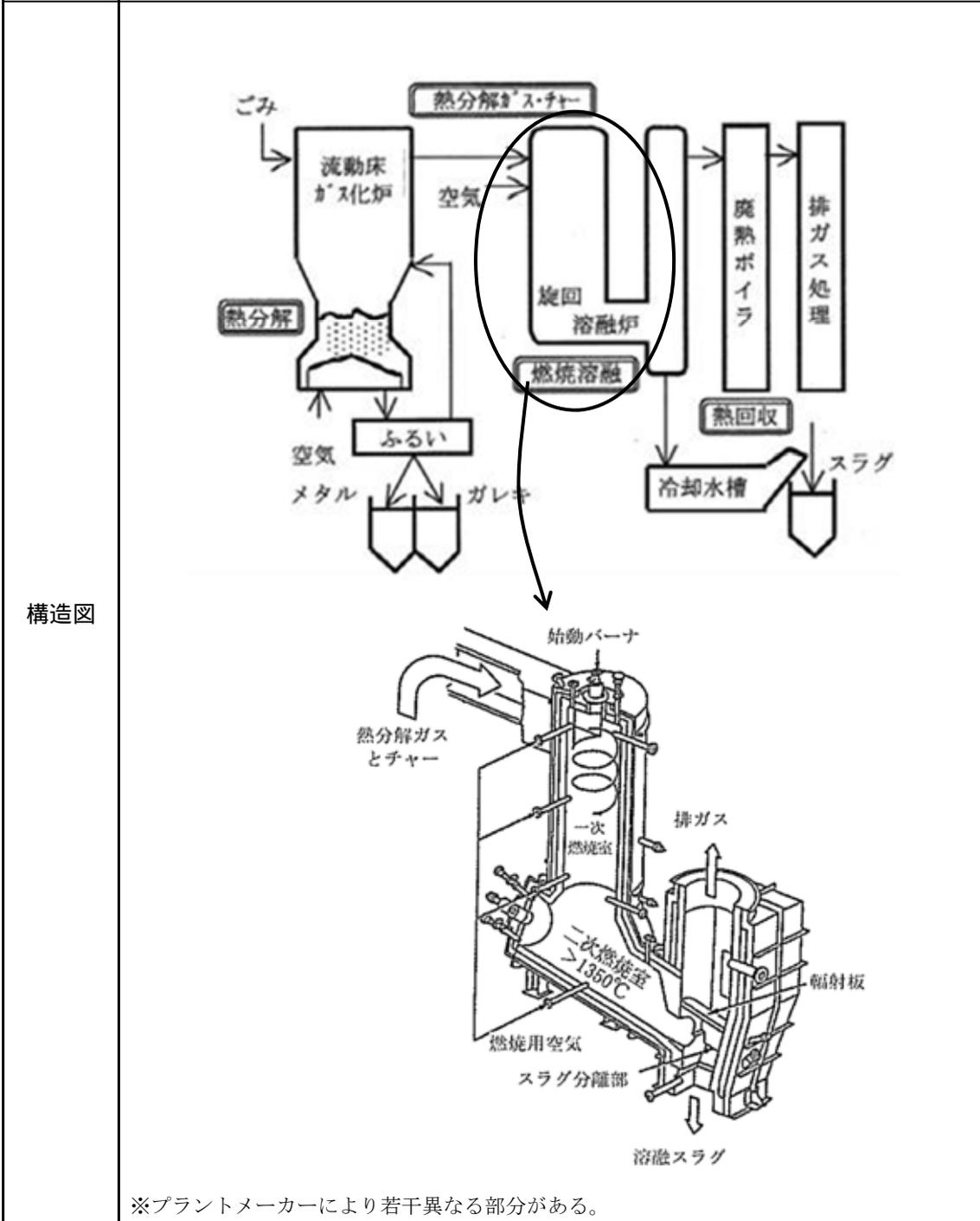


出典：設計要領

【参考：ガス化溶融施設（流動床式）の概要】

概要

○汚泥等の処理を目的とした流動床式焼却炉を応用した処理方式である。
 ○ごみを均一にする破碎等の前処理を行い、高温流動砂でガス化し、発生した熱分解ガスとチャー（未燃炭素）及び灰を後段の溶融炉に送り約 1400℃で灰分等を溶融させる。



出典：設計要領

2) ごみ処理フロー

全体ごみ処理フローのイメージを図 2.2-7 に示す。

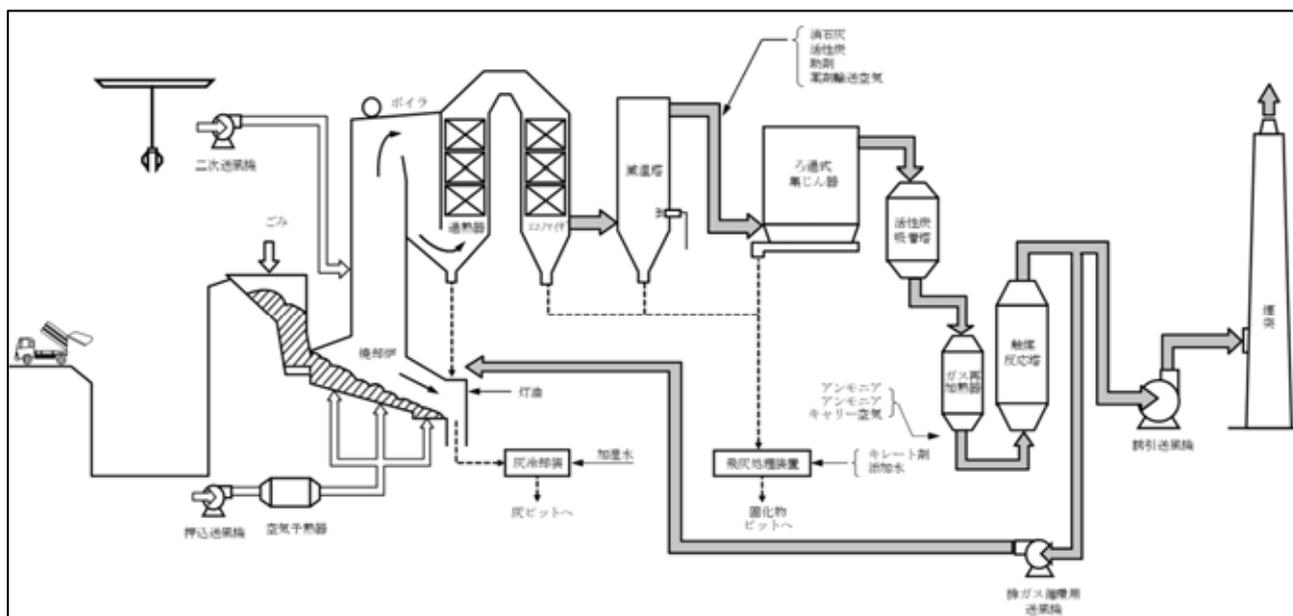


図 2.2-7 全体ごみ処理フローイメージ (焼却施設)

3) 処理対象物

可燃ごみ、不燃物処理施設からの可燃・不燃残渣、再資源化施設からの可燃・不燃残渣、埋立処分をしている可燃性のごみを処理対象物とする。

4) 受入・供給設備

搬入されたごみは、ごみ計量機で計量した後、プラットホーム内のごみ投入扉からごみピットに投入する。ごみはピット内でクレーンにより均質になるように混合・攪拌し、投入ホップに投入する。

ごみピットの容量は、近年の他施設の実績（「平成 25 年度地域の防災拠点となる廃棄物処理施設におけるエネルギー供給方策検討委託業務報告書」）、施設整備基本方針の「災害に強い施設」の観点から施設規模の約 7 日分を確保することを基本とする。

5) 前処理設備

投入ホップに入らない可燃性粗大ごみを処理対象物として前処理設備を設置する。設備は、破碎時の衝撃、振動が少なく、危険物投入時の爆発の危険性も少ないせん断式破碎機とする。また、必要に応じて破碎物をごみピットへ搬送するための破碎物搬送コンベアを設置する。

6) 燃焼設備

投入ホップに投入されたごみは、燃焼設備によって焼却処理する。燃焼設備は、投入ホップ・給じん装置・燃焼装置・助燃装置等で構成される。

燃焼装置はストーカ式焼却炉を採用する。ストーカ式焼却炉は、可動する火格子上でごみを移動させながら、火格子下部から燃焼用の空気を送入し、完全燃焼させる装置であり、乾燥・燃焼・後燃焼工程によって構成される。

7) 燃焼ガス冷却設備

焼却処理によって発生する燃焼ガスを排ガス処理設備で安全に効率よく処理できる温度まで冷却するために、燃焼ガス冷却設備を設置する。燃焼ガス冷却設備は、主にボイラ設備及び蒸気復水設備によって構成される。ごみの持つエネルギーをボイラ設備によって蒸気エネルギーに変換し、発電する。その後、蒸気は復水し、循環利用する。

ボイラの基本型式は一般的な水管式ボイラとし、缶水循環方式については、ボイラ伝熱面の構成が簡素で缶水循環ポンプを必要としない自然循環方式とする。

8) 排ガス処理設備

燃焼ガスを排気する際に、処理対象物質を指定濃度以下となるよう排ガス処理をする。

ばいじん、塩化水素、硫酸化合物、窒素化合物、ダイオキシン類、水銀に係る基本的な処理方法等の方針は表 2.2-3 に、焼却施設の排ガス処理フローは図 2.2-8 に示すとおりである。

なお、水銀については、国連環境計画（UNEP）による「水銀に関する水俣条約」（2013年）及び国内における「水銀による環境汚染の防止に関する法律」（2015年）の制定などにより、水銀から人の健康と環境を守る取り組みが行われていることから、本市においても、これまで以上に市民への情報提供や搬入物検査等を徹底し、正しくごみを分別して、水銀の大気環境等への排出を未然に防ぐよう周知を図る。また、本施設における排ガス中の水銀の除去は活性炭吹込法等により行い、排ガス中の水銀濃度を公害防止基準（保証値）として設定する。また、水銀濃度の測定（管理）を行い、要監視基準値を超過した場合には速やかに改善策を講じる。

表 2.2-3 排ガス処理設備の概要

	基本的な処理方針
ばいじん	ろ過式集じん器
塩化水素	有害ガス除去装置（乾式法）
硫酸化合物	
窒素化合物	燃焼制御、EGR（排ガス再循環システム）、無触媒脱硝法、若しくは触媒脱硝法の組み合わせによる方法
ダイオキシン類	ろ過式集じん器（消石灰、活性炭吹込法）
水銀	活性炭吹込法

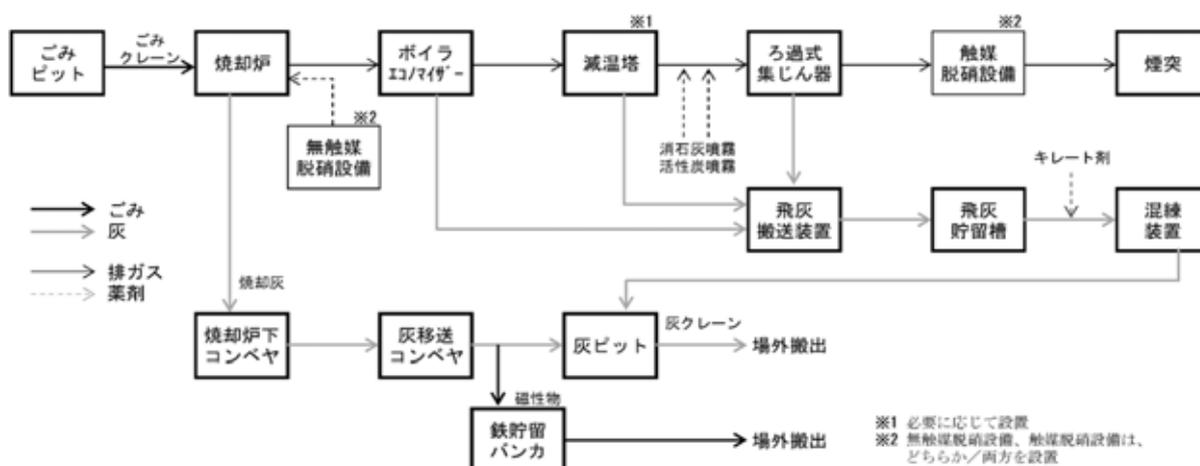


図 2.2-8 排ガス処理フロー

9) 通風設備

通風設備によって、ごみ焼却に要する燃焼用空気を供給し、燃焼により生じた排ガスを誘引し、煙突を経て大気に拡散させる。

通風設備のうち、煙突については、土木建築設備に係る事業費を低減するために、施設の建屋と一体構造とする。煙突高さは、航空法に抵触しない約 59m とするとともに、景観面にも配慮する。煙突の構造は、鋼板製（軽量化）を可とし、建屋全体への荷重を抑える。

10) 灰出し設備

灰出し設備によって、焼却灰及び各部で捕集された飛灰を集め、搬送・飛灰処理をし、場外へ搬出する。

焼却灰及び飛灰については、ピットアンドクレーン方式とする。ただし、将来的なセメント原料化等資源化処理への変更を考慮し、飛灰については、飛灰専用運搬車両（ジェットトラック）への積み込みへの変更が可能な設計とすることを基本とする。

11) 余熱利用設備

余熱利用設備によって、焼却処理に伴う廃熱をボイラによって蒸気を発生させ、蒸気タービンによってエネルギー回収をする。

熱利用については、発電を中心として計画し、その他の利用方法としては、場内の給湯等に使用することを基本とする。発電した電力は施設内で消費し、余剰電力は電力会社に売電する。

余熱利用設備・エネルギー回収フローを図 2.2-9 に示す。

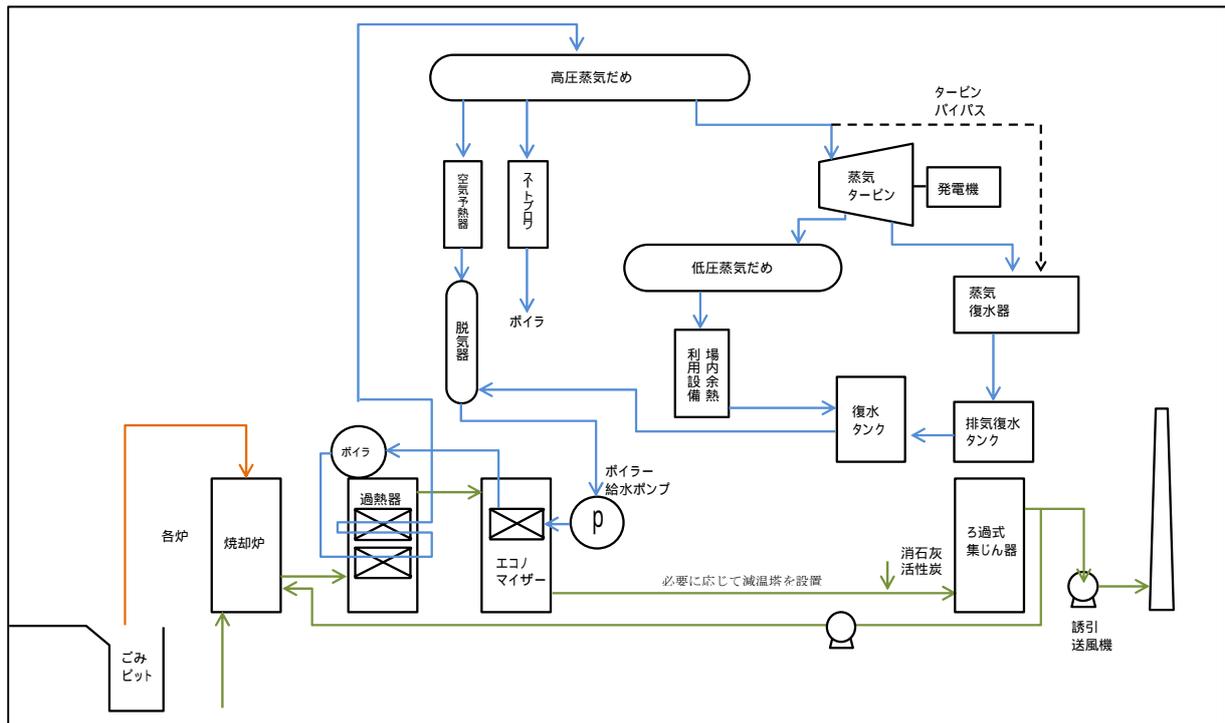


図 2.2-9 余熱利用設備・エネルギー回収フロー

12) せん定枝処理用破碎施設

搬入されたせん定枝は、チップ化し堆肥製造の原料となるようマテリアルリサイクルを行うことを基本とする。せん定枝処理用破碎機は、せん定枝を容易かつ安全に処理（チップ化）できる能力とする。また、せん定枝を貯留及び処理（チップ化）するためのストックヤードを設置し、チップの貯留棟は屋根付きかつシャッター付とする。

(4) 施設配置・動線計画

本施設は敷地の北側に配置し、中央部には管理棟を配置し、敷地の南側は災害廃棄物の仮置き場とする計画である。将来的な施設については敷地の南側に配置し、中央部には管理棟を配置し、敷地の北側にある本施設を解体撤去後、災害廃棄物の仮置き場とする計画である。敷地内における各エリアのイメージを図 2.2-10 に示す。

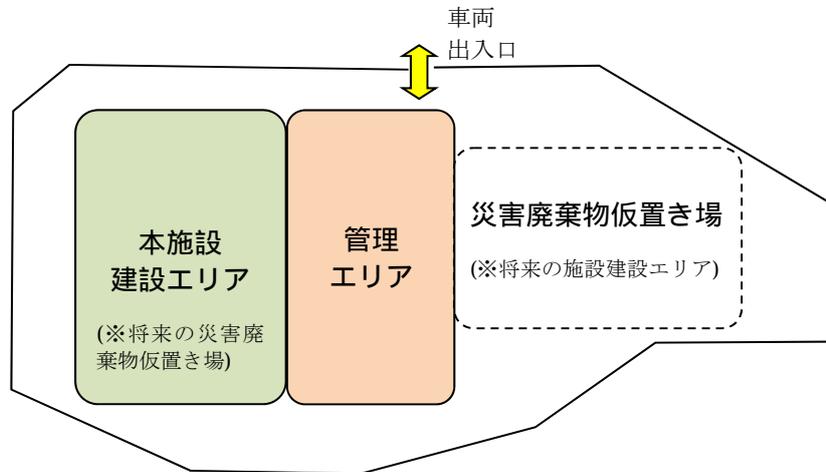
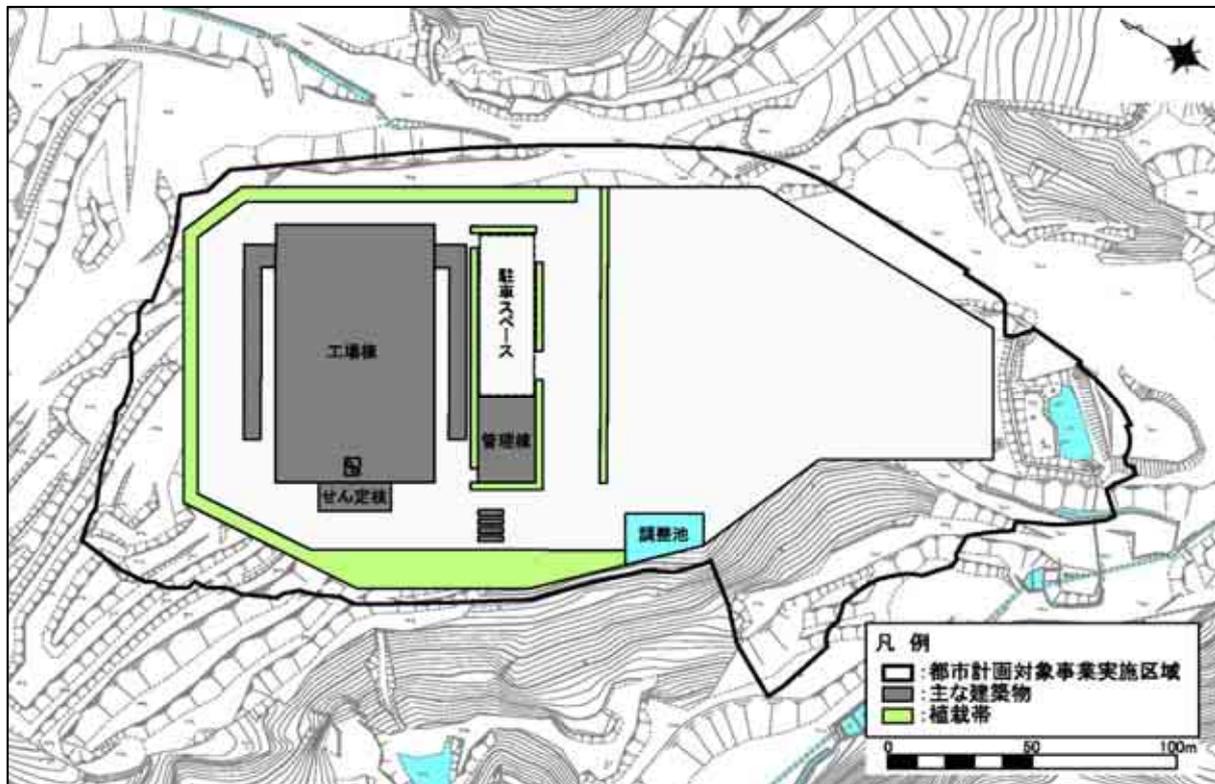


図 2.2-10 敷地内のエリアイメージ

また、敷地内の施設配置計画の概要を図 2.2-11 に、工場棟の主要施設配置概略図（平面図、断面図）を図 2.2-12～図 2.2-13 に示す。

なお、敷地内の車両動線は、原則、市民の直接搬入車両動線と一般来場車両動線、業者収集の車両動線を分離し、十分に安全を確保した効率的な通行ができる計画とする。



※本事業はDBO（公設・民営）方式により実施することから、民間企業の提案により、想定した施設配置と異なる場合がある。

図 2.2-11 施設配置計画の概要（概略想定図）

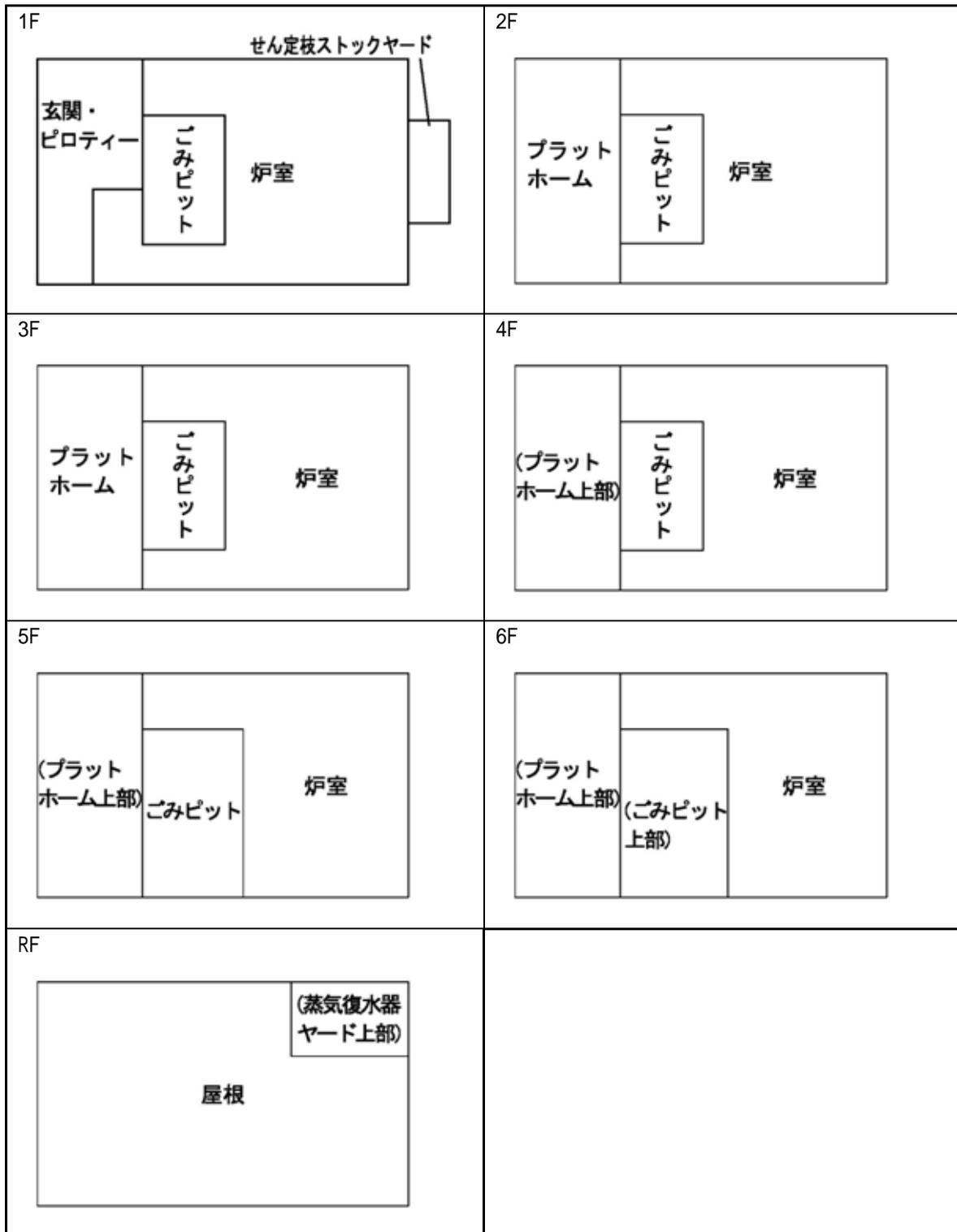


図 2.2-12 工場棟の主要施設配置概略図（平面図）

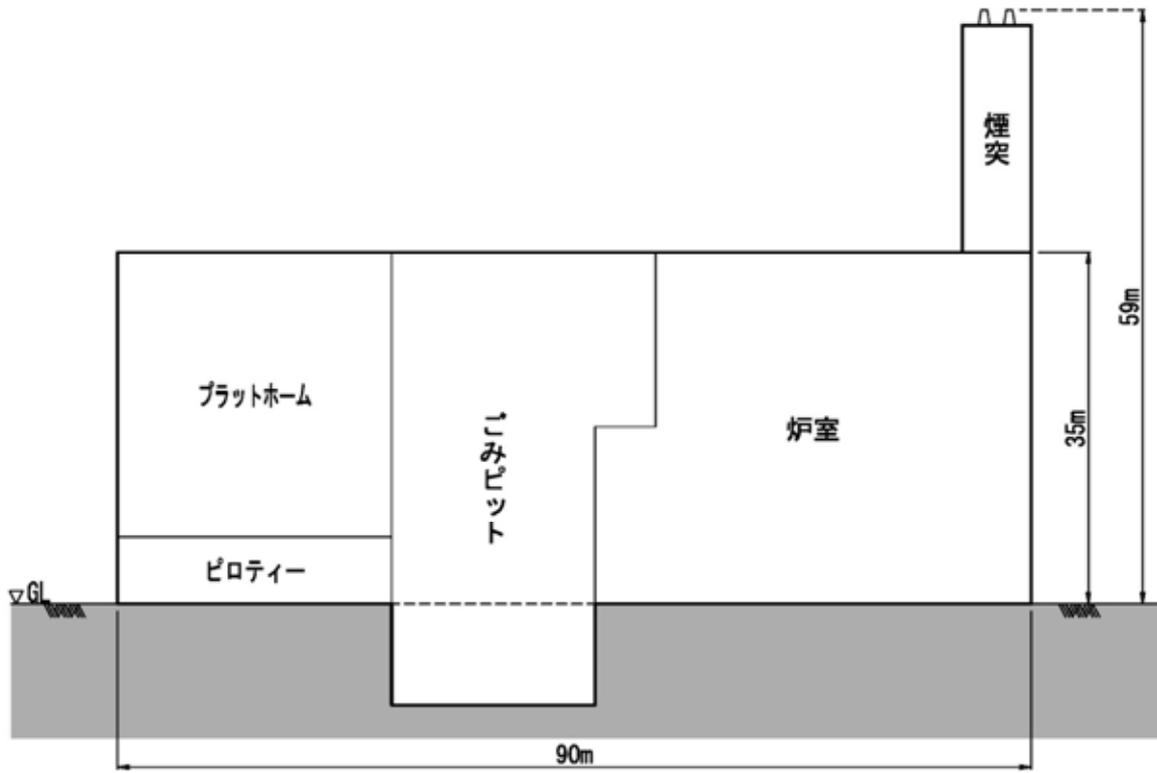


図 2.2-13 工場棟の主要施設配置概略図（断面図）

(5) 建築計画

施設整備の基本方針に示したように、本施設の整備は「経済的、効率的な施設」及び「災害に強い施設」にも留意して計画する。

本施設のうち、臭気対策及び騒音・振動対策が必要な部屋（設備）については、鉄筋コンクリート造あるいは鉄骨鉄筋コンクリート造とし、必要な設備・機器を収納する。その他の部屋については、鉄骨造とする。

また、施設の意匠、デザイン等については、景観面に配慮して検討を行う。

(6) 施設整備スケジュール

本施設の整備スケジュール及び工事工程の概要は、表 2.2-4 に示すとおりである。

なお、工事工程の詳細は、「2.3 工事計画」に示す。

表 2.2-4 施設整備スケジュール

年度（平成）		28	29	30	31	32	33	34
環境影響評価		←→						
都市計画決定			←→					
工事	敷地造成工事	←設計→			←工事→			
	施設建築工事、 工事監理			←設計/施工/試運転/性能試験/竣工→				
本稼働								→

注) 現時点の想定であり、変更になる場合がある。

2.2.5 緑化計画

本施設の整備にあたっては、工場棟、管理棟及び駐車スペースの周辺において、可能な限り、周辺環境との調和に留意した緑化を行う。

緑化を想定している概ねのエリアは、図 2.2-11 に示すとおりである。

2.2.6 関係車両の走行ルート計画

建設工事及び施設の供用後における廃棄物等の運搬車両の走行ルート（アクセス道路）は図 2.2-14 に示すとおりであり、幹線道路（市道新宮大谷線・市道古志 104 号線）より市道古志 86 号線（別途道路改良予定）を経て、都市計画対象事業実施区域に搬出入する計画である。

本施設の供用後に想定する廃棄物等の運搬車両の種類及び平均的な台数等は表 2.2-5 に示すとおりである。この台数は、現在の出雲エネルギーセンターに搬入しているごみ運搬車両等の過去 5 年の実績平均台数（平成 24 年度～28 年度）を基に、他市町からのごみ運搬車両等を除いて想定したものである。

なお、廃棄物等運搬車両の台数には、年間における月別の変動及び 1 週間における曜日変動がある。そこで、繁忙時の台数として、過去 5 年の実績に基づく割り増し率を乗じた台数を想定すると表 2.2-6 に示すとおりとなる。「第 6 章 環境影響評価の結果及び環境保全措置等の概要」における影響の予測・評価においては、安全側での予測に留意し、表 2.2-6 に示す台数を考慮することとした。

表 2.2-5 主な廃棄物等運搬車両と台数（平日、平均時）

区分	種類		規格	台数
大型車	パッカー車	廃棄物の搬入	2～10 t	82台/日
	トラック		小型トラック、中型トラック	29台/日
	ダンプトラック	焼却灰の搬出	4～10 t	9台/日
	小計			120台/日
小型車	一般車両	廃棄物の搬入	自家用車・軽トラック等	112台/日
	通勤車両	職員の通勤	自家用車	32台/日
	小計			144台/日

注）本表に示す車両台数は、現在の出雲エネルギーセンターに搬入しているごみ運搬車両等の過去5年の実績平均台数（平成24年度～28年度）を基に、他市町からのごみ運搬車両等を除いて想定したものである。

表 2.2-6 主な廃棄物等運搬車両と台数（平日、繁忙時）

区分	種類		規格	台数
大型車	パッカー車	廃棄物の搬入	2～10 t	108台/日
	トラック		小型トラック、中型トラック	38台/日
	ダンプトラック	焼却灰の搬出	4～10 t	12台/日
	小計			158台/日
小型車	一般車両	廃棄物の搬入	自家用車・軽トラック等	174台/日
	通勤車両	職員の通勤	自家用車	32台/日
	小計			206台/日

注）本表に示す車両台数は、表 2.2-5 に示す平均台数に、年間における月別の変動及び1週間における曜日変動をふまえた割り増し率を乗じて算出したものである。

なお、市道古志 86 号線の東側に位置する市道古志 82 号線は、現在、操業している採石場のアクセス道路として主に使用されており、多くのダンプトラックが往来している。したがって、大気汚染、騒音及び振動の負荷の分散や安全性の観点等に留意し、本事業により永続的に発生する廃棄物等の運搬車両の走行ルートは、当該ルートを避けた市道古志 86 号線を使用する計画としている。

一方、造成・建設工事用車両の走行ルートについては、当初は別途、道路改良工事を予定している市道古志 86 号線を使用する予定としていたが、市道古志 82 号線を使用する計画とした。本準備書作成にあたっては、市道古志 82 号線を対象とした騒音・振動の調査を行ったうえで、工事用車両の走行に係る影響の検証を行った結果、影響は軽微であると評価（「第 8 章 8.2 騒音、8.3 振動」参照）した。

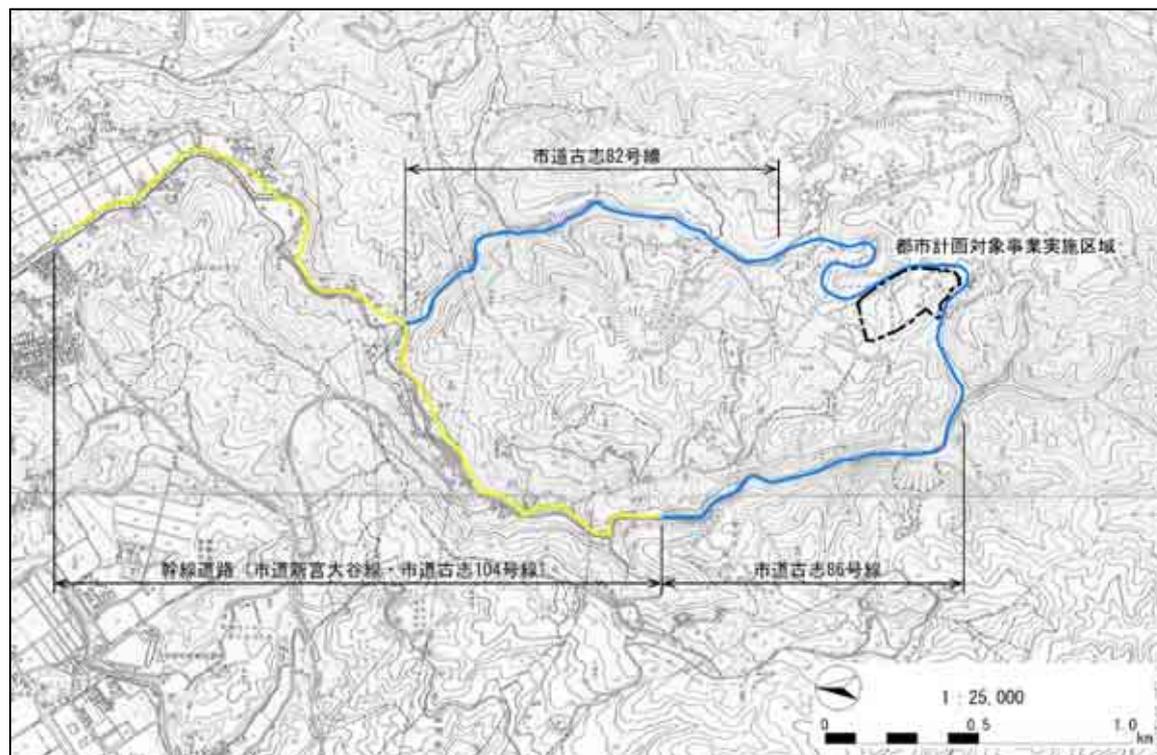


図 2.2-14 運搬車両の走行ルート（アクセス道路）

2.2.7 給水計画

本施設の飲料水や風呂・シャワー等の生活用水は全て上水を用いる。プラント用水や洗車用水等のプラント運転に必要な用水は、上水及び処理循環水を基本的に用いる。

2.2.8 排水計画

(1) 雨水排水計画

雨水については、場内の雨水排水路から水路を経て調整池に流入させたのち、排水管又は道路側溝を経て新宮川へ放流する。

なお、雨水に施設内で発生した汚水が流入しないよう、ごみ処理設備や作業区域は建屋内に配置するとともに、床勾配等で流路を切り分ける。

また、省エネ・省資源化設備として施設の屋根に降った雨の集水利用を積極的に活用し、上水の使用量を低減する計画である。なお、雨水再利用システムは、集水設備、貯留設備、処理設備及び給水設備から構成され、利用用途により設備の内容も異なることから、施設内での利用用途を十分検討したうえで導入する。

(2) 汚水排水計画

プラント排水についてはクローズド処理とする（排水処理後に再循環利用等を行う）。なお、生活排水については合併処理浄化槽で適正処理の後、処理循環水として利用する。

排水処理フローは、図 2.2-15 に示すとおりである。

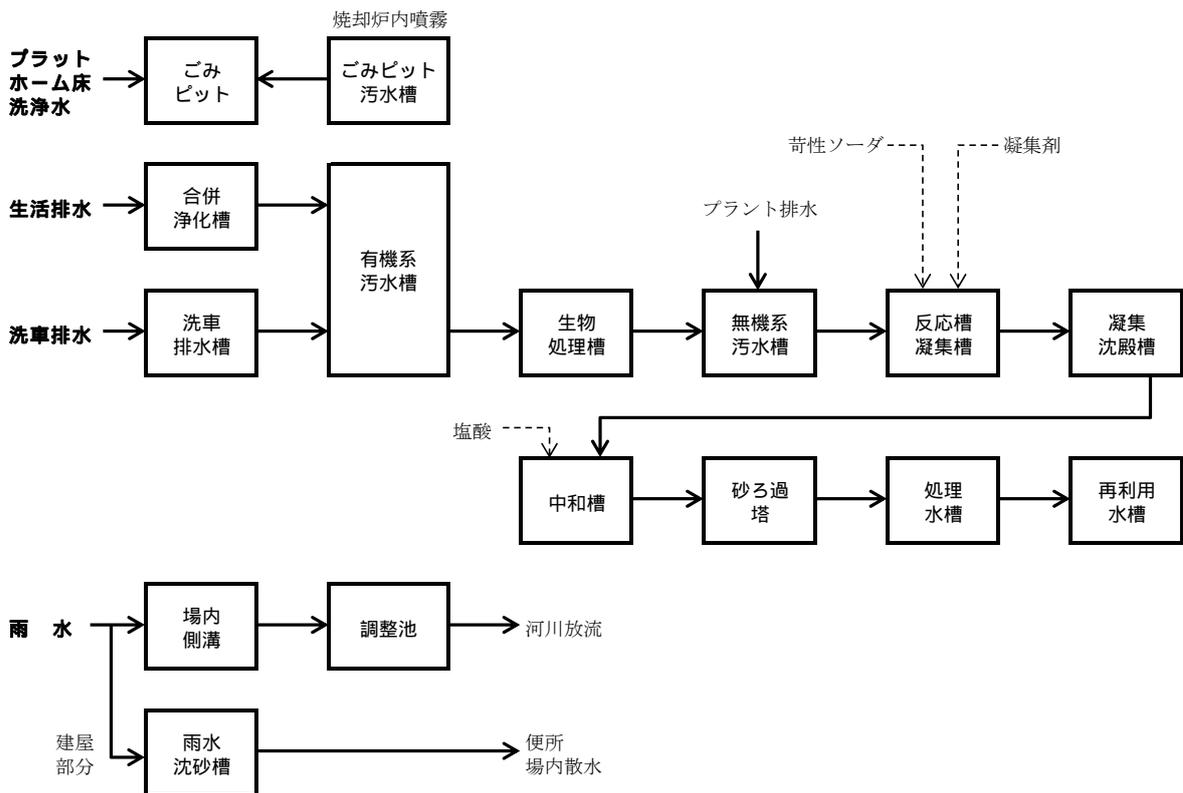


図 2.2-15 排水処理フロー

2.2.9 電気設備計画

本施設の発電機容量は約 4,000kW (2,000kW を超過) になることから、受電方式は特別高圧受電 (22,000V) で計画する。

また、全炉停止した状態や商用電源が遮断した状態でも、1 炉立ち上げることができる非常用発電機を設置する。

2.2.10 公害防止計画

(1) 大気汚染防止関連（排ガス基準値）

排ガスの公害防止基準の設定に当たり、法規制値、現施設の公害防止条件を示す。

本施設における排ガスの排ガス基準値は、現施設と同等以上の性能を有する施設とすることを旨とし、表 2.2-7 のように設定する。

なお、水銀については、平成 28 年 9 月に環境省から通達があり、平成 30 年 4 月以降に一般廃棄物処理施設の設置届を提出する場合には新設の規制値が適用され、それ以前に提出している場合には既設の規制値が適用される見通しである。

表 2.2-7 排ガス基準値

項目	単位	法規制値	現施設 (出雲エネルギーセンター)	本施設
硫黄酸化物	ppm	※3	50	40
窒素酸化物	ppm	250	50	50
ばいじん	g/m ³ N	0.04	0.01	0.01
塩化水素 ※1	ppm	約430	43	40
水銀 ※2	μg/m ³ N	30	-	30
ダイオキシン類	ng-TEQ/m ³ N	0.1	0.01	0.01

※1：塩化水素の法規制値は、700mg/m³N（約430ppm）

※2：水銀の法規制値は、新設30μg/m³N、既設50μg/m³N（H30年度施行予定）

※3：硫黄酸化物の排出基準（法規制値）は地域及び排出条件（煙突高さ、口径）によって異なる。現段階では1,200ppm程度（換算値）と想定。

(2) 水質汚濁防止関連（排水基準値）

本施設は処理水を場外へ放流しないクローズドシステムを採用するため、水質汚濁防止関連の基準値は設定しない。

(3) 騒音・振動防止関連（騒音・振動基準値）

1) 騒音

本市の騒音基準値は、平成 24 年出雲市告示第 173 号で定められている。

都市計画対象事業実施区域は古志町に位置し、規制指定地域外となっているが、古志町の一部は、第3種区域に指定されていることから、周辺環境を保全する観点から、表 2.2-8 に示す規制値のうち、騒音基準値は第3種区域の数値とする。

表 2.2-8 騒音基準値（敷地境界）

	単位	昼間	朝（6：00～8：00）	夜間
		（8：00～18：00）	夕（18：00～21：00）	（21：00～6：00）
第1種区域	dB (A)	50	40	40
第2種区域		55	45	40
第3種区域		65	60	50
第4種区域		70	70	60

2) 振動

本市の振動基準値は、平成 24 年出雲市告示第 174 号で定められている。

都市計画対象事業実施区域は古志町に位置し、規制指定地域外となっているが、古志町の一部は、第 2 種区域に指定されていることから、周辺環境を保全する観点から、表 2.2-9 に示す規制値のうち、振動基準値は第 2 種区域の数値とする。

表 2.2-9 振動基準値（敷地境界）

	単位	昼間 (8 : 00 ~ 19 : 00)	夜間 (19 : 00 ~ 8 : 00)
第 1 種区域	dB	60	55
第 2 種区域		65	60

(4) 悪臭防止関連（悪臭基準値）

本市の悪臭基準値は、平成 24 年出雲市告示第 175 号で定められている。

都市計画対象事業実施区域は古志町に位置し、規制指定地域外となっているが、周辺環境の保全、本施設への来場者及び見学者等への配慮から、表 2.2-10 に示す規制値のうち、住居地域等の規制基準（A 地域）を採用する。

表 2.2-10 悪臭基準値（敷地境界）

特定悪臭物質	地域の区分	単位	敷地境界線規制基準	
			A 地域	B 地域
アンモニア		ppm	1	2
メチルメルカプタン			0.002	0.004
硫化水素			0.02	0.06
硫化メチル			0.01	0.05
二酸化メチル			0.009	0.03
トリメチルアミン			0.005	0.02
アセトアルデヒド			0.05	0.1
スチレン			0.4	0.8
プロピオン酸			0.03	0.07
ノルマル酪酸			0.001	0.002
ノルマル吉草酸			0.0009	0.002
イソ吉草酸			0.001	0.004

2.2.11 焼却残渣の最終処分計画

飛灰は無害化処理後、埋立処分する。焼却残渣については、無害化処理後、埋立処分のほか品質基準（J I S 規格等の動向）、需要先の状況を含めて資源化利用を検討する。

2.3 工事計画

2.3.1 工事工程計画の概要

都市計画対象事業実施区域は、現在未利用となっている採石場の跡地である。

本施設の整備に係る主要な工事は、敷地の造成工事、施設の建設工事を予定している。主要工事工程の概要は表 2.3-1 に示すとおりであり、着工から供用開始まで約 3.5 年を予定している。

各年度の工事内容の概要は表 2.3-2 に示すとおりである。

表 2.3-1 主要工事工程の概要

		平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
造成工事		←————→			
建設工事	土木工事		←→		
	建築工事		←————→		
	プラント工事			←————→	
稼働					試運転 →

注) 現時点の想定であり、変更になる場合がある。

(本稼働：平成34年4月を予定)

表 2.3-2 主要工事内容の概要（年度別）

年度	工事内容の概要
平成 30 年度	樹木の伐採や仮設沈砂池の設置等の仮設工を行ったうえで、敷地造成のための土工（掘削工事）を行う。
平成 31 年度	引き続き土工（掘削工事）を実施する。その後、法面工（法面保護工）や擁壁工（ブロック積）や排水工（雨水排水路や調整池の設置）を行う。なお、敷地造成のための土工終了後には、建設工事に係る掘削工・杭打設等を法面工等と並行して実施し、施設構造物の建築工事に着手する。
平成 32 年度	施設構造物の建築工事として、工場棟の地下躯体・地上躯体の築造工事を行う。躯体形成後には、プラント工事として設備機器の据付工事等を行う。
平成 33 年度	建設工事に係る地上躯体の仕上げ工事、プラント工事として設備機器の据付工事や、計量棟・駐車場等の付帯工事を行う。工場棟のプラント工事終了後には、施設の試運転を行う。

2.3.2 工事計画の概要

(1) 年次別施工内容及び施工範囲

工事は、主に敷地の造成工事及び施設の建設工事に分けられ、着工から供用開始まで約3.5年を予定している。このうち、特に造成工事については、工期を分けた段階的な施工（1次施工～5次施工）を行う。また、敷地造成の土工終了後には、施設の建設工事を並行して行う。工事の工期別施工範囲を図2.3-1～図2.3-6に示す。

なお、造成工事中には、降雨による濁水の流出が考えられるが、1次施工～4次施工の期間中の雨水流出水は、敷地内に設置する仮設沈砂池に導水し、土砂を沈降させた後の上澄み水を放流する計画である。また、5次施工以降の雨水については、仮設沈砂池に換えて新たに整備する調整池に導水する。



图 2.3-1 施工範圍（準備工～土工：1次施工）



图 2.3-2 施工範圍（土工：2次施工）



図 2.3-3 施工範圍（土工：3次施工）

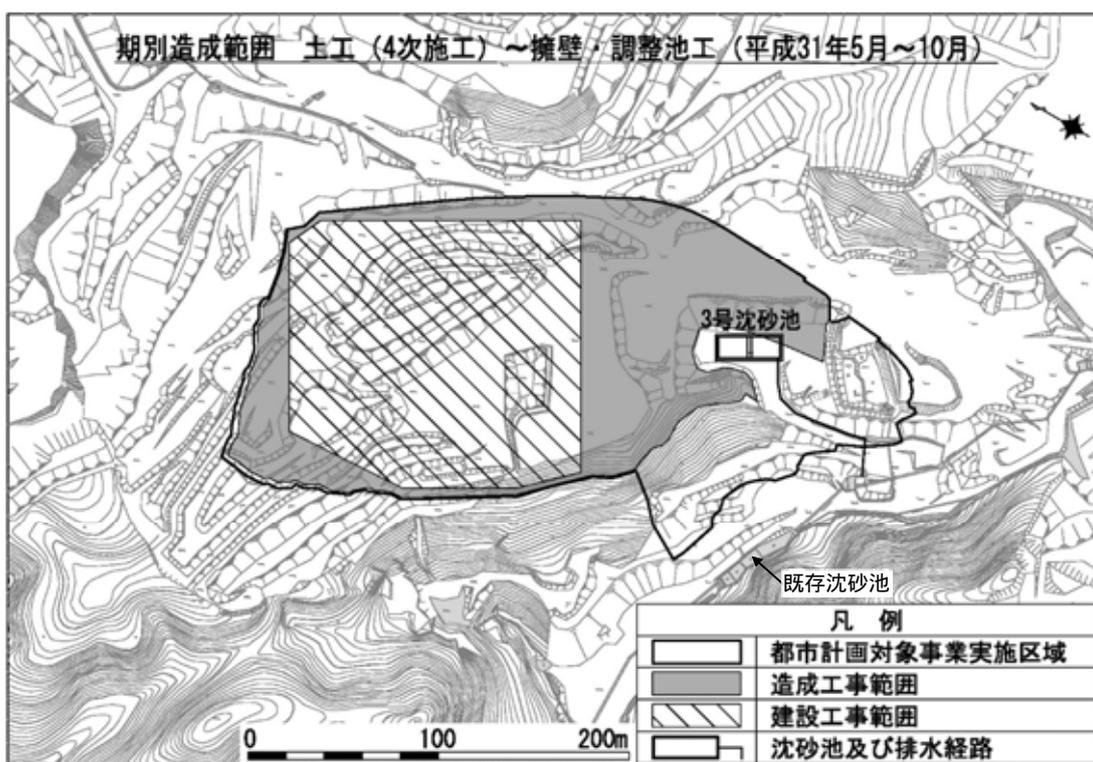


図 2.3-4 施工範圍（土工：4次施工～擁壁・調整池工）

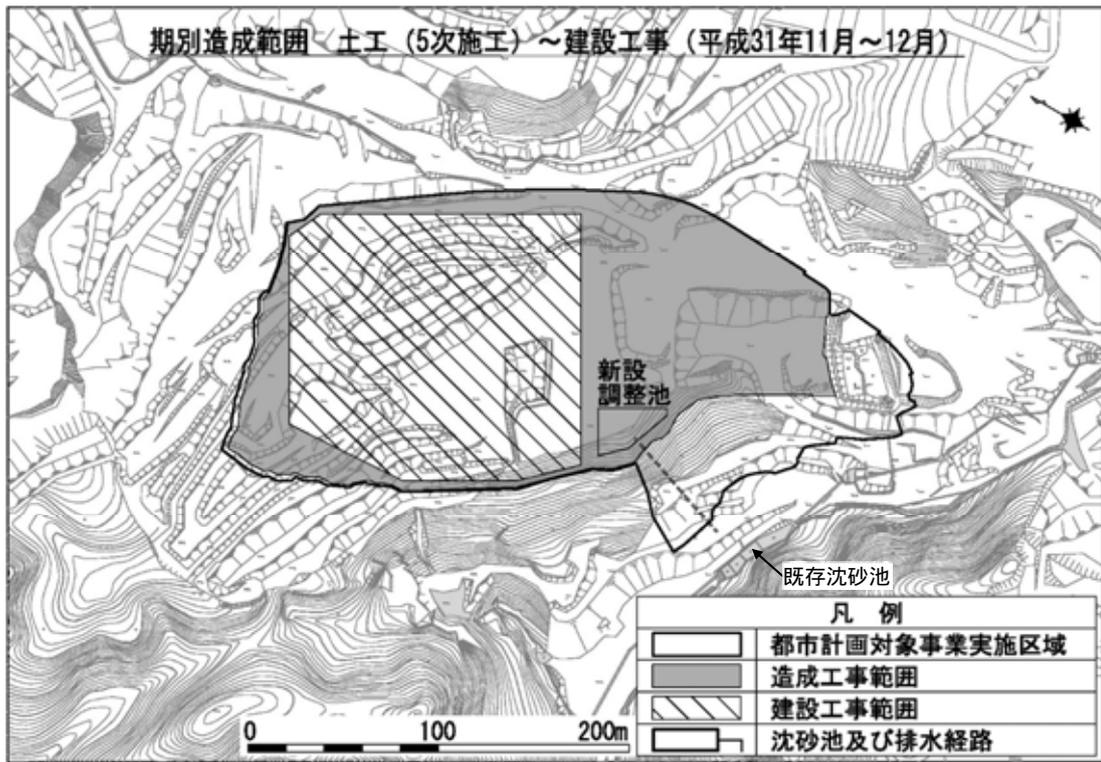


図 2.3-5 施工範囲（土工：5次施工～建設工事）



図 2.3-6 施工範囲（建設工事）

(2) 工事工種別の主な作業内容と使用する建設機械

本施設の造成工事及び建設工事に係る主な工種と使用する主な建設機械は、表 2.3-3 に示すとおりである。また、工事工程は表 2.3-4 に、工種別の建設機械稼働台数は表 2.3-5 に示すとおりである。

表 2.3-3 主な工種と使用する主な建設機械

工種	主な作業内容	主な建設機械
造成工事	工事用道路、伐採工、仮設工、土工(掘削工)、法面工、擁壁工、排水工、雑工	バックホウ、ラフタークレーン、ブルドーザ、ダンプトラック、振動ローラ、タンパ
土木・建築工事	仮設工、山留工、掘削工(地下部)、杭打設工、躯体建築(コンクリート打設等)	バックホウ、ブルドーザ、ダンプトラック、杭打機、ロードローラ、クレーン、トレーラー、コンクリートポンプ車、コンクリートミキサー車、アスファルトフィニッシャー
プラント工事	機器組立、据付、配管、配線	クレーン、空気圧縮機、フォークリフト

表 2.3-4 工事工程(想定)

工種	年月	平成30年度			平成31年度												平成32年度												平成33年度												
		10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1
造成工事																																									
伐採・仮設工事		■																																							
敷地内造成工事 (擁壁工、排水工等含む)		■																																							
建設工事																																									
土木・建築工事		■																																							
プラント工事																																									
試運転																																									
		■																																							

2.3.3 運土計画

都市計画対象事業実施区域内の造成工事に際しては、掘削に伴い約 375,000m³ の建設発生土（残土）が発生する。そのうち、区域内の一部の盛土で再利用するものは約 2,000m³ に留まるが、残りの建設発生土（約 373,000m³）は、全て隣接する既存の採石場（操業中）の採掘跡地の窪地の埋め戻し土として有効利用を図る計画である。

この他に、建設工事の地下掘削に伴う残土が発生するが、造成工事と同様に、全量を隣接する採石場の埋め戻し土として有効利用を図る計画である。

なお、建設発生土の運搬先となる採石場の採掘跡地（図 2.3-7 参照）は、都市計画対象事業実施区域に隣接する場所に位置しており、当該建設発生土の運搬を行うダンプトラックは、採石場の場内道路を走行するのみで、保全対象住居等が沿道に分布するアクセス道路の区間は走行しない。

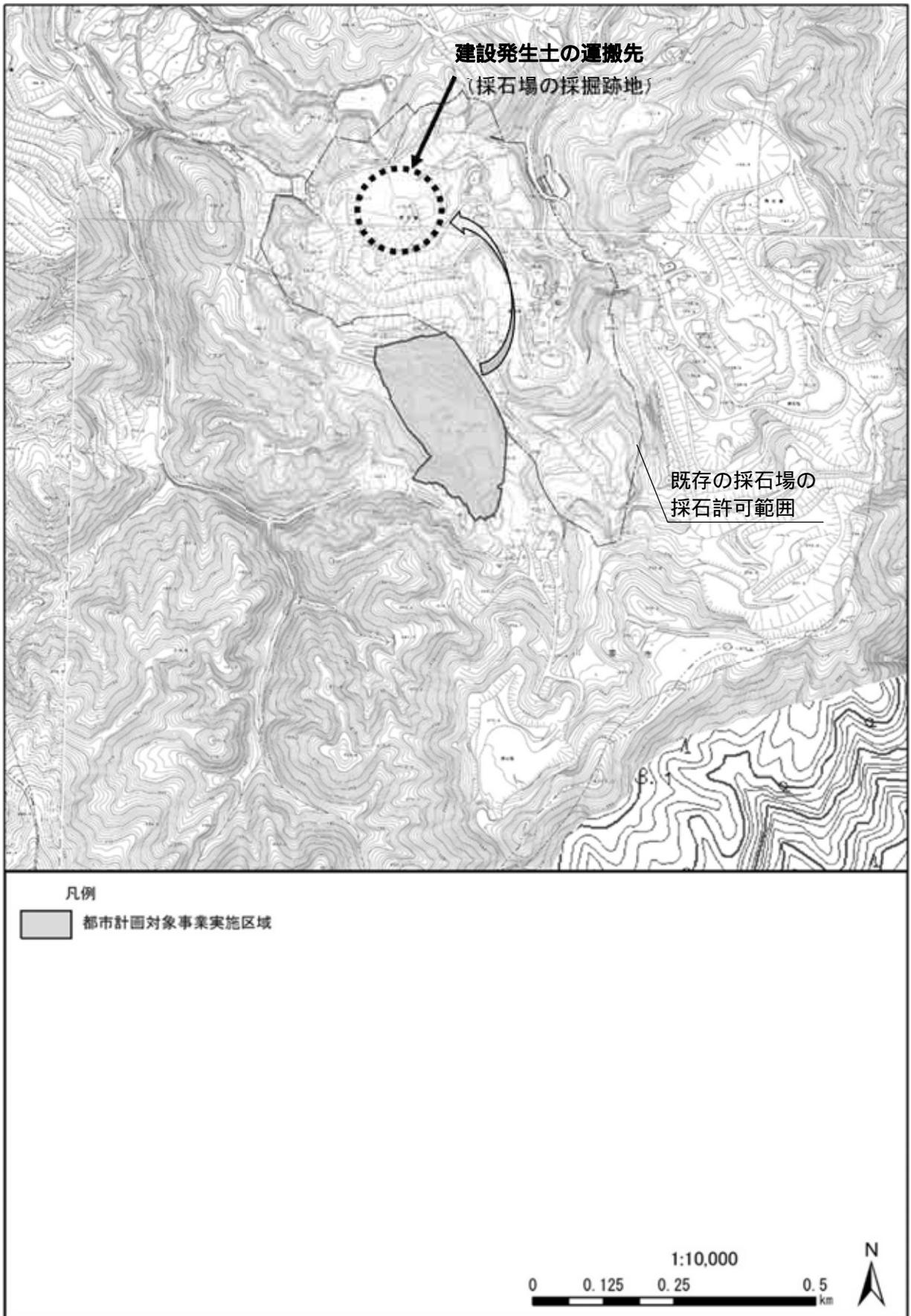


図 2.3-7 建設発生土の運搬先

2.4 環境配慮の方針

本事業の実施に当たっては、周辺住居地域への環境負荷や自然環境への影響を可能な限り低減する観点で、以下に示す環境配慮を行う方針である。

なお、各環境配慮事項のうち、環境影響評価の対象とした環境要素に関する配慮事項については、具体的な環境保全措置を検討し、「第6章 環境影響評価の結果及び環境保全措置等の概要」に記載した。

<工事の実施>

- ・ 土地の改変に伴う発生土砂は、極力、都市計画対象事業実施区域内で再利用することを検討し、敷地外へ搬出する土砂運搬車両の台数を減らすことにより、沿道の騒音・大気質への影響を軽減する。
- ・ 工事車両の走行に当たっては、安全運転の励行及び車両管理を徹底する。また、沿道の通行時間帯の分散に努め、沿道騒音・振動・大気質への影響を軽減する。
- ・ 工사용車両の洗浄を励行し、敷地内外の路面への土砂の堆積を防ぎ、粉じんの飛散防止に努める。また、強風時や砂じんの発生しやすい気象条件の場合には適時散水する。
- ・ 建設工事に使用する建設機械（重機）は、周囲への騒音・振動・大気質の影響を極力低減するよう配慮する。また、建設機械の稼働は昼間に行い、工事期間中に建設機械の稼働が集中することがないように、使用時期や配置の分散にも努めるとともに、可能な限り排出ガス対策型建設機械を使用する。
- ・ 建設工事の実施に当たっては、防音シートや仮囲いの設置により、建設作業騒音の低減や粉じんの飛散防止に努める。
- ・ 土地の改変に伴う濁水や土砂の流出防止のため、適切な沈砂池等を設置し、下流の河川等への影響を軽減する。
- ・ 水路等へ油等が流出しないよう、使用機械等の適切な維持管理や不測の事故時等には迅速な対応を適切に行う。
- ・ 工사용車両の運行に当たっては、規制速度の遵守や地元住民の優先走行等を徹底するよう運転手の教育・指導を行い、交通安全の確保にも十分に留意する。
- ・ 工사용車両における過積載の防止と積載物の転落防止について、運転者の教育・指導を徹底し、積載物の落下などによる道路・水路の汚損・破損等が生じないように留意する。

<施設の存在・供用>

- ・ 焼却炉の適切な燃焼管理を行うとともに最新の排ガス処理設備を採用することにより、排ガス中に含まれる大気汚染物質の排出抑制及び適切な監視を行い、周辺環境への影響を極力低減する。
- ・ 排ガス濃度等の情報公開に努め、一般市民がごみ焼却施設の運転状況を確認できるようにする。
- ・ 施設の稼働音が敷地外へ漏れるのを防ぐため、必要に応じて消音器の設置や防音扉の設置等の対策を行う。
- ・ 施設から発生する振動が周辺環境へ影響しないよう、必要に応じ、できる限り低振動型の設備機器を採用するなどの対策を行う。

- ・ ごみピット内を負圧に保ち、臭気の外部漏洩を防止すると共に、ごみピットから発生する臭気は焼却炉の燃焼空気として吸引し、焼却炉内でごみと共に熱分解する。また、プラントホーム出入口にはエアカーテンを設置する。
- ・ 灰の搬出に当たっては、適度な湿度を持たせた上で運搬するなどにより、周辺環境への飛散を防止する。また、灰出場については、灰の堆積を防止するため適宜清掃を行い、床面を流れた汚水や雨水については、汚水排水経路に流し、公共用水域への流出を防止する。
- ・ 河川の水質を保全するため、ごみピット汚水、プラント排水及び生活排水は、排水処理後に再循環利用等を行い、周辺河川等へは放流しない。
- ・ 供用後において、水路等へ油等が流出しないよう、施設供用後の維持管理・定期的な清掃や不測の事故時等には迅速な対応を適切に行う。
- ・ 施設供用後の雨水流出に伴い、河川氾濫等の影響が生じることがないように、適切な容量を確保した雨水調整池を設置する。
- ・ 建屋・煙突の形状及び配色に配慮し、また、敷地内においても可能な限り植栽を施すことにより、周辺景観との調和を図る。
- ・ 廃棄物運搬車両等の運行に当たっては、規制速度の遵守や地元住民の優先走行等を徹底するよう運転手の教育・指導を行い、交通安全の確保にも十分に留意する。
- ・ 廃棄物の搬出入時において、廃棄物が道路・水路に飛散しないよう、車両運転者への教育・指導等を徹底する。

第3章 都市計画対象事業実施区域及びその周囲の概況

都市計画対象事業実施区域及びその周囲（以下「調査区域」という。）の状況について、既存の文献または資料の収集・整理により把握した。

統計資料等により市単位で地域環境の状況を述べる事項については、出雲市の範囲を対象とした（以下「調査対象地域」という。）。

調査区域及び調査対象地域の概要は、表 3-1 に示すとおりである。

表 3-1(1) 都市計画対象事業実施区域及びその周囲の概況（地域特性）

項目	地域特性	
気象	出雲気象観測所での平年値は、年平均気温が 14.6℃、年降水量が 1685.2mm、年最多風向は東北東、年平均風速は 2.2m/s である。平成 28 年の気象概況は、年平均気温が 15.5℃、年降水量が 1787.5mm、年最多風向は東北東、年平均風速は 2.5m/s である。	
大気質	調査区域には、一般環境大気測定局(出雲保健所)1局及び都市計画対象事業実施区域近傍で平成13年度に実施されている大気質調査地点がある。一般環境大気測定局の結果によれば、二酸化硫黄、二酸化窒素、浮遊粒子状物質、ダイオキシン類については環境基準を達成している。平成13年度の調査結果では、二酸化硫黄、窒素酸化物、一酸化炭素、ダイオキシン類、ベンゼン・トリクロロエチレン・テトラクロロエチレンはいずれも環境基準値以下であった。	
騒音	都市計画対象事業実施区域近傍で平成13年度に実施されている一般環境騒音調査では、環境基準B類型の基準値以下であったが、道路交通騒音調査では環境基準値を上回っていた。	
振動	都市計画対象事業実施区域近傍で平成13年度に実施されている一般環境振動調査ではいずれも30デシベル未満であり、道路交通振動調査では、いずれも道路交通振動の要請限度値以下であった。	
悪臭	都市計画対象事業実施区域近傍で平成13年度に実施されている悪臭調査では、特定悪臭物質はいずれも定量下限値以下であった。	
自然的状況	水象	調査区域には、斐伊川水系稗原川、神戸川、二級河川としては十間川水系十間川がある。
	水質	調査区域の河川における平成27年度の水質の測定結果は、生活環境項目の大腸菌群数について環境基準を達成していないが、その他の生活環境項目及び健康項目について環境基準を達成している。
	水底の底質	都市計画対象事業実施区域近傍で平成13年度に実施されている底質調査では、概ね不検出であった。
	土壌及び地盤	調査区域の土壌は、調査区域の大半を占める山地及び丘陵地では、尾根上に乾性褐色森林土壌が分布し、山腹には褐色森林土壌が広く分布している。そのほか、一部の山地には乾性褐色森林土壌(褐色系)もみられる。 調査区域には、ダイオキシン類調査地点(土壌)が2地点あり、平成23年度、平成26年度のいずれの地点でも環境基準値以下であった。 調査区域には、「土壌汚染対策法」に基づく要措置区域及び同法第 11 条に基づく形質変更時届出区域はない。また、調査区域には地盤沈下が認められた地域はない。
地形及び地質	調査区域の地形は、山地及び丘陵地が大半を占めている。低地は主に北側の神戸川、斐伊川周辺にみられ、三角州や扇状地及び自然堤防、後背湿地が分布し山間部には谷底平野や台地(砂礫段丘)などが分布している。なお、調査区域に活断層は分布していない。 調査区域の大部分を占める山地及び丘陵地の地質は、安山岩質岩石と礫岩質岩石、酸性凝灰岩などで構成されている。北側の神戸川、斐伊川周辺に分布する低地は、泥がち堆積物、砂がち堆積物などで構成されている。山間部の谷底平野は、礫がち堆積物と砂礫で構成されている。 なお、調査区域における、学術上又は希少性の観点から選定した重要な地形及び地質は、立久恵峡(断崖・グリーン浸食的地形)、出雲平野の三角州及び、立久恵峡(大森層の安山岩質～デイサイト質集塊岩の峡谷)である。	

表 3-1(2) 都市計画対象事業実施区域及びその周囲の概況（地域特性）

項目	地域特性
植物	<p>調査対象地域における植物の生息状況は、文献資料によると 134 科 573 種の植物種が確認されている。重要な種はミズワラビやキンラン、スブタなど 107 種が確認されている。</p> <p>調査区域の植生の状況は、大部分を占めている山地に森林植生が広く分布しており、主要な植生は、スギ・ヒノキ植林、コバノミツバツツジ - アカマツ群集、コナラ群落、シイ・カシ萌芽林などである。また、調査区域北部の神戸川、斐伊川周辺には水田地帯が広がっており、水田雑草群落のほか、ヨシクラス、ツルヨシ群集、河辺ヤナギ低木林などの河川植生がみられる。そのほか、住宅地の周辺には常緑果樹園、落葉果樹園、桑畑などの耕作地植生も多くみられる。</p>
動物	<p>調査対象地域における動物の生息状況は、文献その他の資料によると以下のとおりである。</p> <p>哺乳類は 7 目 14 科 25 種が確認されている。重要な種はモモジロコウモリやユビナガコウモリ、イタチなど 10 種が確認されている。</p> <p>鳥類は 18 目 43 科 147 種が確認されている。重要な種はサシバやオオタカ、ブッポウソウ、サンコウチョウなど 56 種が確認されている。</p> <p>爬虫類は 2 目 8 科 14 種が確認されている。重要な種はジムグリやヒバカリなど 6 種が確認されている。</p> <p>両生類は 2 目 6 科 15 種が確認されている。重要な種はカスミサンショウウオやモリアオガエルなど 10 種が確認されている。</p> <p>昆虫類は 15 目 175 科 947 種、クモ類は 1 目 1 科 1 種が確認されている。重要な種は、ハルゼミやオオチャバネセセリ、クロゲンゴロウなど 148 種が確認されている。</p> <p>魚類は 11 目 25 科 65 種が確認されている。重要な種はミナメダカやオオヨシノボリなど 26 種が確認されている。</p> <p>底生動物は 7 目 12 科 21 種が確認されている。重要な種はオオタニシやヤマトシジミなど 17 種が確認されている。</p> <p>陸産貝類は 3 目 10 科 27 種が確認されている。重要な種はヘソアキコベソマイマイやオオゴマガイなど 13 種が確認されている。</p>
生態系	<p>調査区域は、「山地・丘陵地の代償植生」、「山地・丘陵地の植林」、「低地の平野部（耕作地及び市街地・その他）」、「低地の河川（自然草地・河畔林及び開放水域）」に類型区分できる。</p> <p>各類型区分の代表的な生物種は、以下のとおりである。</p> <p>山地・丘陵地の代償植生： コナラ群落、シイ・カシ萌芽林、コバノミツバツツジ - アカマツ群集が分布し、キツネやサシバ、ヤマアカガエル、ハルゼミ等の動物が抽出される。</p> <p>山地・丘陵地の植林： スギ・ヒノキ植林とアカマツ植林が広く分布し、ニホンイノシシ、アオゲラ、ツクツクボウシ等の動物が抽出される。</p> <p>低地の平野部（耕作地及び市街地・その他）： 水田雑草群落が河川や谷筋に分布しており、タヌキやシマヘビ、トノサマガエル、ドジョウ等の動物が抽出される。</p> <p>低地の河川（自然草地・河畔林及び開放水域）： 河川沿いにヨシクラス、ツルヨシ群集、ヤナギ低木林などが分布しており、セッカやニホンアマガエル、キイロサナエ、オイカワ等の動物が抽出される。</p>
人と自然との触れ合いの活動の場の状況	<p>調査区域には、ハイキングコースである中国自然歩道鱒淵寺・大社・立久恵コース、緑地・公園である真幸ヶ丘公園や立久恵峡、キャンプ場等として利用される立久恵峡わかあゆの里などがある。</p>
景観	<p>調査区域における主要な眺望点は、朝山森林公園等 9 地点がある。</p> <p>自然的構成要素として位置づけられる主な景観資源として、国指定名勝及び天然記念物（溪谷）である「立久恵」、出雲市指定天然記念物（植物群落）である「立久恵峡特殊植物群落」などがある。</p>

表 3-1(3) 都市計画対象事業実施区域及びその周囲の概況（地域特性）

項目	地域特性
人口	調査対象地域の平成 27 年度国勢調査結果の人口は 171,938 人、世帯数は 60,130 世帯となっている。平成 22 年以降の人口の推移は増加傾向である。
産業	調査対象地域における産業別従業者数の構成比は、第 3 次産業が最も高く、次いで第 2 次産業、第 1 次産業となっている。
土地利用の状況	調査区域における土地利用基本計画に基づく地域の指定状況は、農業地域及び森林地域、都市地域の指定がなされている。 都市計画法に基づく都市計画区域及び用途地域の状況は、調査区域は都市計画区域に指定されており、一部に用途地域が指定されている。調査区域の一部は、第 1 種中高層住居専用地域、第 1 種住居地域、第 2 種住居地域に指定されている。
河川の利用の状況	調査区域を流れる神戸川は、農業用水や水力発電用水として利用されている。また、カヌーやアユ釣り等のレクリエーションを主体に利用されている。
地下水	調査区域における地下水は、主に上水道源として利用されている。なお、調査対象地域には、工業用水法及び建築物用地下水の採取の規制に関する法律に基づく地下水の採取を規制する地域はない。
交通の状況	調査区域の主な道路は、東西方向に山陰自動車道があり、南北方向には一般国道 184 号、県道大社立久恵線がある。また、東西方向に走る鉄道の山陰本線周辺には、多伎江南出雲線及び出雲インター線など一般県道がある。
社会的状況	調査区域には保育所 4 施設、幼稚園 4 施設、小学校 4 校、中学校 3 校、高等学校 2 校、専門学校 1 校がある。また、病院 2 施設、社会福祉施設は 8 施設がある。
下水道の整備の状況	調査対象地域の下水道の普及率は 86.1% となっており、調査区域は概ね合併処理浄化槽による処理区域となっている。
環境の保全を目的として法令等により指定された地域及び基準の状況	<p><環境基準></p> <p>○環境基本法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大気汚染：以下の環境基準が定められている。 「大気の汚染に係る環境基準について」（二酸化いおう、一酸化炭素、浮遊粒子状物質、二酸化窒素、光化学オキシダント） 「二酸化窒素に係る環境基準について」 「ベンゼン等による大気の汚染に係る環境基準について」 「微小粒子状物質による大気の汚染に係る環境基準について」 ・水質汚濁：「水質汚濁に係る環境基準について」が定められている。 都市計画対象事業実施区域周囲の河川における類型の指定は、A 類型及び AA 類型となっている。 ・地下水：「地下水の水質汚濁に係る環境基準について」が定められている。 ・騒音：以下の環境基準が定められている。 「騒音に係る環境基準について」 調査区域の地域類型の指定は A 類型、B 類型、C 類型、都市計画対象事業実施区域の地域類型の指定は B 類型となっている。 ・土壌汚染：「土壌の汚染に係る環境基準について」が定められている。 <p>○ダイオキシン類対策特別措置法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ダイオキシン類：「ダイオキシン類による大気の汚染、水質の汚濁（水底の底質の汚染を含む。）及び土壌の汚染に係る環境基準について」が定められている。

表 3-1(4) 都市計画対象事業実施区域及びその周囲の概況（地域特性）

項目	地域特性
<p>環境の保全を目的として法令等により指定された地域及び基準の状況</p> <p>社会的状況</p>	<p><規制基準></p> <ul style="list-style-type: none"> ○大気汚染防止法 <ul style="list-style-type: none"> ・調査区域には、総量規制指定地域はない。 ○自動車等から排出される窒素酸化物及び粒子状物質の特定地域における総量の削減に関する特別措置法 <ul style="list-style-type: none"> ・調査区域には、窒素酸化物対策地域及び浮遊粒子状物質対策地域はない。 ○水質汚濁防止法 <ul style="list-style-type: none"> ・調査区域は、全域で上乘せ排水基準が適用されている。 ○排水基準を定める省令に基づく湖沼及び海域 <ul style="list-style-type: none"> ・調査区域には、排水基準を定める省令に基づく湖沼及び海域として宍道湖及び神西湖が指定されている。 ○湖沼水質保全特別措置法 <ul style="list-style-type: none"> ・調査区域には、湖沼水質保全特別措置法の指定湖沼として宍道湖が指定されている。 ○騒音規制法 <ul style="list-style-type: none"> ・特定工場等の騒音に関する規制基準：調査区域の一部が第2種区域及び第3種区域に指定されている。 ・特定建設作業に伴って発生する騒音に係る規制基準：調査区域の一部が第1号区域に指定されている。 ・自動車騒音の要請限度：調査区域の一部がa区域及びb区域、c区域に指定されている。 ○振動規制法 <ul style="list-style-type: none"> ・特定工場等の振動に関する規制基準：調査区域の一部が第1種区域及び第2種区域に指定されている。 ・特定建設作業に伴って発生する振動に係る規制基準：調査区域の一部が1号区域に指定されている。 ・道路交通振動の要請限度：調査区域の一部が第1種区域及び第2種区域に指定されている。 ○悪臭防止法 <ul style="list-style-type: none"> ・物質濃度規制：調査区域の一部がA地域として指定されている。 ○土壌汚染対策法 <ul style="list-style-type: none"> ・調査区域には、要措置区域及び形質変更届出区域はない。 ○工業用水法及び建物用地下水の採取の規制に関する法律 <ul style="list-style-type: none"> ・調査区域には、地下水採取を規制されている地域はない。 <p><その他の指定地域等></p> <ul style="list-style-type: none"> ○自然公園法 <ul style="list-style-type: none"> ・国立公園、国定公園等：調査区域には、指定された国立及び国定公園はない。 ・都道府県立自然公園：調査区域には、立久恵峡県立自然公園がある。 ○自然環境保全法及び島根県自然環境保全条例 <ul style="list-style-type: none"> ・原生自然環境保全地域、自然環境保全地域、県立自然環境保全地域：調査区域には指定地域はない。

表 3-1(5) 都市計画対象事業実施区域及びその周囲の概況（地域特性）

項目	地域特性
<p>環境の保全を目的として法令等により指定された地域及び基準の状況</p> <p>社会的状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律 <ul style="list-style-type: none"> ・生息地等保護区及び管理地区：調査区域に指定区域はない。 ○鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律 <ul style="list-style-type: none"> ・鳥獣保護区等：調査区域において特定猟具使用禁止区域が2箇所指定されている。 ○森林法 <ul style="list-style-type: none"> ・保安林：調査区域において保安林が指定されている。 ○都市計画法 <ul style="list-style-type: none"> ・風致地区等：調査区域には市街化調整区域及び風致地区はなく、調査区域の一部に用途地域が指定されている。 ○景観法 <ul style="list-style-type: none"> ・景観形成地域：調査区域には、馬木北町景観形成地域がある。 ○文化財保護法、島根県文化財保護条例及び出雲市文化財保護条例 <ul style="list-style-type: none"> ・指定文化財（史跡・名勝・天然記念物等）：調査区域では12件が指定されている。 ○急傾斜地の崩壊による災害の防止に関する法律 <ul style="list-style-type: none"> ・急傾斜地崩壊危険区域：調査区域の一部で指定されている。 ○砂防法 <ul style="list-style-type: none"> ・砂防指定地：調査区域の一部で指定されている。 ○地すべり等防止法 <ul style="list-style-type: none"> ・地すべり防止区域：調査区域の一部で指定されている。
<p>市等の環境保全に関する施策</p>	<p>島根県及び出雲市が策定している環境保全に関する計画、ガイドライン等は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2期島根県環境基本計画(島根県、平成23年) ・第2次出雲市環境基本計画(出雲市、平成25年) ・第3期しまね循環型社会推進計画(島根県、平成28年) ・第2次出雲市ごみ処理基本計画(出雲市、平成25年)

第4章 方法書についての意見及び都市計画決定権者の見解

4.1 方法書についての環境の保全の見地からの意見を有する者の意見及び都市計画決定権者の見解

「出雲市次期可燃ごみ処理施設整備事業に係る環境影響評価方法書」(以下「方法書」という。)は、島根県環境影響評価条例(平成 11 年 10 月 1 日、島根県条例第 34 号)第 7 条の規定に基づき、平成 28 年 11 月 1 日～11 月 30 日までの 1 ヶ月間縦覧に供した。

また、本方法書について、島根県環境影響評価条例(平成 11 年 10 月 1 日、島根県条例第 34 号)第 8 条の規定に基づき、平成 28 年 11 月 1 日～12 月 14 日までの期間において意見書の受付を行ったが、環境の保全の見地からの意見の提出はなかった。

4.2 方法書についての島根県知事の意見及び都市計画決定権者の見解

島根県環境影響評価条例(平成 11 年 10 月 1 日、島根県条例第 34 号)第 10 条第 1 項の規定に基づき、方法書について、島根県知事の意見が平成 29 年 3 月 13 日に述べられた。

方法書についての知事の意見及び都市計画決定権者の見解は、表 4-1 に示すとおりである。

表 4-1(1) 方法書についての知事の意見及び都市計画決定権者の見解

知事の意見	都市計画決定権者の見解
総括的事項	
<p>1 .本事業の実施にあたっては、環境への負荷をできる限り回避・低減するよう事業計画を策定するとともに、必要に応じて専門家等の助言を得ながら、調査地域の適切な設定と科学的根拠に基づく十分かつ適切な調査を行い、予測及び評価の実施並びに環境保全措置の検討を行うこと。</p>	<p>本事業の実施にあたっては、配慮書での評価結果及び方法書に係る知事意見等もふまえ、事業者において、環境への負荷をできる限り回避・低減するよう事業計画を検討しました。</p> <p>また、環境影響評価の実施にあたっては、必要に応じて専門家等の助言を得ながら、大気質、水質等の調査地域・地点の適切な設定と科学的根拠に基づく十分かつ適切な調査を行ったうえで、選定した各環境影響評価項目について、予測及び評価の実施並びに環境保全措置の検討を行いました。</p>
<p>2 .水銀については、水銀に関する水俣条約において適切な管理を求められていることから、十分配慮のうえ調査、予測及び評価を行い、可能な限り水銀の排出抑制が図られるよう、水銀使用廃製品の回収・廃棄の方法や排ガス処理の方法について検討し、準備書において明記すること。</p>	<p>水銀については、大気質に係る現況調査において四季の現状を調査したうえで、本施設の排出基準をふまえた煙突排ガスの拡散予測及び評価を行いました。</p> <p>また、本施設で処理対象となる廃棄物に関連し、水銀使用廃製品の分別回収の周知徹底及び排ガス中の水銀除去方法並びに各基準値の設定等、本施設での排ガス処理の方法等を事業計画に記載しました。</p>
個別的事項	
1 .水環境	
<p>計画では施設から排水はしないということであるが、工事中及び供用後において土壤中の重金属類の流出等も考えられるため、影響を確認できるよう調査にあたっては適切な項目を選定すること。</p>	<p>本施設では、雨水排水以外の汚水(プラント系排水、生活排水)については、排水処理後に再循環利用等を行うことにより、周辺河川等へは放流しない計画であるため、重金属類に係る水質は予測及び評価の対象として選定しませんでした。</p> <p>ただし、工事中及び施設の供用後において、必要に応じ、影響の有無等を確認することができるよう、代表地点(都市計画対象事業実施区域の直下付近の沢水:1か所)及び季節(夏・冬(豊水期・渇水期)の2回)において、重金属類を含めた健康項目等濃度の現況調査を実施しました。</p>

表 4-1(2) 方法書についての知事の意見及び都市計画決定権者の見解

知事の意見	都市計画決定権者の見解
2. 動植物・生態系	
<p>夜間照明による動植物への影響について、適切な調査、予測及び評価を行い、可能な限り低減できるように配慮すること。</p>	<p>動植物の現況調査においては、光に敏感な種を対象とした調査手法として、ライトトラップ法による昆虫類調査、コウモリ類・フクロウ類・ホタル類を対象とした夜間調査も実施することにより、適切な現況把握を行いました。</p> <p>また、その結果及び夜間照明の計画をふまえた影響の予測及び評価を行い、事業者の実行可能な範囲での影響の低減措置を検討しました。</p>
3. 景観・人と自然との触れ合い	
<p>事業実施区域の近隣には国指定名勝及び天然記念物である立久恵が存在することから、適切な調査、予測及び評価を行い、事業計画の策定にあたっては環境影響が回避・低減されるよう十分に配慮すること。</p>	<p>対象事業の実施により、国指定名勝及び天然記念物である立久恵の改変等の影響は生じませんが、現況調査等により、景観資源としての立久恵の状況及び立久恵からの都市計画対象事業実施区域の視認性の確認を行いました。</p> <p>また、本施設の計画をふまえた立久恵からの眺望景観について影響の予測及び評価を行った結果、立久恵からの眺望景観に対する影響はないと評価しました。</p>
4. その他	
<p>事業実施区域の下流には3種のホタルが生息するとされる地域が存在し、人と自然との触れ合いの場となっていることから、地域住民の意見を勘案しつつ、適切な調査、予測及び評価を行い、工事中及び供用後における河川及び周辺地域への環境影響が低減されるよう十分に配慮すること。</p>	<p>方法書までの環境影響評価手続等において、環境の保全の見地からの地域住民等の意見はありませんでしたが、生態系に係る現況調査として、都市計画対象事業実施区域の下流における3種のホタルの生息状況及び近傍に分布する「ほたるの郷」(古志ほたるまつりを開催)の利用状況等も参考に把握しました。</p> <p>また、河川水質への影響について、適切な調査、予測及び評価を行ったうえで、その結果をふまえ、「ほたるの郷」に生息する3種のホタルの生息に与える影響の予測及び評価を行い、その影響を回避・低減するための措置を検討しました。</p>

第5章 環境影響評価の項目並びに調査、予測及び評価の手法

5.1 選定項目及びその選定理由

都市計画対象事業に係る環境影響評価項目の選定は、事業特性及び地域特性並びに計画段階配慮事項の検討の経緯等をふまえ、「島根県環境影響評価技術指針」（平成11年11月30日、島根県告示第856号 最終改正：平成25年9月27日、島根県告示第655号）（以下「県技術指針」という。）に基づき、影響の重大性を勘案して検討した。

検討結果は次に示すとおりであり、選定した環境影響評価の項目及びその理由は、表5.1-1に示すとおりである。

選定した影響要素は、「大気質」、「騒音」、「振動」、「悪臭」、「水質」、「動物」、「植物」、「生態系」、「景観」、「廃棄物等」、「温室効果ガス等」である。

表 5.1-1 環境影響評価の項目及び選定の理由

環境要素の区分			影響要因の区分			工事の実施			土地又は工作物の存在及び供用(以下「存在・供用」という。)					選定又は非選定理由 ^{注3)}		
						建設機械の稼働	資材及び機械の運搬に用いる車両の運行	雨水の排水	敷地の存在(土地の改変)	構造物の存在	施設の稼働				廃棄物の搬入等	廃棄物の発生
											排ガス	排水	機械等の稼働			
環境の自然的構成要素の良好な状態の保持を旨として調査、予測及び評価されるべき環境要素	大気環境	大気質	窒素酸化物		●				○			●	【工事の実施】資材及び機械の運搬に用いる車両(以下「資材等運搬車両」という。)の運行に伴う自動車排ガスの影響が考えられるため選定する。 【存在・供用】施設の稼働(煙突排出ガス)及び廃棄物運搬車両の運行に伴う自動車排ガスの影響が考えられるため選定する。			
			硫黄酸化物						○							
			浮遊粒子状物質		●					○				●		
			粉じん等	○	○										【工事の実施】建設機械の稼働及び資材等運搬車両の運行に伴う粉じん等の影響が考えられるため選定する。	
			有害物質							○					【存在・供用】施設の稼働(煙突排出ガス)の影響が考えられるため選定する。	
		騒音	騒音	○	○						○	○	【工事の実施】建設機械の稼働及び資材等運搬車両の運行に伴う騒音・振動の影響が考えられるため選定する。			
		振動	振動	○	○						○	○	【存在・供用】施設の稼働(機械等の稼働)及び廃棄物運搬車両の運行に伴う騒音・振動の影響が考えられるため選定する。			
	悪臭	悪臭							○		○		【存在・供用】施設の稼働(煙突排出ガス、機械等の稼働)に伴う悪臭の影響が考えられるため選定する。			
	水環境	水質	水の濁り			○								【工事の実施】雨水の排水に伴い下流河川における水の濁りの影響が考えられるため選定する。		
			水の汚れ								×			【存在・供用】施設排水(生活排水・ごみピット汚水等)は排水処理後に再循環利用等を行い、有害物質を公共用水域へ放流しない計画であるため選定しない。		
土壌に係る環境その他の環境	地形及び地質	重要な地形及び地質					×						【存在・供用】都市計画対象事業実施区域に重要な地形及び地質は分布しておらず、重要な地形及び地質は改変されないため選定しない。			
生物の多様性の確保及び自然環境の体系的保全を旨として調査、予測及び評価されるべき環境要素	動物	重要な種及び注目すべき生息地	●*		●*	○					●*		【工事の実施】建設機械の稼働(騒音・振動)、雨水の排水(水の濁り)により、動物の重要な種、注目すべき生息地、地域を特徴づける生態系への影響が考えられるため選定する。 ^{注3)} 【存在・供用】敷地の存在(土地の改変)、機械等の稼働(照明の設置)により、動植物の重要な種、群落、注目すべき生息地、地域を特徴づける生態系への影響が考えられるため選定する。 ^{注3)}			
	植物	重要な種及び群落				○										
	生態系	地域を特徴づける生態系	●*		●*	○					●*					
人と自然との豊かな触れ合いの確保を旨として調査、予測及び評価されるべき環境要素	景観	主要な眺望点及び景観資源並びに主要な眺望景観					○						【存在・供用】敷地の存在(土地の改変)及び構造物の存在により、主要な眺望景観への影響が考えられるため選定する。			
	人と自然との触れ合いの活動の場	主要な人と自然との触れ合いの活動の場	×				×						【工事の実施】【存在・供用】都市計画対象事業実施区域に主要な人と自然との触れ合いの活動の場は分布しておらず改変されない。また、近傍(500m) ^{注4)} にも分布しておらず、建設機械の稼働に伴う影響も極めて小さいと考えられるため選定しない。			
環境への負荷の量の程度により予測及び評価されるべき環境要素	廃棄物等	一般廃棄物										○	【工事の実施】工事の実施に伴い建設副産物が発生するため選定する。 【存在・供用】施設の供用に伴いごみ処理後の廃棄物(残渣等)が発生するため選定する。			
		建設工事に伴う副産物	○													
	温室効果ガス等	二酸化炭素							○		●*	●*	【存在・供用】施設の稼働(煙突排出ガス、機械等の稼働)及び廃棄物運搬車両の運行により二酸化炭素等の温室効果ガスが発生するため選定する。			

注1) 「県技術指針」の「別表第1(24)ごみ処理施設の設置又は変更の事業に係る参考項目」に示される参考項目を参考に選定した。

○印：各欄に掲げる環境要素が、影響要因の区分の項に掲げる各要因により影響を受けるおそれがあるため選定した参考項目

×印：参考項目として挙げられているが、重大な影響が生じる可能性は小さいと考え選定しない項目

●印：参考項目として挙げられていないが、影響が生じると考えられるため追加・選定した項目(※：方法書では選定していなかったが、詳細な予測・評価手法の検討経緯の中で追加選定したもの。)

注2) []：配慮書において計画段階配慮事項として選定した項目

注3) 第4章に示す方法書に係る知事意見をふまえ、ホテルの生息に与える影響及び近傍に分布する「ほたるの郷」の影響については、生態系の項において調査、予測及び評価を行う。

注4) 「面整備事業環境影響評価技術マニュアル」(平成11年建設省都市局都市計画課監修)に基づく。

5.2 調査・予測手法の選定

選定した環境影響評価の項目ごとの調査及び予測の手法は、「県技術指針」の参考手法（別表第2）を基本としつつ、「道路環境影響評価の技術手法（平成24年度版）」（平成25年3月、国土交通省国土技術政策総合研究所・独立行政法人土木研究所）（以下「技術手法」という。）及び「廃棄物処理施設生活環境影響調査指針」（平成18年9月、環境省）（以下「生活環境調査指針」という。）等を参考にして選定した。

各環境影響評価の項目に係る調査及び予測の手法等は、「5.2.1 大気質」～「5.2.11 温室効果ガス等」に示すとおりである。

5.2.1 大気質

大気質に係る調査及び予測の手法並びにその選定理由等については、表5.2-1～表5.2-8に示すとおりである。

表 5.2-1 事業特性及び地域特性（大気質：建設機械の稼働）

当該項目に関連する事業特性	当該項目に関連する地域特性
対象事業はごみ処理施設（敷地面積約 3.9ha）を整備するものであり、工事の実施（造成工事・建設工事）により、都市計画対象事業実施区域において、建設機械が稼働する。	<ul style="list-style-type: none"> ・最寄り住居等は、都市計画対象事業実施区域の北側約 500m に位置し、その周辺には住居等が点在している。 ・出雲気象観測所において、平成 28 年度の年間最多風向は東北東で、平均風速は 2.5m/s である。 ・一般環境大気測定局（出雲保健所）において、大気質（二酸化硫黄(SO₂)、二酸化窒素(NO₂)、浮遊粒子状物質(SPM)、ダイオキシン類)は、いずれも環境基準を達成している。

表 5.2-2 調査、予測手法等（大気質：建設機械の稼働）

環境影響評価の項目	調査及び予測の手法		選定の理由		
環境要素の区分	影響要因の区分				
大気質（粉じん等）	建設機械の稼働	調査すべき情報	1)大気質（粉じん等）の濃度の状況 2)気象（地上気象）の状況	事業特性及び地域特性は一般的であり、工事の実施にあたっては一般的な建設機械を使用することを基本とすることから、県技術指針に示される参考手法及び技術手法に基づく手法を参考に選定した。	
		調査の基本的な手法	現地調査又は文献その他の資料による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とした。		
			1)大気質（粉じん等）の濃度の状況		
			降下ばいじん量		ダストジャーによる捕集法とした。
			2)気象（地上気象）の状況（風向・風速以外は通年調査地点のみ）		
			風向・風速		風車型微風型風向風速計を用いる手法とした。
			気温		白金抵抗通風式温度計を用いる手法とした。
			湿度		高分子薄膜静電容量式湿度計を用いる手法とした。
		調査地域	日射量		
			放射収支量		
			大気質の拡散の特性をふまえて大気質に係る環境影響を受けるおそれがあると認められる地域とした。		
			大気質の拡散の特性をふまえて調査地域における大気質に係る環境影響を予測し及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる地点とした。		
		調査地点	1)大気質（粉じん等）の濃度の状況		
			降下ばいじん量		図 5.2-1 に示す 1 地点とした。
			2)気象（地上気象）の状況		
			地上気象（通年）		図 5.2-1 に示す 1 地点とした。
地上気象（四季）	図 5.2-1 に示す 4 地点とした。				
調査期間等	大気質の拡散の特性をふまえて調査地域における大気質に係る環境影響を予測し及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる期間、時期及び時間帯とした。				
	1)大気質（粉じん等）の濃度の状況				
	降下ばいじん量	1ヶ月間×4季（春夏秋冬）とした。			
	2)気象（地上気象）の状況				
予測の基本的な手法	地上気象（通年）	1年間（1時間値を連続測定）とした。			
	地上気象（四季）	1週間×4季（春夏秋冬）とした。			
	技術手法に基づき、降下ばいじんの発生及び拡散に係る既存データの事例の引用又は解析により、季節別降下ばいじん量を計算する方法とした。				
予測地域	調査地域のうち、大気質の拡散の特性をふまえて大気質に係る環境影響を受けるおそれがあると認められる地域とした。				
予測地点	大気質の拡散の特性をふまえて予測地域における大気質に係る環境影響を的確に把握できる地点とした。				
予測対象時期等	建設機械の稼働による大気質に係る環境影響が最大となる時期とした。				

表 5.2-3 事業特性及び地域特性（大気質：資材等運搬車両の運行）

当該項目に関連する事業特性	当該項目に関連する地域特性
対象事業はごみ処理施設（敷地面積約 3.9ha）を整備するものであり、工事の実施（造成工事・建設工事）により、アクセス道路において、資材等運搬車両が運行する。	<ul style="list-style-type: none"> ・アクセス道路沿道において、住居等が点在している。 ・出雲気象観測所において、平成 28 年度の年間最多風向は東北東で、平均風速は 2.5m/s である。 ・一般環境大気測定局（出雲保健所）において、大気質（二酸化硫黄(SO₂)、二酸化窒素(NO₂)、浮遊粒子状物質(SPM)、ダイオキシソ類)は、いずれも環境基準を達成している。

表 5.2-4 調査、予測手法等（大気質：資材等運搬車両の運行）

環境影響評価の項目		調査及び予測の手法		選定の理由
環境要素の区分	影響要因の区分			
大気質（窒素酸化物、浮遊粒子状物質、粉じん等）	調査すべき情報	1)大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等）の濃度の状況		事業特性及び地域特性は一般的であり、工事の実施にあたっては資材等運搬車両には一般的な車両を使用することを基本とすることから、県技術指針に示される参考手法及び技術手法に基づく手法を参考に選定した。
		2)気象（地上気象）の状況		
	調査の基本的な手法	現地調査又は文献その他の資料による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とした。		
		1)大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等）の濃度の状況		
		二酸化窒素	オゾンを用いる化学発光法とした。	
		浮遊粒子状物質	ベータ線吸収法とした。	
		降下ばいじん量	ダストジャーによる捕集法とした。	
		2)気象（地上気象）の状況		
		風向・風速	風車型微風型風向風速計を用いる手法とした。	
		気温	白金抵抗通風式温度計を用いる手法とした。	
		湿度	高分子薄膜静電容量式湿度計を用いる手法とした。	
		調査地点	大気質の拡散の特性をふまえて大気質に係る環境影響を受けるおそれがあると認められる地域とした。	
	大気質の拡散の特性をふまえて調査地域における大気質に係る環境影響を予測し及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる地点とした。			
	1)大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等）の濃度の状況			
	二酸化窒素		図 5.2-1 に示す 4 地点とした。	
	浮遊粒子状物質		図 5.2-1 に示す 4 地点とした。	
	降下ばいじん量		図 5.2-1 に示す 1 地点とした。	
	2)気象（地上気象）の状況			
	地上気象（通年）		図 5.2-1 に示す 1 地点とした。	
	地上気象（四季）		図 5.2-1 に示す 4 地点とした。	
調査期間等	大気質の拡散の特性をふまえて調査地域における大気質に係る環境影響を予測し及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる期間、時期及び時間帯とした。			
	1)大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等）の濃度の状況			
	二酸化窒素、浮遊粒子状物質	1 週間×4 季（春夏秋冬）とした。		
	降下ばいじん量	1 ヶ月間×4 季（春夏秋冬）とした。		
	2)気象（地上気象）の状況			
	地上気象（通年）	1 年間（1 時間値を連続測定）とした。		
予測の基本的な手法	二酸化窒素、浮遊粒子状物質	ブルーム式及びバフ式による計算を基本とした方法により、年平均値を予測した。		
	降下ばいじん量	技術手法に基づき、降下ばいじんの発生及び拡散に係る既存データの事例の引用又は解析により、季節別降下ばいじん量を計算する方法とした。		
予測地域	調査地域のうち、大気質の拡散の特性をふまえて大気質に係る環境影響を受けるおそれがあると認められる地域とした。			
予測地点	大気質の拡散の特性をふまえて予測地域における大気質に係る環境影響を的確に把握できる地点とした。			
予測対象時期等	資材等運搬車両の運行による大気質に係る環境影響が最大となる時期とした。			

表 5.2-5 事業特性及び地域特性（大気質：施設の稼働（排ガス））

当該項目に関連する事業特性	当該項目に関連する地域特性
対象事業はごみ処理施設（処理能力約 200 トン/日、煙突高さ約 59m）を整備するものであり、施設の供用により、施設において、煙突排出ガスを排出する。	<ul style="list-style-type: none"> ・最寄り住居等は、都市計画対象事業実施区域の北側約 500mに位置し、その周辺には住居等が点在している。 ・出雲気象観測所において、平成 28 年度の年間最多風向は東北東で、平均風速は 2.5m/s である。 ・一般環境大気測定局（出雲保健所）において、大気質（二酸化硫黄(SO₂)、二酸化窒素(NO₂)、浮遊粒子状物質(SPM)、ダイオキシン類)は、いずれも環境基準を達成している。

表 5.2-6(1) 調査、予測手法等（大気質：施設の稼働（排ガス））

環境影響評価の項目	影響要因の区分	調査及び予測の手法	選定の理由		
大気質（窒素酸化物、硫酸化物、浮遊粒子状物質、有害物質）	施設の稼働（排ガス）	調査すべき情報	事業特性及び地域特性は一般的であり、一般的な焼却方式を採用することから、県技術指針に示される参考手法及び生活環境調査指針に基づく手法を参考に選定した。		
		調査の基本的な手法		1)大気質（二酸化窒素、二酸化硫黄、浮遊粒子状物質、有害物質）の濃度の状況	
				2)気象（地上気象、上層気象）の状況	
				現地調査又は文献その他の資料による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とした。	
				1)大気質（二酸化窒素、二酸化硫黄、浮遊粒子状物質、有害物質）の濃度の状況	
				二酸化窒素	オゾンを用いる化学発光法とした。
				二酸化硫黄	溶液導電率法とした。
				浮遊粒子状物質	ベータ線吸収法とした。
				塩化水素	イオンクロマトグラフ法とした。
				ダイオキシン類	ハイボリュームエアサンプラー捕集法等とした。
				水銀	「有害大気汚染物質測定方法マニュアル」等に定める方法とした。
				2)気象（地上気象、上層気象）の状況	
				地上気象（風向・風速以外は通年調査地点のみ）	
				風向・風速	風車型微風型風向風速計を用いる手法とした。
				気温	白金抵抗通風式温度計を用いる手法とした。
				湿度	高分子薄膜静電容量式湿度計を用いる手法とした。
				日射量	熱電堆式全天日射計を用いる手法とした。
				放射収支量	熱電堆式風防型放射収支計を用いる手法とした。
				上層気象	
				気温、風向・風速	GPS ゾンデ観測による手法とし、取得高度は 500m まで 50m 毎とした。
調査地域	大気質の拡散の特性をふまえて大気質に係る環境影響を受けるおそれがあると認められる地域とした。				
調査地点	大気質の拡散の特性をふまえて調査地域における大気質に係る環境影響を予測し及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる地点とした。				
	1)大気質（二酸化窒素、二酸化硫黄、浮遊粒子状物質、有害物質）の濃度の状況				
	図 5.2-1 に示す 4 地点とした。				
	2)気象（地上気象、上層気象）の状況				
	地上気象（通年）	図 5.2-1 に示す 1 地点とした。			
地上気象（四季）	図 5.2-1 に示す 4 地点とした。				
上層気象	図 5.2-1 に示す 1 地点とした。				
調査期間等	大気質の拡散の特性をふまえて調査地域における大気質に係る環境影響を予測し及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる期間、時期及び時間帯とした。				
	1)大気質（二酸化窒素、二酸化硫黄、浮遊粒子状物質、有害物質）の濃度の状況				
	1 週間×4 季（春夏秋冬）とした。 （塩化水素は 24 時間値、ダイオキシン類・水銀は 7 日間値を測定した。）				
	2)気象（地上気象、上層気象）の状況				
	地上気象（通年）	1 年間（1 時間値を連続測定）とした。			
	地上気象（四季）	1 週間×4 季（春夏秋冬）とした。			
上層気象	7 日間（8 回/日）×4 季（春夏秋冬）とした。				

表 5.2-6(2) 調査、予測手法等（大気質：施設の稼働（排ガス））

環境影響評価の項目		調査及び予測の手法		選定の理由
環境要素の区分	影響要因の区分			
大気質 （窒素酸化物、硫酸化物、浮遊粒子状物質、有害物質）	施設の稼働（排ガス）	予測の基本的な手法	ブルーム式及びパフ式による計算を基本とした方法により、年平均値及び1時間値（一般的な気象条件時(大気安定度不安定時)、上層逆転発生時、フュミゲーション時、ダウンウォッシュ・ダウンドラフト発生時)を予測した。	(前表参照)
		予測地域	調査地域のうち、大気質の拡散の特性をふまえて大気質に係る環境影響を受けるおそれがあると認められる地域とした。	
		予測地点	大気質の拡散の特性をふまえて予測地域における大気質に係る環境影響を的確に把握できる地点とした。	
		予測対象時期等	施設の稼働が見込まれる時期とした。	

表 5.2-7 事業特性及び地域特性（大気質：廃棄物の搬入等）

当該項目に関連する事業特性	当該項目に関連する地域特性
対象事業はごみ処理施設（処理能力約 200 トン/日）を整備するものであり、施設の供用により、アクセス道路において、廃棄物運搬車両等が運行する。	<ul style="list-style-type: none"> ・アクセス道路沿道において、住居等が点在している。 ・出雲気象観測所において、平成 28 年度の年間最多風向は東北東で、平均風速は 2.5m/s である。 ・一般環境大気測定局（出雲保健所）において、大気質（二酸化硫黄 (SO₂)、二酸化窒素 (NO₂)、浮遊粒子状物質 (SPM)、ダイオキシソ類) は、いずれも環境基準を達成している。

表 5.2-8 調査、予測手法等（大気質：廃棄物の搬入等）

環境影響評価の項目		調査及び予測の手法		選定の理由			
環境要素の区分	影響要因の区分						
大気質（窒素酸化物、浮遊粒子状物質）	廃棄物の搬入等	調査すべき情報	1)大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質）の濃度の状況 2)気象（地上気象）の状況		事業特性及び地域特性は一般的であり、廃棄物運搬車両には一般的な車両を使用することを基本とすることから、県技術指針に示される参考手法及び技術手法を参考に選定した。		
		調査の基本的な手法	現地調査又は文献その他の資料による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とした。				
			1)大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質）の濃度の状況			オゾンを用いる化学発光法とした。	
			二酸化窒素	ベータ線吸収法とした。			
			2)気象（地上気象）の状況			風車型微風型風向風速計を用いる手法とした。	
			風向・風速	白金抵抗通風式温度計を用いる手法とした。			
			気温	高分子薄膜静電容量式湿度計を用いる手法とした。			
		湿度					
		調査地域	大気質の拡散の特性をふまえて大気質に係る環境影響を受けるおそれがあると認められる地域とした。				
		調査地点	大気質の拡散の特性をふまえて調査地域における大気質に係る環境影響を予測し及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる地点とした。				
			1)大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質）の濃度の状況			図 5.2-1 に示す 4 地点とした。	
			2)気象（地上気象）の状況				
			地上気象（通年）	図 5.2-1 に示す 1 地点とした。			
		地上気象（四季）	図 5.2-1 に示す 4 地点とした。				
調査期間等	大気質の拡散の特性をふまえて調査地域における大気質に係る環境影響を予測し及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる期間、時期及び時間帯とした。						
	1)大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質）の濃度の状況		1 週間×4 季（春夏秋冬）とした。				
	2)気象（地上気象）の状況						
	地上気象（通年）	1 年間（1 時間値を連続測定）とした。					
地上気象（四季）	1 週間×4 季（春夏秋冬）とした。						
予測の基本的な手法	ブルーム式及びパフ式による計算を基本とした方法により、年平均値を予測した。						
予測地域	調査地域のうち、大気質の拡散の特性をふまえて大気質に係る環境影響を受けるおそれがあると認められる地域とした。						
予測地点	大気質の拡散の特性をふまえて予測地域における大気質に係る環境影響を的確に把握できる地点とした。						
予測対象時期等	廃棄物の運搬に用いる車両の運行による大気質に係る環境影響が最大となる時期とした。						

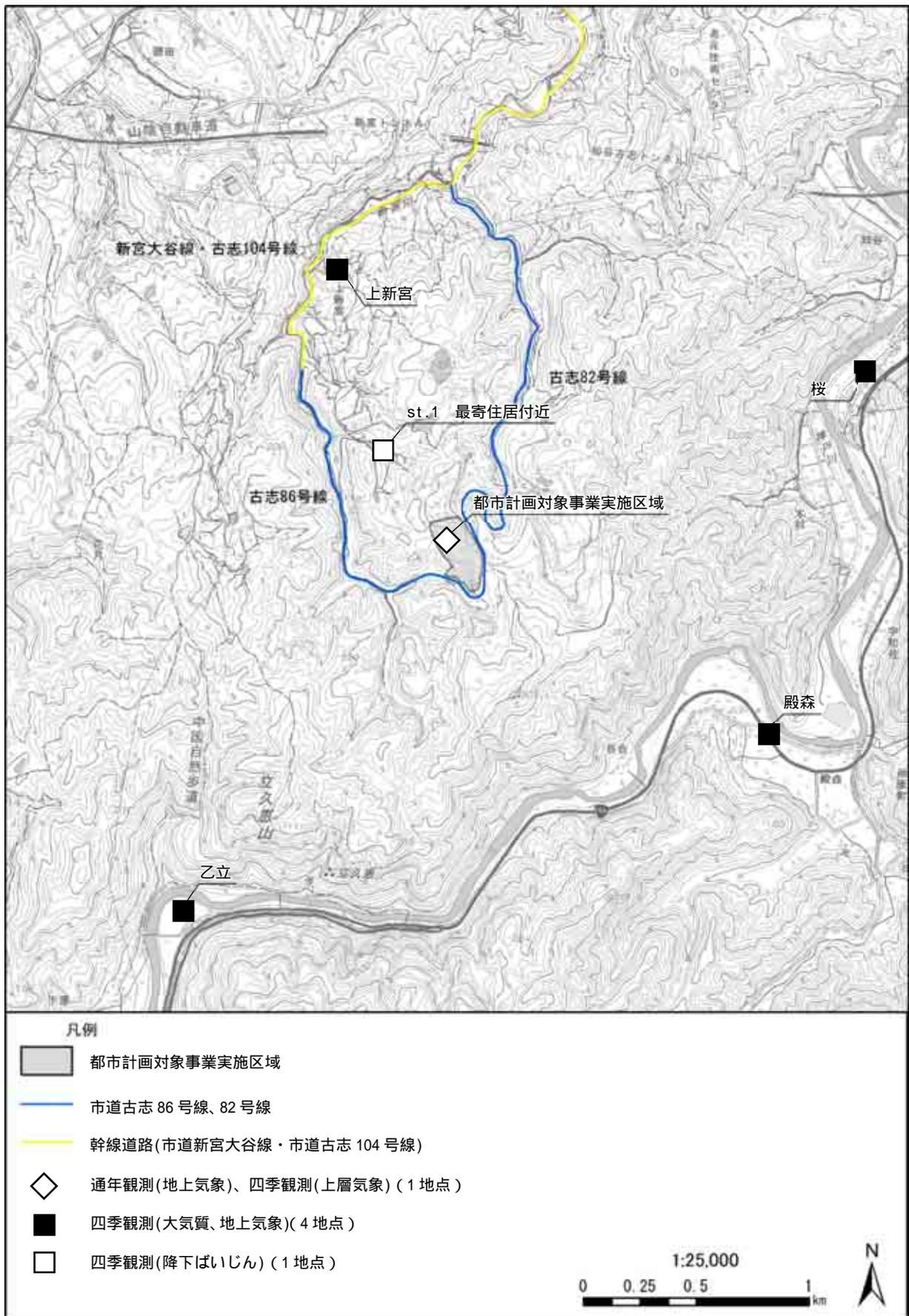


図 5.2-1 大気質・気象現地調査地点位置図

5.2.2 騒音

騒音に係る調査及び予測の手法並びにその選定理由等については、表 5.2-9～表 5.2-16 に示すとおりである。

表 5.2-9 事業特性及び地域特性（騒音：建設機械の稼働）

当該項目に関連する事業特性	当該項目に関連する地域特性
対象事業はごみ処理施設（敷地面積約 3.9ha）を整備するものであり、工事の実施（造成工事・建設工事）により、都市計画対象事業実施区域において、建設機械が稼働する。	<ul style="list-style-type: none"> ・最寄り住居等は、都市計画対象事業実施区域の北側約 500m に位置し、その周辺には住居等が点在している。 ・都市計画対象事業実施区域周辺では、騒音に係る環境基準の類型指定が B 類型に指定されている。 ・都市計画対象事業実施区域近傍で平成 13 年度に実施されている一般環境騒音調査では、環境基準 B 類型の基準値以下であった。

表 5.2-10(1) 調査、予測手法等（騒音：建設機械の稼働）

環境影響評価の項目	調査及び予測の手法		選定の理由	
環境要素の区分	影響要因の区分			
騒音	建設機械の稼働	調査すべき情報	1)騒音の状況（環境騒音） 2)地表面の状況 3)周辺住居等の状況	事業特性及び地域特性は一般的であり、工事の実施にあたっては一般的な建設機械を使用することを基本とすることから、県技術指針に示される参考手法及び技術手法に基づく手法を参考に選定した。
		調査の基本的な手法	現地調査又は文献その他の資料による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とした。	
			1)騒音の状況（環境騒音） JIS Z 8731「環境騒音の表示・測定方法」に準拠した手法とした。	
			2)地表面の状況 土地利用図等の文献その他の資料により、地表面の状況に関する情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とした。（文献調査）	
		調査地域	3)周辺住居等の状況 地形図の判読等により、保全対象住居の分布状況等を把握する方法とした。（文献調査）	
			音の伝搬の特性をふまえて騒音に係る環境影響を受けるおそれがあると認められる地域とした。	
		調査地点	音の伝搬の特性をふまえて調査地域における騒音に係る環境影響を予測し及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる地点とした。	
			1)騒音の状況（環境騒音） 図 5.2-2 に示す 2 地点 ^{注)} とした。（環境騒音）	
			2)地表面の状況 騒音の状況の調査地点周辺において地表面の状況を適切かつ効果的に把握できる地点とした。（文献調査）	
		調査期間等	3)周辺住居等の状況 騒音の状況の調査地点周辺において周辺住居等の状況を適切かつ効果的に把握できる地点とした。（文献調査）	
			音の伝搬の特性をふまえて調査地域における騒音に係る環境影響を予測し及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的な期間、時期及び時間帯とした。	
			1)騒音の状況（環境騒音） 1 年間を通じて平均的な状況であると考えられる日とし、平日・休日に各 1 回とした。（24 時間）	
2)地表面の状況 至近の情報とした。（文献調査）				
		3)周辺住居等の状況 至近の情報とした。（文献調査）		

注) 事業関係車両が市道古志 82 号線側を走行する場合の影響の検証のため、方法書より調査地点を 1 地点追加した。

表 5.2-10(2) 調査、予測手法等（騒音：建設機械の稼働）

環境影響評価の項目		調査及び予測の手法		選定の理由
環境要素の区分	影響要因の区分			
騒音	建設機械の稼働	予測の基本的な手法	技術手法を参考に、音の伝搬理論に基づく予測式により計算する方法とした。	(前表参照)
		予測地域	調査地域のうち、音の伝搬の特性をふまえて騒音に係る環境影響を受けるおそれがあると認められる地域とした。	
		予測地点	音の伝搬の特性をふまえて予測地域における騒音に係る環境影響を的確に把握できる地点とした。	
		予測対象時期等	建設機械の稼働による騒音に係る環境影響が最大となる時期とした。	

表 5.2-11 事業特性及び地域特性（騒音：資材等運搬車両の運行）

当該項目に関連する事業特性	当該項目に関連する地域特性
対象事業はごみ処理施設（敷地面積約 3.9ha）を整備するものであり、工事の実施（造成工事・建設工事）により、アクセス道路において、資材等運搬車両が運行する。	<ul style="list-style-type: none"> ・アクセス道路沿道において、住居等が点在している。 ・都市計画対象事業実施区域周辺では、騒音に係る環境基準の類型指定が B 類型に指定されている。 ・都市計画対象事業実施区域近傍で平成 13 年度に実施されている道路交通騒音調査では、環境基準 B 類型の基準値を上回っている地点があった。

表 5.2-12(1) 調査、予測手法等（騒音：資材等運搬車両の運行）

環境影響評価の項目	影響要因の区分	調査及び予測の手法		選定の理由
騒音	資材及び機械の運搬に用いる車両の運行	調査すべき情報	1)騒音の状況（道路交通騒音） 2)交通量の状況 3)地表面の状況 4)工事用の資材等運搬車両の運行が予想される道路の沿道の状況	事業特性及び地域特性は一般的であり、工事の実施にあたっては資材等運搬車両には一般的な車両を使用することを基本とすることから、県技術指針に示される参考手法及び技術手法に基づく手法を参考に選定した。
		調査の基本的な手法	現地調査又は文献その他の資料による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とした。 1)騒音の状況（道路交通騒音） JIS Z 8731「環境騒音の表示・測定方法」に準拠した手法とした。 2)交通量の状況 カウンター等を用いて大型車類、小型車類の車種別・時間別交通量及び平均走行速度を計測した。 3)地表面の状況 土地利用図等の文献その他の資料により、地表面の状況に関する情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とした。（文献調査） 4)工事用の資材等運搬車両の運行が予想される道路の沿道の状況 地形図の判読等により、保全対象住居の分布状況、道路形状等を把握する方法とした。（文献調査）	
		調査地域	音の伝搬の特性をふまえて騒音に係る環境影響を受けるおそれがあると認められる地域とした。	
		調査地点	音の伝搬の特性をふまえて調査地域における騒音に係る環境影響を予測し及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる地点とした。 1)騒音の状況（道路交通騒音） 図 5.2-2 に示す 3 地点 ^{注)} とした。（道路交通騒音） 2)交通量の状況 「1)騒音の状況（道路交通騒音）」と同様の地点とした。 3)地表面の状況 騒音の状況の調査地点周辺において地表面の状況を適切かつ効果的に把握できる地点とした。（文献調査） 4)工事用の資材等運搬車両の運行が予想される道路の沿道の状況 資材等運搬車両の運行が想定される道路の沿道とした。（文献調査）	
		調査期間等	音の伝搬の特性をふまえて調査地域における騒音に係る環境影響を予測し及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的な期間、時期及び時間帯とした。 1)騒音の状況（道路交通騒音） 1 年間を通じて平均的な状況であると考えられる日とし、平日・休日に各 1 回とした。（24 時間） 2)交通量の状況 「1)騒音の状況（道路交通騒音）」と同様とした。 3)地表面の状況 至近の情報とした。（文献調査） 4)工事用の資材等運搬車両の運行が予想される道路の沿道の状況 至近の情報とした。（文献調査）	

注) 事業関係車両が市道古志 82 号線側を走行する場合の影響の検証のため、方法書より調査地点を 1 地点追加した。

表 5.2-12(2) 調査、予測手法等（騒音：資材等運搬車両の運行）

環境影響評価の項目		調査及び予測の手法		選定の理由
環境要素 の区分	影響要因 の区分			
騒音	資材及び 機械の運 搬に用い る車両の 運行	予測の基本 的な手法	技術手法を参考に、音の伝搬理論に基づく予測式により計算する方法とした。	(前表参照)
		予測地域	調査地域のうち、音の伝搬の特性をふまえて騒音に係る環境影響を受け るおそれがあると認められる地域とした。	
		予測地点	音の伝搬の特性をふまえて予測地域における騒音に係る環境影響を的 確に把握できる地点とした。	
		予測対象 時期等	資材等運搬車両の運行による騒音に係る環境影響が最大となる時期と した。	

表 5.2-13 事業特性及び地域特性（騒音：施設の稼働（機械等の稼働））

当該項目に関連する事業特性	当該項目に関連する地域特性
対象事業はごみ処理施設（処理能力約 200 トン/日）を整備するものであり、施設の供用により、施設において、機械等が稼働する。	<ul style="list-style-type: none"> ・最寄り住居等は、都市計画対象事業実施区域の北側約 500mに位置し、その周辺には住居等が点在している。 ・都市計画対象事業実施区域周辺では、騒音に係る環境基準の類型指定が B 類型に指定されている。 ・都市計画対象事業実施区域近傍で平成 13 年度に実施されている一般環境騒音調査では、環境基準 B 類型の基準値以下であった。

表 5.2-14 調査、予測手法等（騒音：施設の稼働（機械等の稼働））

環境影響評価の項目	調査及び予測の手法		選定の理由	
環境要素の区分	影響要因の区分			
騒音	施設の稼働（機械等の稼働）	調査すべき情報	1)騒音の状況（環境騒音） 2)地表面の状況 3)周辺住居等の状況	事業特性及び地域特性は一般的であり、一般的な焼却方式を採用することを基本とすることから、県技術指針に示される参考手法及び生活環境調査指針に基づく手法を参考に選定した。
		調査の基本的な手法	現地調査又は文献その他の資料による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とした。	
			1)騒音の状況（環境騒音） JIS Z 8731「環境騒音の表示・測定方法」に準拠した手法とした。	
			2)地表面の状況 土地利用図等の文献その他の資料により、地表面の状況に関する情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とした。（文献調査）	
		調査地域	3)周辺住居等の状況 地形図の判読等により、保全対象住居の分布状況等を把握する方法とした。（文献調査）	
			音の伝搬の特性をふまえて騒音に係る環境影響を受けるおそれがあると認められる地域とした。	
		調査地点	音の伝搬の特性をふまえて調査地域における騒音に係る環境影響を予測し及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる地点とした。	
			1)騒音の状況（環境騒音） 図 5.2-2 に示す 2 地点 ^{注)} とした。（環境騒音）	
			2)地表面の状況 騒音の状況の調査地点周辺において地表面の状況を適切かつ効果的に把握できる地点とした。（文献調査）	
		調査期間等	3)周辺住居等の状況 騒音の状況の調査地点周辺において周辺住居等の状況を適切かつ効果的に把握できる地点とした。（文献調査）	
			音の伝搬の特性をふまえて調査地域における騒音に係る環境影響を予測し及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的な期間、時期及び時間帯とした。	
			1)騒音の状況（環境騒音） 1 年間を通じて平均的な状況であると考えられる日とし、平日・休日に各 1 回とした。（24 時間）	
		予測の基本的な手法	2)地表面の状況 至近の情報とした。（文献調査）	
3)周辺住居等の状況 至近の情報とした。（文献調査）				
予測地域	生活環境調査指針に基づき、音の伝搬理論に基づく予測式により計算する方法とした。			
予測地点	調査地域のうち、音の伝搬の特性をふまえて騒音に係る環境影響を受けるおそれがあると認められる地域とした。			
予測対象時期等	音の伝搬の特性をふまえて予測地域における騒音に係る環境影響を的確に把握できる地点とした。			
	施設の稼働が見込まれる時期とした。			

注) 事業関係車両が市道古志 82 号線側を走行する場合の影響の検証のため、方法書より調査地点を 1 地点追加した。

表 5.2-15 事業特性及び地域特性（騒音：廃棄物の搬入等）

当該項目に関連する事業特性	当該項目に関連する地域特性
対象事業はごみ処理施設（処理能力約200トン/日）を整備するものであり、施設の供用により、アクセス道路において、廃棄物運搬車両等が運行する。	<ul style="list-style-type: none"> ・アクセス道路沿道において、住居等が点在している。 ・都市計画対象事業実施区域周辺では、騒音に係る環境基準の類型指定がB類型に指定されている。 ・都市計画対象事業実施区域近傍で平成13年度に実施されている道路交通騒音調査では、環境基準B類型の基準値を上回っている地点があった。

表 5.2-16(1) 調査、予測手法等（騒音：廃棄物の搬入等）

環境影響評価の項目		調査及び予測の手法		選定の理由	
環境要素の区分	影響要因の区分				
騒音	廃棄物の搬入等	調査すべき情報	1)騒音の状況（道路交通騒音） 2)交通量の状況 3)地表面の状況 4)廃棄物の運搬に用いる車両の運行が予想される道路の沿道の状況	事業特性及び地域特性は一般的であり、廃棄物運搬車両には一般的な車両を使用することを基本とすることから、県技術指針に示される参考手法及び技術手法に基づく手法を参考に選定した。	
		調査の基本的な手法	現地調査又は文献その他の資料による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とした。		
			1)騒音の状況（道路交通騒音） JIS Z 8731「環境騒音の表示・測定方法」に準拠した手法とした。		
			2)交通量の状況 カウンター等を用いて大型車類、小型車類の車種別・時間別交通量及び平均走行速度を計測した。		
			3)地表面の状況 土地利用図等の文献その他の資料により、地表面の状況に関する情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とした。（文献調査）		
		調査地点	4)廃棄物の運搬に用いる車両の運行が予想される道路の沿道の状況 地形図の判読等により、保全対象住居の分布状況、道路形状等を把握する方法とした。（文献調査）		
			調査地域 音の伝搬の特性をふまえて騒音に係る環境影響を受けるおそれがあると認められる地域とした。		
			調査地点 音の伝搬の特性をふまえて調査地域における騒音に係る環境影響を予測し及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる地点とした。		
			1)騒音の状況（道路交通騒音） 図 5.2-2 に示す3地点 ^{注)} とした。（道路交通騒音）		
		調査期間等	2)交通量の状況 「1)騒音の状況（道路交通騒音）」と同様の地点とした。		
			3)地表面の状況 騒音の状況の調査地点周辺において地表面の状況を適切かつ効果的に把握できる地点とした。（文献調査）		
			4)廃棄物の運搬に用いる車両の運行が予想される道路の沿道の状況 廃棄物の運搬に用いる車両の運行が想定される道路の沿道とした。（文献調査）		
音の伝搬の特性をふまえて調査地域における騒音に係る環境影響を予測し及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的な期間、時期及び時間帯とした。					
1)騒音の状況（道路交通騒音） 1年間を通じて平均的な状況であると考えられる日とし、平日・休日に各1回とした。（24時間）					
2)交通量の状況 「1)騒音の状況（道路交通騒音）」と同様とした。					
3)地表面の状況 至近の情報とした。（文献調査）					
4)廃棄物の運搬に用いる車両の運行が予想される道路の沿道の状況 至近の情報とした。（文献調査）					

注) 事業関係車両が市道古志82号線側を走行する場合の影響の検証のため、方法書より調査地点を1地点追加した。

表 5.2-16(2) 調査、予測手法等（騒音：廃棄物の搬入等）

環境影響評価の項目		調査及び予測の手法		選定の理由
環境要素の区分	影響要因の区分			
騒音	廃棄物の搬入等	予測の基本的な手法	技術手法を参考に、音の伝搬理論に基づく予測式により計算する方法とした。	(前表参照)
		予測地域	調査地域のうち、音の伝搬の特性をふまえて騒音に係る環境影響を受けのおそれがあると認められる地域とした。	
		予測地点	音の伝搬の特性をふまえて予測地域における騒音に係る環境影響を的確に把握できる地点とした。	
		予測対象時期等	廃棄物の運搬に用いる車両の運行による騒音に係る環境影響が最大となる時期とした。	

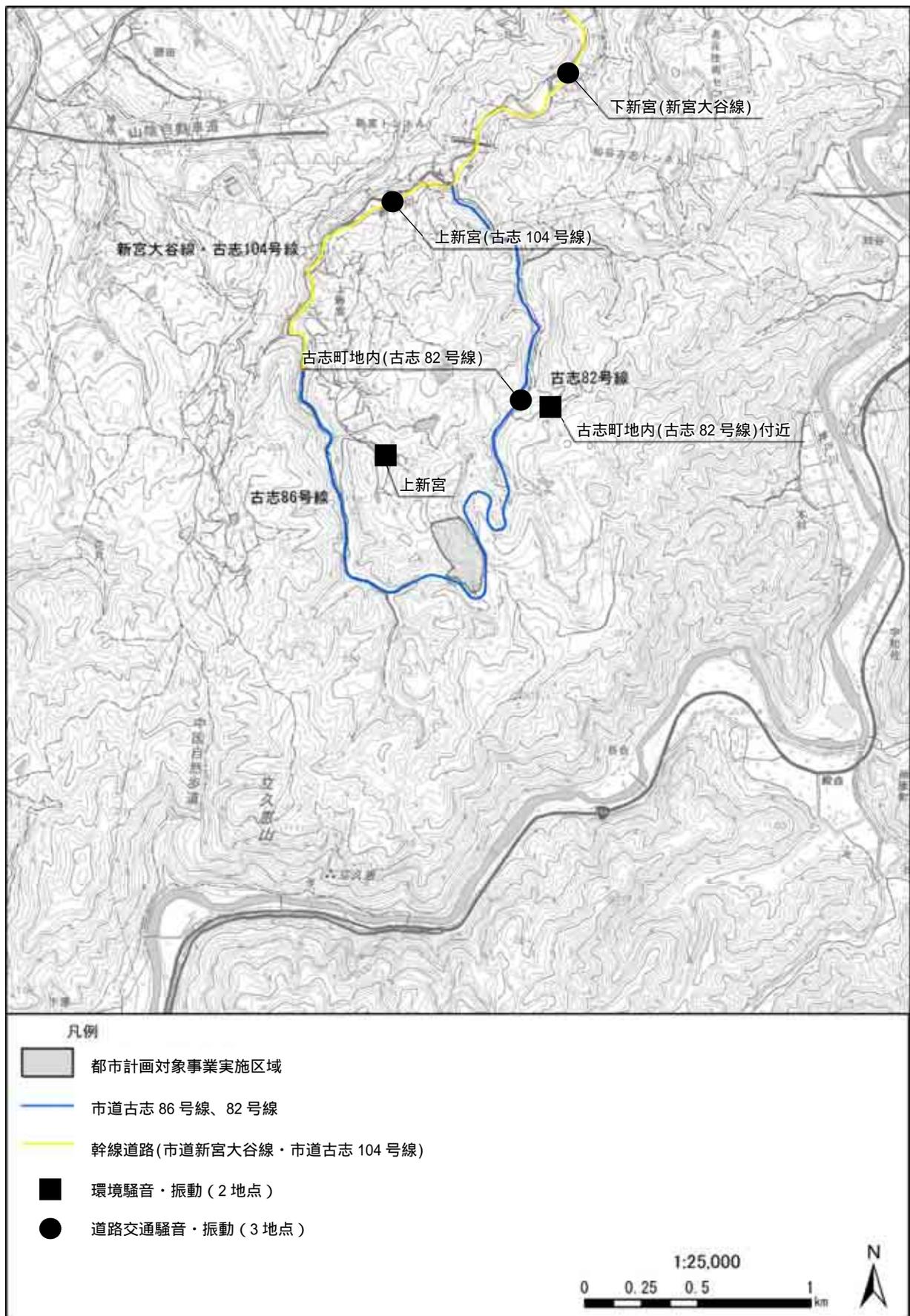


図 5.2-2 騒音・振動現地調査地点位置図

5.2.3 振動

振動に係る調査及び予測の手法並びにその選定理由については、表 5.2-17～表 5.2-24 に示すとおりである。

表 5.2-17 事業特性及び地域特性（振動：建設機械の稼働）

当該項目に関連する事業特性	当該項目に関連する地域特性
対象事業はごみ処理施設（敷地面積約 3.9ha）を整備するものであり、工事の実施（造成工事・建設工事）により、都市計画対象事業実施区域において、建設機械が稼働する。	<ul style="list-style-type: none"> ・最寄り住居等は、都市計画対象事業実施区域の北側約 500m に位置し、その周辺には住居等が点在している。 ・都市計画対象事業実施区域近傍で平成 13 年度に実施されている一般環境振動調査ではいずれも 30 デシベル未満であった。

表 5.2-18 調査、予測手法等（振動：建設機械の稼働）

環境影響評価の項目		調査及び予測の手法		選定の理由		
環境要素の区分	影響要因の区分					
振動	建設機械の稼働	調査すべき情報	1) 振動の状況（環境振動） 2) 地盤の状況 3) 周辺住居等の状況	事業特性及び地域特性は一般的であり、工事の実施にあたっては一般的な建設機械を使用することを基本とすることから、県技術指針に示される参考手法及び技術手法に基づく手法を参考に選定した。		
		調査の基本的な手法	現地調査又は文献その他の資料による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とした。		1) 振動の状況（環境振動）	JIS Z 8735「振動レベル測定方法」に準拠した手法とした。
			2) 地盤の状況		既存の表層地質図等により、地盤の状況を把握する方法とした。（文献調査）	
			3) 周辺住居等の状況		地形図の判読等により、保全対象住居の分布状況等を把握する方法とした。（文献調査）	
			調査地域		振動の伝搬の特性をふまえて振動に係る環境影響を受けるおそれがあると認められる地域とした。	
		調査地点	振動の伝搬の特性をふまえて調査地域における振動に係る環境影響を予測し及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる地点とした。		1) 振動の状況（環境振動）	図 5.2-2 に示す 2 地点 ^{注)} とした。（環境振動）
			2) 地盤の状況		地盤の状況を適切かつ効果的に把握できる地点とした。（文献調査）	
			3) 周辺住居等の状況		振動の状況の調査地点周辺において周辺住居等の状況を適切かつ効果的に把握できる地点とした。（文献調査）	
			調査期間等		振動の伝搬の特性をふまえて調査地域における振動に係る環境影響を予測し及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる期間及び時期とした。	1) 振動の状況（環境振動）
		2) 地盤の状況	至近の情報とした。（文献調査）			
		3) 周辺住居等の状況	至近の情報とした。（文献調査）			
		予測の基本的な手法	技術手法を参考に、振動の伝搬理論に基づく予測式により計算する方法とした。		予測地域	調査地域のうち、振動の伝搬の特性をふまえて振動に係る環境影響を受けるおそれがあると認められる地域とした。
		予測地点	振動の伝搬の特性をふまえて予測地域における振動に係る環境影響を的確に把握できる地点とした。		予測対象時期等	建設機械の稼働による振動に係る環境影響が最大となる時期とした。

注) 事業関係車両が市道古志 82 号線側を走行する場合の影響の検証のため、方法書より調査地点を 1 地点追加した。

表 5.2-19 事業特性及び地域特性（振動：資材等運搬車両の運行）

当該項目に関連する事業特性	当該項目に関連する地域特性
対象事業はごみ処理施設（敷地面積約 3.9ha）を整備するものであり、工事の実施（造成工事・建設工事）により、アクセス道路において、資材等運搬車両が運行する。	・アクセス道路沿道において、住居等が点在している。 ・都市計画対象事業実施区域近傍で平成 13 年度に実施されている道路交通振動調査では、いずれも道路交通振動の要請限度値以下であった。

表 5.2-20 調査、予測手法等（振動：資材等運搬車両の運行）

環境影響評価の項目 環境要素 の区分	影響要因 の区分	調査及び予測の手法	選定の理由	
振動	資材及び機械の運搬に用いる車両の運行	調査すべき情報	事業特性及び地域特性は一般的であり、工事の実施にあたっては資材等運搬車両には一般的な車両を使用することを基本とすることから、県技術指針に示される参考手法及び技術手法に基づく手法を参考に選定した。	
		調査の基本的な手法		1)振動の状況（道路交通振動）
				2)交通量の状況
				3)地盤の状況（地盤卓越振動数）
				4)工事用の資材等運搬車両の運行が予想される道路の沿道の状況
				現地調査又は文献その他の資料による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とした。
				1)振動の状況（道路交通振動）
				JIS Z 8735「振動レベル測定方法」に準拠した手法とした。
				2)交通量の状況
				カウンター等を用いて大型車類、小型車類の車種別・時間別交通量及び平均走行速度を計測した。
				3)地盤の状況（地盤卓越振動数）
		大型車走行時の振動加速度レベルを計測する方法とした。		
		4)工事用の資材等運搬車両の運行が予想される道路の沿道の状況		
地形図の判読等により、保全対象住居の分布状況、道路形状等を把握する方法とした。（文献調査）				
調査地域	振動の伝搬の特性をふまえて振動に係る環境影響を受けるおそれがあると認められる地域とした。			
調査地点	振動の伝搬の特性をふまえて調査地域における振動に係る環境影響を予測し及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる地点とした。			
	1)振動の状況（道路交通振動）			
	図 5.2-2 に示す 3 地点 ^{注)} とした。（道路交通振動）			
	2)交通量の状況			
	「1)振動の状況（道路交通振動）」と同様の地点とした。			
調査期間等	3)地盤の状況（地盤卓越振動数）			
	「1)振動の状況（道路交通振動）」と同様の地点とした。			
	4)工事用の資材等運搬車両の運行が予想される道路の沿道の状況			
	資材等運搬車両の運行が想定される道路の沿道とした。（文献調査）			
	振動の伝搬の特性をふまえて調査地域における振動に係る環境影響を予測し及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる期間、時期及び時間帯とした。			
予測の基本的な手法	1)振動の状況（道路交通振動）			
	1年間を通じて平均的な状況であると考えられる日とし、平日・休日に各 1 回とした。（24 時間）			
	2)交通量の状況			
	「1)振動の状況（道路交通振動）」と同様とした。			
予測地域	3)地盤の状況（地盤卓越振動数）			
	「1)振動の状況（道路交通振動）」と同様とした。			
	4)工事用の資材等運搬車両の運行が予想される道路の沿道の状況			
予測地点	至近の情報とした。（文献調査）			
	技術手法を参考に、振動レベルの 80 パーセントレンジの上端値を予測するための式を用いた計算による方法とした。			
予測対象時期等	調査地域のうち、振動の伝搬の特性をふまえて振動に係る環境影響を受けるおそれがあると認められる地域とした。			
	振動の伝搬の特性をふまえて予測地域における振動に係る環境影響を的確に把握できる地点とした。			
	資材等運搬車両の運行による振動に係る環境影響が最大となる時期とした。			

注) 事業関係車両が市道古志 82 号線側を走行する場合の影響の検証のため、方法書より調査地点を 1 地点追加した。

表 5.2-21 事業特性及び地域特性（振動：施設の稼働（機械等の稼働））

当該項目に関連する事業特性	当該項目に関連する地域特性
対象事業はごみ処理施設(処理能力約 200 トン/日)を整備するものであり、施設の供用により、施設において、機械等が稼働する。	<ul style="list-style-type: none"> ・最寄り住居等は、都市計画対象事業実施区域の北側約 500 mに位置し、その周辺には住居等が点在している。 ・都市計画対象事業実施区域近傍で平成 13 年度に実施されている一般環境振動調査ではいずれも 30 デシベル未満であった。

表 5.2-22 調査、予測手法等（振動：施設の稼働（機械等の稼働））

環境影響評価の項目	調査及び予測の手法		選定の理由	
環境要素の区分	影響要因の区分			
振動	施設の稼働 (機械等の稼働)	調査すべき情報	1)振動の状況(環境振動) 3)周辺住居等の状況 2)地盤の状況	事業特性及び地域特性は一般的であり、一般的な焼却方式を採用することを基本とすることから、県技術指針に示される参考手法及び生活環境調査指針に基づく手法を参考に選定した。
		調査の基本的な手法	現地調査又は文献その他の資料による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とした。	
			1)振動の状況(環境振動) JIS Z 8735「振動レベル測定方法」に準拠した手法とした。	
			2)地盤の状況 既存の表層地質図等により、地盤の状況を把握する方法とした。(文献調査)	
		調査地域	3)周辺住居等の状況 地形図の判読等により、保全対象住居の分布状況等を把握する方法とした。(文献調査)	
			振動の伝搬の特性をふまえて振動に係る環境影響を受けるおそれがあると認められる地域とした。	
		調査地点	振動の伝搬の特性をふまえて調査地域における振動に係る環境影響を予測し及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる地点とした。	
			1)振動の状況(環境振動) 図 5.2-2 に示す 2 地点 ^{注)} とした(環境振動)。	
			2)地盤の状況 地盤の状況を適切かつ効果的に把握できる地点とした。(文献調査)	
			3)周辺住居等の状況 振動の状況の調査地点周辺において周辺住居等の状況を適切かつ効果的に把握できる地点とした。(文献調査)	
		調査期間等	振動の伝搬の特性をふまえて調査地域における振動に係る環境影響を予測し及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる期間及び時期とした。	
			1)振動の状況(環境振動) 1年間を通じて平均的な状況であると考えられる日とし、平日・休日に各 1 回とした。(24 時間)	
			2)地盤の状況 至近の情報とした。(文献調査)	
3)周辺住居等の状況 至近の情報とした。(文献調査)				
予測の基本的な手法	生活環境調査指針に基づき、距離減衰式により計算する方法とした。			
予測地域	調査地域のうち、振動の伝搬の特性をふまえて振動に係る環境影響を受けるおそれがあると認められる地域とした。			
予測地点	振動の伝搬の特性をふまえて予測地域における振動に係る環境影響を的確に把握できる地点とした。			
予測対象時期等	施設の稼働が見込まれる時期とした。			

注) 事業関係車両が市道古志 82 号線側を走行する場合の影響の検証のため、方法書より調査地点を 1 地点追加した。

表 5.2-23 事業特性及び地域特性（振動：廃棄物の搬入等）

当該項目に関連する事業特性	当該項目に関連する地域特性
対象事業はごみ処理施設（処理能力約 200 トン/日）を整備するものであり、施設の供用により、アクセス道路において、廃棄物運搬車両等が運行する。	<ul style="list-style-type: none"> ・アクセス道路沿道において、住居等が点在している。 ・都市計画対象事業実施区域近傍で平成 13 年度に実施されている道路交通振動調査では、いずれも道路交通振動の要請限度値以下であった。

表 5.2-24 調査、予測手法等（振動：廃棄物の搬入等）

環境影響評価の項目	影響要因の区分	調査及び予測の手法	選定の理由	
振動	廃棄物の搬入等	調査すべき情報	1)振動の状況（道路交通振動） 2)交通量の状況 3)地盤の状況（地盤卓越振動数） 4)廃棄物の運搬に用いる車両の運行が予想される道路の沿道の状況	事業特性及び地域特性は一般的であり、廃棄物運搬車両には一般的な車両を使用することを基本とすることから、県技術指針に示される参考手法及び技術手法に基づく手法を参考に選定した。
		調査の基本的な手法	現地調査又は文献その他の資料による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とした。 1)振動の状況（道路交通振動） JIS Z 8735「振動レベル測定方法」に準拠した手法とした。 2)交通量の状況 カウンター等を用いて大型車類、小型車類の車種別・時間別交通量及び平均走行速度を計測した。 3)地盤の状況（地盤卓越振動数） 大型車走行時の振動加速度レベルを計測する方法とした。 4)廃棄物の運搬に用いる車両の運行が予想される道路の沿道の状況 地形図の判読等により、保全対象住居の分布状況、道路形状等を把握する方法とした。（文献調査）	
	調査地域	振動の伝搬の特性をふまえて振動に係る環境影響を受けるおそれがあると認められる地域とした。		
	調査地点	振動の伝搬の特性をふまえて調査地域における振動に係る環境影響を予測し及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる地点とした。 1)振動の状況（道路交通振動） 図 5.2-2 に示す 3 地点 ^{注)} とした（道路交通振動）。 2)交通量の状況 「1)振動の状況（道路交通振動）」と同様の地点とした。 3)地盤の状況（地盤卓越振動数） 「1)振動の状況（道路交通振動）」と同様の地点とした。 4)廃棄物の運搬に用いる車両の運行が予想される道路の沿道の状況 廃棄物の運搬に用いる車両の運行が想定される道路の沿道とした。（文献調査）		
	調査期間等	振動の伝搬の特性をふまえて調査地域における振動に係る環境影響を予測し及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる期間、時期及び時間帯とした。 1)振動の状況（道路交通振動） 1年間を通じて平均的な状況であると考えられる日とし、平日・休日に各 1 回とした。（24 時間） 2)交通量の状況 「1)振動の状況（道路交通振動）」と同様とした。 3)地盤の状況（地盤卓越振動数） 「1)振動の状況（道路交通振動）」と同様とした。 4)廃棄物の運搬に用いる車両の運行が予想される道路の沿道の状況 至近の情報とした。（文献調査）		
	予測の基本的な手法	技術手法を参考に、振動レベルの 80 パーセントレンジの上端値を予測するための式を用いた計算による方法とした。		
	予測地域	調査地域のうち、振動の伝搬の特性をふまえて振動に係る環境影響を受けるおそれがあると認められる地域とした。		
	予測地点	振動の伝搬の特性をふまえて予測地域における振動に係る環境影響を的確に把握できる地点とした。		
	予測対象時期等	廃棄物の運搬に用いる車両の運行による振動に係る環境影響が最大となる時期とした。		

注) 事業関係車両が市道古志 82 号線側を走行する場合の影響の検証のため、方法書より調査地点を 1 地点追加した。

5.2.4 悪臭

悪臭に係る調査及び予測の手法並びにその選定理由については、表 5.2-25～表 5.2-26 に示すとおりである。

表 5.2-25 事業特性及び地域特性（悪臭：施設の稼働（排ガス、機械等の稼働））

当該項目に関連する事業特性	当該項目に関連する地域特性
対象事業はごみ処理施設（処理能力約 200 トン/日、煙突高さ約 59 m）を整備するものであり、施設の供用により、施設において、煙突排出ガスを排出し、廃棄物を収集・処理する。	<ul style="list-style-type: none"> ・最寄り住居等は、都市計画対象事業実施区域の北側約 500mに位置し、その周辺には住居等が点在している。 ・出雲気象観測所において、平成 28 年度の年間最多風向は東北東で、平均風速は 2.5m/s である。 ・都市計画対象事業実施区域近傍で平成 13 年度に実施されている悪臭調査では、特定悪臭物質はいずれも定量下限値以下であった。

表 5.2-26 調査、予測手法等（悪臭：施設の稼働（排ガス、機械等の稼働））

環境影響評価の項目	調査及び予測の手法		選定の理由	
環境要素の区分	影響要因の区分			
悪臭	施設の稼働（排ガス、機械等の稼働）	調査すべき情報	1)悪臭の状況（特定悪臭物質濃度、臭気指数） 2)気象の状況	事業特性及び地域特性は一般的であり、一般的な焼却方式を採用することを基本とすることから、県技術指針に示される参考手法及び生活環境調査指針に基づく手法を参考に選定した。
		調査の基本的な手法	現地調査又は文献その他の資料による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とした。	
	1)悪臭の状況（特定悪臭物質濃度、臭気指数）			
	特定悪臭物質濃度		「特定悪臭物質の測定の方法」（昭和 47 年 環境庁告示第 9 号）に定める方法とした。	
	臭気指数		「臭気指数及び臭気排出強度の算定の方法」（平成 7 年 環境庁告示第 63 号）に定める方法とした。	
	調査地域	2)気象の状況		
		地上気象に係る現地調査結果を整理した。（表 5.2-2 参照）		
	調査地点	悪臭の拡散の特性をふまえて悪臭に係る環境影響を受けるおそれがあると認められる地域とした。		
		悪臭の拡散の特性をふまえて調査地域における悪臭に係る環境影響を予測し及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる地点とした。		
		1)悪臭の状況（特定悪臭物質濃度、臭気指数）		
		特定悪臭物質濃度	臭気指数	
	調査期間等	図 5.2-3 に示す 2 地点（一般環境 1 地点、類似施設 1 地点）とした。		
		2)気象の状況		
		地上気象に係る現地調査結果を整理した。（表 5.2-2 参照）。		
悪臭の拡散の特性をふまえて調査地域における悪臭に係る環境影響を予測し及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる時期とした。				
予測の基本的な手法	1)悪臭の状況（特定悪臭物質濃度、臭気指数）			
	特定悪臭物質濃度	臭気指数		
予測地域	1 回（夏季）とした。			
	2)気象の状況			
予測地点	地上気象に係る現地調査結果を整理した。（表 5.2-2 参照）。			
	悪臭の拡散の特性をふまえて調査地域における悪臭に係る環境影響を受けるおそれがあると認められる地域とした。			
予測対象時期等	悪臭の拡散の特性をふまえて予測地域における悪臭に係る環境影響を的確に把握できる地点とした。			
	施設の稼働が見込まれる時期とした。			

5.2.5 水質

水質に係る調査及び予測の手法並びにその選定理由については、表 5.2-27～表 5.2-28 に示すとおりである。

表 5.2-27 事業特性及び地域特性（水質：雨水の排水）

当該項目に関連する事業特性	当該項目に関連する地域特性
対象事業はごみ処理施設（敷地面積約 3.9ha）を整備するものであり、工事の実施（造成工事・建設工事）により、下流河川において降雨時に雨水が流出する。	<ul style="list-style-type: none"> ・都市計画対象事業実施区域及びその周囲には、一級河川斐伊川水系の穂原川、神戸川、二級河川十間川水系の十間川がある。 ・都市計画対象事業実施区域は十間川水系に位置しており、都市計画対象事業実施区域に降った雨水は西側の自然溪流（新宮川）を流れ、北側で十間川に合流し、合流点で西側の神西湖への流れと北側の神戸川への流れ（新宮川放水路）とに分流される。 ・公共水域の水質測定結果は、概ね環境基準を満足しているが、神戸川の 2 か所で生活環境項目の大腸菌群数が環境基準を未達成である。

表 5.2-28(1) 調査、予測手法等（水質：雨水の排水）

環境影響評価の項目	調査及び予測の手法		選定の理由			
環境要素の区分	影響要因の区分					
水質（水の濁り）	雨水の排水	調査すべき情報	1)水質、流量の状況 2)流れの状況 3)土質の状況 4)気象（降水量）の状況	事業特性及び地域特性は一般的であり、工事の実施にあたっては一般的な工法を採用することを基本とすることから、県技術指針に示される参考手法及び技術手法に基づく手法を参考に選定した。		
		調査の基本的な手法	現地調査又は文献その他の資料による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とした。			
			1)水質、流量の状況			
			水質（降雨時）		浮遊物質量、濁度	「水質汚濁に係る環境基準について」（昭和 46 年環境庁告示第 59 号）等に定める方法とした。
			水質（無降雨時）		生活環境項目 ^{注）}	
			流量（降雨時、無降雨時）		「水質調査方法」（昭和 46 年環境管第 30 号）に定める方法とした。	
			2)流れの状況			
			現地調査による流れの状況確認、整理による方法とした。			
			3)土質の状況			
			「土の粒度試験方法（JIS A 1204）」に基づく土砂等の粒度組成の分析、「選炭廃水試験方法（JIS M 0201 12）」に基づく沈降速度の測定により当該情報の整理及び解析による方法とした。			
			4)気象（降水量）の状況			
		気象庁データ等による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とした。（文献調査）				
調査地域	水域の特性及び水の濁りの変化の特性をふまえて水の濁りに係る環境影響を受けるおそれがあると認められる地域とした。					
調査地点	水の特性及び水の濁りの変化の特性をふまえて調査地域における水の濁りに係る環境影響を予測し及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる地点とした。					
	1)水質、流量の状況					
	図 5.2-4 に示す 6 地点とした。					
	2)流れの状況					
	新宮川周辺とした。					
3)土質の状況						
造成等の施工が見込まれる範囲における代表 2 か所の位置とした。						
4)気象（降水量）の状況						
都市計画対象事業実施区域近傍の気象観測所の位置とした。						

注) 生活環境項目：水素イオン濃度、生物化学的酸素要求量、浮遊物質量、溶存酸素量、大腸菌群数、全亜鉛、ノニルフェノール、直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩、水温、透視度を対象とした。
 なお、施設からの汚水排水はないが、参考有害物質（健康項目等：カドミウム、全シアン、鉛、六価クロム、砒素、総水銀、アルキル水銀、PCB、ジクロロメタン、四塩化炭素、1,2-ジクロロエタン、1,1-ジクロロエチレン、シス 1,2ジクロロエチレン、1,1,1 トリクロロエタン、1,1,2-トリクロロエタン、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、1,3ジクロロプロペン、チウラム、シマジン、チオベンカルブ、ベンゼン、セレン、硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素、ふっ素、ほう素、1,4 ジオキサン、ダイオキシン類）についても、都市計画対象事業実施区域の直下付近の沢水（1 か所）で現況把握（夏・冬の 2 回）を行った。

表 5.2-28(2) 調査、予測手法等（水質：雨水の排水）

環境影響評価の項目		調査及び予測の手法		選定の理由	
環境要素の区分	影響要因の区分				
水質（水の濁り）	雨水の排水	調査期間等	水の特性及び水の濁りの変化の特性をふまえて調査地域における土砂による水の濁りに係る環境影響を予測し及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる時期とした。	(前表参照)	
			1)水質、流量の状況		
			降雨時		3回とした。(降雨毎に浮遊物質量は1検体、濁度・流量は3検体)
			無降雨時		四季の年4回とした。
			2)流れの状況		
			「1)水質、流量の状況」と同様とした。		
			3)土質の状況		
			1回とした。		
			4)気象（降水量）の状況		
			至近の10年間とした。		
	予測の基本的な手法	浮遊物質量の物質の収支に関する計算又は事例の引用若しくは解析とした。			
	予測地域	調査地域のうち、水域の特性及び水の濁りの変化の特性をふまえて土砂による水の濁りに係る環境影響を受けるおそれがあると認められる地域とした。			
	予測地点	水域の特性及び水の濁りの変化の特性をふまえて予測地域における水の濁りに係る環境影響を的確に把握できる地点とした。			
	予測対象時期等	造成等の施工により土砂による水の濁りに係る環境影響が最大となる時期とした。			

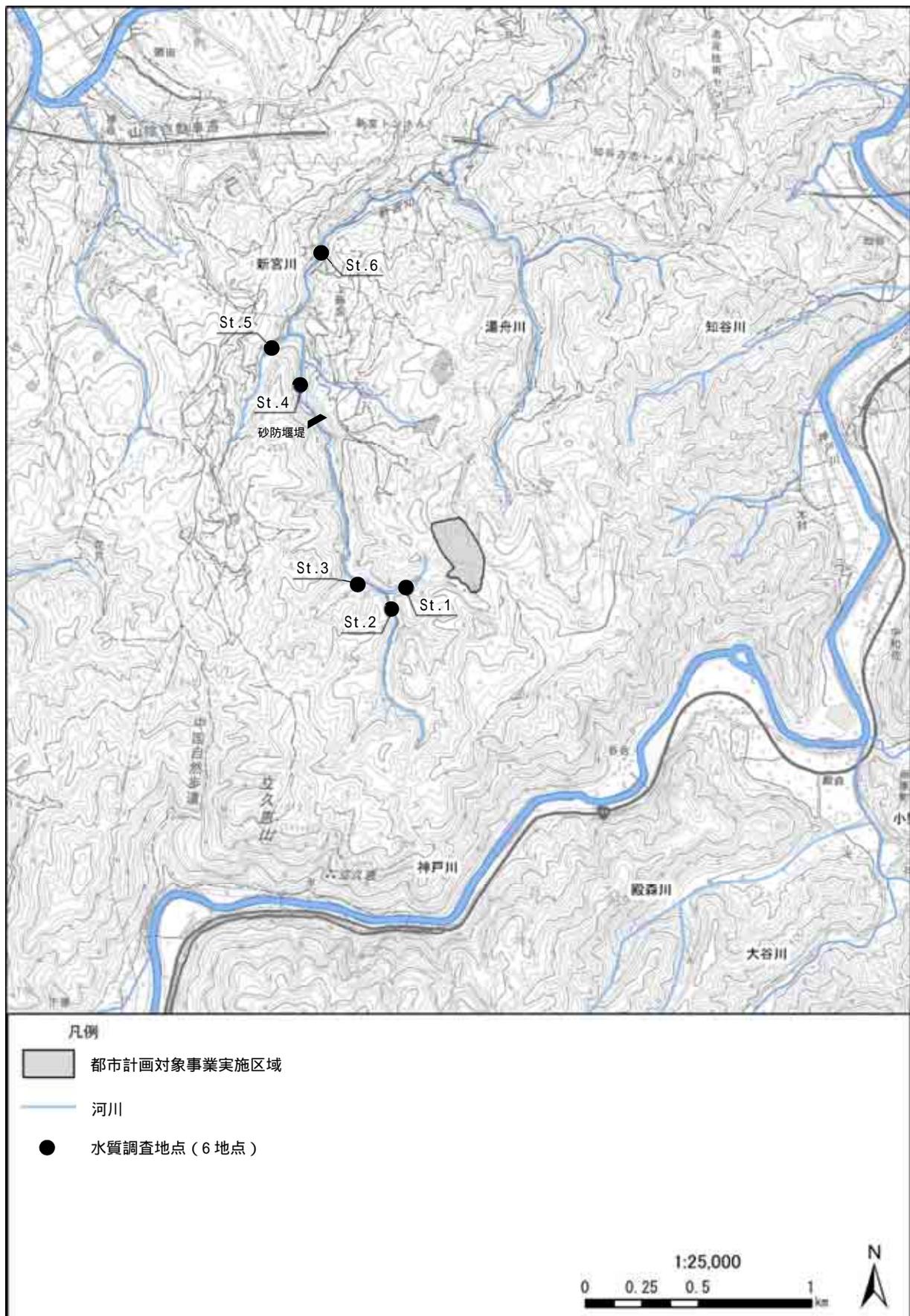


図 5.2-4 水質現地調査地点位置図

5.2.6 動物

動物に係る調査及び予測の手法並びにその選定理由については、表 5.2-29～表 5.2-30 に示すとおりである。

表 5.2-29 事業特性及び地域特性（動物：工事の実施及び施設等の存在・供用）

当該項目に関連する事業特性	当該項目に関連する地域特性
対象事業はごみ処理施設（敷地面積約 3.9ha、煙突高さ約 59m）を整備するものである。工事の実施（造成工事・建設工事）により、都市計画対象事業実施区域において、建設機械が稼働するとともに、降雨時に雨水が下流河川に流出する。また、施設の存在・供用により、敷地（土地）を改変し、照明施設を設置する。	<ul style="list-style-type: none"> 既存文献によると、都市計画対象事業実施区域及びその周囲には、哺乳類 10 種、鳥類 56 種、両生類 10 種、爬虫類 6 種、昆虫類 147 種、魚類 26 種、底生動物で 17 種、陸産貝類 13 種、合計 285 種の重要な動物が生息する可能性がある。 都市計画対象事業実施区域の西側には、水生生物の生息環境となりうる自然溪流（新宮川）が流れている。 都市計画対象事業実施区域においては、重要な動物種や注目すべき生息地等の確認情報はない。

表 5.2-30(1) 調査、予測手法等（動物：工事の実施及び施設等の存在・供用）

環境影響評価の項目	調査及び予測の手法		選定の理由		
環境要素の区分	影響要因の区分				
動物（重要な種及び注目すべき生息地）	建設機械の稼働（騒音・振動） 雨水の排水（水の濁り） 敷地の存在（土地の改変） 機械等の稼働（照明の設置）	調査すべき情報	1)動物相の状況（哺乳類、鳥類（一般鳥類） 鳥類（猛禽類） 両生類・爬虫類、昆虫類（クモ類含む） 陸産貝類、魚類、底生動物） 2)動物の重要な種の分布、生息の状況及び生息環境の状況 3)注目すべき生息地の分布並びに当該生息地が注目される理由である動物の種の生息の状況及び生息環境の状況	事業特性及び地域特性は一般的であり、土地の改変にあたっては一般的な工法を採用することを基本とすることから、県技術指針に示される参考手法及び技術手法に基づく手法を参考に選定した。	
		調査の基本的手法	現地調査又は文献その他の資料による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とした。		
			哺乳類		目撃法、フィールドサイン法、トラップによる捕獲法、無人撮影法、夜間調査（コウモリ類対象）
			鳥類（一般鳥類）		ルートセンサス法、定点観察法、任意観察法（夜間調査（フクロウ類対象）、チゴモズ調査を含む。）
			鳥類（猛禽類）		定点観察法等
			両生類・爬虫類		任意観察法
			昆虫類		任意採集法、ライトトラップ法、ベイトトラップ法
			クモ類		任意採集法
			陸産貝類		任意採集法
			魚類		任意採集法（直接観察、投網、タモ網）、はえなわ・モンドリ等
		底生動物	定性採集、定量採集		
		調査地域	都市計画対象事業実施区域及びその周辺とし、図 5.2-5 に示す地域とした。		
		調査地点	動物の生息の特性をふまえて調査地域における重要な種及び注目すべき生息地に係る環境影響を予測し及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる地点又は経路とした。		
			哺乳類		都市計画対象事業実施区域周辺 200m の範囲
			鳥類（一般鳥類）		都市計画対象事業実施区域周辺 200m の範囲
鳥類（猛禽類）	都市計画対象事業実施区域周辺 1km 程度、3 定点				
両生類・爬虫類	都市計画対象事業実施区域周辺 200m の範囲				
昆虫類（クモ類含む）	都市計画対象事業実施区域周辺 200m の範囲				
陸産貝類	都市計画対象事業実施区域周辺 200m の範囲				
魚類	6 地点（水質調査地点に同じ）				
底生動物	6 地点（水質調査地点に同じ）				

表 5.2-30(2) 調査、予測手法等（動物：工事の実施及び施設等の存在・供用）

環境影響評価の項目		調査及び予測の手法		選定の理由	
環境要素の区分	影響要因の区分				
動物（重要な種及び注目すべき生息地）	建設機械の稼働（騒音・振動） 雨水の排水（水の濁り） 敷地の存在（土地の改変） 機械等の稼働（照明の設置）	調査期間等	動物の生息の特性をふまえて調査地域における重要な種及び注目すべき生息地に係る環境影響を予測し及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる期間、時期及び時間帯とした。	(前表参照)	
			哺乳類		4季（春、夏、秋、冬）
			鳥類（一般鳥類）		4季（春、初夏、秋、冬）及びチゴモズ繁殖期（5月～7月の間で3回×各2日連続）
			鳥類（猛禽類）		6回（2月～8月の間で6回×各3日連続）及び巣立ち後（8月）
			両生類・爬虫類		4季（早春、初夏、夏、秋）
			昆虫類（クモ類含む）		5季（早春、春、初夏、夏、秋） ^{注)}
			陸産貝類		2季（初夏、秋）
			魚類		3季（春、夏、秋）
		底生動物	3季（夏、秋、冬）		
		予測の基本的手法	動物の重要な種及び注目すべき生息地について、分布又は生息環境の改変の程度をふまえた事例の引用又は解析による方法とした。		
予測地域	調査地域のうち、動物の生息の特性をふまえて重要な種及び注目すべき生息地に係る環境影響を受けるおそれがあると認められる地域とした。				
予測対象時期等	動物の生息の特性をふまえて重要な種及び注目すべき生息地に係る環境影響を的確に把握できる時期とした。				

注) 昆虫類の調査期間のうち、早春はギフチョウの確認に主眼を置いた調査を、初夏はホタル類の確認に主眼を置いた夜間調査を実施した。

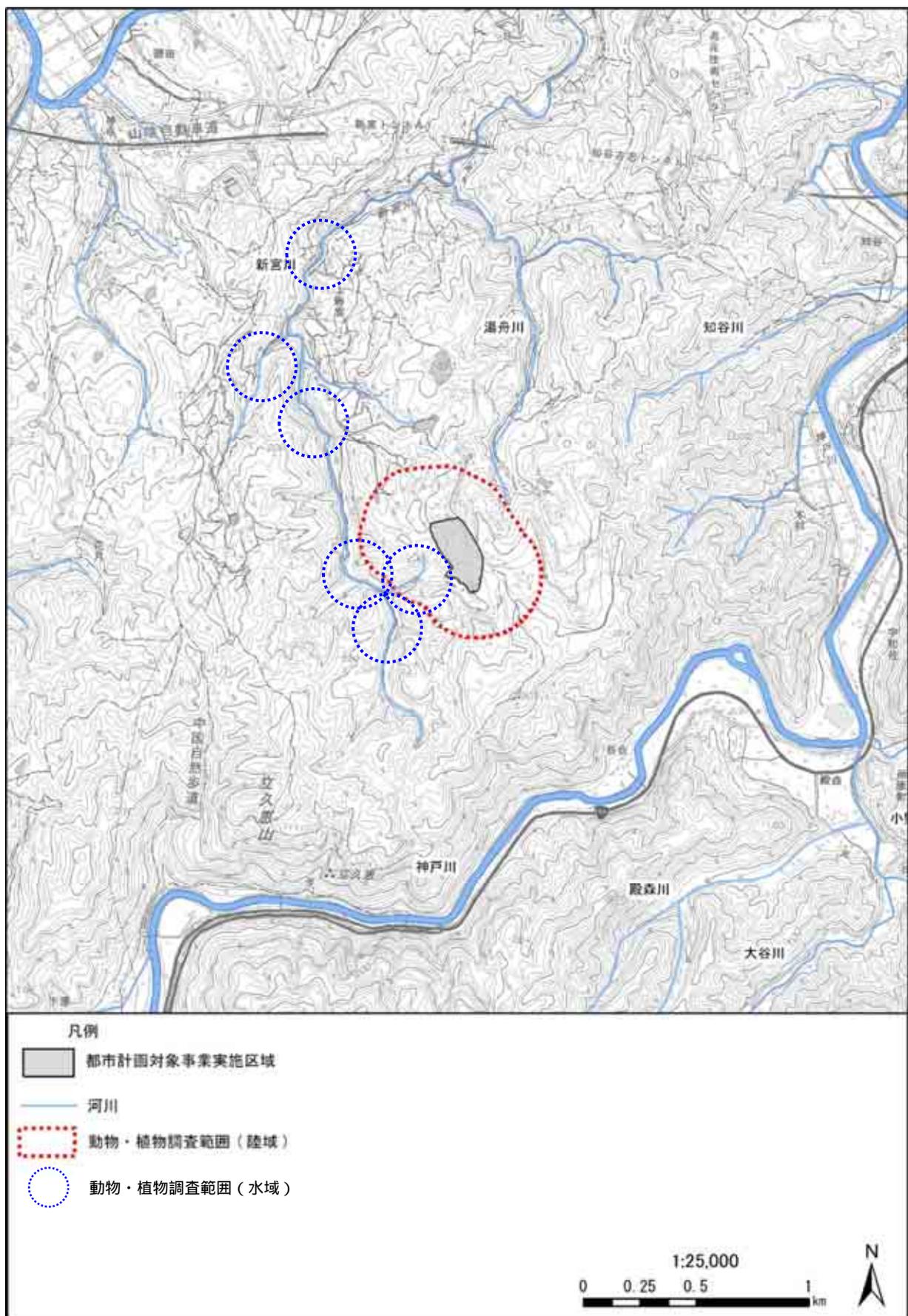


図 5.2-5 動物・植物現地調査範囲位置図

5.2.7 植物

植物に係る調査及び予測の手法並びにその選定理由については、表 5.2-31～表 5.2-32 に示すとおりである。

表 5.2-31 事業特性及び地域特性（植物：敷地の存在（土地の改変））

当該項目に関連する事業特性	当該項目に関連する地域特性
対象事業はごみ処理施設（敷地面積約 3.9ha、煙突高さ約 59m）を整備するものであり、都市計画対象事業実施区域において、施設等の存在により、敷地（土地）を改変する。	<ul style="list-style-type: none"> ・文献資料によると、出雲市では 134 科 573 種の植物種が確認されている。重要な種はミズウラボシやキンラン、スブタなど 107 種が確認されている。 ・都市計画対象事業実施区域及びその周囲の植生の状況は、大部分を占めている山地に森林植生が広く分布しており、主要な植生は、スギ・ヒノキ植林、コバノミツバツツジ・アカマツ群集、コナラ群落、シイ・カシ萌芽林などである。また、北部の神戸川、斐伊川周辺には水田地帯が広がっており、水田雑草群落のほか、ヨシクラス、ツルヨシ群集、河辺ヤナギ低木林などの河川植生がみられる。そのほか、住宅地の周辺には常緑果樹園、落葉果樹園、桑畑などの耕作地植生も多くみられる。

表 5.2-32 調査、予測手法等（植物：敷地の存在（土地の改変））

環境影響評価の項目		調査及び予測の手法		選定の理由		
環境要素の区分	影響要因の区分					
植物（重要な種及び群落）	敷地の存在（土地の改変）	調査すべき情報	1)植物相及び植生の状況 2)植物の重要な種及び群落の分布、生育の状況及び生育環境の状況		事業特性及び地域特性は一般的であり、土地の改変にあたっては一般的な工法を採用することを基本とすることから、県技術指針に示される参考手法及び技術手法に基づく手法を参考に選定した。	
		調査の基本的な手法	植物相	任意観察法		
			植生	航空写真判別、植物社会学的手法（コドラート調査）		
		調査地域	都市計画対象事業実施区域及びその周辺とし、図 5.2-5 に示す地域とした。			
		調査地点	植物の生育及び植生の特性をふまえて調査地域における重要な種及び群落に係る環境影響を予測し及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる地点又は経路とした。			
			植物相	都市計画対象事業実施区域周辺 200m の範囲		
		植生				
			調査期間等	植物の生育及び植生の特性をふまえて調査地域における重要な種及び群落に係る環境影響を予測し及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる期間、時期及び時間帯とした。		
		植物相	4 季（早春、春、夏、秋）			
		植生	1 季（初夏～初秋）			
予測の基本的な手法	植物の重要な種及び群落について、分布又は生育環境の改変の程度をふまえた事例の引用又は解析による方法とした。					
予測地域	調査地域のうち、植物の生育及び植生の特性をふまえて重要な種及び群落に係る環境影響を受けるおそれがあると認められる地域とした。					
予測対象時期等	植物の生育及び植生の特性をふまえて重要な種及び群落に係る環境影響を的確に把握できる時期とした。					

5.2.8 生態系

生態系に係る調査及び予測の手法並びにその選定理由については、表 5.2-33～表 5.2-34 に示すとおりである。

表 5.2-33 事業特性及び地域特性（生態系：工事の実施及び施設等の存在・供用）

当該項目に関連する事業特性	当該項目に関連する地域特性
対象事業はごみ処理施設（敷地面積約 3.9ha、煙突高さ約 59m）を整備するものである。工事の実施（造成工事・建設工事）により、都市計画対象事業実施区域において、建設機械が稼働するとともに、降雨時に雨水が下流河川に流出する。また、施設の存在・供用により、敷地（土地）を改変し、照明施設を設置する。	・都市計画対象事業実施区域及びその周囲は、「山地・丘陵地の代償植生」、「山地・丘陵地の植林」、「低地の平野部（耕作地及び市街地・その他）」、「低地の河川（自然草地・河畔林及び開放水域）」に類型区分される。

表 5.2-34 調査、予測手法等（生態系：工事の実施及び施設等の存在・供用）

環境影響評価の項目		調査及び予測の手法		選定の理由	
環境要素の区分	影響要因の区分				
生態系（地域を特徴づける生態系）	建設機械の稼働（騒音・振動） 雨水の排水（水の濁り） 敷地の存在（土地の改変） 機械等の稼働（照明の設置）	調査すべき情報	1)動植物その他の自然環境に係る概況 2)複数の注目種等の生態、他の動植物との関係又は生息環境若しくは生育環境の状況	事業特性及び地域特性は一般的であり、土地の改変にあたっては一般的な工法を採用することから、県技術指針に示される参考手法及び技術手法に基づく手法を参考に選定した。	
		調査の基本的な手法	現地調査又は文献その他の資料による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とし、現地調査については「動物」「植物」に合わせて実施した。 また、ホタル類補足調査として、以下の調査を実施した。 ・「古志ほたる祭り」の実施状況調査 ・3種のホタル（ゲンジボタル、ヘイケボタル、ヒメボタル）発生状況調査（夜間任意調査） ・ゲンジボタル餌生物（カワニナ）分布調査		
		調査地域	都市計画対象事業実施区域及びその周辺とし、「動物」「植物」と同様とした。		
		調査地点	動植物その他の自然環境の特性及び注目種等の特性をふまえて調査地域における注目種等に係る環境影響を予測し及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる地点又は経路とし、「動物」「植物」と同様とした。		
		調査期間等	動植物その他の自然環境の特性及び注目種等の特性をふまえて調査地域における注目種等に係る環境影響を予測し及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる期間、時期及び時間帯とし、「動物」「植物」と同様とした。 その他、ホタル類補足調査として、以下の時期に調査を実施した。		
			「古志ほたる祭り」の実施状況調査		「古志ほたる祭り」開催日（6月）
			3種のホタル発生状況調査 ゲンジボタル餌生物分布調査		3種のホタルの確認適期（6月に3回） ゲンジボタル蛹化前の時季（5月）
		予測の基本的な手法	注目種等について、分布、生息環境又は生育環境の改変の程度をふまえた事例の引用又は解析による方法とした。		
		予測地域	調査地域のうち、動植物その他の自然環境の特性及び注目種等の特性をふまえて注目種等に係る環境影響を受けるおそれがあると認められる地域とした。		
		予測対象時期等	動植物その他の自然環境の特性及び注目種等の特性をふまえて注目種等に係る環境影響を的確に把握できる時期とした。		

5.2.9 景観

景観に係る調査及び予測の手法並びにその選定理由については、表 5.2-35～表 5.2-36 に示すとおりである。

表 5.2-35 事業特性及び地域特性（景観：敷地の存在（土地の改変）、構造物の存在）

当該項目に関連する事業特性	当該項目に関連する地域特性
対象事業はごみ処理施設（敷地面積約 3.9ha、煙突高さ約 59m）を整備するものであり、都市計画対象事業実施区域において、敷地（土地）を改変し、施設構造物を建設する。	<ul style="list-style-type: none"> ・都市計画対象事業実施区域及びその周囲における主要な眺望点は、朝山森林公園展望台等 9 地点がある。 ・国指定名勝・天然記念物など自然的構成要素として位置づけられる主な景観資源は、「立久恵」など 5 地点が分布している。

表 5.2-36 調査、予測手法等（景観：敷地の存在（土地の改変）、構造物の存在）

環境影響評価の項目	調査及び予測の手法		選定の理由
環境要素の区分	影響要因の区分		
景観（主要な眺望点及び景観資源並びに主要な眺望景観）	敷地の存在（土地の改変）、構造物の存在	調査すべき情報 1) 主要な眺望点の状況 2) 景観資源の状況 3) 主要な眺望景観の状況	事業特性及び地域特性は一般的であり、土地の改変にあたっては一般的な工法を採用すること、構造物については一般的な構造を採用することを基本とすることから、県技術指針に示される参考手法及び技術手法に基づく手法を参考に選定した。
	調査の基本的な手法	現地踏査及び景観写真撮影等による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とした。	
	調査地域	都市計画対象事業実施区域及びその端部から約 3km 程度の範囲とし、図 5.2-6 に示す地域とした。	
	調査地点	景観の特性をふまえて調査地域における主要な眺望点及び景観資源並びに主要な眺望景観に係る環境影響を予測し及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる地点とした。 なお、主要な眺望景観については、3 地点（視認可能な主要眺望点）を基本に調査した。 このほか、都市計画対象事業実施区域近傍の集落地区内の代表地点についても、視認性の確認等を行った。	
	調査期間等	景観の特性をふまえて調査地域における主要な眺望点及び景観資源並びに主要な眺望景観に係る環境影響を予測し及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる期間、時期及び時間帯とした。 なお、主要な眺望景観については、4 季（春夏秋冬）を対象に調査した。	
	予測の基本的な手法	主要な眺望点及び景観資源についての分布の改変の程度をふまえた事例の引用又は解析並びに主要な眺望景観についての完成予想図、フォトモンタージュ法その他の視覚的な表現方法により予測するものとした。	
	予測地域	調査地域のうち、景観の特性をふまえて主要な眺望点及び景観資源並びに主要な眺望景観に係る環境影響を受けるおそれがあると認められる地域とした。	
予測対象時期等	景観の特性をふまえて主要な眺望点及び景観資源並びに主要な眺望景観に係る環境影響を的確に把握できる時期とした。		

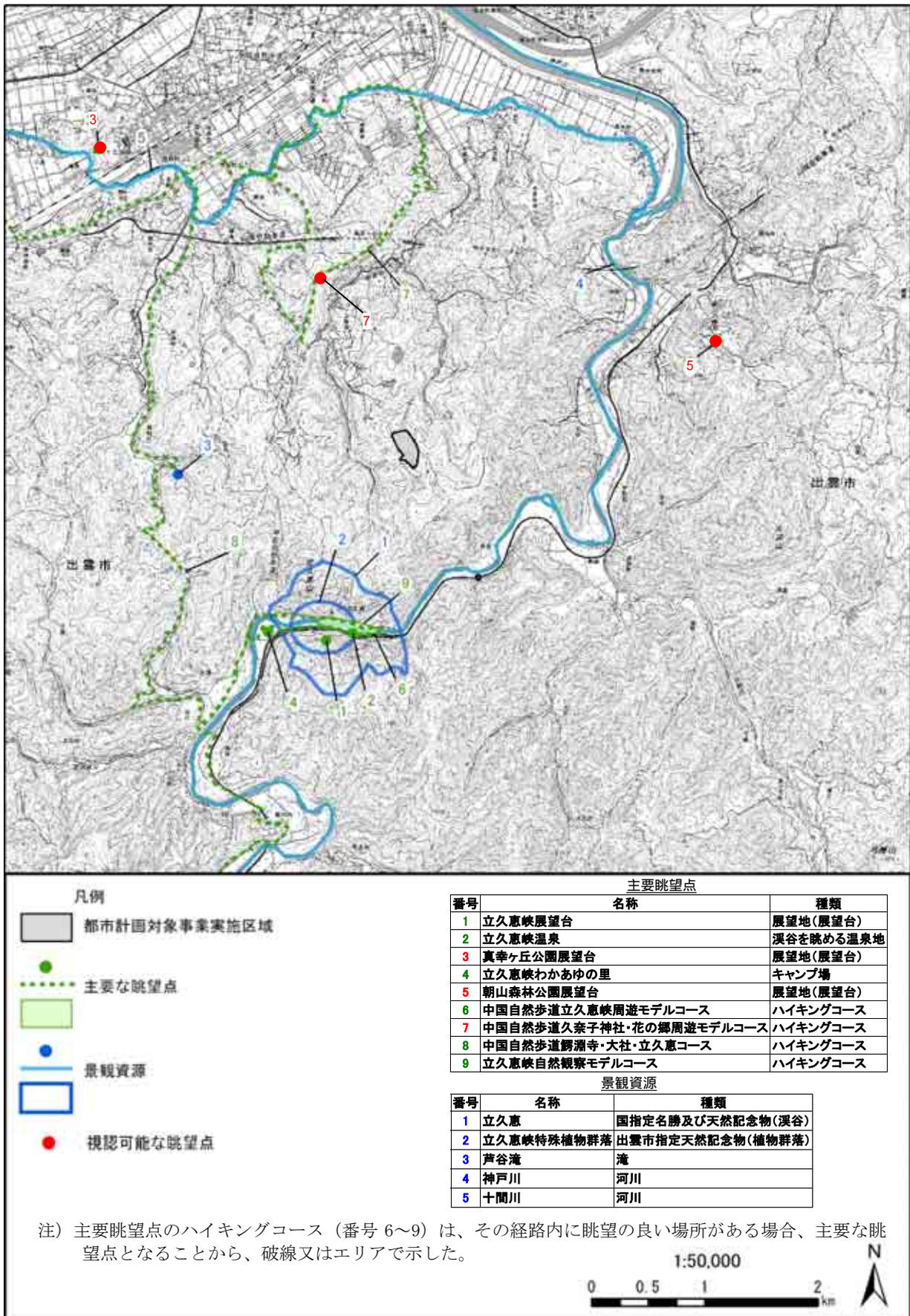


図 5.2-6 景観現地調査地点位置図

5.2.10 廃棄物等

廃棄物等に係る調査及び予測の手法並びにその選定理由については、表 5.2-37～表 5.2-38 に示すとおりである。

表 5.2-37 事業特性及び地域特性

(廃棄物等(建設工事に伴う副産物)：建設機械の稼働、廃棄物等(一般廃棄物)：廃棄物の発生)

当該項目に関連する事業特性	当該項目に関連する地域特性
対象事業はごみ処理施設(敷地面積約 3.9ha、処理能力約 200 トン/日)を整備するものであり、工事の実施(造成工事・建設工事)により、都市計画対象事業実施区域において、建設副産物が発生する。また、施設の供用により、ごみ処理後の廃棄物(残渣等)が発生する。	島根県では、「島根県特定建設資材に係る分別解体等及び特定建設資材廃棄物の再資源化等の促進等の実施に関する指針」が策定されており、平成 22 年度を目途に再資源化率 95%を目指すこととされている。

表 5.2-38 調査、予測手法等

(廃棄物等(建設工事に伴う副産物)：建設機械の稼働、廃棄物等(一般廃棄物)：廃棄物の発生)

環境影響評価の項目		調査及び予測の手法		選定の理由
環境要素の区分	影響要因の区分			
廃棄物等	建設機械の稼働、廃棄物の発生	調査すべき情報	1)発生する廃棄物等の種類及びその量	事業特性及び地域特性は一般的であり、ごみの焼却に伴い発生する廃棄物は一般的であること、工事の実施にあたっては一般的な工法を採用することを基本とすることから、県技術指針に示される参考手法及び技術手法に基づく手法を参考に選定した。
		調査の基本的な手法	既存資料の整理及び事業計画に基づき、発生が見込まれる建設副産物(建設発生土や建設発生木材等)の種類及び発生量、施設稼働後に発生する焼却残渣等の発生量を推定する方法とした。	
		調査地域	都市計画対象事業実施区域の範囲を基本とした。	
		予測の基本的な手法	廃棄物等の種類ごとの発生量及び処理・処分の計画をふまえて、廃棄物等の発生に伴う影響の程度について、定性的に予測する方法とした。	
		予測地域	都市計画対象事業実施区域の範囲を基本とした。	
	予測対象時期等	造成等の工事を実施する時期及び施設の稼働が見込まれる時期とした。		

5.2.11 温室効果ガス等

温室効果ガス等に係る調査及び予測の手法並びにその選定理由については、表 5.2-39～表 5.2-40 に示すとおりである。

表 5.2-39 事業特性及び地域特性（温室効果ガス等：施設の稼働（排ガス））

当該項目に関連する事業特性	当該項目に関連する地域特性
対象事業はごみ処理施設（処理能力約 200 トン/日、煙突高さ約 59m）を整備するものであり、施設の供用により、煙突排出ガスを排出し、機械等が稼働し、廃棄物運搬車両が運行する。	出雲市では、「第 2 次出雲市環境基本計画」（平成 25 年 3 月）を策定している。計画期間は平成 25 年度～平成 34 年度の 10 年間で、計画の対象として、地球環境（地球温暖化など）が挙げられている。

表 5.2-40 調査、予測手法等（温室効果ガス等：施設の稼働（排ガス））

環境影響評価の項目		調査及び予測の手法		選定の理由
環境要素の区分	影響要因の区分			
温室効果ガス等	施設の稼働（排ガス、機械等の稼働）廃棄物の搬入等	調査すべき情報	1)発生する温室効果ガス等の種類及びその量	事業特性及び地域特性は一般的であり、一般的な焼却方式を採用することを基本とすることから、県技術指針に示される参考手法及び類似事例等を参考に選定した。
		調査の基本的な手法	既存資料の整理及び事業計画に基づき、発生が見込まれる温室効果ガス等の種類及び発生量等を推定する方法とした。	
		調査地域	温室効果ガス等の拡散の特性をふまえて温室効果ガス等に係る環境影響を受けるおそれがあると認められる地域とした。	
		予測の基本的な手法	施設の稼働に伴い発生する温室効果ガス等の排出量について、「温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル」（環境省、経済産業省）等に基づき試算する方法を基本とした。	
		予測地域	調査地域のうち、温室効果ガス等の拡散の特性をふまえて温室効果ガス等に係る環境影響を受けるおそれがあると認められる地域とした。	
	予測対象時期等	施設の稼働が見込まれる時期とした。		

5.3 評価手法の選定

調査及び予測の結果並びに環境保全措置の検討結果をふまえ、都市計画対象事業の実施により選定項目に係る環境要素に及ぶおそれがある影響が、事業者により実行可能な範囲内のできる限り回避され、又は低減されており、必要に応じその他の方法により環境の保全についての配慮が適正になされているかどうかを評価した。

また、国又は関係する地方公共団体が実施する環境の保全に関する施策によって、選定項目に係る環境要素に関して基準又は目標が示されている場合には、当該基準又は目標と調査及び予測の結果との間に整合性が図られているかどうかの評価も行った。

環境要素ごとに選定した評価の手法は、表 5.3-1 に示すとおりである。

表 5.3-1(1) 評価の手法

環境影響評価の項目		評価の手法
環境要素の区分	影響要因の区分	
大気質 (粉じん等)	建設機械の稼働	<p><回避・低減に係る評価> 調査及び予測の結果をふまえ、都市計画対象事業の実施により建設機械の稼働に係る大気質に及ぶおそれがある影響が、事業者により実行可能な範囲内のできる限り回避又は低減されているかどうかを評価した。</p> <p><基準又は目標との整合に係る評価> 建設機械の稼働に係る大気質に関する基準又は目標として、「スパイクタイヤ粉じんにおける生活環境の保全が必要な地域の指標」と調査及び予測の結果との間に整合性が図られているかどうかを評価した。</p>
大気質 (窒素酸化物、浮遊粒子状物質、粉じん等)	資材及び機械の運搬用車両の運行	<p><回避・低減に係る評価> 調査及び予測の結果をふまえ、都市計画対象事業の実施により資材等運搬車両の運行に係る大気質に及ぶおそれがある影響が、事業者により実行可能な範囲内のできる限り回避又は低減されているかどうかを評価した。</p> <p><基準又は目標との整合に係る評価> 資材等運搬車両の運行に係る大気質に関する基準又は目標として、「大気の汚染に係る環境基準」及び「スパイクタイヤ粉じんにおける生活環境の保全が必要な地域の指標を参考として設定された降下ばいじんの参考値」等と調査及び予測の結果との間に整合性が図られているかどうかを評価した。</p>
大気質 (窒素酸化物、硫酸化物、浮遊粒子状物質、有害物質)	施設の稼働(排ガス)	<p><回避・低減に係る評価> 調査及び予測の結果をふまえ、都市計画対象事業の実施により施設の稼働(排ガス)に係る大気質に及ぶおそれがある影響が、事業者により実行可能な範囲内のできる限り回避又は低減されているかどうかを評価した。</p> <p><基準又は目標との整合に係る評価> 施設の稼働(排ガス)に係る大気質に関する基準又は目標として、「大気の汚染に係る環境基準」等と調査及び予測の結果との間に整合性が図られているかどうかを評価した。</p>
大気質 (窒素酸化物、浮遊粒子状物質)	廃棄物の搬入等	<p><回避・低減に係る評価> 調査及び予測の結果をふまえ、都市計画対象事業の実施により廃棄物の搬入等に係る大気質に及ぶおそれがある影響が、事業者により実行可能な範囲内のできる限り回避又は低減されているかどうかを評価した。</p> <p><基準又は目標との整合に係る評価> 廃棄物の搬入等に係る大気質に関する基準又は目標として、「大気の汚染に係る環境基準」等と調査及び予測の結果との間に整合性が図られているかどうかを評価した。</p>

表 5.3-1(2) 評価の手法

環境影響評価の項目		評価の手法
環境要素の区分	影響要因の区分	
騒音	建設機械の稼働	<p><回避・低減に係る評価> 調査及び予測の結果をふまえ、都市計画対象事業の実施により建設機械の稼働に係る騒音に及ぶおそれがある影響が、事業者により実行可能な範囲内でできる限り回避又は低減されているかどうかを評価した。</p> <p><基準又は目標との整合に係る評価> 建設機械の稼働に係る騒音に関する基準又は目標として、「特定建設作業に伴って発生する騒音の規制に関する基準」及び「騒音に係る環境基準」等と調査及び予測の結果との間に整合性が図られているかどうかを評価した。</p>
	資材及び機械の運搬に用いる車両の運行	<p><回避・低減に係る評価> 調査及び予測の結果をふまえ、都市計画対象事業の実施により資材等運搬車両の運行に係る騒音に及ぶおそれがある影響が、事業者により実行可能な範囲内でできる限り回避又は低減されているかどうかを評価した。</p> <p><基準又は目標との整合に係る評価> 資材等運搬車両の運行に係る騒音に関する基準又は目標として、「騒音に係る環境基準」等と調査及び予測の結果との間に整合性が図られているかどうかを評価した。</p>
	施設の稼働（機械等の稼働）	<p><回避・低減に係る評価> 調査及び予測の結果をふまえ、都市計画対象事業の実施により施設の稼働（機械等の稼働）に係る騒音に及ぶおそれがある影響が、事業者により実行可能な範囲内でできる限り回避又は低減されているかどうかを評価した。</p> <p><基準又は目標との整合に係る評価> 施設の稼働（機械等の稼働）に係る騒音に関する基準又は目標として、「特定工場等において発生する騒音の規制に関する基準」及び「騒音に係る環境基準」等と調査及び予測の結果との間に整合性が図られているかどうかを評価した。</p>
	廃棄物の搬入等	<p><回避・低減に係る評価> 調査及び予測の結果をふまえ、都市計画対象事業の実施により廃棄物の搬入等に係る騒音に及ぶおそれがある影響が、事業者により実行可能な範囲内でできる限り回避又は低減されているかどうかを評価した。</p> <p><基準又は目標との整合に係る評価> 廃棄物の搬入等に係る騒音に関する基準又は目標として、「騒音に係る環境基準」等と調査及び予測の結果との間に整合性が図られているかどうかを評価した。</p>
振動	建設機械の稼働	<p><回避・低減に係る評価> 調査及び予測の結果をふまえ、都市計画対象事業の実施により建設機械の稼働に係る振動に及ぶおそれがある影響が、事業者により実行可能な範囲内でできる限り回避又は低減されているかどうかを評価した。</p> <p><基準又は目標との整合に係る評価> 建設機械の稼働に係る振動に関する基準又は目標として、「振動規制法施行規則に規定される特定建設作業の規制に関する基準」等と調査及び予測の結果との間に整合性が図られているかどうかを評価した。</p>
	資材及び機械の運搬に用いる車両の運行	<p><回避・低減に係る評価> 調査及び予測の結果をふまえ、都市計画対象事業の実施により資材等運搬車両の運行に係る振動に及ぶおそれがある影響が、事業者により実行可能な範囲内でできる限り回避又は低減されているかどうかを評価した。</p> <p><基準又は目標との整合に係る評価> 資材等運搬車両の運行に係る振動に関する基準又は目標として、「振動規制法施行規則に規定される道路交通振動の限度」等と調査及び予測の結果との間に整合性が図られているかどうかを評価した。</p>
	施設の稼働（機械等の稼働）	<p><回避・低減に係る評価> 調査及び予測の結果をふまえ、都市計画対象事業の実施により施設の稼働（機械等の稼働）に係る振動に及ぶおそれがある影響が、事業者により実行可能な範囲内でできる限り回避又は低減されているかどうかを評価した。</p> <p><基準又は目標との整合に係る評価> 施設の稼働（機械等の稼働）に係る振動に関する基準又は目標として、「特定工場等において発生する振動の規制に関する基準」等と調査及び予測の結果との間に整合性が図られているかどうかを評価した。</p>
	廃棄物の搬入等	<p><回避・低減に係る評価> 調査及び予測の結果をふまえ、都市計画対象事業の実施により廃棄物の搬入等に係る振動に及ぶおそれがある影響が、事業者により実行可能な範囲内でできる限り回避又は低減されているかどうかを評価した。</p> <p><基準又は目標との整合に係る評価> 廃棄物の搬入等に係る振動に関する基準又は目標として、「振動規制法施行規則に規定される道路交通振動の限度」等と調査及び予測の結果との間に整合性が図られているかどうかを評価した。</p>

表 5.3-1(3) 評価の手法

環境影響評価の項目		評価の手法
環境要素の区分	影響要因の区分	
悪臭	施設の稼働（排ガス、機械等の稼働）	<p><回避・低減に係る評価> 調査及び予測の結果をふまえ、都市計画対象事業の実施により施設の稼働（排ガス、機械等の稼働）に係る悪臭に及ぶおそれがある影響が、事業者により実行可能な範囲内でできる限り回避又は低減されているかどうかを評価した。</p> <p><基準又は目標との整合に係る評価> 施設の稼働（排ガス、機械等の稼働）に係る悪臭に関する基準又は目標として、「悪臭防止法に基づく規制基準」等と調査及び予測の結果との間に整合性が図られているかどうかを評価した。</p>
水質（水の濁り）	雨水の排水	<p><回避・低減に係る評価> 調査及び予測の結果をふまえ、都市計画対象事業の実施により雨水の排水に係る水質に及ぶおそれがある影響が、事業者により実行可能な範囲内でできる限り回避又は低減されているかどうかを評価した。</p> <p><基準又は目標との整合に係る評価> 雨水の排水に係る水質に関する基準又は目標として、「水質汚濁に係る環境基準」等と調査及び予測の結果との間に整合性が図られているかどうかを評価した。</p>
動物（重要な種及び注目すべき生息地）	建設機械の稼働（騒音・振動） 雨水の排水（水の濁り） 敷地の存在（土地の改変） 機械等の稼働（照明の設置）	<p><回避・低減に係る評価> 調査及び予測の結果をふまえ、都市計画対象事業の実施により工事の実施（建設機械の稼働（騒音・振動）・雨水の排水（水の濁り））及び施設等の存在・供用（敷地の存在（土地の改変）、機械等の稼働（照明の設置））に係る動物に及ぶおそれがある影響が、事業者により実行可能な範囲内でできる限り回避又は低減されているかどうかを評価した。</p>
植物（重要な種及び群落）	敷地の存在（土地の改変）	<p><回避・低減に係る評価> 調査及び予測の結果をふまえ、都市計画対象事業の実施により敷地の存在（土地の改変）に係る植物に及ぶおそれがある影響が、事業者により実行可能な範囲内でできる限り回避又は低減されているかどうかを評価した。</p>
生態系（地域を特徴づける生態系）	建設機械の稼働（騒音・振動） 雨水の排水（水の濁り） 敷地の存在（土地の改変） 機械等の稼働（照明の設置）	<p><回避・低減に係る評価> 調査及び予測の結果をふまえ、都市計画対象事業の実施により工事の実施（建設機械の稼働（騒音・振動）・雨水の排水（水の濁り））及び施設等の存在・供用（敷地の存在（土地の改変）、機械等の稼働（照明の設置））に係る生態系に及ぶおそれがある影響が、事業者により実行可能な範囲内でできる限り回避又は低減されているかどうかを評価した。</p>
景観（主要な眺望点及び景観資源並びに主要な眺望景観）	敷地の存在（土地の改変） 構造物の存在	<p><回避・低減に係る評価> 調査及び予測の結果をふまえ、都市計画対象事業の実施により敷地の存在（土地の改変）、構造物の存在に係る景観に及ぶおそれがある影響が、事業者により実行可能な範囲内でできる限り回避又は低減されているかどうかを評価した。</p>
廃棄物等	建設機械の稼働、廃棄物の発生	<p><回避・低減に係る評価> 調査及び予測の結果をふまえ、都市計画対象事業の実施により廃棄物の発生に伴う影響が、事業者により実行可能な範囲内でできる限り回避又は低減されているかどうかを評価した。</p>
温室効果ガス等	施設の稼働（排ガス、機械等の稼働） 廃棄物の搬入等	<p><回避・低減に係る評価> 調査及び予測の結果をふまえ、都市計画対象事業の実施により施設の稼働（排ガス）に係る温室効果ガスに及ぶおそれがある影響が、事業者により実行可能な範囲内でできる限り回避又は低減されているかどうかを評価した。</p>

第6章 環境影響の結果及び環境保全措置等の概要

各環境影響評価項目についての調査、予測及び評価の結果、及び環境保全措置、事後調査の概要は、表 6-1～表 6-16 に示すとおりである。

表 6-1 環境影響評価の一覧

環境要素の区分	項目		調査結果	予測結果	環境保全措置	評価結果	事後調査																																																																																																														
	環境要素の区分	影響要因の区分																																																																																																																			
大気質	大気質(粉じん等)	建設機械の稼働	<p>現地調査結果</p> <p>・気象 <地上気象> 各季節における風速の期間平均は1.5～2.2m/s、日平均値の最高値は2.9～5.6m/s、静穏率は3.1～7.5%、日射量の期間平均は0.08～0.24kW/m²、放射収支量の期間平均は0.017～0.109kW/m²、気温の期間平均は5.4～24.0℃、湿度の期間平均は63～77%であった。 風向は、年間を通して西南西の風向が卓越する結果であった。</p> <p><上層気象> 風向の鉛直分布は、秋季は昼夜共に高度50m～1000m付近にかけて北東～東南東の風が多くみられ、それより上層では南南西～西南西の風が観測された。 冬季は夜間の高度50m、150mでは南南西の風が多くみられ、それ以外の高度では西～北北西の風が観測された。昼間は西～北西の風が多く観測された。 春季は夜間の高度50m、150mでは南南西の風が多くみられ、それ以外の高度では西～北北西の風が多く観測された。昼間は西～北西の風が多く観測された。 夏季は昼間の高度50m～600m付近にかけて北東～東北東の風が多く見られ、それより上層では南東～南南東の風が観測された。夜間は東～南南東の風が多く観測された。</p> <p>・大気質 <四季調査> 調査期間中の季節別の期間平均値は、二酸化窒素が0.001～0.002ppm、二酸化硫黄が0.001～0.003ppm、浮遊粒子状物質が0.006～0.022mg/m³であり、全ての項目・期間・地点において環境基準値以下であった。 降下ばいじんは2.54～2.66t/km²/月であり、全ての期間において指標値以下であった。 塩化水素は全て定量下限値未満であり全ての期間・地点において目標環境濃度以下であった。 ダイオキシン類は0.0058～0.13pg-TEQ/m³であり、全ての期間・地点において環境基準値以下であった。 水銀は全て定量下限値未満であり、全ての期間・地点において指標値以下であった。</p>	<p>粉じん等の寄与分は、施工範囲からの距離により急激に減衰し、予測地点である最寄住居付近では最大で0.18t/km²/月となった。</p> <p><建設機械の稼働に伴う粉じん等の予測結果> [単位：t/km²/月]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">年次</th> <th rowspan="2">時期</th> <th colspan="3">予測地点(st.1最寄住居付近)</th> </tr> <tr> <th>寄与分</th> <th>バックグラウンド^(注)</th> <th>予測結果</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">平成31年度</td> <td>春季</td> <td>0.03</td> <td>2.54</td> <td>2.57</td> </tr> <tr> <td>夏季</td> <td>0.06</td> <td>2.66</td> <td>2.72</td> </tr> <tr> <td>秋季</td> <td>0.18</td> <td>2.54</td> <td>2.72</td> </tr> <tr> <td>冬季</td> <td>0.05</td> <td>2.56</td> <td>2.61</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) バックグラウンドは、予測地点における季節別の現況調査結果とした。</p>	年次	時期	予測地点(st.1最寄住居付近)			寄与分	バックグラウンド ^(注)	予測結果	平成31年度	春季	0.03	2.54	2.57	夏季	0.06	2.66	2.72	秋季	0.18	2.54	2.72	冬季	0.05	2.56	2.61	<p>環境保全措置の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・散水の実施：強風時や乾燥時等の砂じんの発生しやすい気象条件においては、必要に応じ、適時散水する。 ・建設機械の集中稼働の回避：可能な限り建設機械の稼働が集中することがないように、使用時期や配置の分散にも努める。 ・防音シート等の設置：可能な限り防音シートや仮囲いを設置する。 	<p>回避・低減に係る評価</p> <p>調査及び予測の結果、並びに環境保全措置の検討結果をふまえると、建設機械の稼働に伴う粉じん等の影響は、左記の環境保全措置を講じることにより、事業者の実行可能な範囲内で回避又は低減が図られているものと評価した。</p> <p>基準又は目標との整合に係る評価</p> <p>建設機械の稼働に伴う粉じん等の評価結果は下記に示すとおりであり、環境の保全に係る基準又は目標との整合性が図られているものと評価した。</p> <p><建設機械の稼働に伴う粉じん等の評価結果> [単位：t/km²/月]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">年次</th> <th rowspan="2">時期</th> <th colspan="3">予測地点(st.1最寄住居付近)</th> <th rowspan="2">環境保全目標値</th> </tr> <tr> <th>寄与分</th> <th>バックグラウンド^(注)</th> <th>予測結果</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">平成31年度</td> <td>春季</td> <td>0.03</td> <td>2.54</td> <td>2.57</td> <td rowspan="4">20以下</td> </tr> <tr> <td>夏季</td> <td>0.06</td> <td>2.66</td> <td>2.72</td> </tr> <tr> <td>秋季</td> <td>0.18</td> <td>2.54</td> <td>2.72</td> </tr> <tr> <td>冬季</td> <td>0.05</td> <td>2.56</td> <td>2.61</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) バックグラウンドは、予測地点における季節別の現況調査結果とした。</p>	年次	時期	予測地点(st.1最寄住居付近)			環境保全目標値	寄与分	バックグラウンド ^(注)	予測結果	平成31年度	春季	0.03	2.54	2.57	20以下	夏季	0.06	2.66	2.72	秋季	0.18	2.54	2.72	冬季	0.05	2.56	2.61	<p>採用した予測手法は、その予測精度に係る知見が十分に蓄積されているものであり、予測の不確実性は小さい。また、採用する環境保全措置の効果にも不確実性は小さいと考えられることから、事後調査は実施しない。</p>																																																										
		年次	時期	予測地点(st.1最寄住居付近)																																																																																																																	
寄与分	バックグラウンド ^(注)			予測結果																																																																																																																	
平成31年度	春季	0.03	2.54	2.57																																																																																																																	
	夏季	0.06	2.66	2.72																																																																																																																	
	秋季	0.18	2.54	2.72																																																																																																																	
	冬季	0.05	2.56	2.61																																																																																																																	
年次	時期	予測地点(st.1最寄住居付近)			環境保全目標値																																																																																																																
		寄与分	バックグラウンド ^(注)	予測結果																																																																																																																	
平成31年度	春季	0.03	2.54	2.57	20以下																																																																																																																
	夏季	0.06	2.66	2.72																																																																																																																	
	秋季	0.18	2.54	2.72																																																																																																																	
	冬季	0.05	2.56	2.61																																																																																																																	
大気質(窒素酸化物、浮遊粒子状物質)	資材及び機械の運搬に用いる車両の運行	<p>資材等運搬車両の運行に係る寄与濃度の年平均値は二酸化窒素が0.0001～0.0002ppm、浮遊粒子状物質が0.000003～0.000006mg/m³となった。また、バックグラウンド濃度を含めた予測結果(年平均値)は、二酸化窒素が0.002ppm、浮遊粒子状物質が0.015mg/m³となった。</p> <p><資材等運搬車両の運行に伴う二酸化窒素の予測結果> [単位：ppm]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">予測地点</th> <th colspan="2">寄与濃度</th> <th rowspan="2">バックグラウンド濃度</th> <th rowspan="2">予測結果(年平均値)</th> </tr> <tr> <th>基礎交通量</th> <th>資材等運搬車両</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>上新宮</td> <td>古志104号線</td> <td>0.0000</td> <td>0.0001</td> <td rowspan="3">0.002</td> </tr> <tr> <td>下新宮</td> <td>新宮大谷線</td> <td>0.0003</td> <td>0.0001</td> </tr> <tr> <td>古志町地内</td> <td>古志82号線</td> <td>0.0003</td> <td>0.0002</td> </tr> </tbody> </table> <p><資材等運搬車両の運行に伴う浮遊粒子状物質の予測結果> [単位：mg/m³]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">予測地点</th> <th colspan="2">寄与濃度</th> <th rowspan="2">バックグラウンド濃度</th> <th rowspan="2">予測結果(年平均値)</th> </tr> <tr> <th>基礎交通量</th> <th>資材等運搬車両</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>上新宮</td> <td>古志104号線</td> <td>0.000000</td> <td>0.000004</td> <td rowspan="3">0.015</td> </tr> <tr> <td>下新宮</td> <td>新宮大谷線</td> <td>0.000010</td> <td>0.000003</td> </tr> <tr> <td>古志町地内</td> <td>古志82号線</td> <td>0.000010</td> <td>0.000006</td> </tr> </tbody> </table> <p><資材等運搬車両の運行に伴う浮遊粒子状物質の評価結果> [単位：mg/m³]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">予測地点</th> <th colspan="2">寄与濃度</th> <th rowspan="2">バックグラウンド濃度</th> <th rowspan="2">予測結果(年平均値)</th> <th rowspan="2">日平均値の年間98%値</th> <th rowspan="2">環境保全目標値</th> </tr> <tr> <th>基礎交通量</th> <th>資材等運搬車両</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>上新宮</td> <td>古志104号線</td> <td>0.000000</td> <td>0.000004</td> <td rowspan="3">0.015</td> <td rowspan="3">0.039</td> <td rowspan="3">0.10以下</td> </tr> <tr> <td>下新宮</td> <td>新宮大谷線</td> <td>0.000010</td> <td>0.000003</td> </tr> <tr> <td>古志町地内</td> <td>古志82号線</td> <td>0.000010</td> <td>0.000006</td> </tr> </tbody> </table>	予測地点	寄与濃度		バックグラウンド濃度	予測結果(年平均値)	基礎交通量	資材等運搬車両	上新宮	古志104号線	0.0000	0.0001	0.002	下新宮	新宮大谷線	0.0003	0.0001	古志町地内	古志82号線	0.0003	0.0002	予測地点	寄与濃度		バックグラウンド濃度	予測結果(年平均値)	基礎交通量	資材等運搬車両	上新宮	古志104号線	0.000000	0.000004	0.015	下新宮	新宮大谷線	0.000010	0.000003	古志町地内	古志82号線	0.000010	0.000006	予測地点	寄与濃度		バックグラウンド濃度	予測結果(年平均値)	日平均値の年間98%値	環境保全目標値	基礎交通量	資材等運搬車両	上新宮	古志104号線	0.000000	0.000004	0.015	0.039	0.10以下	下新宮	新宮大谷線	0.000010	0.000003	古志町地内	古志82号線	0.000010	0.000006	<p>環境保全措置の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運搬車両台数の低減：土地の改変に伴う発生土砂は、極力、都市計画対象事業実施区域内で再利用するとともに、近傍の他事業において有効利用し、周辺道路を走行する工事用車両の台数を減らす。 ・車両の維持管理：車両の維持管理を徹底し、車両排ガス等を適正に保つ。 ・運行時間の分散：沿道の通行時間帯の分散に努める。 ・運転手の教育・指導：積載量や走行速度等の交通法規を遵守し、アイドリングストップの励行や空ぶかしを行わない等、運転手の教育・指導を徹底する。 	<p>回避・低減に係る評価</p> <p>調査及び予測の結果、並びに環境保全措置の検討結果をふまえると、資材等運搬車両の運行に伴う大気質への影響は、左記の環境保全措置を講じることにより、事業者の実行可能な範囲内で回避又は低減が図られているものと評価した。</p> <p>基準又は目標との整合に係る評価</p> <p>資材等運搬車両の運行に伴う二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の評価結果は下記に示すとおりであり、環境の保全に係る基準又は目標との整合性が図られているものと評価した。</p> <p><資材等運搬車両の運行に伴う二酸化窒素の評価結果> [単位：ppm]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">予測地点</th> <th colspan="2">寄与濃度</th> <th rowspan="2">バックグラウンド濃度</th> <th rowspan="2">予測結果(年平均値)</th> <th rowspan="2">日平均値の年間98%値</th> <th rowspan="2">環境保全目標値</th> </tr> <tr> <th>基礎交通量</th> <th>資材等運搬車両</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>上新宮</td> <td>古志104号線</td> <td>0.0000</td> <td>0.0001</td> <td rowspan="3">0.002</td> <td rowspan="3">0.011</td> <td rowspan="3">0.04～0.06のゾーン内又はそれ以下</td> </tr> <tr> <td>下新宮</td> <td>新宮大谷線</td> <td>0.0003</td> <td>0.0001</td> </tr> <tr> <td>古志町地内</td> <td>古志82号線</td> <td>0.0003</td> <td>0.0002</td> </tr> </tbody> </table> <p><資材等運搬車両の運行に伴う浮遊粒子状物質の評価結果> [単位：mg/m³]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">予測地点</th> <th colspan="2">寄与濃度</th> <th rowspan="2">バックグラウンド濃度</th> <th rowspan="2">予測結果(年平均値)</th> <th rowspan="2">日平均値の年間98%値</th> <th rowspan="2">環境保全目標値</th> </tr> <tr> <th>基礎交通量</th> <th>資材等運搬車両</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>上新宮</td> <td>古志104号線</td> <td>0.000000</td> <td>0.000004</td> <td rowspan="3">0.015</td> <td rowspan="3">0.039</td> <td rowspan="3">0.10以下</td> </tr> <tr> <td>下新宮</td> <td>新宮大谷線</td> <td>0.000010</td> <td>0.000003</td> </tr> <tr> <td>古志町地内</td> <td>古志82号線</td> <td>0.000010</td> <td>0.000006</td> </tr> </tbody> </table>	予測地点	寄与濃度		バックグラウンド濃度	予測結果(年平均値)	日平均値の年間98%値	環境保全目標値	基礎交通量	資材等運搬車両	上新宮	古志104号線	0.0000	0.0001	0.002	0.011	0.04～0.06のゾーン内又はそれ以下	下新宮	新宮大谷線	0.0003	0.0001	古志町地内	古志82号線	0.0003	0.0002	予測地点	寄与濃度		バックグラウンド濃度	予測結果(年平均値)	日平均値の年間98%値	環境保全目標値	基礎交通量	資材等運搬車両	上新宮	古志104号線	0.000000	0.000004	0.015	0.039	0.10以下	下新宮	新宮大谷線	0.000010	0.000003	古志町地内	古志82号線	0.000010	0.000006	<p>採用した予測手法は、その予測精度に係る知見が十分に蓄積されているものであり、予測の不確実性は小さい。また、採用する環境保全措置の効果にも不確実性は小さいと考えられることから、事後調査は実施しない。</p>
予測地点	寄与濃度			バックグラウンド濃度	予測結果(年平均値)																																																																																																																
	基礎交通量	資材等運搬車両																																																																																																																			
上新宮	古志104号線	0.0000	0.0001	0.002																																																																																																																	
下新宮	新宮大谷線	0.0003	0.0001																																																																																																																		
古志町地内	古志82号線	0.0003	0.0002																																																																																																																		
予測地点	寄与濃度		バックグラウンド濃度	予測結果(年平均値)																																																																																																																	
	基礎交通量	資材等運搬車両																																																																																																																			
上新宮	古志104号線	0.000000	0.000004	0.015																																																																																																																	
下新宮	新宮大谷線	0.000010	0.000003																																																																																																																		
古志町地内	古志82号線	0.000010	0.000006																																																																																																																		
予測地点	寄与濃度		バックグラウンド濃度	予測結果(年平均値)	日平均値の年間98%値	環境保全目標値																																																																																																															
	基礎交通量	資材等運搬車両																																																																																																																			
上新宮	古志104号線	0.000000	0.000004	0.015	0.039	0.10以下																																																																																																															
下新宮	新宮大谷線	0.000010	0.000003																																																																																																																		
古志町地内	古志82号線	0.000010	0.000006																																																																																																																		
予測地点	寄与濃度		バックグラウンド濃度	予測結果(年平均値)	日平均値の年間98%値	環境保全目標値																																																																																																															
	基礎交通量	資材等運搬車両																																																																																																																			
上新宮	古志104号線	0.0000	0.0001	0.002	0.011	0.04～0.06のゾーン内又はそれ以下																																																																																																															
下新宮	新宮大谷線	0.0003	0.0001																																																																																																																		
古志町地内	古志82号線	0.0003	0.0002																																																																																																																		
予測地点	寄与濃度		バックグラウンド濃度	予測結果(年平均値)	日平均値の年間98%値	環境保全目標値																																																																																																															
	基礎交通量	資材等運搬車両																																																																																																																			
上新宮	古志104号線	0.000000	0.000004	0.015	0.039	0.10以下																																																																																																															
下新宮	新宮大谷線	0.000010	0.000003																																																																																																																		
古志町地内	古志82号線	0.000010	0.000006																																																																																																																		

表 6-2 環境影響評価の一覧

環境要素の区分	項目		調査結果	予測結果	環境保全措置	評価結果	事後調査																																																																																																																																																																																																																																																																																									
	環境要素の区分	影響要因の区分																																																																																																																																																																																																																																																																																														
大気質	大気質 (粉じん等)	資材及び機械の運搬に用いる車両の運行	<p>降下ばいじん量の寄与分の値は 1.4t/km²/月～7.7t/km²/月、バックグラウンドと足し合わせた予測結果は 4.06t/km²/月～10.26t/km²/月となった。</p> <p style="text-align: center;"><降下ばいじん量の予測結果> [単位：t/km²/月]</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th colspan="2">予測地点</th> <th>春 季</th> <th>夏 季</th> <th>秋 季</th> <th>冬 季</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">寄与分</td> <td>上新宮</td> <td>古志 104 号線</td> <td>4.1</td> <td>1.4</td> <td>1.7</td> <td>5.2</td> </tr> <tr> <td>下新宮</td> <td>新宮大谷線</td> <td>4.1</td> <td>1.8</td> <td>1.9</td> <td>5.5</td> </tr> <tr> <td>古志町地内</td> <td>古志 82 号線</td> <td>6.3</td> <td>2.6</td> <td>2.8</td> <td>7.7</td> </tr> <tr> <td colspan="2">バックグラウンド</td> <td>2.54</td> <td>2.66</td> <td>2.54</td> <td>2.56</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">予測結果</td> <td>上新宮</td> <td>古志 104 号線</td> <td>6.64</td> <td>4.06</td> <td>4.24</td> <td>7.76</td> </tr> <tr> <td>下新宮</td> <td>新宮大谷線</td> <td>6.64</td> <td>4.46</td> <td>4.44</td> <td>8.06</td> </tr> <tr> <td>古志町地内</td> <td>古志 82 号線</td> <td>8.84</td> <td>5.26</td> <td>5.34</td> <td>10.26</td> </tr> </tbody> </table>	予測地点		春 季	夏 季	秋 季	冬 季	寄与分	上新宮	古志 104 号線	4.1	1.4	1.7	5.2	下新宮	新宮大谷線	4.1	1.8	1.9	5.5	古志町地内	古志 82 号線	6.3	2.6	2.8	7.7	バックグラウンド		2.54	2.66	2.54	2.56	予測結果	上新宮	古志 104 号線	6.64	4.06	4.24	7.76	下新宮	新宮大谷線	6.64	4.46	4.44	8.06	古志町地内	古志 82 号線	8.84	5.26	5.34	10.26	<p>環境保全措置の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運搬車両台数の低減：土地の改変に伴う発生土砂は、極力、都市計画対象事業実施区域内で再利用するとともに、近傍の他事業において有効利用し、周辺道路を走行する工事用車両の台数を減らす。 ・車両の洗浄：資材等運搬車両の洗浄を励行し、敷地内外の路面への土砂の堆積を防ぐ。 	<p>回避・低減に係る評価</p> <p>調査及び予測の結果、並びに環境保全措置の検討結果をふまえると、資材等運搬車両の運行に伴う粉じん等の影響は、左記の環境保全措置を講じることにより、事業者の実行可能な範囲内で回避又は低減が図られているものと評価した。</p> <p>基準又は目標との整合に係る評価</p> <p>資材等運搬車両の運行に伴う粉じん等の評価結果は下記に示すとおりであり、環境の保全に係る基準又は目標との整合性が図られているものと評価した。</p> <p style="text-align: center;"><降下ばいじん量の評価結果> [単位：t/km²/月]</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th colspan="2">予測地点</th> <th>春 季</th> <th>夏 季</th> <th>秋 季</th> <th>冬 季</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">寄与分</td> <td>上新宮</td> <td>古志 104 号線</td> <td>4.1</td> <td>1.4</td> <td>1.7</td> <td>5.2</td> </tr> <tr> <td>下新宮</td> <td>新宮大谷線</td> <td>4.1</td> <td>1.8</td> <td>1.9</td> <td>5.5</td> </tr> <tr> <td>古志町地内</td> <td>古志 82 号線</td> <td>6.3</td> <td>2.6</td> <td>2.8</td> <td>7.7</td> </tr> <tr> <td colspan="2">バックグラウンド</td> <td>2.54</td> <td>2.66</td> <td>2.54</td> <td>2.56</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">予測結果</td> <td>上新宮</td> <td>古志 104 号線</td> <td>6.64</td> <td>4.06</td> <td>4.24</td> <td>7.76</td> </tr> <tr> <td>下新宮</td> <td>新宮大谷線</td> <td>6.64</td> <td>4.46</td> <td>4.44</td> <td>8.06</td> </tr> <tr> <td>古志町地内</td> <td>古志 82 号線</td> <td>8.84</td> <td>5.26</td> <td>5.34</td> <td>10.26</td> </tr> <tr> <td colspan="2">環境保全目標値</td> <td colspan="4">20 以下</td> </tr> </tbody> </table>	予測地点		春 季	夏 季	秋 季	冬 季	寄与分	上新宮	古志 104 号線	4.1	1.4	1.7	5.2	下新宮	新宮大谷線	4.1	1.8	1.9	5.5	古志町地内	古志 82 号線	6.3	2.6	2.8	7.7	バックグラウンド		2.54	2.66	2.54	2.56	予測結果	上新宮	古志 104 号線	6.64	4.06	4.24	7.76	下新宮	新宮大谷線	6.64	4.46	4.44	8.06	古志町地内	古志 82 号線	8.84	5.26	5.34	10.26	環境保全目標値		20 以下				<p>採用した予測手法は、その予測精度に係る知見が十分に蓄積されているものであり、予測の不確実性は小さい。また、採用する環境保全措置の効果にも不確実性は小さいと考えられることから、事後調査は実施しない。</p>																																																																																																																																																																																
		予測地点		春 季	夏 季	秋 季	冬 季																																																																																																																																																																																																																																																																																									
寄与分	上新宮	古志 104 号線	4.1	1.4	1.7	5.2																																																																																																																																																																																																																																																																																										
	下新宮	新宮大谷線	4.1	1.8	1.9	5.5																																																																																																																																																																																																																																																																																										
	古志町地内	古志 82 号線	6.3	2.6	2.8	7.7																																																																																																																																																																																																																																																																																										
バックグラウンド		2.54	2.66	2.54	2.56																																																																																																																																																																																																																																																																																											
予測結果	上新宮	古志 104 号線	6.64	4.06	4.24	7.76																																																																																																																																																																																																																																																																																										
	下新宮	新宮大谷線	6.64	4.46	4.44	8.06																																																																																																																																																																																																																																																																																										
	古志町地内	古志 82 号線	8.84	5.26	5.34	10.26																																																																																																																																																																																																																																																																																										
予測地点		春 季	夏 季	秋 季	冬 季																																																																																																																																																																																																																																																																																											
寄与分	上新宮	古志 104 号線	4.1	1.4	1.7	5.2																																																																																																																																																																																																																																																																																										
	下新宮	新宮大谷線	4.1	1.8	1.9	5.5																																																																																																																																																																																																																																																																																										
	古志町地内	古志 82 号線	6.3	2.6	2.8	7.7																																																																																																																																																																																																																																																																																										
バックグラウンド		2.54	2.66	2.54	2.56																																																																																																																																																																																																																																																																																											
予測結果	上新宮	古志 104 号線	6.64	4.06	4.24	7.76																																																																																																																																																																																																																																																																																										
	下新宮	新宮大谷線	6.64	4.46	4.44	8.06																																																																																																																																																																																																																																																																																										
	古志町地内	古志 82 号線	8.84	5.26	5.34	10.26																																																																																																																																																																																																																																																																																										
環境保全目標値		20 以下																																																																																																																																																																																																																																																																																														
大気質	(窒素酸化物、硫酸化物、浮遊粒子状物質、有害物質)	施設の稼働(排ガス)	<p><年平均値></p> <p>年平均値の最大着地濃度地点は都市計画対象事業実施区域西南西側約510mの位置に出現し、寄与濃度は二酸化窒素が 0.00013ppm、二酸化硫黄が 0.00014ppm、浮遊粒子状物質が 0.000035mg/m³、塩化水素が 0.00014ppm、ダイオキシン類が 0.000035pg-TEQ/m³、水銀が 0.00011μgHg/m³ と予測され、いずれの項目についても、バックグラウンド濃度に対して極めて低い濃度となっている。</p> <p>また、バックグラウンド濃度を含めた予測環境濃度の年平均値は、二酸化窒素が 0.002ppm、二酸化硫黄が 0.002ppm、浮遊粒子状物質が 0.015mg/m³、塩化水素が 0.001ppm、ダイオキシン類が 0.038pg-TEQ/m³、水銀が 0.004μgHg/m³ と予測される。</p> <p style="text-align: center;"><施設の供用に伴う大気質の予測結果></p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">予測地点</th> <th colspan="3">年平均値</th> </tr> <tr> <th>寄与濃度(A)</th> <th>バックグラウンド濃度(B)</th> <th>将来濃度(A)+(B)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">二酸化窒素 (ppm)</td> <td>上新宮</td> <td>0.00001</td> <td>0.002</td> <td>0.002</td> </tr> <tr> <td>桜</td> <td>0.00003</td> <td>0.001</td> <td>0.001</td> </tr> <tr> <td>殿森</td> <td>0.00003</td> <td>0.001</td> <td>0.001</td> </tr> <tr> <td>乙立</td> <td>0.00001</td> <td>0.001</td> <td>0.001</td> </tr> <tr> <td>最大着地濃度地点</td> <td>0.00013</td> <td>0.002</td> <td>0.002</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">二酸化硫黄 (ppm)</td> <td>上新宮</td> <td>0.00001</td> <td>0.002</td> <td>0.002</td> </tr> <tr> <td>桜</td> <td>0.00003</td> <td>0.002</td> <td>0.002</td> </tr> <tr> <td>殿森</td> <td>0.00003</td> <td>0.002</td> <td>0.002</td> </tr> <tr> <td>乙立</td> <td>0.00001</td> <td>0.002</td> <td>0.002</td> </tr> <tr> <td>最大着地濃度地点</td> <td>0.00014</td> <td>0.002</td> <td>0.002</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">浮遊粒子状物質 (mg/m³)</td> <td>上新宮</td> <td>0.000003</td> <td>0.015</td> <td>0.015</td> </tr> <tr> <td>桜</td> <td>0.000008</td> <td>0.015</td> <td>0.015</td> </tr> <tr> <td>殿森</td> <td>0.000007</td> <td>0.015</td> <td>0.015</td> </tr> <tr> <td>乙立</td> <td>0.000003</td> <td>0.015</td> <td>0.015</td> </tr> <tr> <td>最大着地濃度地点</td> <td>0.000035</td> <td>0.015</td> <td>0.015</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">塩化水素 (ppm)</td> <td>上新宮</td> <td>0.00001</td> <td>0.001</td> <td>0.001</td> </tr> <tr> <td>桜</td> <td>0.00003</td> <td>0.001</td> <td>0.001</td> </tr> <tr> <td>殿森</td> <td>0.00003</td> <td>0.001</td> <td>0.001</td> </tr> <tr> <td>乙立</td> <td>0.00001</td> <td>0.001</td> <td>0.001</td> </tr> <tr> <td>最大着地濃度地点</td> <td>0.00014</td> <td>0.001</td> <td>0.001</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">ダイオキシン類 (pg-TEQ/m³)</td> <td>上新宮</td> <td>0.0000032</td> <td>0.011</td> <td>0.011</td> </tr> <tr> <td>桜</td> <td>0.0000076</td> <td>0.023</td> <td>0.023</td> </tr> <tr> <td>殿森</td> <td>0.0000073</td> <td>0.0089</td> <td>0.0089</td> </tr> <tr> <td>乙立</td> <td>0.0000028</td> <td>0.038</td> <td>0.038</td> </tr> <tr> <td>最大着地濃度地点</td> <td>0.000035</td> <td>0.038</td> <td>0.038</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">水銀 (μgHg/m³)</td> <td>上新宮</td> <td>0.00001</td> <td>0.004</td> <td>0.004</td> </tr> <tr> <td>桜</td> <td>0.00002</td> <td>0.004</td> <td>0.004</td> </tr> <tr> <td>殿森</td> <td>0.00002</td> <td>0.004</td> <td>0.004</td> </tr> <tr> <td>乙立</td> <td>0.00001</td> <td>0.004</td> <td>0.004</td> </tr> <tr> <td>最大着地濃度地点</td> <td>0.00011</td> <td>0.004</td> <td>0.004</td> </tr> </tbody> </table>	項目	予測地点	年平均値			寄与濃度(A)	バックグラウンド濃度(B)	将来濃度(A)+(B)	二酸化窒素 (ppm)	上新宮	0.00001	0.002	0.002	桜	0.00003	0.001	0.001	殿森	0.00003	0.001	0.001	乙立	0.00001	0.001	0.001	最大着地濃度地点	0.00013	0.002	0.002	二酸化硫黄 (ppm)	上新宮	0.00001	0.002	0.002	桜	0.00003	0.002	0.002	殿森	0.00003	0.002	0.002	乙立	0.00001	0.002	0.002	最大着地濃度地点	0.00014	0.002	0.002	浮遊粒子状物質 (mg/m ³)	上新宮	0.000003	0.015	0.015	桜	0.000008	0.015	0.015	殿森	0.000007	0.015	0.015	乙立	0.000003	0.015	0.015	最大着地濃度地点	0.000035	0.015	0.015	塩化水素 (ppm)	上新宮	0.00001	0.001	0.001	桜	0.00003	0.001	0.001	殿森	0.00003	0.001	0.001	乙立	0.00001	0.001	0.001	最大着地濃度地点	0.00014	0.001	0.001	ダイオキシン類 (pg-TEQ/m ³)	上新宮	0.0000032	0.011	0.011	桜	0.0000076	0.023	0.023	殿森	0.0000073	0.0089	0.0089	乙立	0.0000028	0.038	0.038	最大着地濃度地点	0.000035	0.038	0.038	水銀 (μgHg/m ³)	上新宮	0.00001	0.004	0.004	桜	0.00002	0.004	0.004	殿森	0.00002	0.004	0.004	乙立	0.00001	0.004	0.004	最大着地濃度地点	0.00011	0.004	0.004	<p>環境保全措置の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・排ガス処理設備：最新の排ガス処理設備を採用し、排ガス中に含まれる大気汚染物質の排出抑制を行う。 ・運転管理の徹底：焼却炉の適切な燃焼管理を行うとともに、適切な監視を行う。 ・排ガス濃度等の情報公開：排ガス濃度等の計測により適正な施設稼働を確認するとともに、情報公開に努め、一般市民が本施設の運転状況を確認できるようにする。 	<p>回避・低減に係る評価</p> <p>調査及び予測の結果、並びに環境保全措置の検討結果をふまえると、施設の稼働に伴う大気質への影響は、左記の環境保全措置を講じることにより、事業者の実行可能な範囲内で回避又は低減が図られているものと評価した。</p> <p>基準又は目標との整合に係る評価</p> <p><年平均値></p> <p>施設の稼働に伴う二酸化窒素、二酸化硫黄、浮遊粒子状物質、塩化水素、ダイオキシン類、水銀の年平均値の評価結果は下記に示すとおりであり、環境の保全に係る基準又は目標との整合性が図られているものと評価した。</p> <p style="text-align: center;"><施設の稼働に伴う大気質の評価結果></p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">予測地点</th> <th colspan="3">年平均値</th> <th rowspan="2">日平均値^(注)</th> <th rowspan="2">環境保全目標値</th> </tr> <tr> <th>寄与濃度(A)</th> <th>バックグラウンド濃度(B)</th> <th>将来濃度(A)+(B)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">二酸化窒素 (ppm)</td> <td>上新宮</td> <td>0.00001</td> <td>0.002</td> <td>0.002</td> <td rowspan="5">0.0052</td> <td rowspan="5">0.04～ 0.06までの ゾーン内又は それ以下</td> </tr> <tr> <td>桜</td> <td>0.00003</td> <td>0.001</td> <td>0.001</td> </tr> <tr> <td>殿森</td> <td>0.00003</td> <td>0.001</td> <td>0.001</td> </tr> <tr> <td>乙立</td> <td>0.00001</td> <td>0.001</td> <td>0.001</td> </tr> <tr> <td>最大着地濃度地点</td> <td>0.00013</td> <td>0.002</td> <td>0.002</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">二酸化硫黄 (ppm)</td> <td>上新宮</td> <td>0.00001</td> <td>0.002</td> <td>0.002</td> <td rowspan="5">0.0069</td> <td rowspan="5">0.04 以下</td> </tr> <tr> <td>桜</td> <td>0.00003</td> <td>0.002</td> <td>0.002</td> </tr> <tr> <td>殿森</td> <td>0.00003</td> <td>0.002</td> <td>0.002</td> </tr> <tr> <td>乙立</td> <td>0.00001</td> <td>0.002</td> <td>0.002</td> </tr> <tr> <td>最大着地濃度地点</td> <td>0.00014</td> <td>0.002</td> <td>0.002</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">浮遊粒子状物質 (mg/m³)</td> <td>上新宮</td> <td>0.000003</td> <td>0.015</td> <td>0.015</td> <td rowspan="5">0.0042</td> <td rowspan="5">0.10 以下</td> </tr> <tr> <td>桜</td> <td>0.000008</td> <td>0.015</td> <td>0.015</td> </tr> <tr> <td>殿森</td> <td>0.000007</td> <td>0.015</td> <td>0.015</td> </tr> <tr> <td>乙立</td> <td>0.000003</td> <td>0.015</td> <td>0.015</td> </tr> <tr> <td>最大着地濃度地点</td> <td>0.000035</td> <td>0.015</td> <td>0.015</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">塩化水素 (ppm)</td> <td>上新宮</td> <td>0.00001</td> <td>0.001</td> <td>0.001</td> <td rowspan="5">0.0042</td> <td rowspan="5">0.02 以下</td> </tr> <tr> <td>桜</td> <td>0.00003</td> <td>0.001</td> <td>0.001</td> </tr> <tr> <td>殿森</td> <td>0.00003</td> <td>0.001</td> <td>0.001</td> </tr> <tr> <td>乙立</td> <td>0.00001</td> <td>0.001</td> <td>0.001</td> </tr> <tr> <td>最大着地濃度地点</td> <td>0.00014</td> <td>0.001</td> <td>0.001</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">ダイオキシン類 (pg-TEQ/m³)</td> <td>上新宮</td> <td>0.0000032</td> <td>0.011</td> <td>0.011</td> <td rowspan="5">0.000032</td> <td rowspan="5">0.6 以下</td> </tr> <tr> <td>桜</td> <td>0.0000076</td> <td>0.023</td> <td>0.023</td> </tr> <tr> <td>殿森</td> <td>0.0000073</td> <td>0.0089</td> <td>0.0089</td> </tr> <tr> <td>乙立</td> <td>0.0000028</td> <td>0.038</td> <td>0.038</td> </tr> <tr> <td>最大着地濃度地点</td> <td>0.000035</td> <td>0.038</td> <td>0.038</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">水銀 (μgHg/m³)</td> <td>上新宮</td> <td>0.00001</td> <td>0.004</td> <td>0.004</td> <td rowspan="5">0.00001</td> <td rowspan="5">0.04以下</td> </tr> <tr> <td>桜</td> <td>0.00002</td> <td>0.004</td> <td>0.004</td> </tr> <tr> <td>殿森</td> <td>0.00002</td> <td>0.004</td> <td>0.004</td> </tr> <tr> <td>乙立</td> <td>0.00001</td> <td>0.004</td> <td>0.004</td> </tr> <tr> <td>最大着地濃度地点</td> <td>0.00011</td> <td>0.004</td> <td>0.004</td> </tr> </tbody> </table>	項目	予測地点	年平均値			日平均値 ^(注)	環境保全目標値	寄与濃度(A)	バックグラウンド濃度(B)	将来濃度(A)+(B)	二酸化窒素 (ppm)	上新宮	0.00001	0.002	0.002	0.0052	0.04～ 0.06までの ゾーン内又は それ以下	桜	0.00003	0.001	0.001	殿森	0.00003	0.001	0.001	乙立	0.00001	0.001	0.001	最大着地濃度地点	0.00013	0.002	0.002	二酸化硫黄 (ppm)	上新宮	0.00001	0.002	0.002	0.0069	0.04 以下	桜	0.00003	0.002	0.002	殿森	0.00003	0.002	0.002	乙立	0.00001	0.002	0.002	最大着地濃度地点	0.00014	0.002	0.002	浮遊粒子状物質 (mg/m ³)	上新宮	0.000003	0.015	0.015	0.0042	0.10 以下	桜	0.000008	0.015	0.015	殿森	0.000007	0.015	0.015	乙立	0.000003	0.015	0.015	最大着地濃度地点	0.000035	0.015	0.015	塩化水素 (ppm)	上新宮	0.00001	0.001	0.001	0.0042	0.02 以下	桜	0.00003	0.001	0.001	殿森	0.00003	0.001	0.001	乙立	0.00001	0.001	0.001	最大着地濃度地点	0.00014	0.001	0.001	ダイオキシン類 (pg-TEQ/m ³)	上新宮	0.0000032	0.011	0.011	0.000032	0.6 以下	桜	0.0000076	0.023	0.023	殿森	0.0000073	0.0089	0.0089	乙立	0.0000028	0.038	0.038	最大着地濃度地点	0.000035	0.038	0.038	水銀 (μgHg/m ³)	上新宮	0.00001	0.004	0.004	0.00001	0.04以下	桜	0.00002	0.004	0.004	殿森	0.00002	0.004	0.004	乙立	0.00001	0.004	0.004	最大着地濃度地点	0.00011	0.004	0.004	<p>採用した予測手法は、その予測精度に係る知見が十分に蓄積されているものであり、予測の不確実性は小さい。また、採用する環境保全措置の効果にも不確実性は小さいと考えられることから、事後調査は実施しない。</p> <p>なお、事後調査とは別途、自主的な環境監視調査として、施設の稼働(排ガス)に伴う大気質への影響(存在・供用)に係るモニタリング調査を継続的に実施し、環境の状況の把握に努める。</p>
		項目	予測地点			年平均値																																																																																																																																																																																																																																																																																										
寄与濃度(A)	バックグラウンド濃度(B)			将来濃度(A)+(B)																																																																																																																																																																																																																																																																																												
二酸化窒素 (ppm)	上新宮	0.00001	0.002	0.002																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	桜	0.00003	0.001	0.001																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	殿森	0.00003	0.001	0.001																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	乙立	0.00001	0.001	0.001																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	最大着地濃度地点	0.00013	0.002	0.002																																																																																																																																																																																																																																																																																												
二酸化硫黄 (ppm)	上新宮	0.00001	0.002	0.002																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	桜	0.00003	0.002	0.002																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	殿森	0.00003	0.002	0.002																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	乙立	0.00001	0.002	0.002																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	最大着地濃度地点	0.00014	0.002	0.002																																																																																																																																																																																																																																																																																												
浮遊粒子状物質 (mg/m ³)	上新宮	0.000003	0.015	0.015																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	桜	0.000008	0.015	0.015																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	殿森	0.000007	0.015	0.015																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	乙立	0.000003	0.015	0.015																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	最大着地濃度地点	0.000035	0.015	0.015																																																																																																																																																																																																																																																																																												
塩化水素 (ppm)	上新宮	0.00001	0.001	0.001																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	桜	0.00003	0.001	0.001																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	殿森	0.00003	0.001	0.001																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	乙立	0.00001	0.001	0.001																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	最大着地濃度地点	0.00014	0.001	0.001																																																																																																																																																																																																																																																																																												
ダイオキシン類 (pg-TEQ/m ³)	上新宮	0.0000032	0.011	0.011																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	桜	0.0000076	0.023	0.023																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	殿森	0.0000073	0.0089	0.0089																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	乙立	0.0000028	0.038	0.038																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	最大着地濃度地点	0.000035	0.038	0.038																																																																																																																																																																																																																																																																																												
水銀 (μgHg/m ³)	上新宮	0.00001	0.004	0.004																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	桜	0.00002	0.004	0.004																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	殿森	0.00002	0.004	0.004																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	乙立	0.00001	0.004	0.004																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	最大着地濃度地点	0.00011	0.004	0.004																																																																																																																																																																																																																																																																																												
項目	予測地点	年平均値			日平均値 ^(注)	環境保全目標値																																																																																																																																																																																																																																																																																										
		寄与濃度(A)	バックグラウンド濃度(B)	将来濃度(A)+(B)																																																																																																																																																																																																																																																																																												
二酸化窒素 (ppm)	上新宮	0.00001	0.002	0.002	0.0052	0.04～ 0.06までの ゾーン内又は それ以下																																																																																																																																																																																																																																																																																										
	桜	0.00003	0.001	0.001																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	殿森	0.00003	0.001	0.001																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	乙立	0.00001	0.001	0.001																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	最大着地濃度地点	0.00013	0.002	0.002																																																																																																																																																																																																																																																																																												
二酸化硫黄 (ppm)	上新宮	0.00001	0.002	0.002	0.0069	0.04 以下																																																																																																																																																																																																																																																																																										
	桜	0.00003	0.002	0.002																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	殿森	0.00003	0.002	0.002																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	乙立	0.00001	0.002	0.002																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	最大着地濃度地点	0.00014	0.002	0.002																																																																																																																																																																																																																																																																																												
浮遊粒子状物質 (mg/m ³)	上新宮	0.000003	0.015	0.015	0.0042	0.10 以下																																																																																																																																																																																																																																																																																										
	桜	0.000008	0.015	0.015																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	殿森	0.000007	0.015	0.015																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	乙立	0.000003	0.015	0.015																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	最大着地濃度地点	0.000035	0.015	0.015																																																																																																																																																																																																																																																																																												
塩化水素 (ppm)	上新宮	0.00001	0.001	0.001	0.0042	0.02 以下																																																																																																																																																																																																																																																																																										
	桜	0.00003	0.001	0.001																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	殿森	0.00003	0.001	0.001																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	乙立	0.00001	0.001	0.001																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	最大着地濃度地点	0.00014	0.001	0.001																																																																																																																																																																																																																																																																																												
ダイオキシン類 (pg-TEQ/m ³)	上新宮	0.0000032	0.011	0.011	0.000032	0.6 以下																																																																																																																																																																																																																																																																																										
	桜	0.0000076	0.023	0.023																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	殿森	0.0000073	0.0089	0.0089																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	乙立	0.0000028	0.038	0.038																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	最大着地濃度地点	0.000035	0.038	0.038																																																																																																																																																																																																																																																																																												
水銀 (μgHg/m ³)	上新宮	0.00001	0.004	0.004	0.00001	0.04以下																																																																																																																																																																																																																																																																																										
	桜	0.00002	0.004	0.004																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	殿森	0.00002	0.004	0.004																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	乙立	0.00001	0.004	0.004																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	最大着地濃度地点	0.00011	0.004	0.004																																																																																																																																																																																																																																																																																												
<p>注) 二酸化窒素は日平均値の年間 98%値を、二酸化硫黄及び浮遊粒子状物質は日平均値の年間 2%除外値を示す。</p>																																																																																																																																																																																																																																																																																																

表 6-3 環境影響評価の一覧

環境要素の区分	項目		調査結果	予測結果	環境保全措置	評価結果	事後調査																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	環境要素の区分	影響要因の区分																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
大気質	大気質 (窒素酸化物、硫黄酸化物、浮遊粒子状物質、有害物質)	施設の稼働 (排ガス)		<p>< 1時間値 ></p> <p>・一般的な気象条件時(大気安定度不安定時)</p> <p>一般的な気象条件時(大気安定度不安定時)の1時間値の最大値は、煙突の風下約550mの位置に出現し、二酸化窒素が0.014ppm、二酸化硫黄が0.013ppm、浮遊粒子状物質が0.072mg/m³、塩化水素が0.004ppm、ダイオキシン類が0.13pg-TEQ/m³、水銀が0.006μgHg/m³と予測される。</p> <p>< 高濃度出現時の1時間値予測(一般的な気象条件時(大気安定度不安定時)) ></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th colspan="3">1時間値</th> <th rowspan="2">項目</th> <th colspan="3">1時間値</th> </tr> <tr> <th>寄与濃度</th> <th>バックグラウンド濃度</th> <th>将来濃度</th> <th>寄与濃度</th> <th>バックグラウンド濃度</th> <th>将来濃度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>二酸化窒素 (ppm)</td> <td>0.002</td> <td>0.012</td> <td>0.014</td> <td>塩化水素 (ppm)</td> <td>0.003</td> <td>0.001</td> <td>0.004</td> </tr> <tr> <td>二酸化硫黄 (ppm)</td> <td>0.003</td> <td>0.01</td> <td>0.013</td> <td>ダイオキシン類 (pg-TEQ/m³)</td> <td>0.0007</td> <td>0.13</td> <td>0.13</td> </tr> <tr> <td>浮遊粒子状物質 (mg/m³)</td> <td>0.0007</td> <td>0.071</td> <td>0.072</td> <td>水銀 (μgHg/m³)</td> <td>0.002</td> <td>0.004</td> <td>0.006</td> </tr> </tbody> </table> <p>注1) 寄与濃度は、予測地域における寄与濃度の最大値を示す。 注2) 最大寄与濃度出現距離は煙突より約550mの位置である。</p> <p>・上層逆転層発生時</p> <p>上層逆転層発生時の1時間値の最大値は、煙突の風下約440mの位置に出現し、二酸化窒素が0.026ppm、二酸化硫黄が0.028ppm、浮遊粒子状物質が0.075mg/m³、塩化水素が0.019ppm、ダイオキシン類が0.13pg-TEQ/m³、水銀が0.017μgHg/m³と予測される。</p> <p>< 高濃度出現時の1時間値予測(上層逆転層発生時) ></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th colspan="3">1時間値</th> <th rowspan="2">項目</th> <th colspan="3">1時間値</th> </tr> <tr> <th>寄与濃度</th> <th>バックグラウンド濃度</th> <th>将来濃度</th> <th>寄与濃度</th> <th>バックグラウンド濃度</th> <th>将来濃度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>二酸化窒素 (ppm)</td> <td>0.014</td> <td>0.012</td> <td>0.026</td> <td>塩化水素 (ppm)</td> <td>0.018</td> <td>0.001</td> <td>0.019</td> </tr> <tr> <td>二酸化硫黄 (ppm)</td> <td>0.018</td> <td>0.01</td> <td>0.028</td> <td>ダイオキシン類 (pg-TEQ/m³)</td> <td>0.0044</td> <td>0.13</td> <td>0.13</td> </tr> <tr> <td>浮遊粒子状物質 (mg/m³)</td> <td>0.0044</td> <td>0.071</td> <td>0.075</td> <td>水銀 (μgHg/m³)</td> <td>0.013</td> <td>0.004</td> <td>0.017</td> </tr> </tbody> </table> <p>注1) 寄与濃度は、予測地域における寄与濃度の最大値を示す。 注2) 最大寄与濃度出現距離は煙突より約440mの位置である。</p> <p>・接地逆転層崩壊時(フミゲーション発生時)</p> <p>接地逆転層崩壊時(フミゲーション発生時)の1時間値の最大値は、煙突の風下約250mの位置に出現し、二酸化窒素が0.025ppm、二酸化硫黄が0.026ppm、浮遊粒子状物質が0.075mg/m³、塩化水素が0.017ppm、ダイオキシン類が0.13pg-TEQ/m³、水銀が0.016μgHg/m³と予測される。</p> <p>< 高濃度出現時の1時間値予測(フミゲーション発生時) ></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th colspan="3">1時間値</th> <th rowspan="2">項目</th> <th colspan="3">1時間値</th> </tr> <tr> <th>寄与濃度</th> <th>バックグラウンド濃度</th> <th>将来濃度</th> <th>寄与濃度</th> <th>バックグラウンド濃度</th> <th>将来濃度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>二酸化窒素 (ppm)</td> <td>0.013</td> <td>0.012</td> <td>0.025</td> <td>塩化水素 (ppm)</td> <td>0.016</td> <td>0.001</td> <td>0.017</td> </tr> <tr> <td>二酸化硫黄 (ppm)</td> <td>0.016</td> <td>0.01</td> <td>0.026</td> <td>ダイオキシン類 (pg-TEQ/m³)</td> <td>0.0041</td> <td>0.13</td> <td>0.13</td> </tr> <tr> <td>浮遊粒子状物質 (mg/m³)</td> <td>0.0041</td> <td>0.071</td> <td>0.075</td> <td>水銀 (μgHg/m³)</td> <td>0.012</td> <td>0.004</td> <td>0.016</td> </tr> </tbody> </table> <p>注1) 寄与濃度は、予測地域における寄与濃度の最大値を示す。 注2) 最大寄与濃度出現距離は煙突より約250mの位置である。</p> <p>・ダウンウォッシュ・ドラフト発生時</p> <p>ダウンウォッシュ・ダウンドラフト発生時の1時間値の最大値は、煙突の風下約300mの位置に出現し、二酸化窒素が0.023ppm、二酸化硫黄が0.024ppm、浮遊粒子状物質が0.074mg/m³、塩化水素が0.015ppm、ダイオキシン類が0.13pg-TEQ/m³、水銀が0.014μgHg/m³と予測される。</p> <p>< 高濃度出現時の1時間値予測(ダウンウォッシュ・ダウンドラフト発生時) ></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th colspan="3">1時間値</th> <th rowspan="2">項目</th> <th colspan="3">1時間値</th> </tr> <tr> <th>寄与濃度</th> <th>バックグラウンド濃度</th> <th>将来濃度</th> <th>寄与濃度</th> <th>バックグラウンド濃度</th> <th>将来濃度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>二酸化窒素 (ppm)</td> <td>0.011</td> <td>0.012</td> <td>0.023</td> <td>塩化水素 (ppm)</td> <td>0.014</td> <td>0.001</td> <td>0.015</td> </tr> <tr> <td>二酸化硫黄 (ppm)</td> <td>0.014</td> <td>0.01</td> <td>0.024</td> <td>ダイオキシン類 (pg-TEQ/m³)</td> <td>0.0033</td> <td>0.13</td> <td>0.13</td> </tr> <tr> <td>浮遊粒子状物質 (mg/m³)</td> <td>0.0033</td> <td>0.071</td> <td>0.074</td> <td>水銀 (μgHg/m³)</td> <td>0.010</td> <td>0.004</td> <td>0.014</td> </tr> </tbody> </table> <p>注1) 寄与濃度は、予測地域における寄与濃度の最大値を示す。 注2) 最大寄与濃度出現距離は煙突より約300mの位置である。</p> <p>・接地逆転層非貫通時</p> <p>接地逆転層非貫通時の1時間値の最大値は、濃度は極めて低いものの、煙突の風下約4,900mの位置に出現し、二酸化窒素が0.019ppm、二酸化硫黄が0.018ppm、浮遊粒子状物質が0.073mg/m³、塩化水素が0.009ppm、ダイオキシン類が0.13pg-TEQ/m³、水銀が0.010μgHg/m³と予測される。</p> <p>< 高濃度出現時の1時間値予測(ダウンウォッシュ・ダウンドラフト発生時) ></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th colspan="3">1時間値</th> <th rowspan="2">項目</th> <th colspan="3">1時間値</th> </tr> <tr> <th>寄与濃度</th> <th>バックグラウンド濃度</th> <th>将来濃度</th> <th>寄与濃度</th> <th>バックグラウンド濃度</th> <th>将来濃度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>二酸化窒素 (ppm)</td> <td>0.007</td> <td>0.012</td> <td>0.019</td> <td>塩化水素 (ppm)</td> <td>0.008</td> <td>0.001</td> <td>0.009</td> </tr> <tr> <td>二酸化硫黄 (ppm)</td> <td>0.008</td> <td>0.01</td> <td>0.018</td> <td>ダイオキシン類 (pg-TEQ/m³)</td> <td>0.0021</td> <td>0.13</td> <td>0.13</td> </tr> <tr> <td>浮遊粒子状物質 (mg/m³)</td> <td>0.0021</td> <td>0.071</td> <td>0.073</td> <td>水銀 (μgHg/m³)</td> <td>0.006</td> <td>0.004</td> <td>0.010</td> </tr> </tbody> </table> <p>注1) 寄与濃度は、予測地域における寄与濃度の最大値を示す。 注2) 最大寄与濃度出現距離は煙突より約4,900mの位置である。</p>	項目	1時間値			項目	1時間値			寄与濃度	バックグラウンド濃度	将来濃度	寄与濃度	バックグラウンド濃度	将来濃度	二酸化窒素 (ppm)	0.002	0.012	0.014	塩化水素 (ppm)	0.003	0.001	0.004	二酸化硫黄 (ppm)	0.003	0.01	0.013	ダイオキシン類 (pg-TEQ/m ³)	0.0007	0.13	0.13	浮遊粒子状物質 (mg/m ³)	0.0007	0.071	0.072	水銀 (μgHg/m ³)	0.002	0.004	0.006	項目	1時間値			項目	1時間値			寄与濃度	バックグラウンド濃度	将来濃度	寄与濃度	バックグラウンド濃度	将来濃度	二酸化窒素 (ppm)	0.014	0.012	0.026	塩化水素 (ppm)	0.018	0.001	0.019	二酸化硫黄 (ppm)	0.018	0.01	0.028	ダイオキシン類 (pg-TEQ/m ³)	0.0044	0.13	0.13	浮遊粒子状物質 (mg/m ³)	0.0044	0.071	0.075	水銀 (μgHg/m ³)	0.013	0.004	0.017	項目	1時間値			項目	1時間値			寄与濃度	バックグラウンド濃度	将来濃度	寄与濃度	バックグラウンド濃度	将来濃度	二酸化窒素 (ppm)	0.013	0.012	0.025	塩化水素 (ppm)	0.016	0.001	0.017	二酸化硫黄 (ppm)	0.016	0.01	0.026	ダイオキシン類 (pg-TEQ/m ³)	0.0041	0.13	0.13	浮遊粒子状物質 (mg/m ³)	0.0041	0.071	0.075	水銀 (μgHg/m ³)	0.012	0.004	0.016	項目	1時間値			項目	1時間値			寄与濃度	バックグラウンド濃度	将来濃度	寄与濃度	バックグラウンド濃度	将来濃度	二酸化窒素 (ppm)	0.011	0.012	0.023	塩化水素 (ppm)	0.014	0.001	0.015	二酸化硫黄 (ppm)	0.014	0.01	0.024	ダイオキシン類 (pg-TEQ/m ³)	0.0033	0.13	0.13	浮遊粒子状物質 (mg/m ³)	0.0033	0.071	0.074	水銀 (μgHg/m ³)	0.010	0.004	0.014	項目	1時間値			項目	1時間値			寄与濃度	バックグラウンド濃度	将来濃度	寄与濃度	バックグラウンド濃度	将来濃度	二酸化窒素 (ppm)	0.007	0.012	0.019	塩化水素 (ppm)	0.008	0.001	0.009	二酸化硫黄 (ppm)	0.008	0.01	0.018	ダイオキシン類 (pg-TEQ/m ³)	0.0021	0.13	0.13	浮遊粒子状物質 (mg/m ³)	0.0021	0.071	0.073	水銀 (μgHg/m ³)	0.006	0.004	0.010	<p>環境保全措置の検討</p> <p>・排ガス処理設備：最新の排ガス処理設備を採用し、排ガスに含まれる大気汚染物質の排出抑制を行う。</p> <p>・運転管理の徹底：焼却炉の適切な燃焼管理を行うとともに、適切な監視を行う。</p> <p>・排ガス濃度等の情報公開：排ガス濃度等の計測により適正な施設稼働を確認するとともに、情報公開に努め、一般市民が本施設の運転状況を確認できるようにする。</p>	<p>< 1時間値 ></p> <p>施設の稼働に伴う二酸化窒素、二酸化硫黄、浮遊粒子状物質、塩化水素、ダイオキシン類、水銀の1時間値の評価結果は下記に示すとおりであり、環境の保全に係る基準又は目標との整合性が図られているものと評価した。</p> <p>< 1時間値の評価結果(一般的な気象条件時(大気安定度不安定時)) ></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th colspan="3">1時間値</th> <th rowspan="2">環境保全目標値</th> </tr> <tr> <th>寄与濃度</th> <th>バックグラウンド濃度</th> <th>将来濃度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>二酸化窒素 (ppm)</td> <td>0.002</td> <td>0.012</td> <td>0.014</td> <td>0.1 以下</td> </tr> <tr> <td>二酸化硫黄 (ppm)</td> <td>0.003</td> <td>0.01</td> <td>0.013</td> <td>0.1 以下</td> </tr> <tr> <td>浮遊粒子状物質 (mg/m³)</td> <td>0.0007</td> <td>0.071</td> <td>0.072</td> <td>0.20以下</td> </tr> <tr> <td>塩化水素 (ppm)</td> <td>0.003</td> <td>0.001</td> <td>0.004</td> <td>0.02以下</td> </tr> <tr> <td>ダイオキシン類 (pg-TEQ/m³)</td> <td>0.0007</td> <td>0.13</td> <td>0.13</td> <td>0.6 以下</td> </tr> <tr> <td>水銀 (μgHg/m³)</td> <td>0.002</td> <td>0.004</td> <td>0.006</td> <td>0.04以下</td> </tr> </tbody> </table> <p>注1) 寄与濃度は、予測地域における寄与濃度の最大値を示す。 注2) 最大寄与濃度出現距離は煙突より約550mの位置である。</p> <p>< 1時間値の評価結果(上層逆転層発生時) ></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th colspan="3">1時間値</th> <th rowspan="2">環境保全目標値</th> </tr> <tr> <th>寄与濃度</th> <th>バックグラウンド濃度</th> <th>将来濃度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>二酸化窒素 (ppm)</td> <td>0.014</td> <td>0.012</td> <td>0.026</td> <td>0.1 以下</td> </tr> <tr> <td>二酸化硫黄 (ppm)</td> <td>0.018</td> <td>0.01</td> <td>0.028</td> <td>0.1 以下</td> </tr> <tr> <td>浮遊粒子状物質 (mg/m³)</td> <td>0.0044</td> <td>0.071</td> <td>0.075</td> <td>0.20以下</td> </tr> <tr> <td>塩化水素 (ppm)</td> <td>0.018</td> <td>0.001</td> <td>0.019</td> <td>0.02以下</td> </tr> <tr> <td>ダイオキシン類 (pg-TEQ/m³)</td> <td>0.0044</td> <td>0.13</td> <td>0.13</td> <td>0.6 以下</td> </tr> <tr> <td>水銀 (μgHg/m³)</td> <td>0.013</td> <td>0.004</td> <td>0.017</td> <td>0.04以下</td> </tr> </tbody> </table> <p>注1) 寄与濃度は、予測地域における寄与濃度の最大値を示す。 注2) 最大寄与濃度出現距離は煙突より約440mの位置である。</p> <p>< 1時間値の評価結果(フミゲーション発生時) ></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th colspan="3">1時間値</th> <th rowspan="2">環境保全目標値</th> </tr> <tr> <th>寄与濃度</th> <th>バックグラウンド濃度</th> <th>将来濃度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>二酸化窒素 (ppm)</td> <td>0.013</td> <td>0.012</td> <td>0.025</td> <td>0.1 以下</td> </tr> <tr> <td>二酸化硫黄 (ppm)</td> <td>0.016</td> <td>0.01</td> <td>0.026</td> <td>0.1 以下</td> </tr> <tr> <td>浮遊粒子状物質 (mg/m³)</td> <td>0.0041</td> <td>0.071</td> <td>0.075</td> <td>0.20以下</td> </tr> <tr> <td>塩化水素 (ppm)</td> <td>0.016</td> <td>0.001</td> <td>0.017</td> <td>0.02以下</td> </tr> <tr> <td>ダイオキシン類 (pg-TEQ/m³)</td> <td>0.0041</td> <td>0.13</td> <td>0.13</td> <td>0.6 以下</td> </tr> <tr> <td>水銀 (μgHg/m³)</td> <td>0.012</td> <td>0.004</td> <td>0.016</td> <td>0.04以下</td> </tr> </tbody> </table> <p>注1) 寄与濃度は、予測地域における寄与濃度の最大値を示す。 注2) 最大寄与濃度出現距離は煙突より約250mの位置である。</p> <p>< 1時間値の評価結果(ダウンウォッシュ・ダウンドラフト発生時) ></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th colspan="3">1時間値</th> <th rowspan="2">環境保全目標値</th> </tr> <tr> <th>寄与濃度</th> <th>バックグラウンド濃度</th> <th>将来濃度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>二酸化窒素 (ppm)</td> <td>0.011</td> <td>0.012</td> <td>0.023</td> <td>0.1 以下</td> </tr> <tr> <td>二酸化硫黄 (ppm)</td> <td>0.014</td> <td>0.01</td> <td>0.024</td> <td>0.1 以下</td> </tr> <tr> <td>浮遊粒子状物質 (mg/m³)</td> <td>0.0033</td> <td>0.071</td> <td>0.074</td> <td>0.20以下</td> </tr> <tr> <td>塩化水素 (ppm)</td> <td>0.014</td> <td>0.001</td> <td>0.015</td> <td>0.02以下</td> </tr> <tr> <td>ダイオキシン類 (pg-TEQ/m³)</td> <td>0.0033</td> <td>0.13</td> <td>0.13</td> <td>0.6 以下</td> </tr> <tr> <td>水銀 (μgHg/m³)</td> <td>0.010</td> <td>0.004</td> <td>0.014</td> <td>0.04以下</td> </tr> </tbody> </table> <p>注1) 寄与濃度は、予測地域における寄与濃度の最大値を示す。 注2) 最大寄与濃度出現距離は煙突より約300mの位置である。</p> <p>< 1時間値の評価結果(接地逆転層非貫通時) ></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th colspan="3">1時間値</th> <th rowspan="2">環境保全目標値</th> </tr> <tr> <th>寄与濃度</th> <th>バックグラウンド濃度</th> <th>将来濃度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>二酸化窒素 (ppm)</td> <td>0.007</td> <td>0.012</td> <td>0.019</td> <td>0.1 以下</td> </tr> <tr> <td>二酸化硫黄 (ppm)</td> <td>0.008</td> <td>0.01</td> <td>0.018</td> <td>0.1 以下</td> </tr> <tr> <td>浮遊粒子状物質 (mg/m³)</td> <td>0.0021</td> <td>0.071</td> <td>0.073</td> <td>0.20以下</td> </tr> <tr> <td>塩化水素 (ppm)</td> <td>0.008</td> <td>0.001</td> <td>0.009</td> <td>0.02以下</td> </tr> <tr> <td>ダイオキシン類 (pg-TEQ/m³)</td> <td>0.0021</td> <td>0.13</td> <td>0.13</td> <td>0.6 以下</td> </tr> <tr> <td>水銀 (μgHg/m³)</td> <td>0.006</td> <td>0.004</td> <td>0.010</td> <td>0.04以下</td> </tr> </tbody> </table> <p>注1) 寄与濃度は、予測地域における寄与濃度の最大値を示す。 注2) 最大寄与濃度出現距離は煙突より約4,900mの位置である。</p>	項目	1時間値			環境保全目標値	寄与濃度	バックグラウンド濃度	将来濃度	二酸化窒素 (ppm)	0.002	0.012	0.014	0.1 以下	二酸化硫黄 (ppm)	0.003	0.01	0.013	0.1 以下	浮遊粒子状物質 (mg/m ³)	0.0007	0.071	0.072	0.20以下	塩化水素 (ppm)	0.003	0.001	0.004	0.02以下	ダイオキシン類 (pg-TEQ/m ³)	0.0007	0.13	0.13	0.6 以下	水銀 (μgHg/m ³)	0.002	0.004	0.006	0.04以下	項目	1時間値			環境保全目標値	寄与濃度	バックグラウンド濃度	将来濃度	二酸化窒素 (ppm)	0.014	0.012	0.026	0.1 以下	二酸化硫黄 (ppm)	0.018	0.01	0.028	0.1 以下	浮遊粒子状物質 (mg/m ³)	0.0044	0.071	0.075	0.20以下	塩化水素 (ppm)	0.018	0.001	0.019	0.02以下	ダイオキシン類 (pg-TEQ/m ³)	0.0044	0.13	0.13	0.6 以下	水銀 (μgHg/m ³)	0.013	0.004	0.017	0.04以下	項目	1時間値			環境保全目標値	寄与濃度	バックグラウンド濃度	将来濃度	二酸化窒素 (ppm)	0.013	0.012	0.025	0.1 以下	二酸化硫黄 (ppm)	0.016	0.01	0.026	0.1 以下	浮遊粒子状物質 (mg/m ³)	0.0041	0.071	0.075	0.20以下	塩化水素 (ppm)	0.016	0.001	0.017	0.02以下	ダイオキシン類 (pg-TEQ/m ³)	0.0041	0.13	0.13	0.6 以下	水銀 (μgHg/m ³)	0.012	0.004	0.016	0.04以下	項目	1時間値			環境保全目標値	寄与濃度	バックグラウンド濃度	将来濃度	二酸化窒素 (ppm)	0.011	0.012	0.023	0.1 以下	二酸化硫黄 (ppm)	0.014	0.01	0.024	0.1 以下	浮遊粒子状物質 (mg/m ³)	0.0033	0.071	0.074	0.20以下	塩化水素 (ppm)	0.014	0.001	0.015	0.02以下	ダイオキシン類 (pg-TEQ/m ³)	0.0033	0.13	0.13	0.6 以下	水銀 (μgHg/m ³)	0.010	0.004	0.014	0.04以下	項目	1時間値			環境保全目標値	寄与濃度	バックグラウンド濃度	将来濃度	二酸化窒素 (ppm)	0.007	0.012	0.019	0.1 以下	二酸化硫黄 (ppm)	0.008	0.01	0.018	0.1 以下	浮遊粒子状物質 (mg/m ³)	0.0021	0.071	0.073	0.20以下	塩化水素 (ppm)	0.008	0.001	0.009	0.02以下	ダイオキシン類 (pg-TEQ/m ³)	0.0021	0.13	0.13	0.6 以下	水銀 (μgHg/m ³)	0.006	0.004	0.010	0.04以下	<p>採用した予測手法は、その予測精度に係る知見が十分に蓄積されているものであり、予測の不確実性は小さい。また、採用する環境保全措置の効果にも不確実性は小さいと考えられることから、事後調査は実施しない。</p> <p>なお、事後調査とは別途、自主的な環境監視調査として、施設の稼働(排ガス)に伴う大気質への影響(存在・供用)に係るモニタリング調査を継続的に実施し、環境の状況の把握に努める。</p>
項目	1時間値			項目		1時間値																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	寄与濃度	バックグラウンド濃度	将来濃度		寄与濃度	バックグラウンド濃度	将来濃度																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
二酸化窒素 (ppm)	0.002	0.012	0.014	塩化水素 (ppm)	0.003	0.001	0.004																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
二酸化硫黄 (ppm)	0.003	0.01	0.013	ダイオキシン類 (pg-TEQ/m ³)	0.0007	0.13	0.13																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
浮遊粒子状物質 (mg/m ³)	0.0007	0.071	0.072	水銀 (μgHg/m ³)	0.002	0.004	0.006																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
項目	1時間値			項目	1時間値																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
	寄与濃度	バックグラウンド濃度	将来濃度		寄与濃度	バックグラウンド濃度	将来濃度																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
二酸化窒素 (ppm)	0.014	0.012	0.026	塩化水素 (ppm)	0.018	0.001	0.019																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
二酸化硫黄 (ppm)	0.018	0.01	0.028	ダイオキシン類 (pg-TEQ/m ³)	0.0044	0.13	0.13																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
浮遊粒子状物質 (mg/m ³)	0.0044	0.071	0.075	水銀 (μgHg/m ³)	0.013	0.004	0.017																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
項目	1時間値			項目	1時間値																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
	寄与濃度	バックグラウンド濃度	将来濃度		寄与濃度	バックグラウンド濃度	将来濃度																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
二酸化窒素 (ppm)	0.013	0.012	0.025	塩化水素 (ppm)	0.016	0.001	0.017																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
二酸化硫黄 (ppm)	0.016	0.01	0.026	ダイオキシン類 (pg-TEQ/m ³)	0.0041	0.13	0.13																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
浮遊粒子状物質 (mg/m ³)	0.0041	0.071	0.075	水銀 (μgHg/m ³)	0.012	0.004	0.016																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
項目	1時間値			項目	1時間値																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
	寄与濃度	バックグラウンド濃度	将来濃度		寄与濃度	バックグラウンド濃度	将来濃度																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
二酸化窒素 (ppm)	0.011	0.012	0.023	塩化水素 (ppm)	0.014	0.001	0.015																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
二酸化硫黄 (ppm)	0.014	0.01	0.024	ダイオキシン類 (pg-TEQ/m ³)	0.0033	0.13	0.13																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
浮遊粒子状物質 (mg/m ³)	0.0033	0.071	0.074	水銀 (μgHg/m ³)	0.010	0.004	0.014																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
項目	1時間値			項目	1時間値																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
	寄与濃度	バックグラウンド濃度	将来濃度		寄与濃度	バックグラウンド濃度	将来濃度																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
二酸化窒素 (ppm)	0.007	0.012	0.019	塩化水素 (ppm)	0.008	0.001	0.009																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
二酸化硫黄 (ppm)	0.008	0.01	0.018	ダイオキシン類 (pg-TEQ/m ³)	0.0021	0.13	0.13																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
浮遊粒子状物質 (mg/m ³)	0.0021	0.071	0.073	水銀 (μgHg/m ³)	0.006	0.004	0.010																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
項目	1時間値			環境保全目標値																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
	寄与濃度	バックグラウンド濃度	将来濃度																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
二酸化窒素 (ppm)	0.002	0.012	0.014	0.1 以下																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
二酸化硫黄 (ppm)	0.003	0.01	0.013	0.1 以下																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
浮遊粒子状物質 (mg/m ³)	0.0007	0.071	0.072	0.20以下																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
塩化水素 (ppm)	0.003	0.001	0.004	0.02以下																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
ダイオキシン類 (pg-TEQ/m ³)	0.0007	0.13	0.13	0.6 以下																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
水銀 (μgHg/m ³)	0.002	0.004	0.006	0.04以下																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
項目	1時間値			環境保全目標値																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
	寄与濃度	バックグラウンド濃度	将来濃度																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
二酸化窒素 (ppm)	0.014	0.012	0.026	0.1 以下																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
二酸化硫黄 (ppm)	0.018	0.01	0.028	0.1 以下																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
浮遊粒子状物質 (mg/m ³)	0.0044	0.071	0.075	0.20以下																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
塩化水素 (ppm)	0.018	0.001	0.019	0.02以下																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
ダイオキシン類 (pg-TEQ/m ³)	0.0044	0.13	0.13	0.6 以下																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
水銀 (μgHg/m ³)	0.013	0.004	0.017	0.04以下																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
項目	1時間値			環境保全目標値																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
	寄与濃度	バックグラウンド濃度	将来濃度																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
二酸化窒素 (ppm)	0.013	0.012	0.025	0.1 以下																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
二酸化硫黄 (ppm)	0.016	0.01	0.026	0.1 以下																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
浮遊粒子状物質 (mg/m ³)	0.0041	0.071	0.075	0.20以下																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
塩化水素 (ppm)	0.016	0.001	0.017	0.02以下																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
ダイオキシン類 (pg-TEQ/m ³)	0.0041	0.13	0.13	0.6 以下																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
水銀 (μgHg/m ³)	0.012	0.004	0.016	0.04以下																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
項目	1時間値			環境保全目標値																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
	寄与濃度	バックグラウンド濃度	将来濃度																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
二酸化窒素 (ppm)	0.011	0.012	0.023	0.1 以下																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
二酸化硫黄 (ppm)	0.014	0.01	0.024	0.1 以下																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
浮遊粒子状物質 (mg/m ³)	0.0033	0.071	0.074	0.20以下																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
塩化水素 (ppm)	0.014	0.001	0.015	0.02以下																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
ダイオキシン類 (pg-TEQ/m ³)	0.0033	0.13	0.13	0.6 以下																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
水銀 (μgHg/m ³)	0.010	0.004	0.014	0.04以下																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
項目	1時間値			環境保全目標値																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
	寄与濃度	バックグラウンド濃度	将来濃度																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
二酸化窒素 (ppm)	0.007	0.012	0.019	0.1 以下																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
二酸化硫黄 (ppm)	0.008	0.01	0.018	0.1 以下																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
浮遊粒子状物質 (mg/m ³)	0.0021	0.071	0.073	0.20以下																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
塩化水素 (ppm)	0.008	0.001	0.009	0.02以下																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
ダイオキシン類 (pg-TEQ/m ³)	0.0021	0.13	0.13	0.6 以下																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
水銀 (μgHg/m ³)	0.006	0.004	0.010	0.04以下																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															

表 6-4 環境影響評価の一覧

環境要素の区分	項目		調査結果	予測結果	環境保全措置	評価結果	事後調査																																																																																								
	環境要素の区分	影響要因の区分																																																																																													
大気質	大気質 (窒素酸化物、浮遊粒子状物質)	廃棄物の搬入等		<p>廃棄物運搬車両の運行に係る寄与濃度の年平均値は、二酸化窒素が 0.0004~0.0008ppm、浮遊粒子状物質が 0.00001~0.00002mg/m³ となった。また、バックグラウンド濃度を含めた予測結果(年平均値)は、二酸化窒素が 0.002~0.003ppm、浮遊粒子状物質が 0.015mg/m³ となった。</p> <p style="text-align: center;">< 廃棄物の搬入等に伴う二酸化窒素の予測結果 ></p> <p style="text-align: right;">[単位: ppm]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">予測地点</th> <th colspan="2">寄与濃度</th> <th rowspan="2">バックグラウンド濃度</th> <th rowspan="2">予測結果(年平均値)</th> </tr> <tr> <th>基礎交通量</th> <th>施設関係車両</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>上新宮</td> <td>古志 104 号線</td> <td>0.0000</td> <td>0.0005</td> <td rowspan="3">0.002</td> </tr> <tr> <td>下新宮</td> <td>新宮大谷線</td> <td>0.0003</td> <td>0.0004</td> </tr> <tr> <td>古志町地内</td> <td>古志 82 号線</td> <td>0.0003</td> <td>0.0008</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">< 廃棄物の搬入等に伴う浮遊粒子状物質の予測結果 ></p> <p style="text-align: right;">[単位: mg/m³]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">予測地点</th> <th colspan="2">寄与濃度</th> <th rowspan="2">バックグラウンド濃度</th> <th rowspan="2">予測結果(年平均値)</th> </tr> <tr> <th>基礎交通量</th> <th>施設関係車両</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>上新宮</td> <td>古志 104 号線</td> <td>0.00000</td> <td>0.00002</td> <td rowspan="3">0.015</td> </tr> <tr> <td>下新宮</td> <td>新宮大谷線</td> <td>0.00001</td> <td>0.00001</td> </tr> <tr> <td>古志町地内</td> <td>古志 82 号線</td> <td>0.00001</td> <td>0.00002</td> </tr> </tbody> </table>	予測地点	寄与濃度		バックグラウンド濃度	予測結果(年平均値)	基礎交通量	施設関係車両	上新宮	古志 104 号線	0.0000	0.0005	0.002	下新宮	新宮大谷線	0.0003	0.0004	古志町地内	古志 82 号線	0.0003	0.0008	予測地点	寄与濃度		バックグラウンド濃度	予測結果(年平均値)	基礎交通量	施設関係車両	上新宮	古志 104 号線	0.00000	0.00002	0.015	下新宮	新宮大谷線	0.00001	0.00001	古志町地内	古志 82 号線	0.00001	0.00002	<p>環境保全措置の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運転手の教育・指導: 積載量や走行速度等の交通法規を遵守し、アイドリングストップの励行や空ぶかしを行わない等、運転手の教育・指導を徹底する。 ・車両の維持管理: 車両の維持管理を徹底し、車両排ガス等を適正に保つ。 	<p>回避・低減に係る評価</p> <p>調査及び予測の結果、並びに環境保全措置の検討結果をふまえると、廃棄物の搬入等に伴う大気質への影響は、左記の環境保全措置を講じることにより、事業者の実行可能な範囲内で回避又は低減が図られているものと評価した。</p> <p>基準又は目標との整合に係る評価</p> <p>廃棄物の搬入等に伴う二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の評価結果は下記に示すとおりであり、環境の保全に係る基準又は目標との整合性が図られているものと評価した。</p> <p style="text-align: center;">< 廃棄物の搬入等に伴う二酸化窒素の評価結果 ></p> <p style="text-align: right;">[単位: ppm]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">予測地点</th> <th colspan="2">寄与濃度</th> <th rowspan="2">バックグラウンド濃度</th> <th rowspan="2">予測結果(年平均値)</th> <th rowspan="2">日平均値の年間 98% 値</th> <th rowspan="2">環境保全目標値</th> </tr> <tr> <th>基礎交通量</th> <th>施設関係車両</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>上新宮</td> <td>古志 104 号線</td> <td>0.0000</td> <td>0.0005</td> <td rowspan="3">0.002</td> <td rowspan="3">0.011</td> <td rowspan="3">0.04~0.06のゾーン内又はそれ以下</td> </tr> <tr> <td>下新宮</td> <td>新宮大谷線</td> <td>0.0003</td> <td>0.0004</td> </tr> <tr> <td>古志町地内</td> <td>古志 82 号線</td> <td>0.0003</td> <td>0.0008</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">< 廃棄物の搬入等に伴う浮遊粒子状物質の評価結果 ></p> <p style="text-align: right;">[単位: mg/m³]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">予測地点</th> <th colspan="2">寄与濃度</th> <th rowspan="2">バックグラウンド濃度</th> <th rowspan="2">予測結果(年平均値)</th> <th rowspan="2">日平均値の年間 2% 除外値</th> <th rowspan="2">環境保全目標値</th> </tr> <tr> <th>基礎交通量</th> <th>施設関係車両</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>上新宮</td> <td>古志 104 号線</td> <td>0.00000</td> <td>0.00002</td> <td rowspan="3">0.015</td> <td rowspan="3">0.039</td> <td rowspan="3">0.10 以下</td> </tr> <tr> <td>下新宮</td> <td>新宮大谷線</td> <td>0.00001</td> <td>0.00001</td> </tr> <tr> <td>古志町地内</td> <td>古志 82 号線</td> <td>0.00001</td> <td>0.00002</td> </tr> </tbody> </table>	予測地点	寄与濃度		バックグラウンド濃度	予測結果(年平均値)	日平均値の年間 98% 値	環境保全目標値	基礎交通量	施設関係車両	上新宮	古志 104 号線	0.0000	0.0005	0.002	0.011	0.04~0.06のゾーン内又はそれ以下	下新宮	新宮大谷線	0.0003	0.0004	古志町地内	古志 82 号線	0.0003	0.0008	予測地点	寄与濃度		バックグラウンド濃度	予測結果(年平均値)	日平均値の年間 2% 除外値	環境保全目標値	基礎交通量	施設関係車両	上新宮	古志 104 号線	0.00000	0.00002	0.015	0.039	0.10 以下	下新宮	新宮大谷線	0.00001	0.00001	古志町地内	古志 82 号線	0.00001	0.00002	<p>採用した予測手法は、その予測精度に係る知見が十分に蓄積されているものであり、予測の不確実性は小さい。また、採用する環境保全措置の効果にも不確実性は小さいと考えられることから、事後調査は実施しない。</p>
予測地点	寄与濃度		バックグラウンド濃度	予測結果(年平均値)																																																																																											
	基礎交通量	施設関係車両																																																																																													
上新宮	古志 104 号線	0.0000	0.0005	0.002																																																																																											
下新宮	新宮大谷線	0.0003	0.0004																																																																																												
古志町地内	古志 82 号線	0.0003	0.0008																																																																																												
予測地点	寄与濃度		バックグラウンド濃度	予測結果(年平均値)																																																																																											
	基礎交通量	施設関係車両																																																																																													
上新宮	古志 104 号線	0.00000	0.00002	0.015																																																																																											
下新宮	新宮大谷線	0.00001	0.00001																																																																																												
古志町地内	古志 82 号線	0.00001	0.00002																																																																																												
予測地点	寄与濃度		バックグラウンド濃度	予測結果(年平均値)	日平均値の年間 98% 値	環境保全目標値																																																																																									
	基礎交通量	施設関係車両																																																																																													
上新宮	古志 104 号線	0.0000	0.0005	0.002	0.011	0.04~0.06のゾーン内又はそれ以下																																																																																									
下新宮	新宮大谷線	0.0003	0.0004																																																																																												
古志町地内	古志 82 号線	0.0003	0.0008																																																																																												
予測地点	寄与濃度		バックグラウンド濃度	予測結果(年平均値)	日平均値の年間 2% 除外値	環境保全目標値																																																																																									
	基礎交通量	施設関係車両																																																																																													
上新宮	古志 104 号線	0.00000	0.00002	0.015	0.039	0.10 以下																																																																																									
下新宮	新宮大谷線	0.00001	0.00001																																																																																												
古志町地内	古志 82 号線	0.00001	0.00002																																																																																												

表 6-5 環境影響評価の一覧

環境要素の区分	項目		調査結果	予測結果	環境保全措置	評価結果	事後調査																																																																		
	環境要素の区分	影響要因の区分																																																																							
騒音	騒音	建設機械の稼働	<p>現地調査結果</p> <p>・環境騒音 上新宮地点では、休日昼間で41dB、休日夜間で32dB、平日昼間で45dB、平日夜間で28dB未満となり、いずれも環境基準値以下であった。 古志町地内(古志82号線)付近地点では、休日昼間で43dB、休日夜間で30dB、平日昼間で44dB、平日夜間で37dBとなり、いずれも環境基準値以下であった。</p> <p>・道路交通騒音 上新宮(古志104号線)地点では、休日昼間で47dB、休日夜間で42dB、平日昼間で47dB、平日夜間で41dBとなり、いずれも環境基準値以下であった。</p>	<p>建設機械の稼働に伴う騒音レベルの予測結果は、以下に示すとおりである。</p> <p><建設機械の稼働に伴う建設作業騒音(敷地境界)の予測結果> [単位: dB]</p> <table border="1"> <tr> <th>最大となる地点</th> <th>騒音レベル(L_{AS})</th> </tr> <tr> <td>東側敷地境界</td> <td>81</td> </tr> </table> <p><建設機械の稼働に伴う建設作業騒音(予測地点)の予測結果> [単位: dB]</p> <table border="1"> <tr> <th>平日休日の別^{注)}</th> <th>現況等価騒音レベル(L_{Aeq})</th> <th>実効騒音レベル(L_{Aeff})</th> <th>合成騒音レベル(L_{Aeq})(・)</th> </tr> <tr> <td>平日</td> <td>45</td> <td>53</td> <td>54</td> </tr> <tr> <td>休日</td> <td>41</td> <td>53</td> <td>53</td> </tr> </table> <p>注) 時間区分は、昼間(6時~22時)。</p>	最大となる地点	騒音レベル(L _{AS})	東側敷地境界	81	平日休日の別 ^{注)}	現況等価騒音レベル(L _{Aeq})	実効騒音レベル(L _{Aeff})	合成騒音レベル(L _{Aeq})(・)	平日	45	53	54	休日	41	53	53	<p>環境保全措置の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低騒音型建設機械の採用: できる限り低騒音型の建設機械を採用するよう努める。 ・作業時間の配慮: 建設機械の稼働を昼間に行う。 ・建設機械の稼働分散: 建設機械の稼働が可能な限り集中することがないように、使用時期や配置の分散にも努める。 ・作業方法の配慮: 建設機械の不要な空ぶかしの防止に努め、待機時のアイドリングストップの遵守を指導・徹底させる。 ・防音シート等の設置: 可能な限り防音シートや仮囲いを設置する。 	<p>回避・低減に係る評価 調査及び予測の結果、並びに環境保全措置の検討結果をふまえると、建設機械の稼働に伴う騒音の影響は、左記の環境保全措置を講じることにより、事業者の実行可能な範囲内で回避又は低減が図られているものと評価した。</p> <p>基準又は目標との整合に係る評価 建設機械の稼働に伴う騒音の評価結果は下記に示すとおりであり、環境の保全に係る基準又は目標との整合性が図られているものと評価した。</p> <p><建設機械の稼働に伴う建設作業騒音(敷地境界)の評価結果> [単位: dB]</p> <table border="1"> <tr> <th>最大となる地点</th> <th>騒音レベル(L_{AS})</th> <th>環境保全目標値</th> </tr> <tr> <td>東側敷地境界</td> <td>81</td> <td>85</td> </tr> </table> <p><建設機械の稼働に伴う建設作業騒音(予測地点)の評価結果> [単位: dB]</p> <table border="1"> <tr> <th>平日休日の別</th> <th>現況等価騒音レベル(L_{Aeq})</th> <th>実効騒音レベル(L_{Aeff})</th> <th>合成騒音レベル(L_{Aeq})(・)</th> <th>環境保全目標値^{注)}</th> </tr> <tr> <td>平日</td> <td>45</td> <td>53</td> <td>54</td> <td>55</td> </tr> <tr> <td>休日</td> <td>41</td> <td>53</td> <td>53</td> <td>55</td> </tr> </table> <p>注) 「騒音に係る環境基準」のB類型の昼間(6:00-22:00)の基準を適用した。</p>	最大となる地点	騒音レベル(L _{AS})	環境保全目標値	東側敷地境界	81	85	平日休日の別	現況等価騒音レベル(L _{Aeq})	実効騒音レベル(L _{Aeff})	合成騒音レベル(L _{Aeq})(・)	環境保全目標値 ^{注)}	平日	45	53	54	55	休日	41	53	53	55	<p>採用した予測手法は、その予測精度に係る知見が十分に蓄積されているものであり、予測の不確実性は小さい。また、採用する環境保全措置の効果にも不確実性は小さいと考えられることから、事後調査は実施しない。</p>																													
		最大となる地点	騒音レベル(L _{AS})																																																																						
東側敷地境界	81																																																																								
平日休日の別 ^{注)}	現況等価騒音レベル(L _{Aeq})	実効騒音レベル(L _{Aeff})	合成騒音レベル(L _{Aeq})(・)																																																																						
平日	45	53	54																																																																						
休日	41	53	53																																																																						
最大となる地点	騒音レベル(L _{AS})	環境保全目標値																																																																							
東側敷地境界	81	85																																																																							
平日休日の別	現況等価騒音レベル(L _{Aeq})	実効騒音レベル(L _{Aeff})	合成騒音レベル(L _{Aeq})(・)	環境保全目標値 ^{注)}																																																																					
平日	45	53	54	55																																																																					
休日	41	53	53	55																																																																					
資材及び機械の運搬に用いる車両の運行	<p>資材等運搬車両を付加した騒音レベルは56~62dBとなった。</p> <p><資材等運搬車両の運行に伴う道路交通騒音(L_{Aeq})の予測結果> [単位: dB]</p> <table border="1"> <tr> <th></th> <th>予測地点</th> <th>現況騒音レベル</th> <th>予測結果</th> <th>資材等運搬車両による増加分</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">平日</td> <td>上新宮(古志104号線)</td> <td>47</td> <td>57</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>下新宮(新宮大谷線)</td> <td>59</td> <td>61</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>古志町地内(古志82号線)</td> <td>59</td> <td>62</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">休日</td> <td>上新宮(古志104号線)</td> <td>47</td> <td>56</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>下新宮(新宮大谷線)</td> <td>60</td> <td>62</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>古志町地内(古志82号線)</td> <td>56</td> <td>60</td> <td>4</td> </tr> </table>		予測地点	現況騒音レベル	予測結果	資材等運搬車両による増加分	平日	上新宮(古志104号線)	47	57	10	下新宮(新宮大谷線)	59	61	2	古志町地内(古志82号線)	59	62	3	休日	上新宮(古志104号線)	47	56	9	下新宮(新宮大谷線)	60	62	2	古志町地内(古志82号線)	56	60	4	<p>環境保全措置の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運搬車両台数の低減: 土地の改変に伴う発生土砂は、極力、都市計画対象事業実施区域内で再利用するとともに、近傍の他事業において有効利用し、周辺道路を走行する工事用車両の台数を減らす。 ・車両の維持管理: 車両の維持管理を徹底する。 ・運行時間の分散: 沿道の通行時間帯の分散に努める。 ・運転手の教育・指導: 積載量や走行速度等の交通法規を遵守し、アイドリングストップの励行や空ぶかしを行わない等、運転手の教育・指導を徹底する。 	<p>回避・低減に係る評価 調査及び予測の結果、並びに環境保全措置の検討結果をふまえると、資材等運搬車両の運行に伴う騒音の影響は、左記の環境保全措置を講じることにより、事業者の実行可能な範囲内で回避又は低減が図られているものと評価した。</p> <p>基準又は目標との整合に係る評価 資材等運搬車両の運行に伴う騒音の評価結果は下記に示すとおりであり、環境の保全に係る基準又は目標との整合性が図られているものと評価した。</p> <p><資材等運搬車両の運行に伴う道路交通騒音(L_{Aeq})の評価結果> [単位: dB]</p> <table border="1"> <tr> <th></th> <th>予測地点</th> <th>現況騒音レベル</th> <th>予測結果</th> <th>環境保全目標値^{注)}</th> <th>資材等運搬車両による増加分</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">平日</td> <td>上新宮(古志104号線)</td> <td>47</td> <td>57</td> <td>65</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>下新宮(新宮大谷線)</td> <td>59</td> <td>61</td> <td>65</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>古志町地内(古志82号線)</td> <td>59</td> <td>62</td> <td>65</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">休日</td> <td>上新宮(古志104号線)</td> <td>47</td> <td>56</td> <td>65</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>下新宮(新宮大谷線)</td> <td>60</td> <td>62</td> <td>65</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>古志町地内(古志82号線)</td> <td>56</td> <td>60</td> <td>65</td> <td>4</td> </tr> </table> <p>注) 「騒音に係る環境基準」のB類型の昼間(6:00-22:00)の基準を適用した。</p>		予測地点	現況騒音レベル	予測結果	環境保全目標値 ^{注)}	資材等運搬車両による増加分	平日	上新宮(古志104号線)	47	57	65	10	下新宮(新宮大谷線)	59	61	65	2	古志町地内(古志82号線)	59	62	65	3	休日	上新宮(古志104号線)	47	56	65	9	下新宮(新宮大谷線)	60	62	65	2	古志町地内(古志82号線)	56	60	65	4	<p>採用した予測手法は、その予測精度に係る知見が十分に蓄積されているものであり、予測の不確実性は小さい。また、採用する環境保全措置の効果にも不確実性は小さいと考えられることから、事後調査は実施しない。</p>
	予測地点	現況騒音レベル	予測結果	資材等運搬車両による増加分																																																																					
平日	上新宮(古志104号線)	47	57	10																																																																					
	下新宮(新宮大谷線)	59	61	2																																																																					
	古志町地内(古志82号線)	59	62	3																																																																					
休日	上新宮(古志104号線)	47	56	9																																																																					
	下新宮(新宮大谷線)	60	62	2																																																																					
	古志町地内(古志82号線)	56	60	4																																																																					
	予測地点	現況騒音レベル	予測結果	環境保全目標値 ^{注)}	資材等運搬車両による増加分																																																																				
平日	上新宮(古志104号線)	47	57	65	10																																																																				
	下新宮(新宮大谷線)	59	61	65	2																																																																				
	古志町地内(古志82号線)	59	62	65	3																																																																				
休日	上新宮(古志104号線)	47	56	65	9																																																																				
	下新宮(新宮大谷線)	60	62	65	2																																																																				
	古志町地内(古志82号線)	56	60	65	4																																																																				

表 6-6 環境影響評価の一覧

環境要素の区分	項目		調査結果	予測結果	環境保全措置	評価結果	事後調査																																																																						
	環境要素の区分	影響要因の区分																																																																											
騒音	騒音	施設の稼働 (機械等の稼働)	<p>施設の稼働に伴う騒音レベルの予測結果は、以下に示すとおりである。</p> <p><施設の稼働に伴う騒音レベルの予測結果(最大地点)> [単位: dB]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>予測地点</th> <th>最大となる地点</th> <th>予測結果(L_{AS})</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>最大地点(敷地境界)</td> <td>西側敷地境界</td> <td>50</td> </tr> </tbody> </table> <p><施設の稼働に伴う騒音レベルの予測結果(上新宮)> [単位: dB]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">予測地点</th> <th colspan="2">区分</th> <th rowspan="2">予測結果^{注1)}(L_{AS})</th> <th rowspan="2">現況値(L_{Aeq})^{注2)}</th> <th rowspan="2">予測結果^{注3)}(L_{Aeq})</th> </tr> <tr> <th>平日</th> <th>夜間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">上新宮</td> <td rowspan="2">平日</td> <td>昼間</td> <td rowspan="4">32</td> <td>45</td> <td>45</td> </tr> <tr> <td>夜間</td> <td>28</td> <td>33</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">休日</td> <td>昼間</td> <td>41</td> <td>42</td> </tr> <tr> <td>夜間</td> <td>32</td> <td>35</td> </tr> </tbody> </table> <p>注1) 施設からの寄与レベルを示す。 注2) 騒音計の測定下限値である28dB未満であったが、本予測においては28dBとして考慮した。 注3) 予測結果は、施設からの寄与(L_{AS})を安全側で等価騒音レベル(L_{Aeq})として扱い、予測地点における現況調査結果(L_{Aeq})と合成した値である。</p>	予測地点	最大となる地点	予測結果(L _{AS})	最大地点(敷地境界)	西側敷地境界	50	予測地点	区分		予測結果 ^{注1)} (L _{AS})	現況値(L _{Aeq}) ^{注2)}	予測結果 ^{注3)} (L _{Aeq})	平日	夜間	上新宮	平日	昼間	32	45	45	夜間	28	33	休日	昼間	41	42	夜間	32	35	<p>環境保全措置の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> 騒音発生機器の配慮: できる限り低騒音型の設備機器を採用する。また、大きな騒音を発生する機器は防音構造の室内に収納し、必要に応じて消音器の設置や防音扉の設置等の対策を行う。 	<p>回避・低減に係る評価</p> <p>調査及び予測の結果、並びに環境保全措置の検討結果をふまえると、施設の稼働に伴う騒音の影響は、左記の環境保全措置を講じることにより、事業者の実行可能な範囲内で回避又は低減が図られているものと評価した。</p> <p>基準又は目標との整合に係る評価</p> <p>施設の稼働に伴う騒音の評価結果は下記に示すとおりであり、環境の保全に係る基準又は目標との整合性が図られているものと評価した。</p> <p><施設の稼働に伴う騒音レベルの評価結果(最大地点)> [単位: dB]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>予測地点</th> <th>区分</th> <th>最大となる地点</th> <th>予測結果(L_{AS})</th> <th>環境保全目標値(L_{AS})^{注)}</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">最大地点(敷地境界)</td> <td>昼間</td> <td rowspan="2">西側敷地境界</td> <td rowspan="2">50</td> <td>60</td> </tr> <tr> <td>夜間</td> <td>50</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 予測地点は「特定工場等において発生する騒音の規制に関する基準」の規制地域外になっているが、古志町の一部が第3種区域に指定されているため、当該地域の規制基準を適用した。なお、昼間については、朝～夕の時間帯に係る各基準値のうち、最も厳しい朝・夕の時間帯の基準値を適用した。</p> <p><施設の稼働に伴う騒音レベルの評価結果(上新宮)> [単位: dB]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">予測地点</th> <th colspan="2">区分</th> <th rowspan="2">予測結果^{注1)}(L_{AS})</th> <th rowspan="2">現況値(L_{Aeq})</th> <th rowspan="2">予測結果^{注2)}(L_{Aeq})</th> <th rowspan="2">環境保全目標値^{注3)}(L_{Aeq})</th> </tr> <tr> <th>平日</th> <th>夜間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">上新宮</td> <td rowspan="2">平日</td> <td>昼間</td> <td rowspan="4">32</td> <td>45</td> <td>45</td> <td>55</td> </tr> <tr> <td>夜間</td> <td>28</td> <td>33</td> <td>45</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">休日</td> <td>昼間</td> <td>41</td> <td>42</td> <td>55</td> </tr> <tr> <td>夜間</td> <td>32</td> <td>35</td> <td>45</td> </tr> </tbody> </table> <p>注1) 施設からの寄与レベルを示す。 注2) 予測結果は、施設からの寄与(L_{AS})を安全側で等価騒音レベル(L_{Aeq})として扱い、予測地点における現況調査結果(L_{Aeq})と合成した値である。 注3) 「騒音に係る環境基準」のB類型の昼間(6:00-22:00)の基準を適用した。</p>	予測地点	区分	最大となる地点	予測結果(L _{AS})	環境保全目標値(L _{AS}) ^{注)}	最大地点(敷地境界)	昼間	西側敷地境界	50	60	夜間	50	予測地点	区分		予測結果 ^{注1)} (L _{AS})	現況値(L _{Aeq})	予測結果 ^{注2)} (L _{Aeq})	環境保全目標値 ^{注3)} (L _{Aeq})	平日	夜間	上新宮	平日	昼間	32	45	45	55	夜間	28	33	45	休日	昼間	41	42	55	夜間	32	35	45	<p>採用した予測手法は、その予測精度に係る知見が十分に蓄積されているものであり、予測の不確実性は小さい。また、採用する環境保全措置の効果にも不確実性は小さいと考えられることから、事後調査は実施しない。</p> <p>なお、事後調査とは別途、自主的な環境監視調査として施設の稼働(機械等の稼働)に伴う騒音に係るモニタリング調査を継続的に実施し、環境の状況の把握に努める。</p>
		予測地点	最大となる地点	予測結果(L _{AS})																																																																									
最大地点(敷地境界)	西側敷地境界	50																																																																											
予測地点	区分		予測結果 ^{注1)} (L _{AS})	現況値(L _{Aeq}) ^{注2)}	予測結果 ^{注3)} (L _{Aeq})																																																																								
	平日	夜間																																																																											
上新宮	平日	昼間	32	45	45																																																																								
		夜間		28	33																																																																								
	休日	昼間		41	42																																																																								
		夜間		32	35																																																																								
予測地点	区分	最大となる地点	予測結果(L _{AS})	環境保全目標値(L _{AS}) ^{注)}																																																																									
最大地点(敷地境界)	昼間	西側敷地境界	50	60																																																																									
	夜間			50																																																																									
予測地点	区分		予測結果 ^{注1)} (L _{AS})	現況値(L _{Aeq})	予測結果 ^{注2)} (L _{Aeq})	環境保全目標値 ^{注3)} (L _{Aeq})																																																																							
	平日	夜間																																																																											
上新宮	平日	昼間	32	45	45	55																																																																							
		夜間		28	33	45																																																																							
	休日	昼間		41	42	55																																																																							
		夜間		32	35	45																																																																							
	廃棄物の搬入等	<p>施設関連車両台数を付加した騒音レベルは57～65dBとなった。</p> <p><廃棄物の搬入等に伴う道路交通騒音(L_{Aeq})の予測結果> [単位: dB]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>予測地点</th> <th>現況騒音レベル</th> <th>予測結果</th> <th>施設関係車両による増加分</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">平日</td> <td>上新宮(古志104号線)</td> <td>47</td> <td>61</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>下新宮(新宮大谷線)</td> <td>59</td> <td>63</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>古志町地内(古志82号線)</td> <td>59</td> <td>65</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">休日</td> <td>上新宮(古志104号線)</td> <td>47</td> <td>57</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>下新宮(新宮大谷線)</td> <td>60</td> <td>62</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>古志町地内(古志82号線)</td> <td>56</td> <td>61</td> <td>5</td> </tr> </tbody> </table>		予測地点	現況騒音レベル	予測結果	施設関係車両による増加分	平日	上新宮(古志104号線)	47	61	14	下新宮(新宮大谷線)	59	63	4	古志町地内(古志82号線)	59	65	6	休日	上新宮(古志104号線)	47	57	10	下新宮(新宮大谷線)	60	62	2	古志町地内(古志82号線)	56	61	5	<p>環境保全措置の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> 運転手の教育・指導: 走行速度等の交通法規を遵守し、アイドリングストップの励行や空ぶかしを行わない等、運転手の教育・指導を徹底する。 車両の維持管理: 車両の維持管理を徹底する。 	<p>回避・低減に係る評価</p> <p>調査及び予測の結果、並びに環境保全措置の検討結果をふまえると、廃棄物の搬入等に伴う騒音の影響は、左記の環境保全措置を講じることにより、事業者の実行可能な範囲内で回避又は低減が図られているものと評価した。</p> <p>基準又は目標との整合に係る評価</p> <p>廃棄物の搬入等に伴う騒音の評価結果は下記に示すとおりであり、環境の保全に係る基準又は目標との整合性が図られているものと評価した。</p> <p><廃棄物の搬入等に伴う道路交通騒音(L_{Aeq})の評価結果> [単位: dB]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>予測地点</th> <th>現況騒音レベル</th> <th>予測結果</th> <th>環境保全目標値^{注)}</th> <th>施設関係車両による増加分</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">平日</td> <td>上新宮(古志104号線)</td> <td>47</td> <td>61</td> <td rowspan="6">65</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>下新宮(新宮大谷線)</td> <td>59</td> <td>63</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>古志町地内(古志82号線)</td> <td>59</td> <td>65</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">休日</td> <td>上新宮(古志104号線)</td> <td>47</td> <td>57</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>下新宮(新宮大谷線)</td> <td>60</td> <td>62</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>古志町地内(古志82号線)</td> <td>56</td> <td>61</td> <td>5</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 「騒音に係る環境基準」のB類型の昼間(6:00-22:00)の基準を適用した。</p>		予測地点	現況騒音レベル	予測結果	環境保全目標値 ^{注)}	施設関係車両による増加分	平日	上新宮(古志104号線)	47	61	65	14	下新宮(新宮大谷線)	59	63	4	古志町地内(古志82号線)	59	65	6	休日	上新宮(古志104号線)	47	57	10	下新宮(新宮大谷線)	60	62	2	古志町地内(古志82号線)	56	61	5	<p>採用した予測手法は、その予測精度に係る知見が十分に蓄積されているものであり、予測の不確実性は小さい。また、採用する環境保全措置の効果にも不確実性は小さいと考えられることから、事後調査は実施しない。</p>								
	予測地点	現況騒音レベル	予測結果	施設関係車両による増加分																																																																									
平日	上新宮(古志104号線)	47	61	14																																																																									
	下新宮(新宮大谷線)	59	63	4																																																																									
	古志町地内(古志82号線)	59	65	6																																																																									
休日	上新宮(古志104号線)	47	57	10																																																																									
	下新宮(新宮大谷線)	60	62	2																																																																									
	古志町地内(古志82号線)	56	61	5																																																																									
	予測地点	現況騒音レベル	予測結果	環境保全目標値 ^{注)}	施設関係車両による増加分																																																																								
平日	上新宮(古志104号線)	47	61	65	14																																																																								
	下新宮(新宮大谷線)	59	63		4																																																																								
	古志町地内(古志82号線)	59	65		6																																																																								
休日	上新宮(古志104号線)	47	57		10																																																																								
	下新宮(新宮大谷線)	60	62		2																																																																								
	古志町地内(古志82号線)	56	61		5																																																																								

表 6-7 環境影響評価の一覧

環境要素の区分	項目		調査結果	予測結果	環境保全措置	評価結果	事後調査																																																																
	環境要素の区分	影響要因の区分																																																																					
振動	振動	建設機械の稼働	<p>現地調査結果</p> <p>・環境振動 上新宮地点では、平日昼間、平日夜間、休日昼間、休日夜間ともに25dB未満であり、いずれも振動感覚閾値（人が振動を感じ始める値:55dB）以下であった。 古志町地内（古志82号線）付近地点では、平日昼間、平日夜間、休日昼間、休日夜間ともに25dB未満であり、いずれも振動感覚閾値（人が振動を感じ始める値:55dB）以下であった。</p> <p>・道路交通振動 上新宮（古志104号線）地点では、平日昼間、平日夜間、休日昼間、休日夜間ともに25dB未満であり、いずれも要請限度値以下であった。 下新宮（新宮大谷線）地点では、平日昼間:25dB、平日夜間:25dB未満、休日昼間:25dB、休日夜間:25dBで、いずれも要請限度値以下であった。 古志町地内（古志82号線）地点では、平日昼間、平日夜間、休日昼間、休日夜間ともに25dB未満であり、いずれも要請限度値以下であった。</p>	<p>建設機械の稼働に伴う振動レベルの予測結果は、以下に示すとおりである。</p> <p>< 建設機械の稼働に伴う建設作業振動（敷地境界）の予測結果 > [単位：dB]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>最大となる地点</th> <th>振動レベル（L₁₀）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>東側敷地境界</td> <td>65</td> </tr> </tbody> </table> <p>< 建設機械の稼働に伴う建設作業振動（敷地境界）の予測結果 > [単位：dB]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>平日休日の別^{注1}</th> <th>現況振動レベル（L₁₀）</th> <th>振動レベル（L₁₀）</th> <th>合成振動レベル（L₁₀）（・）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平日</td> <td>25</td> <td>29</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>休日</td> <td>25</td> <td>29</td> <td>30</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 時間区分は、昼間（6時～22時）。</p>	最大となる地点	振動レベル（L ₁₀ ）	東側敷地境界	65	平日休日の別 ^{注1}	現況振動レベル（L ₁₀ ）	振動レベル（L ₁₀ ）	合成振動レベル（L ₁₀ ）（・）	平日	25	29	30	休日	25	29	30	<p>環境保全措置の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低振動型建設機械の採用：できる限り低振動型の建設機械を採用するよう努める。 ・作業時間の配慮：建設機械の稼働を昼間に行う。 ・建設機械の稼働分散：建設機械の稼働が可能な限り集中することがないよう、使用時期や配置の分散にも努める。 ・作業方法の配慮：建設機械の不要な空ぶかしの防止に努め、待機時のアイドリングストップの遵守を指導・徹底させる。 	<p>回避・低減に係る評価 調査及び予測の結果、並びに環境保全措置の検討結果をふまえると、建設機械の稼働に伴う振動の影響は、左記の環境保全措置を講じることにより、事業者の実行可能な範囲内で回避又は低減が図られているものと評価した。</p> <p>基準又は目標との整合に係る評価 建設機械の稼働に伴う振動の評価結果は下記に示すとおりであり、環境の保全に係る基準又は目標との整合性が図られているものと評価した。</p> <p>< 建設機械の稼働に伴う建設作業振動（敷地境界）の評価結果 > [単位：dB]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>最大となる地点</th> <th>振動レベル（L₁₀）</th> <th>環境保全目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>東側敷地境界</td> <td>65</td> <td>75以下</td> </tr> </tbody> </table> <p>< 建設機械の稼働に伴う建設作業振動（敷地境界）の評価結果 > [単位：dB]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>平日休日の別</th> <th>現況振動レベル（L₁₀）</th> <th>振動レベル（L₁₀）</th> <th>合成振動レベル（L₁₀）（・）</th> <th>環境保全目標値^{注2}</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平日</td> <td>25</td> <td>29</td> <td>30</td> <td>55</td> </tr> <tr> <td>休日</td> <td>25</td> <td>29</td> <td>30</td> <td>55</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 振動の感覚閾値（人が振動を感じ始める値：55dB）を適用した。</p>	最大となる地点	振動レベル（L ₁₀ ）	環境保全目標値	東側敷地境界	65	75以下	平日休日の別	現況振動レベル（L ₁₀ ）	振動レベル（L ₁₀ ）	合成振動レベル（L ₁₀ ）（・）	環境保全目標値 ^{注2}	平日	25	29	30	55	休日	25	29	30	55	<p>採用した予測手法は、その予測精度に係る知見が十分に蓄積されているものであり、予測の不確実性は小さい。また、採用する環境保全措置の効果にも不確実性は小さいと考えられることから、事後調査は実施しない。</p>																											
		最大となる地点	振動レベル（L ₁₀ ）																																																																				
東側敷地境界	65																																																																						
平日休日の別 ^{注1}	現況振動レベル（L ₁₀ ）	振動レベル（L ₁₀ ）	合成振動レベル（L ₁₀ ）（・）																																																																				
平日	25	29	30																																																																				
休日	25	29	30																																																																				
最大となる地点	振動レベル（L ₁₀ ）	環境保全目標値																																																																					
東側敷地境界	65	75以下																																																																					
平日休日の別	現況振動レベル（L ₁₀ ）	振動レベル（L ₁₀ ）	合成振動レベル（L ₁₀ ）（・）	環境保全目標値 ^{注2}																																																																			
平日	25	29	30	55																																																																			
休日	25	29	30	55																																																																			
		資材及び機械の運搬に用いる車両の運行	<p>・地盤卓越振動数 各地点の地盤卓越振動数は18.0～35.1Hzであった。</p>	<p>工用車両を付加した振動レベルは35～38dBとなった。</p> <p>< 資材等運搬車両の運行に伴う道路交通振動（L₁₀）の予測結果 > [単位：dB]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>予測地点</th> <th>現況振動レベル^{注1}</th> <th>予測結果</th> <th>資材等運搬車両による増加分</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">平日</td> <td>上新宮(古志104号線)</td> <td>25</td> <td>35</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>下新宮(新宮大谷線)</td> <td>25</td> <td>35</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>古志町地内(古志82号線)</td> <td>25</td> <td>38</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">休日</td> <td>上新宮(古志104号線)</td> <td>25</td> <td>35</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>下新宮(新宮大谷線)</td> <td>25</td> <td>35</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>古志町地内(古志82号線)</td> <td>25</td> <td>38</td> <td>13</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 現況振動レベルは、予測結果が最大となる時間帯の振動レベルの実測値を示す。</p>		予測地点	現況振動レベル ^{注1}	予測結果	資材等運搬車両による増加分	平日	上新宮(古志104号線)	25	35	10	下新宮(新宮大谷線)	25	35	10	古志町地内(古志82号線)	25	38	13	休日	上新宮(古志104号線)	25	35	10	下新宮(新宮大谷線)	25	35	10	古志町地内(古志82号線)	25	38	13	<p>環境保全措置の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運搬車両台数の低減：土地の改変に伴う発生土砂は、極力、都市計画対象事業実施区域内で再利用するとともに、近傍の他事業において有効利用し、周辺道路を走行する工用車両の台数を減らす。 ・車両の維持管理：車両の維持管理を徹底する。 ・運行時間の分散：沿道の通行時間帯の分散に努める。 ・運転手の教育・指導：積載量や走行速度等の交通法規を遵守し、アイドリングストップの励行や空ぶかしを行わない等、運転手の教育・指導を徹底する。 	<p>回避・低減に係る評価 調査及び予測の結果、並びに環境保全措置の検討結果をふまえると、資材等運搬車両の運行に伴う振動の影響は、左記の環境保全措置を講じることにより、事業者の実行可能な範囲内で回避又は低減が図られているものと評価した。</p> <p>基準又は目標との整合に係る評価 資材等運搬車両の運行に伴う振動の評価結果は下記に示すとおりであり、環境の保全に係る基準又は目標との整合性が図られているものと評価した。</p> <p>< 資材等運搬車両の運行に伴う道路交通振動（L₁₀）の評価結果 > [単位：dB]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>予測地点</th> <th>現況振動レベル^{注1}</th> <th>予測結果</th> <th>環境保全目標値^{注2}</th> <th>資材等運搬車両による増加分</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">平日</td> <td>上新宮(古志104号線)</td> <td>25</td> <td>35</td> <td rowspan="6">70</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>下新宮(新宮大谷線)</td> <td>25</td> <td>35</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>古志町地内(古志82号線)</td> <td>25</td> <td>38</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">休日</td> <td>上新宮(古志104号線)</td> <td>25</td> <td>35</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>下新宮(新宮大谷線)</td> <td>25</td> <td>35</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>古志町地内(古志82号線)</td> <td>25</td> <td>38</td> <td>13</td> </tr> </tbody> </table> <p>注1) 現況振動レベルは、予測結果が最大となる時間帯の振動レベルの実測値を示す。 注2) 「道路交通振動の要請限度」の第2種地域の昼間の値を適用した。</p>		予測地点	現況振動レベル ^{注1}	予測結果	環境保全目標値 ^{注2}	資材等運搬車両による増加分	平日	上新宮(古志104号線)	25	35	70	10	下新宮(新宮大谷線)	25	35	10	古志町地内(古志82号線)	25	38	13	休日	上新宮(古志104号線)	25	35	10	下新宮(新宮大谷線)	25	35	10	古志町地内(古志82号線)	25	38	13	<p>採用した予測手法は、その予測精度に係る知見が十分に蓄積されているものであり、予測の不確実性は小さい。また、採用する環境保全措置の効果にも不確実性は小さいと考えられることから、事後調査は実施しない。</p>
	予測地点	現況振動レベル ^{注1}	予測結果	資材等運搬車両による増加分																																																																			
平日	上新宮(古志104号線)	25	35	10																																																																			
	下新宮(新宮大谷線)	25	35	10																																																																			
	古志町地内(古志82号線)	25	38	13																																																																			
休日	上新宮(古志104号線)	25	35	10																																																																			
	下新宮(新宮大谷線)	25	35	10																																																																			
	古志町地内(古志82号線)	25	38	13																																																																			
	予測地点	現況振動レベル ^{注1}	予測結果	環境保全目標値 ^{注2}	資材等運搬車両による増加分																																																																		
平日	上新宮(古志104号線)	25	35	70	10																																																																		
	下新宮(新宮大谷線)	25	35		10																																																																		
	古志町地内(古志82号線)	25	38		13																																																																		
休日	上新宮(古志104号線)	25	35		10																																																																		
	下新宮(新宮大谷線)	25	35		10																																																																		
	古志町地内(古志82号線)	25	38		13																																																																		

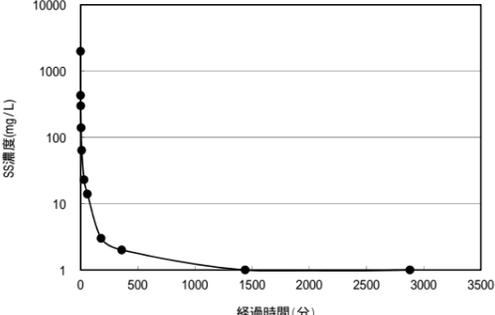
表 6-8 環境影響評価の一覧

環境要素の区分	項目		調査結果	予測結果	環境保全措置	評価結果	事後調査																																																														
	環境要素の区分	影響要因の区分																																																																			
振動	振動	施設の稼働（機械等の稼働）	<p>施設の稼働に伴う振動レベルの予測結果は、以下に示すとおりである。</p> <p><施設の稼働に伴う振動レベルの予測結果（最大地点）> [単位：dB]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>最大地点</th> <th>最大となる地点</th> <th>予測結果(L₁₀)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>最大地点(敷地境界)</td> <td>西側敷地境界</td> <td>54</td> </tr> </tbody> </table> <p><施設の稼働に伴う振動レベルの予測結果（上新宮）> [単位：dB]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>予測地点</th> <th>区分</th> <th>予測結果^{注1)}(L₁₀)</th> <th>現況値^{注2)}(L₁₀)</th> <th>予測結果^{注3)}(L₁₀)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">上新宮</td> <td rowspan="2">平日</td> <td>昼間</td> <td>25</td> <td>25</td> </tr> <tr> <td>夜間</td> <td>25</td> <td>25</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">休日</td> <td>昼間</td> <td>25</td> <td>25</td> </tr> <tr> <td>夜間</td> <td>25</td> <td>25</td> </tr> </tbody> </table> <p>注1) 施設からの寄与レベルを示す。 注2) 現況値は、振動計の測定下限値である25dB未満であったが、本予測においては25dBとして考慮した。 注3) 施設からの寄与(L₁₀)と予測地点における現況調査結果(L₁₀)を合成した値である。</p>	最大地点	最大となる地点	予測結果(L ₁₀)	最大地点(敷地境界)	西側敷地境界	54	予測地点	区分	予測結果 ^{注1)} (L ₁₀)	現況値 ^{注2)} (L ₁₀)	予測結果 ^{注3)} (L ₁₀)	上新宮	平日	昼間	25	25	夜間	25	25	休日	昼間	25	25	夜間	25	25	<p>施設の稼働に伴う振動レベルの予測結果は、以下に示すとおりである。</p> <p><施設の稼働に伴う振動レベルの予測結果（最大地点）> [単位：dB]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>最大地点</th> <th>区分</th> <th>最大となる地点</th> <th>予測結果(L₁₀)</th> <th>環境保全目標値(L₁₀)^{注)}</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">最大地点(敷地境界)</td> <td>昼間</td> <td rowspan="3">西側敷地境界</td> <td rowspan="3">54</td> <td>65</td> </tr> <tr> <td>夜間</td> <td>60</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 予測地点は「特定工場等において発生する振動の規制に関する基準」の規制地域外になっているが、古志町の一部が第2種区域に指定されているため、当該地域の規制基準を適用した。</p> <p><施設の稼働に伴う振動レベルの評価結果（上新宮）> [単位：dB]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>予測地点</th> <th>区分</th> <th>予測結果^{注1)}(L₁₀)</th> <th>現況値^{注2)}(L₁₀)</th> <th>予測結果^{注3)}(L₁₀)</th> <th>環境保全目標値^{注3)}(L₁₀)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">上新宮</td> <td rowspan="2">平日</td> <td>昼間</td> <td rowspan="4">14</td> <td>25</td> <td rowspan="4">55</td> </tr> <tr> <td>夜間</td> <td>25</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">休日</td> <td>昼間</td> <td>25</td> </tr> <tr> <td>夜間</td> <td>25</td> </tr> </tbody> </table> <p>注1) 施設からの寄与レベルを示す。 注2) 予測結果は、施設からの寄与(L₁₀)と予測地点における現況調査結果(L₁₀)を合成した値である。 注3) 振動の感覚閾値(人が振動を感じ始める値:55dB)を適用した。</p>	最大地点	区分	最大となる地点	予測結果(L ₁₀)	環境保全目標値(L ₁₀) ^{注)}	最大地点(敷地境界)	昼間	西側敷地境界	54	65	夜間	60	予測地点	区分	予測結果 ^{注1)} (L ₁₀)	現況値 ^{注2)} (L ₁₀)	予測結果 ^{注3)} (L ₁₀)	環境保全目標値 ^{注3)} (L ₁₀)	上新宮	平日	昼間	14	25	55	夜間	25	休日	昼間	25	夜間	25	<p>環境保全措置の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振動発生機器の配慮：できる限り低振動型の設備機器を採用し、また、大きな振動源となる機器は強固な基礎や独立基礎上に設置する。 	<p>回避・低減に係る評価</p> <p>調査及び予測の結果、並びに環境保全措置の検討結果をふまえると、施設の稼働に伴う振動の影響は、左記の環境保全措置を講じることにより、事業者の実行可能な範囲内で回避又は低減が図られているものと評価した。</p> <p>基準又は目標との整合に係る評価</p> <p>施設の稼働に伴う振動の評価結果は下記に示すとおりであり、環境の保全に係る基準又は目標との整合性が図られているものと評価した。</p>	<p>採用した予測手法は、その予測精度に係る知見が十分に蓄積されているものであり、予測の不確実性は小さい。また、採用する環境保全措置の効果にも不確実性は小さいと考えられることから、事後調査は実施しない。</p> <p>なお、事後調査とは別途、自主的な環境監視調査として施設の稼働（機械等の稼働）に伴う振動に係るモニタリング調査を継続的に実施し、環境の状況の把握に努める。</p>					
		最大地点	最大となる地点	予測結果(L ₁₀)																																																																	
最大地点(敷地境界)	西側敷地境界	54																																																																			
予測地点	区分	予測結果 ^{注1)} (L ₁₀)	現況値 ^{注2)} (L ₁₀)	予測結果 ^{注3)} (L ₁₀)																																																																	
上新宮	平日	昼間	25	25																																																																	
		夜間	25	25																																																																	
	休日	昼間	25	25																																																																	
		夜間	25	25																																																																	
最大地点	区分	最大となる地点	予測結果(L ₁₀)	環境保全目標値(L ₁₀) ^{注)}																																																																	
最大地点(敷地境界)	昼間	西側敷地境界	54	65																																																																	
	夜間			60																																																																	
	予測地点			区分	予測結果 ^{注1)} (L ₁₀)	現況値 ^{注2)} (L ₁₀)	予測結果 ^{注3)} (L ₁₀)	環境保全目標値 ^{注3)} (L ₁₀)																																																													
上新宮	平日	昼間	14	25	55																																																																
		夜間		25																																																																	
	休日	昼間		25																																																																	
		夜間		25																																																																	
	廃棄物の搬入等	<p>施設関連車両台数を付加した振動レベルは31～37dBとなった。</p> <p><廃棄物の搬入等に伴う道路交通振動(L₁₀)の予測結果> [単位：dB]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>予測地点</th> <th>現況振動レベル^{注)}</th> <th>予測結果</th> <th>交通量増加台数による増加分</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">平日</td> <td>上新宮(古志104号線)</td> <td>25</td> <td>37</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>下新宮(新宮大谷線)</td> <td>25</td> <td>37</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>古志町地内(古志82号線)</td> <td>25</td> <td>35</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">休日</td> <td>上新宮(古志104号線)</td> <td>25</td> <td>36</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>下新宮(新宮大谷線)</td> <td>25</td> <td>31</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>古志町地内(古志82号線)</td> <td>25</td> <td>34</td> <td>9</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 現況振動レベルは、施設関係車両が走行する時間帯の中で予測結果が最大となる時間帯の振動レベルの実測値を示す。</p>		予測地点	現況振動レベル ^{注)}	予測結果	交通量増加台数による増加分	平日	上新宮(古志104号線)	25	37	12	下新宮(新宮大谷線)	25	37	12	古志町地内(古志82号線)	25	35	10	休日	上新宮(古志104号線)	25	36	11	下新宮(新宮大谷線)	25	31	6	古志町地内(古志82号線)	25	34	9	<p>環境保全措置の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運転手の教育・指導：走行速度等の交通法規を遵守し、アイドリングストップの励行や空ぶかしを行わない等、運転手の教育・指導を徹底する。 	<p>回避・低減に係る評価</p> <p>調査及び予測の結果、並びに環境保全措置の検討結果をふまえると、廃棄物の搬入等に伴う振動の影響は、左記の環境保全措置を講じることにより、事業者の実行可能な範囲内で回避又は低減が図られているものと評価した。</p> <p>基準又は目標との整合に係る評価</p> <p>廃棄物の搬入等に伴う振動の評価結果は下記に示すとおりであり、環境の保全に係る基準又は目標との整合性が図られているものと評価した。</p> <p><廃棄物の搬入等に伴う道路交通振動(L₁₀)の評価結果> [単位：dB]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>予測地点</th> <th>現況振動レベル^{注1)}</th> <th>予測結果</th> <th>環境保全目標値^{注2)}</th> <th>交通量増加台数による増加分</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">平日</td> <td>上新宮(古志104号線)</td> <td>25</td> <td>37</td> <td rowspan="6">70</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>下新宮(新宮大谷線)</td> <td>25</td> <td>37</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>古志町地内(古志82号線)</td> <td>25</td> <td>35</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">休日</td> <td>上新宮(古志104号線)</td> <td>25</td> <td>36</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>下新宮(新宮大谷線)</td> <td>25</td> <td>31</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>古志町地内(古志82号線)</td> <td>25</td> <td>34</td> <td>9</td> </tr> </tbody> </table> <p>注1) 現況振動レベルは、予測結果が最大となる時間帯の振動レベルの実測値を示す。 注2) 「道路交通振動の要請限度」の第2種地域の昼間の値を適用した。</p>		予測地点	現況振動レベル ^{注1)}	予測結果	環境保全目標値 ^{注2)}	交通量増加台数による増加分	平日	上新宮(古志104号線)	25	37	70	12	下新宮(新宮大谷線)	25	37	12	古志町地内(古志82号線)	25	35	10	休日	上新宮(古志104号線)	25	36	11	下新宮(新宮大谷線)	25	31	6	古志町地内(古志82号線)	25	34	9	<p>採用した予測手法は、その予測精度に係る知見が十分に蓄積されているものであり、予測の不確実性は小さい。また、採用する環境保全措置の効果にも不確実性は小さいと考えられることから、事後調査は実施しない。</p>
	予測地点	現況振動レベル ^{注)}	予測結果	交通量増加台数による増加分																																																																	
平日	上新宮(古志104号線)	25	37	12																																																																	
	下新宮(新宮大谷線)	25	37	12																																																																	
	古志町地内(古志82号線)	25	35	10																																																																	
休日	上新宮(古志104号線)	25	36	11																																																																	
	下新宮(新宮大谷線)	25	31	6																																																																	
	古志町地内(古志82号線)	25	34	9																																																																	
	予測地点	現況振動レベル ^{注1)}	予測結果	環境保全目標値 ^{注2)}	交通量増加台数による増加分																																																																
平日	上新宮(古志104号線)	25	37	70	12																																																																
	下新宮(新宮大谷線)	25	37		12																																																																
	古志町地内(古志82号線)	25	35		10																																																																
休日	上新宮(古志104号線)	25	36		11																																																																
	下新宮(新宮大谷線)	25	31		6																																																																
	古志町地内(古志82号線)	25	34		9																																																																

表 6-9 環境影響評価の一覧

環境要素の区分	項目		調査結果	予測結果	環境保全措置	評価結果	事後調査																																																											
	環境要素の区分	影響要因の区分																																																																
悪臭	悪臭	施設の稼働（排ガス）	<p>現地調査結果 試料採取及び分析の結果、St.1（最寄住居付近）では全ての項目が定量下限値未満であった。</p> <p>事例調査結果 既存施設（出雲エネルギーセンター）煙道では、アンモニア、アセトアルデヒドを除く全ての項目が定量下限値未満であった。アンモニアの濃度は0.1ppmであり、アセトアルデヒドの濃度は0.006ppmであった。どちらも定量下限値程度の低い値（アンモニア定量下限値:0.1、アセトアルデヒド定量下限値:0.005）であった。</p>	<p>ごみ焼却施設稼働時の煙突排ガスに含まれる悪臭 最大着地濃度地点における臭気濃度、臭気指数の予測値の最大値は10未満であった。また、臭気濃度及び臭気指数10未満は、臭気強度が2.5程度となると推定されることから、施設稼働時の煙突排ガスに係る最大濃度地点の特定悪臭物質濃度は、臭気強度2.5に該当する濃度未満となると予測される。</p> <p>＜ごみ焼却施設稼働時の煙突排出ガスに伴う悪臭(臭気濃度、臭気指数)の予測結果＞</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>一般的な気象条件時 (大気安定度不安定時)</th> <th>ダウンウォッシュ・ ダウンドラフト発生時</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>最大濃度地点の臭気濃度</td> <td>10 未満</td> <td>10 未満</td> </tr> <tr> <td>最大濃度地点の臭気指数</td> <td>10 未満</td> <td>10 未満</td> </tr> <tr> <td>最大濃度地点（距離）</td> <td>煙突から風下側約 550m</td> <td>煙突から風下側約 300m</td> </tr> </tbody> </table> <p>ごみ焼却施設休止時の排出口からの悪臭 ごみ焼却施設休止時の臭気濃度及び臭気指数の予測値は敷地境界において最大となり、10未満であった。また、臭気濃度及び臭気指数10未満は、臭気強度が2.5程度となると推定されることから、施設休止時の排出口からの最大濃度地点における特定悪臭物質濃度は、臭気強度2.5に該当する濃度未満となると予測される。</p> <p>＜ごみ焼却施設休止時の排出口からの悪臭(臭気濃度、臭気指数)の予測結果＞</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>臭気濃度</th> <th>臭気指数</th> <th>最大臭気濃度出現地点</th> <th>最大臭気濃度時の風向</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>10 未満</td> <td>10 未満</td> <td>敷地境界</td> <td>南南西</td> </tr> </tbody> </table>	項目	一般的な気象条件時 (大気安定度不安定時)	ダウンウォッシュ・ ダウンドラフト発生時	最大濃度地点の臭気濃度	10 未満	10 未満	最大濃度地点の臭気指数	10 未満	10 未満	最大濃度地点（距離）	煙突から風下側約 550m	煙突から風下側約 300m	臭気濃度	臭気指数	最大臭気濃度出現地点	最大臭気濃度時の風向	10 未満	10 未満	敷地境界	南南西	<p>環境保全措置の検討 ・脱臭設備：施設稼働時には、ごみピットの空気を燃焼用空気として引き込み、焼却炉内で臭気の高温度分解を行い、施設休止時には脱臭装置による脱臭を行う。</p>	<p>回避・低減に係る評価 調査及び予測の結果、並びに前項に示す環境保全措置の検討結果をふまえると、施設の稼働（排ガス）に伴う悪臭の影響は、左記の環境保全措置を講じることにより、事業者の実行可能な範囲内で回避又は低減が図られているものと評価した。</p> <p>基準又は目標との整合に係る評価 施設の稼働（排ガス）に係る悪臭に伴う影響の評価結果は下記に示すとおりであり、環境の保全に係る基準又は目標との整合性が図られているものと評価した。</p> <p>＜施設の供用に伴う悪臭（特定悪臭物質濃度）の評価結果＞ 単位：ppm</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>予測結果</th> <th>環境保全目標値^{注)}</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>アンモニア</td> <td><1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>メチルメルカプタン</td> <td><0.002</td> <td>0.002</td> </tr> <tr> <td>硫化水素</td> <td><0.02</td> <td>0.02</td> </tr> <tr> <td>硫化メチル</td> <td><0.01</td> <td>0.01</td> </tr> <tr> <td>二硫化メチル</td> <td><0.009</td> <td>0.009</td> </tr> <tr> <td>トリメチルアミン</td> <td><0.005</td> <td>0.005</td> </tr> <tr> <td>アセトアルデヒド</td> <td><0.05</td> <td>0.05</td> </tr> <tr> <td>スチレン</td> <td><0.4</td> <td>0.4</td> </tr> <tr> <td>プロピオン酸</td> <td><0.03</td> <td>0.03</td> </tr> <tr> <td>ノルマル酪酸</td> <td><0.001</td> <td>0.001</td> </tr> <tr> <td>ノルマル吉草酸</td> <td><0.0009</td> <td>0.0009</td> </tr> <tr> <td>イソ吉草酸</td> <td><0.001</td> <td>0.001</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 環境保全目標値：「悪臭防止法」に基づく規制指定地域外であるが、周辺環境の保全等のため、住居地域等のA地域の規制基準を設定した。</p>	項目	予測結果	環境保全目標値 ^{注)}	アンモニア	<1	1	メチルメルカプタン	<0.002	0.002	硫化水素	<0.02	0.02	硫化メチル	<0.01	0.01	二硫化メチル	<0.009	0.009	トリメチルアミン	<0.005	0.005	アセトアルデヒド	<0.05	0.05	スチレン	<0.4	0.4	プロピオン酸	<0.03	0.03	ノルマル酪酸	<0.001	0.001	ノルマル吉草酸	<0.0009	0.0009	イソ吉草酸	<0.001	0.001	<p>採用した予測手法は、その予測精度に係る知見が十分に蓄積されているものであり、予測の不確実性は小さい。また、採用する環境保全措置の効果にも不確実性は小さいと考えられることから、事後調査は実施しない。</p> <p>なお、事後調査とは別途、自主的な環境監視調査として施設の稼働（排ガス）に伴う悪臭に係るモニタリング調査を継続的に実施し、環境の状況の把握に努める。</p>
		項目	一般的な気象条件時 (大気安定度不安定時)	ダウンウォッシュ・ ダウンドラフト発生時																																																														
最大濃度地点の臭気濃度	10 未満	10 未満																																																																
最大濃度地点の臭気指数	10 未満	10 未満																																																																
最大濃度地点（距離）	煙突から風下側約 550m	煙突から風下側約 300m																																																																
臭気濃度	臭気指数	最大臭気濃度出現地点	最大臭気濃度時の風向																																																															
10 未満	10 未満	敷地境界	南南西																																																															
項目	予測結果	環境保全目標値 ^{注)}																																																																
アンモニア	<1	1																																																																
メチルメルカプタン	<0.002	0.002																																																																
硫化水素	<0.02	0.02																																																																
硫化メチル	<0.01	0.01																																																																
二硫化メチル	<0.009	0.009																																																																
トリメチルアミン	<0.005	0.005																																																																
アセトアルデヒド	<0.05	0.05																																																																
スチレン	<0.4	0.4																																																																
プロピオン酸	<0.03	0.03																																																																
ノルマル酪酸	<0.001	0.001																																																																
ノルマル吉草酸	<0.0009	0.0009																																																																
イソ吉草酸	<0.001	0.001																																																																
		施設の稼働（機械等の稼働）	<p>施設の稼働（機械等の稼働）に伴う悪臭 既存施設（出雲エネルギーセンター）の平成26年度～平成28年度の環境監視結果では、各年度、各季節において、臭気指数は10未満であり、特定悪臭物質濃度は規制基準（A地域）を満足している。 本施設は、既存施設と処理能力は概ね同様であり、また、悪臭に係る同等の環境保全対策を講じることにより、供用時のごみ焼却施設等からの漏洩に伴う悪臭は、特定悪臭物質濃度は規制基準（A地域）を満足するものと予測される。</p>	<p>環境保全措置の検討 ・悪臭の漏洩防止：プラットホーム、ごみピット、灰ピット室の屋根・壁は気密性を確保するとともに、ごみピット内は負圧に保ち、臭気の漏れ出しを防ぎ、プラットホーム出入口にはエアカーテンを設置する。</p>	<p>回避・低減に係る評価 調査及び予測の結果、並びに前項に示す環境保全措置の検討結果をふまえると、施設の稼働（機械等の稼働）に伴う悪臭の影響は、左記の環境保全措置を講じることにより、事業者の実行可能な範囲内で回避又は低減が図られているものと評価した。</p> <p>基準又は目標との整合に係る評価 施設の稼働（機械等の稼働）に伴う悪臭の影響については、特定悪臭物質濃度は規制基準（A地域）を満足するものと予測されることから、環境の保全に係る基準又は目標との整合性が図られているものと評価した。</p>	<p>予測にあたっては類似の既存施設（出雲エネルギーセンター）において測定された排ガスの調査結果を用いており、不確実性は小さい。また、採用する環境保全措置の効果にも不確実性は小さいと考えられることから、事後調査は実施しない。</p> <p>なお、事後調査とは別途、自主的な環境監視調査として施設の稼働（機械等の稼働）に伴う悪臭の影響（存在・供用）に係るモニタリング調査を継続的に実施し、環境の状況の把握に努める。</p>																																																												

表 6-10 環境影響評価の一覧

環境要素の区分	項目		調査結果	予測結果	環境保全措置	評価結果	事後調査																																																																																																																																													
	環境要素の区分	影響要因の区分																																																																																																																																																		
水質	水質（水の濁り）	雨水の排水	<p>現地調査結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・河川水質 調査地点では環境基準の類型指定はされていないが、参考として AA 類型の環境基準と比較すると、全地点において大腸菌群数のみ当該基準値を上回っていた。 夏季調査において、糞便性大腸菌群数の分析を行った結果、大腸菌群数の基準超過は糞便性以外の自然由来によるものと推定される。 ・降雨時調査 3 回の降雨時に調査を行った結果、St. 1～St. 6 の全地点において、浮遊物質量は 3～170mg/L、流量は 0.017～3.110m³/min の範囲であった。 ・造成地の土壌（機能） 2 か所の現地土砂（工事により主に掘削、地上露出することになる位置、深度の粘土層）を用いた沈降試験の調査結果は、時間の経過とともに浮遊物質量、濁度が低下していく傾向がみられた。  <p style="text-align: center;">< 浮遊物質量濃度沈降曲線 ></p>	<p>沈砂速度が表面積負荷より大きい粒子は仮設沈砂池の底に沈み、沈砂池からは上澄みが放流される。放流される上澄みの浮遊物質量濃度は、改変区域の土粒子の沈降速度が各施工時期の沈砂池の表面積負荷を上回る粒子に対応する浮遊物質量濃度となる。 各施工時期における沈砂池排水口での浮遊物質量濃度及び各予測地点における混合濃度の予測結果は以下に示すとおりである。</p> <p style="text-align: center;">< 雨水の排水に伴う水質（水の濁り）の予測結果 ></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">施工時期</th> <th rowspan="2">仮設沈砂池出口の浮遊物質量濃度 (mg/L) *()内は沈砂池の効果を見込まない場合</th> <th rowspan="2">予測地点</th> <th colspan="2">浮遊物質量濃度予測結果 (mg/L)</th> </tr> <tr> <th>沈砂池あり</th> <th>沈砂池なし</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">1 次施工</td> <td rowspan="4">12 (593)</td> <td>St. 1</td> <td>12</td> <td>548</td> </tr> <tr> <td>St. 3</td> <td>26</td> <td>306</td> </tr> <tr> <td>St. 4</td> <td>16</td> <td>245</td> </tr> <tr> <td>St. 6</td> <td>39</td> <td>222</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">2 次施工</td> <td rowspan="4">16 (1,279)</td> <td>St. 1</td> <td>16</td> <td>1,195</td> </tr> <tr> <td>St. 3</td> <td>28</td> <td>688</td> </tr> <tr> <td>St. 4</td> <td>18</td> <td>567</td> </tr> <tr> <td>St. 6</td> <td>39</td> <td>485</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">3 次施工</td> <td rowspan="4">24 (1,491)</td> <td>St. 1</td> <td>23</td> <td>1,399</td> </tr> <tr> <td>St. 3</td> <td>31</td> <td>820</td> </tr> <tr> <td>St. 4</td> <td>21</td> <td>681</td> </tr> <tr> <td>St. 6</td> <td>41</td> <td>579</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">4 次施工</td> <td rowspan="4">25 (1,572)</td> <td>St. 1</td> <td>24</td> <td>1,477</td> </tr> <tr> <td>St. 3</td> <td>32</td> <td>873</td> </tr> <tr> <td>St. 4</td> <td>22</td> <td>727</td> </tr> <tr> <td>St. 6</td> <td>41</td> <td>617</td> </tr> </tbody> </table>	施工時期	仮設沈砂池出口の浮遊物質量濃度 (mg/L) *()内は沈砂池の効果を見込まない場合	予測地点	浮遊物質量濃度予測結果 (mg/L)		沈砂池あり	沈砂池なし	1 次施工	12 (593)	St. 1	12	548	St. 3	26	306	St. 4	16	245	St. 6	39	222	2 次施工	16 (1,279)	St. 1	16	1,195	St. 3	28	688	St. 4	18	567	St. 6	39	485	3 次施工	24 (1,491)	St. 1	23	1,399	St. 3	31	820	St. 4	21	681	St. 6	41	579	4 次施工	25 (1,572)	St. 1	24	1,477	St. 3	32	873	St. 4	22	727	St. 6	41	617	<p>環境保全措置の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仮設沈砂池の設置：敷地内の雨水を仮設沈砂池に集めて沈砂後に下流河川へ放流する。 ・仮設沈砂池の浚渫：仮設沈砂池における濁水の沈降機能が維持されるよう、定期的な土砂の抜き取りをするなど適切な対応に努める。 ・速やかな転圧等：造成の終わった法面等は、速やかな転圧、若しくは養生シートで覆うなどする。 ・降雨時の工事回避：強雨時には土地の改変に係る工事を中止する。 ・仮設沈砂池内の蛇行構造：仮設沈砂池内に壁を配置し、入口から出口の水の流れを蛇行させることにより、仮設沈砂池内の水の滞留時間を稼ぐ。 ・砂防堰堤及び既存沈砂池の適宜浚渫：沈砂池の役割を果たす下流の砂防堰堤及び既存沈砂池の土砂貯留容量を考慮し、適宜浚渫する。 	<p>回避・低減に係る評価</p> <p>調査及び予測の結果、並びに環境保全措置の検討結果をふまえると、雨水の排水に伴う水質（水の濁り）への影響は、左記の環境保全措置を講じることにより、事業者の実行可能な範囲内で回避又は低減が図られているものと評価した。</p> <p>基準又は目標との整合に係る評価</p> <p>雨水の排水に伴う水質（水の濁り）への評価結果は下表に示すとおりである。各予測地点における浮遊物質量は、各施工時期の St. 3、St. 6 を除き、いずれも環境保全目標値以下になると予測される。なお、各施工時期の St. 3、St. 6 については、環境保全目標値を上回ると予測されるが、現況ですでに環境保全目標値を上回っており、現況調査結果の変動範囲内、かつ平均値よりも低い濃度になると予測される。</p> <p>以上のことから、雨水の排水に伴う水質（水の濁り）への影響については、環境の保全に係る基準又は目標値とした「25mg/L (A 類型)、並びに現況の浮遊物質量から大きな変化がないこと。」との整合性が図られているものと評価した。</p> <p style="text-align: center;">< 雨水の排水に伴う水質（水の濁り）の評価結果 ></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">施工時期</th> <th rowspan="2">予測地点</th> <th rowspan="2">浮遊物質量予測結果 (mg/L) 注1)</th> <th colspan="2">現況調査結果注2)</th> <th rowspan="2">環境保全目標値 (mg/L) 注3)</th> </tr> <tr> <th>平均値 (mg/L)</th> <th>変動幅 (mg/L)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">1 次施工</td> <td>St. 1</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>3～20</td> <td rowspan="12">25</td> </tr> <tr> <td>St. 3</td> <td>26</td> <td>40</td> <td>5～71</td> </tr> <tr> <td>St. 4</td> <td>16</td> <td>19</td> <td>6～32</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">2 次施工</td> <td>St. 6</td> <td>39</td> <td>51</td> <td>25～95</td> </tr> <tr> <td>St. 1</td> <td>16</td> <td>12</td> <td>3～20</td> </tr> <tr> <td>St. 3</td> <td>28</td> <td>40</td> <td>5～71</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">3 次施工</td> <td>St. 4</td> <td>18</td> <td>19</td> <td>6～32</td> </tr> <tr> <td>St. 6</td> <td>39</td> <td>51</td> <td>25～95</td> </tr> <tr> <td>St. 1</td> <td>23</td> <td>12</td> <td>3～20</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">4 次施工</td> <td>St. 3</td> <td>31</td> <td>40</td> <td>5～71</td> </tr> <tr> <td>St. 4</td> <td>21</td> <td>19</td> <td>6～32</td> </tr> <tr> <td>St. 6</td> <td>41</td> <td>51</td> <td>25～95</td> </tr> <tr> <td>St. 1</td> <td>24</td> <td>12</td> <td>3～20</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">4 次施工</td> <td>St. 3</td> <td>32</td> <td>40</td> <td>5～71</td> </tr> <tr> <td>St. 4</td> <td>22</td> <td>19</td> <td>6～32</td> </tr> <tr> <td>St. 6</td> <td>41</td> <td>51</td> <td>25～95</td> </tr> </tbody> </table>	施工時期	予測地点	浮遊物質量予測結果 (mg/L) 注1)	現況調査結果注2)		環境保全目標値 (mg/L) 注3)	平均値 (mg/L)	変動幅 (mg/L)	1 次施工	St. 1	12	12	3～20	25	St. 3	26	40	5～71	St. 4	16	19	6～32	2 次施工	St. 6	39	51	25～95	St. 1	16	12	3～20	St. 3	28	40	5～71	3 次施工	St. 4	18	19	6～32	St. 6	39	51	25～95	St. 1	23	12	3～20	4 次施工	St. 3	31	40	5～71	St. 4	21	19	6～32	St. 6	41	51	25～95	St. 1	24	12	3～20	4 次施工	St. 3	32	40	5～71	St. 4	22	19	6～32	St. 6	41	51	25～95	<p>採用した予測手法は、その予測精度に係る知見が十分に蓄積されているものであり、予測の不確実性は小さい。また、採用する環境保全措置の効果にも不確実性は小さいと考えられることから、事後調査は実施しない。</p>
施工時期	仮設沈砂池出口の浮遊物質量濃度 (mg/L) *()内は沈砂池の効果を見込まない場合	予測地点	浮遊物質量濃度予測結果 (mg/L)																																																																																																																																																	
			沈砂池あり	沈砂池なし																																																																																																																																																
1 次施工	12 (593)	St. 1	12	548																																																																																																																																																
		St. 3	26	306																																																																																																																																																
		St. 4	16	245																																																																																																																																																
		St. 6	39	222																																																																																																																																																
2 次施工	16 (1,279)	St. 1	16	1,195																																																																																																																																																
		St. 3	28	688																																																																																																																																																
		St. 4	18	567																																																																																																																																																
		St. 6	39	485																																																																																																																																																
3 次施工	24 (1,491)	St. 1	23	1,399																																																																																																																																																
		St. 3	31	820																																																																																																																																																
		St. 4	21	681																																																																																																																																																
		St. 6	41	579																																																																																																																																																
4 次施工	25 (1,572)	St. 1	24	1,477																																																																																																																																																
		St. 3	32	873																																																																																																																																																
		St. 4	22	727																																																																																																																																																
		St. 6	41	617																																																																																																																																																
施工時期	予測地点	浮遊物質量予測結果 (mg/L) 注1)	現況調査結果注2)		環境保全目標値 (mg/L) 注3)																																																																																																																																															
			平均値 (mg/L)	変動幅 (mg/L)																																																																																																																																																
1 次施工	St. 1	12	12	3～20	25																																																																																																																																															
	St. 3	26	40	5～71																																																																																																																																																
	St. 4	16	19	6～32																																																																																																																																																
2 次施工	St. 6	39	51	25～95																																																																																																																																																
	St. 1	16	12	3～20																																																																																																																																																
	St. 3	28	40	5～71																																																																																																																																																
3 次施工	St. 4	18	19	6～32																																																																																																																																																
	St. 6	39	51	25～95																																																																																																																																																
	St. 1	23	12	3～20																																																																																																																																																
4 次施工	St. 3	31	40	5～71																																																																																																																																																
	St. 4	21	19	6～32																																																																																																																																																
	St. 6	41	51	25～95																																																																																																																																																
	St. 1	24	12	3～20																																																																																																																																																
4 次施工	St. 3	32	40	5～71																																																																																																																																																
	St. 4	22	19	6～32																																																																																																																																																
	St. 6	41	51	25～95																																																																																																																																																

注 1) 比較する環境保全目標値を上回るとを示す。
 注 2) 3 回実施した降雨時の水質調査結果を示す。
 注 3) 降雨時の水質について環境基準は適用されないが、「水質汚濁に係る環境基準について」(昭和 46 年 12 月 28 日 環告第 59 号)を参考に、予測地点の合流先河川である神戸川で設定されている浮遊物質量に係る基準値 (25mg/L (A 類型)) を示した。

表 6-11 環境影響評価の一覧

環境要素の区分	項目		調査結果	予測結果	環境保全措置	評価結果	事後調査																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
	環境要素の区分	影響要因の区分																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
動物	動物（重要な種及び注目すべき生息地）	建設機械の稼働（騒音・振動）、雨水の排水（水の濁り）、敷地の存在（土地の改変）、機械等の稼働（照明の設置）	<p>現地調査結果</p> <p>・動物 都市計画対象事業実施区域及びその周辺で確認された種数を、以下に示す。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>門/綱/目</th> <th>科</th> <th>種</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>哺乳類</td> <td>6目</td> <td>9科</td> <td>13種</td> </tr> <tr> <td>鳥類（一般鳥類） ※猛禽類調査確認種を含む。</td> <td>11目</td> <td>30科</td> <td>67種</td> </tr> <tr> <td>鳥類（猛禽類） ※一般鳥類との重複種を含む。</td> <td>1目</td> <td>2科</td> <td>8種</td> </tr> <tr> <td>両生類</td> <td>2目</td> <td>7科</td> <td>12種</td> </tr> <tr> <td>爬虫類</td> <td>2目</td> <td>4科</td> <td>6種</td> </tr> <tr> <td>昆虫類 ※底生動物との重複種を含む。</td> <td>18目</td> <td>183科</td> <td>572種</td> </tr> <tr> <td>クモ類</td> <td>1目</td> <td>20科</td> <td>42種</td> </tr> <tr> <td>陸産貝類</td> <td>4目</td> <td>12科</td> <td>34種</td> </tr> <tr> <td>魚類</td> <td>3目</td> <td>4科</td> <td>5種</td> </tr> <tr> <td>底生動物 ※陸上昆虫類との重複種を含む。</td> <td>6門9綱25目</td> <td>96科</td> <td>244種</td> </tr> </tbody> </table> <p>・重要な種 以下に示す 65 種の重要な動物が確認された。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>種名</th> <th>分類</th> <th>種名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="10">哺乳類</td> <td>キクガシラコウモリ</td> <td rowspan="10">昆虫類</td> <td>ホソミイトトンボ</td> </tr> <tr> <td>ヒナコウモリ科</td> <td>サラサヤンマ</td> </tr> <tr> <td>イタチ属</td> <td>キイロサナエ</td> </tr> <tr> <td>ミンゴイ</td> <td>タバサナエ</td> </tr> <tr> <td>オシドリ</td> <td>オグマサナエ</td> </tr> <tr> <td>ミサゴ</td> <td>ムカシヤンマ</td> </tr> <tr> <td>ハチクマ</td> <td>ハルゼミ</td> </tr> <tr> <td>ハイタカ</td> <td>オオミズムシ</td> </tr> <tr> <td>オオタカ</td> <td>タガメ</td> </tr> <tr> <td>サシバ</td> <td>ギンボシツツビケラ</td> </tr> <tr> <td rowspan="10">鳥類 (猛禽類を含む)</td> <td>クマタカ</td> <td>ハマダラハルカ</td> </tr> <tr> <td>ハヤブサ</td> <td>クロゲンゴロウ</td> </tr> <tr> <td>イカルチドリ</td> <td>ガンゴロウ</td> </tr> <tr> <td>フクロウ</td> <td>シマゲンゴロウ</td> </tr> <tr> <td>ヤマセミ</td> <td>ケシゲンゴロウ</td> </tr> <tr> <td>アカショウビン</td> <td>キバキクロヒメゲンゴロウ</td> </tr> <tr> <td>ブッポウソウ</td> <td>オオミズスマシ</td> </tr> <tr> <td>ヤイロチョウ</td> <td>ミズスマシ</td> </tr> <tr> <td>コシアカツバメ</td> <td>ガムシ</td> </tr> <tr> <td>サンショウクイ</td> <td>ヒメボタル</td> </tr> <tr> <td rowspan="10">両生類</td> <td>チゴモズ</td> <td>トゲアリ</td> </tr> <tr> <td>オオムシクイ</td> <td>キノボリトタテグモ</td> </tr> <tr> <td>サンコウチョウ</td> <td>サドヤマトガイ</td> </tr> <tr> <td>カスミサンショウウオ</td> <td>オオゴマガイ</td> </tr> <tr> <td>アカハライモリ</td> <td>イボイボナメクジ</td> </tr> <tr> <td>タゴガエル</td> <td>ヒラベッコウガイ</td> </tr> <tr> <td>トノサマガエル</td> <td>オオウエキビ</td> </tr> <tr> <td>モリアオガエル</td> <td>ヒメカサキビ</td> </tr> <tr> <td rowspan="10">爬虫類</td> <td>ニホンイシガメ</td> <td>サンインコベソマイマイ</td> </tr> <tr> <td>ジムグリ</td> <td>ドジョウ</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">魚類</td> <td>ミナミメダカ</td> <td>オオヨシノボリ</td> </tr> <tr> <td>オオヨシノボリ</td> <td>オオタニシ</td> </tr> <tr> <td>コシダカヒメモノアラガイ</td> <td>ヒラテテナガエビ</td> </tr> <tr> <td>ヒラテテナガエビ</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="10">底生動物</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>・注目すべき生息地 止水域 6 か所、谷津田 1 か所、コウモリ生息洞 3 か所の計 10 か所が確認された</p>	項目	門/綱/目	科	種	哺乳類	6目	9科	13種	鳥類（一般鳥類） ※猛禽類調査確認種を含む。	11目	30科	67種	鳥類（猛禽類） ※一般鳥類との重複種を含む。	1目	2科	8種	両生類	2目	7科	12種	爬虫類	2目	4科	6種	昆虫類 ※底生動物との重複種を含む。	18目	183科	572種	クモ類	1目	20科	42種	陸産貝類	4目	12科	34種	魚類	3目	4科	5種	底生動物 ※陸上昆虫類との重複種を含む。	6門9綱25目	96科	244種	分類	種名	分類	種名	哺乳類	キクガシラコウモリ	昆虫類	ホソミイトトンボ	ヒナコウモリ科	サラサヤンマ	イタチ属	キイロサナエ	ミンゴイ	タバサナエ	オシドリ	オグマサナエ	ミサゴ	ムカシヤンマ	ハチクマ	ハルゼミ	ハイタカ	オオミズムシ	オオタカ	タガメ	サシバ	ギンボシツツビケラ	鳥類 (猛禽類を含む)	クマタカ	ハマダラハルカ	ハヤブサ	クロゲンゴロウ	イカルチドリ	ガンゴロウ	フクロウ	シマゲンゴロウ	ヤマセミ	ケシゲンゴロウ	アカショウビン	キバキクロヒメゲンゴロウ	ブッポウソウ	オオミズスマシ	ヤイロチョウ	ミズスマシ	コシアカツバメ	ガムシ	サンショウクイ	ヒメボタル	両生類	チゴモズ	トゲアリ	オオムシクイ	キノボリトタテグモ	サンコウチョウ	サドヤマトガイ	カスミサンショウウオ	オオゴマガイ	アカハライモリ	イボイボナメクジ	タゴガエル	ヒラベッコウガイ	トノサマガエル	オオウエキビ	モリアオガエル	ヒメカサキビ	爬虫類	ニホンイシガメ	サンインコベソマイマイ	ジムグリ	ドジョウ	魚類	ミナミメダカ	オオヨシノボリ	オオヨシノボリ	オオタニシ	コシダカヒメモノアラガイ	ヒラテテナガエビ	ヒラテテナガエビ		底生動物																					<p>重要な種 影響要因ごとに、その影響程度を「影響が無いまたは小さい(-)」、「影響の程度が中程度(△)」、「影響の程度が大きい(O)」の3段階に整理した。 予測結果は、影響の大きさにより「影響を受ける(A)」、「影響を受けるおそれがある(B)」、「影響は極めて小さい(C)」の3段階に区分した。 予測の結果、「影響を受ける(A)」と予測された種は 10 種で、いずれも止水域を生息地とする水生昆虫である。また、「影響を受けるおそれがある(B)」と予測された種は 15 種で、止水域で繁殖する両生類、河川に生息する両生類、昆虫類、魚類、底生動物、集光性のある昆虫類である。各種への影響の程度及び予測結果は、以下の表に示すとおりである。</p> <p>注目すべき生息地 予測結果は、影響の大きさにより「影響を受ける(A)」、「影響を受けるおそれがある(B)」、「影響は極めて小さい(C)」の3段階に区分した。 予測の結果、「影響を受ける(A)」と予測された生息地は 1 か所、「影響を受けるおそれがある(B)」と予測された生息地は 1 か所であった。</p> <p><重要な動物種の予測結果一覧></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">分類</th> <th rowspan="2">種名</th> <th colspan="3">工事の実施</th> <th colspan="3">存在・供用</th> <th rowspan="2">分類</th> <th rowspan="2">種名</th> <th colspan="3">工事の実施</th> <th colspan="3">存在・供用</th> </tr> <tr> <th>騒音・振動</th> <th>水の濁り</th> <th>予測結果</th> <th>土地の改変</th> <th>照明の設置</th> <th>予測結果</th> <th>騒音・振動</th> <th>水の濁り</th> <th>予測結果</th> <th>土地の改変</th> <th>照明の設置</th> <th>予測結果</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">哺乳類</td> <td>キクガシラコウモリ</td> <td>-</td> <td>/</td> <td>C</td> <td>-</td> <td>/</td> <td>C</td> <td rowspan="3">哺乳類</td> <td>ホソミイトトンボ</td> <td>/</td> <td>O</td> <td>A</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>ヒナコウモリ科の一種</td> <td>-</td> <td>/</td> <td>C</td> <td>-</td> <td>/</td> <td>C</td> <td>サラサヤンマ</td> <td>/</td> <td>-</td> <td>C</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>ホンドイタチ</td> <td>-</td> <td>/</td> <td>C</td> <td>-</td> <td>/</td> <td>C</td> <td>キイロサナエ</td> <td>/</td> <td>△</td> <td>B</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td rowspan="10">鳥類</td> <td>ミンゴイ</td> <td>-</td> <td>/</td> <td>C</td> <td>-</td> <td>/</td> <td>C</td> <td>タバサナエ</td> <td>/</td> <td>△</td> <td>B</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>オシドリ</td> <td>-</td> <td>/</td> <td>C</td> <td>-</td> <td>/</td> <td>C</td> <td>オグマサナエ</td> <td>/</td> <td>O</td> <td>A</td> <td>O</td> <td>-</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>ミサゴ</td> <td>-</td> <td>/</td> <td>C</td> <td>-</td> <td>/</td> <td>C</td> <td>ムカシヤンマ</td> <td>/</td> <td>-</td> <td>C</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>ハチクマ</td> <td>-</td> <td>/</td> <td>C</td> <td>-</td> <td>/</td> <td>C</td> <td>ハルゼミ</td> <td>/</td> <td>-</td> <td>C</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>ハイタカ</td> <td>-</td> <td>/</td> <td>C</td> <td>-</td> <td>/</td> <td>C</td> <td>オオミズムシ</td> <td>/</td> <td>O</td> <td>A</td> <td>O</td> <td>△</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>オオタカ</td> <td>-</td> <td>/</td> <td>C</td> <td>-</td> <td>/</td> <td>C</td> <td>タガメ</td> <td>/</td> <td>O</td> <td>A</td> <td>O</td> <td>△</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>サシバ</td> <td>-</td> <td>/</td> <td>C</td> <td>-</td> <td>/</td> <td>C</td> <td>ギンボシツツビケラ</td> <td>/</td> <td>-</td> <td>C</td> <td>-</td> <td>△</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>クマタカ</td> <td>-</td> <td>/</td> <td>C</td> <td>-</td> <td>/</td> <td>C</td> <td>ハマダラハルカ</td> <td>/</td> <td>-</td> <td>C</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>ハヤブサ</td> <td>-</td> <td>/</td> <td>C</td> <td>-</td> <td>/</td> <td>C</td> <td>クロゲンゴロウ</td> <td>/</td> <td>△</td> <td>B</td> <td>△</td> <td>△</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>イカルチドリ</td> <td>-</td> <td>/</td> <td>C</td> <td>-</td> <td>/</td> <td>C</td> <td>ゲンゴロウ</td> <td>/</td> <td>O</td> <td>A</td> <td>O</td> <td>△</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td rowspan="10">両生類</td> <td>フクロウ</td> <td>-</td> <td>/</td> <td>C</td> <td>-</td> <td>/</td> <td>C</td> <td>シマゲンゴロウ</td> <td>/</td> <td>O</td> <td>A</td> <td>O</td> <td>△</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>ヤマセミ</td> <td>-</td> <td>/</td> <td>C</td> <td>-</td> <td>/</td> <td>C</td> <td>ケシゲンゴロウ</td> <td>/</td> <td>O</td> <td>A</td> <td>O</td> <td>△</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>アカショウビン</td> <td>-</td> <td>/</td> <td>C</td> <td>-</td> <td>/</td> <td>C</td> <td>キバキクロヒメゲンゴロウ</td> <td>/</td> <td>O</td> <td>A</td> <td>O</td> <td>△</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>ブッポウソウ</td> <td>-</td> <td>/</td> <td>C</td> <td>-</td> <td>/</td> <td>C</td> <td>オオミズスマシ</td> <td>/</td> <td>O</td> <td>A</td> <td>O</td> <td>△</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>ヤイロチョウ</td> <td>-</td> <td>/</td> <td>C</td> <td>-</td> <td>/</td> <td>C</td> <td>ミズスマシ</td> <td>/</td> <td>O</td> <td>A</td> <td>△</td> <td>△</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>コシアカツバメ</td> <td>-</td> <td>/</td> <td>C</td> <td>-</td> <td>/</td> <td>C</td> <td>ガムシ</td> <td>/</td> <td>△</td> <td>B</td> <td>△</td> <td>△</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>サンショウクイ</td> <td>-</td> <td>/</td> <td>C</td> <td>-</td> <td>/</td> <td>C</td> <td>ヒメボタル</td> <td>/</td> <td>-</td> <td>C</td> <td>-</td> <td>△</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>チゴモズ</td> <td>-</td> <td>/</td> <td>C</td> <td>-</td> <td>/</td> <td>C</td> <td>トゲアリ</td> <td>/</td> <td>-</td> <td>C</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>オオムシクイ</td> <td>-</td> <td>/</td> <td>C</td> <td>-</td> <td>/</td> <td>C</td> <td>キノボリトタテグモ</td> <td>/</td> <td>/</td> <td>/</td> <td>-</td> <td>/</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>サンコウチョウ</td> <td>-</td> <td>/</td> <td>C</td> <td>-</td> <td>/</td> <td>C</td> <td>サドヤマトガイ</td> <td>/</td> <td>/</td> <td>/</td> <td>-</td> <td>/</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">爬虫類</td> <td>カスミサンショウウオ</td> <td>/</td> <td>△</td> <td>B</td> <td>△</td> <td>/</td> <td>B</td> <td>オオゴマガイ</td> <td>/</td> <td>/</td> <td>/</td> <td>-</td> <td>/</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>アカハライモリ</td> <td>/</td> <td>△</td> <td>B</td> <td>-</td> <td>/</td> <td>C</td> <td>イボイボナメクジ</td> <td>/</td> <td>/</td> <td>/</td> <td>-</td> <td>/</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>タゴガエル</td> <td>/</td> <td>△</td> <td>B</td> <td>-</td> <td>/</td> <td>C</td> <td>ヒラベッコウガイ</td> <td>/</td> <td>/</td> <td>/</td> <td>-</td> <td>/</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>トノサマガエル</td> <td>/</td> <td>△</td> <td>B</td> <td>△</td> <td>/</td> <td>B</td> <td>オオウエキビ</td> <td>/</td> <td>/</td> <td>/</td> <td>-</td> <td>/</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>モリアオガエル</td> <td>/</td> <td>△</td> <td>B</td> <td>△</td> <td>/</td> <td>B</td> <td>ヒメカサキビ</td> <td>/</td> <td>/</td> <td>/</td> <td>-</td> <td>/</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">昆虫類</td> <td>ニホンイシガメ</td> <td>/</td> <td>-</td> <td>C</td> <td>-</td> <td>/</td> <td>C</td> <td>サンインコベソマイマイ</td> <td>/</td> <td>/</td> <td>/</td> <td>-</td> <td>/</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>ジムグリ</td> <td>/</td> <td>-</td> <td>C</td> <td>-</td> <td>/</td> <td>C</td> <td>ドジョウ</td> <td>/</td> <td>△</td> <td>B</td> <td>-</td> <td>/</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">魚類</td> <td>ミナミメダカ</td> <td>/</td> <td>-</td> <td>C</td> <td>-</td> <td>/</td> <td>C</td> <td>オオヨシノボリ</td> <td>/</td> <td>△</td> <td>B</td> <td>-</td> <td>/</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>オオヨシノボリ</td> <td>/</td> <td>△</td> <td>B</td> <td>-</td> <td>/</td> <td>C</td> <td>コシダカヒメモノアラガイ</td> <td>/</td> <td>△</td> <td>B</td> <td>-</td> <td>/</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>ヒラテテナガエビ</td> <td>/</td> <td>△</td> <td>B</td> <td>-</td> <td>/</td> <td>C</td> <td>ヒラテテナガエビ</td> <td>/</td> <td>△</td> <td>B</td> <td>-</td> <td>/</td> <td>C</td> </tr> </tbody> </table>	分類	種名	工事の実施			存在・供用			分類	種名	工事の実施			存在・供用			騒音・振動	水の濁り	予測結果	土地の改変	照明の設置	予測結果	騒音・振動	水の濁り	予測結果	土地の改変	照明の設置	予測結果	哺乳類	キクガシラコウモリ	-	/	C	-	/	C	哺乳類	ホソミイトトンボ	/	O	A	-	-	C	ヒナコウモリ科の一種	-	/	C	-	/	C	サラサヤンマ	/	-	C	-	-	C	ホンドイタチ	-	/	C	-	/	C	キイロサナエ	/	△	B	-	-	C	鳥類	ミンゴイ	-	/	C	-	/	C	タバサナエ	/	△	B	-	-	C	オシドリ	-	/	C	-	/	C	オグマサナエ	/	O	A	O	-	A	ミサゴ	-	/	C	-	/	C	ムカシヤンマ	/	-	C	-	-	C	ハチクマ	-	/	C	-	/	C	ハルゼミ	/	-	C	-	-	C	ハイタカ	-	/	C	-	/	C	オオミズムシ	/	O	A	O	△	A	オオタカ	-	/	C	-	/	C	タガメ	/	O	A	O	△	A	サシバ	-	/	C	-	/	C	ギンボシツツビケラ	/	-	C	-	△	B	クマタカ	-	/	C	-	/	C	ハマダラハルカ	/	-	C	-	-	C	ハヤブサ	-	/	C	-	/	C	クロゲンゴロウ	/	△	B	△	△	B	イカルチドリ	-	/	C	-	/	C	ゲンゴロウ	/	O	A	O	△	A	両生類	フクロウ	-	/	C	-	/	C	シマゲンゴロウ	/	O	A	O	△	A	ヤマセミ	-	/	C	-	/	C	ケシゲンゴロウ	/	O	A	O	△	A	アカショウビン	-	/	C	-	/	C	キバキクロヒメゲンゴロウ	/	O	A	O	△	A	ブッポウソウ	-	/	C	-	/	C	オオミズスマシ	/	O	A	O	△	A	ヤイロチョウ	-	/	C	-	/	C	ミズスマシ	/	O	A	△	△	B	コシアカツバメ	-	/	C	-	/	C	ガムシ	/	△	B	△	△	B	サンショウクイ	-	/	C	-	/	C	ヒメボタル	/	-	C	-	△	B	チゴモズ	-	/	C	-	/	C	トゲアリ	/	-	C	-	-	C	オオムシクイ	-	/	C	-	/	C	キノボリトタテグモ	/	/	/	-	/	C	サンコウチョウ	-	/	C	-	/	C	サドヤマトガイ	/	/	/	-	/	C	爬虫類	カスミサンショウウオ	/	△	B	△	/	B	オオゴマガイ	/	/	/	-	/	C	アカハライモリ	/	△	B	-	/	C	イボイボナメクジ	/	/	/	-	/	C	タゴガエル	/	△	B	-	/	C	ヒラベッコウガイ	/	/	/	-	/	C	トノサマガエル	/	△	B	△	/	B	オオウエキビ	/	/	/	-	/	C	モリアオガエル	/	△	B	△	/	B	ヒメカサキビ	/	/	/	-	/	C	昆虫類	ニホンイシガメ	/	-	C	-	/	C	サンインコベソマイマイ	/	/	/	-	/	C	ジムグリ	/	-	C	-	/	C	ドジョウ	/	△	B	-	/	C	魚類	ミナミメダカ	/	-	C	-	/	C	オオヨシノボリ	/	△	B	-	/	C	オオヨシノボリ	/	△	B	-	/	C	コシダカヒメモノアラガイ	/	△	B	-	/	C	ヒラテテナガエビ	/	△	B	-	/	C	ヒラテテナガエビ	/	△	B	-	/	C	<p>回避・低減に係る評価 調査及び予測の結果、並びに環境保全措置の検討結果をふまえると、工事の実施（建設機械の稼働（騒音・振動）・雨水の排水（水の濁り））及び敷地の存在（土地の改変）、機械等の稼働（照明の設置）に伴う動物への影響は、左記の環境保全措置を講じることにより、事業者の実行可能な範囲内で回避又は低減が図られているものと評価した。</p>	<p>事業計画との重ね合わせにより行った予測の不確実性は小さく、採用する環境保全措置の効果にも不確実性は小さいと考えられる。ただし、25 種の重要な種及び 2 つの注目すべき生息地については、影響が生じると予測されており、当該影響に対して実施する環境保全措置のうち「敷地造成範囲の見直し」、「施設内の排水経路の配慮」、「代償環境の整備」については、その効果に不確実性があると考えられることから、事後調査として、「ピオトープ及び既存生息地生息状況の調査」を実施する。</p>
			項目	門/綱/目	科	種																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
哺乳類	6目	9科	13種																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
鳥類（一般鳥類） ※猛禽類調査確認種を含む。	11目	30科	67種																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
鳥類（猛禽類） ※一般鳥類との重複種を含む。	1目	2科	8種																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
両生類	2目	7科	12種																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
爬虫類	2目	4科	6種																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
昆虫類 ※底生動物との重複種を含む。	18目	183科	572種																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
クモ類	1目	20科	42種																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
陸産貝類	4目	12科	34種																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
魚類	3目	4科	5種																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
底生動物 ※陸上昆虫類との重複種を含む。	6門9綱25目	96科	244種																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
分類	種名	分類	種名																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
哺乳類	キクガシラコウモリ	昆虫類	ホソミイトトンボ																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	ヒナコウモリ科		サラサヤンマ																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	イタチ属		キイロサナエ																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	ミンゴイ		タバサナエ																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	オシドリ		オグマサナエ																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	ミサゴ		ムカシヤンマ																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	ハチクマ		ハルゼミ																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	ハイタカ		オオミズムシ																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	オオタカ		タガメ																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	サシバ		ギンボシツツビケラ																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
鳥類 (猛禽類を含む)	クマタカ	ハマダラハルカ																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
	ハヤブサ	クロゲンゴロウ																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
	イカルチドリ	ガンゴロウ																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
	フクロウ	シマゲンゴロウ																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
	ヤマセミ	ケシゲンゴロウ																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
	アカショウビン	キバキクロヒメゲンゴロウ																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
	ブッポウソウ	オオミズスマシ																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
	ヤイロチョウ	ミズスマシ																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
	コシアカツバメ	ガムシ																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
	サンショウクイ	ヒメボタル																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
両生類	チゴモズ	トゲアリ																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
	オオムシクイ	キノボリトタテグモ																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
	サンコウチョウ	サドヤマトガイ																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
	カスミサンショウウオ	オオゴマガイ																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
	アカハライモリ	イボイボナメクジ																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
	タゴガエル	ヒラベッコウガイ																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
	トノサマガエル	オオウエキビ																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
	モリアオガエル	ヒメカサキビ																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
	爬虫類	ニホンイシガメ	サンインコベソマイマイ																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
		ジムグリ	ドジョウ																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
魚類		ミナミメダカ	オオヨシノボリ																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
		オオヨシノボリ	オオタニシ																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
		コシダカヒメモノアラガイ	ヒラテテナガエビ																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
		ヒラテテナガエビ																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
底生動物																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
分類	種名	工事の実施			存在・供用			分類	種名	工事の実施			存在・供用																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
		騒音・振動	水の濁り	予測結果	土地の改変	照明の設置	予測結果			騒音・振動	水の濁り	予測結果	土地の改変	照明の設置	予測結果																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
哺乳類	キクガシラコウモリ	-	/	C	-	/	C	哺乳類	ホソミイトトンボ	/	O	A	-	-	C																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	ヒナコウモリ科の一種	-	/	C	-	/	C		サラサヤンマ	/	-	C	-	-	C																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	ホンドイタチ	-	/	C	-	/	C		キイロサナエ	/	△	B	-	-	C																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
鳥類	ミンゴイ	-	/	C	-	/	C	タバサナエ	/	△	B	-	-	C																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
	オシドリ	-	/	C	-	/	C	オグマサナエ	/	O	A	O	-	A																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
	ミサゴ	-	/	C	-	/	C	ムカシヤンマ	/	-	C	-	-	C																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
	ハチクマ	-	/	C	-	/	C	ハルゼミ	/	-	C	-	-	C																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
	ハイタカ	-	/	C	-	/	C	オオミズムシ	/	O	A	O	△	A																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
	オオタカ	-	/	C	-	/	C	タガメ	/	O	A	O	△	A																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
	サシバ	-	/	C	-	/	C	ギンボシツツビケラ	/	-	C	-	△	B																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
	クマタカ	-	/	C	-	/	C	ハマダラハルカ	/	-	C	-	-	C																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
	ハヤブサ	-	/	C	-	/	C	クロゲンゴロウ	/	△	B	△	△	B																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
	イカルチドリ	-	/	C	-	/	C	ゲンゴロウ	/	O	A	O	△	A																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
両生類	フクロウ	-	/	C	-	/	C	シマゲンゴロウ	/	O	A	O	△	A																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
	ヤマセミ	-	/	C	-	/	C	ケシゲンゴロウ	/	O	A	O	△	A																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
	アカショウビン	-	/	C	-	/	C	キバキクロヒメゲンゴロウ	/	O	A	O	△	A																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
	ブッポウソウ	-	/	C	-	/	C	オオミズスマシ	/	O	A	O	△	A																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
	ヤイロチョウ	-	/	C	-	/	C	ミズスマシ	/	O	A	△	△	B																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
	コシアカツバメ	-	/	C	-	/	C	ガムシ	/	△	B	△	△	B																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
	サンショウクイ	-	/	C	-	/	C	ヒメボタル	/	-	C	-	△	B																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
	チゴモズ	-	/	C	-	/	C	トゲアリ	/	-	C	-	-	C																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
	オオムシクイ	-	/	C	-	/	C	キノボリトタテグモ	/	/	/	-	/	C																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
	サンコウチョウ	-	/	C	-	/	C	サドヤマトガイ	/	/	/	-	/	C																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
爬虫類	カスミサンショウウオ	/	△	B	△	/	B	オオゴマガイ	/	/	/	-	/	C																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
	アカハライモリ	/	△	B	-	/	C	イボイボナメクジ	/	/	/	-	/	C																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
	タゴガエル	/	△	B	-	/	C	ヒラベッコウガイ	/	/	/	-	/	C																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
	トノサマガエル	/	△	B	△	/	B	オオウエキビ	/	/	/	-	/	C																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
	モリアオガエル	/	△	B	△	/	B	ヒメカサキビ	/	/	/	-	/	C																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
昆虫類	ニホンイシガメ	/	-	C	-	/	C	サンインコベソマイマイ	/	/	/	-	/	C																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
	ジムグリ	/	-	C	-	/	C	ドジョウ	/	△	B	-	/	C																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
	魚類	ミナミメダカ	/	-	C	-	/	C	オオヨシノボリ	/	△	B	-	/	C																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
		オオヨシノボリ	/	△	B	-	/	C	コシダカヒメモノアラガイ	/	△	B	-	/	C																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
		ヒラテテナガエビ	/	△	B	-	/	C	ヒラテテナガエビ	/	△	B	-	/	C																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							

表 6-12 環境影響評価の一覧

環境要素の区分	項目		調査結果	予測結果	環境保全措置	評価結果	事後調査										
	環境要素の区分	影響要因の区分															
植物	植物（重要な種及び群落）	敷地の存在（土地の改変）	<p>現地調査結果</p> <p>・ 植物相 都市計画対象事業実施区域及びその周辺で確認された種数を、以下に示す。</p> <p>植物相：114科 501種</p> <p>・ 重要な種 以下に示す1種の重要な種が確認された。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>科名</th> <th>種名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>スイレン</td> <td>ヒツジグサ</td> </tr> </tbody> </table> <p>・ 植生 確認された植生は、9群落・3土地利用単位の計12区分である。 調査地域はほぼ全域が人為的な影響を受けた代償植生域であると言える。また、調査地域に分布する植物群落には、湿地や湿原、岩場のような限られた立地環境に形成される群落は見られず、いずれも島根県東部の低山地に普通に見られる群落である。</p> <p>・ 重要な植物群落 現地調査の結果、重要な植物群落は確認されなかった。</p>	No	科名	種名	1	スイレン	ヒツジグサ	<p>植物群落の改変状況 敷地の存在（土地の改変）により、ススキ群落（改変率25.8%）、クズ群落（改変率17.1%）、ヌルデ・アカメガシワ群落（改変率12.5%）、コナラ群落（改変率0.9%）が改変によって消失すると考えられる。しかし、これらの植物群落は比較的新しく人為の影響で出現した二次的な植物群落であり、周辺にも広く存在することから、生育環境の減少による影響は極めて小さいと予測される。</p> <p>重要な種 重要な種として、1種が確認された。</p> <p style="text-align: center;">< 重要な植物種の予測結果 ></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種名</th> <th>予測結果</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ヒツジグサ</td> <td>1か所（10個体）の生育地は都市計画対象事業実施区域から十分離れた箇所で確認された。敷地の存在による直接改変は無く、日照や湿度等の微気象の変化は生じない。また、工事による雨水（濁水）の流入のおそれも無い。 以上のことから、敷地の存在による本種の生育環境に対する影響は極めて小さいと予測される。</td> </tr> </tbody> </table> <p>重要な植物群落 現地調査の結果、重要な植物群落は確認されなかった、</p>	種名	予測結果	ヒツジグサ	1か所（10個体）の生育地は都市計画対象事業実施区域から十分離れた箇所で確認された。敷地の存在による直接改変は無く、日照や湿度等の微気象の変化は生じない。また、工事による雨水（濁水）の流入のおそれも無い。 以上のことから、敷地の存在による本種の生育環境に対する影響は極めて小さいと予測される。	<p>環境保全措置の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 植栽の実施：敷地内においても可能な限り植栽を施す。 ・ 仮設沈砂池の設置：敷地内の雨水を仮設沈砂池に集めて沈砂後に下流河川へ放流する。 ・ 仮設沈砂池の浚渫：沈砂池における濁水の沈降機能が維持されるよう、定期的な土砂の抜き取りをするなど適切な対応に努める。 ・ 排水のクローズド・リサイクル：ゴミピット汚水、プラント排水及び生活排水は、排水処理後に再循環利用等を行い、周辺河川等へは放流しない。 	<p>回避・低減に係る評価 調査及び予測の結果、並びに環境保全措置の検討結果をふまえると、敷地の存在（土地の改変）に伴う植物への影響は、左記の環境保全措置を講ずることにより、事業者の実行可能な範囲内で回避又は低減が図られているものと評価した。</p>	<p>事業計画との重ね合わせにより行った予測の不確実性は小さく、また、採用する環境保全措置の効果にも不確実性は小さいと考えられることから、事後調査は実施しない。</p>
No	科名	種名															
1	スイレン	ヒツジグサ															
種名	予測結果																
ヒツジグサ	1か所（10個体）の生育地は都市計画対象事業実施区域から十分離れた箇所で確認された。敷地の存在による直接改変は無く、日照や湿度等の微気象の変化は生じない。また、工事による雨水（濁水）の流入のおそれも無い。 以上のことから、敷地の存在による本種の生育環境に対する影響は極めて小さいと予測される。																

表 6-13 環境影響評価の一覧

環境要素の区分	項目		調査結果	予測結果	環境保全措置	評価結果	事後調査																																																																													
	環境要素の区分	影響要因の区分																																																																																		
生態系	生態系 (地域を特徴づける生態系)	建設機械の稼働(騒音・振動)、雨水の排水(水の濁り)、敷地の存在(土地の改変)、機械等の稼働(照明の設置)	<p>現地調査結果</p> <p>・動植物その他の自然環境に係る概況 <動物相・植物相の状況></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類群</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>哺乳類</td> <td>6目9科13種</td> </tr> <tr> <td>鳥類(一般鳥類)</td> <td>11目30科67種(猛禽類調査確認種を含む)</td> </tr> <tr> <td>鳥類(猛禽類)</td> <td>1目2科8種(一般鳥類との重複種含む)</td> </tr> <tr> <td>両生類</td> <td>2目7科12種</td> </tr> <tr> <td>爬虫類</td> <td>2目4科6種</td> </tr> <tr> <td>陸上昆虫類</td> <td>18目183科572種(底生動物との重複種含む)</td> </tr> <tr> <td>クモ類</td> <td>1目20科42種</td> </tr> <tr> <td>陸産貝類</td> <td>4目12科34種</td> </tr> <tr> <td>魚類</td> <td>3目4科5種</td> </tr> <tr> <td>底生動物</td> <td>6門25目96科244種(陸上昆虫類との重複種含む)</td> </tr> <tr> <td>植物</td> <td>114科501種</td> </tr> </tbody> </table> <p>・都市計画対象事業実施区域北側の上新宮集落では、「古志ほたるまつり」が開催されている。</p> <p>・都市計画対象事業実施区域周辺におけるホテル類の確認状況は以下の通り。</p> <p>-ゲンジボタル:3回の調査で合計499個体を確認した。確認環境は主に河川であったが、周辺の樹林地にも分散して見られた。</p> <p>-ゲンジボタルの餌生物(カワニナ)調査の結果、ゲンジボタル成虫及びカワニナともに、「古志ほたるまつり」の会場である最下流区間において個体数の大半が確認された。カワニナは、①水深が浅い(主に水深~20cm程度の水深)、②流速が遅い(止水~20cm/S程度)、③コンクリート護岸、④細かな砂が堆積した箇所が多くみられた。一方、ゲンジボタルの幼虫は、瀬の石の隙間等に潜むことから、ゲンジボタルの生息には、それぞれの環境が近接していることが重要であると考えられる。</p> <p>-ヘイケボタル:3回の調査で合計492個体を確認した。確認環境は主に水田で、河川にも小数見られた。</p> <p>-ヒメボタル:2回の調査で合計86個体を確認した。確認環境は主に樹林及び道路脇の湿生草地であった。</p> <p>・生態系の類型区分 調査地域の自然環境を、比較的自自然度の高い「樹林及び谷戸」、人為の影響が強い「採石場及び跡地」、「河川」の3つの類型区分に大別した。</p> <p>・注目種</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="3"><選定した注目種></th> </tr> <tr> <th>区分</th> <th>分類</th> <th>種名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">上位性</td> <td>鳥類</td> <td>フクロウ</td> </tr> <tr> <td>鳥類</td> <td>サシバ</td> </tr> <tr> <td>爬虫類</td> <td>ヤマカガシ</td> </tr> <tr> <td>昆虫類</td> <td>タガメ</td> </tr> <tr> <td rowspan="16">典型性</td> <td>植物</td> <td>ネザサ</td> </tr> <tr> <td>植物</td> <td>コナラ</td> </tr> <tr> <td>植物</td> <td>オオバヤシャブシ</td> </tr> <tr> <td>植物</td> <td>ススキ</td> </tr> <tr> <td>底生動物</td> <td>ニッポンヨコエビ</td> </tr> <tr> <td>底生動物</td> <td>ウチワミミズ属</td> </tr> <tr> <td>魚類</td> <td>ミナミメダカ</td> </tr> <tr> <td>陸産貝類</td> <td>ニホンケンガイ</td> </tr> <tr> <td>昆虫類</td> <td>ウスイロコバントビケラ</td> </tr> <tr> <td>昆虫類</td> <td>クルマバツタモドキ</td> </tr> <tr> <td>両生類</td> <td>モリアオガエル</td> </tr> <tr> <td>鳥類</td> <td>ヒヨドリ</td> </tr> <tr> <td>鳥類</td> <td>アトリ</td> </tr> <tr> <td>哺乳類</td> <td>アカネズミ</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">特殊性</td> <td>哺乳類</td> <td>キクガシラコウモリ</td> </tr> <tr> <td>昆虫類</td> <td>ゲンジボタル</td> </tr> <tr> <td>昆虫類</td> <td>ヘイケボタル</td> </tr> <tr> <td>昆虫類</td> <td>ヒメボタル</td> </tr> </tbody> </table>	分類群	概要	哺乳類	6目9科13種	鳥類(一般鳥類)	11目30科67種(猛禽類調査確認種を含む)	鳥類(猛禽類)	1目2科8種(一般鳥類との重複種含む)	両生類	2目7科12種	爬虫類	2目4科6種	陸上昆虫類	18目183科572種(底生動物との重複種含む)	クモ類	1目20科42種	陸産貝類	4目12科34種	魚類	3目4科5種	底生動物	6門25目96科244種(陸上昆虫類との重複種含む)	植物	114科501種	<選定した注目種>			区分	分類	種名	上位性	鳥類	フクロウ	鳥類	サシバ	爬虫類	ヤマカガシ	昆虫類	タガメ	典型性	植物	ネザサ	植物	コナラ	植物	オオバヤシャブシ	植物	ススキ	底生動物	ニッポンヨコエビ	底生動物	ウチワミミズ属	魚類	ミナミメダカ	陸産貝類	ニホンケンガイ	昆虫類	ウスイロコバントビケラ	昆虫類	クルマバツタモドキ	両生類	モリアオガエル	鳥類	ヒヨドリ	鳥類	アトリ	哺乳類	アカネズミ	特殊性	哺乳類	キクガシラコウモリ	昆虫類	ゲンジボタル	昆虫類	ヘイケボタル	昆虫類	ヒメボタル	<p>生態系の生息基盤の改変状況</p> <p>工事の実施により、採石場及び跡地(改変率13.5%)及び樹林及び谷戸(改変率0.5%)が改変によって基盤環境が消失すると考えられ、採石場及び跡地の「ススキ群落」、「クズ群落」、「ヌルデ-アカメガシワ群落」で改変率が高いと予測された。改変範囲の大半は採石場及び跡地であり、人為の影響が強く自然度の低い環境である。一方、比較的自自然度の高い樹林及び谷戸の改変率は0.5%と極めて少ない。</p> <p>よって、敷地の存在(土地の改変)による生態系の基盤環境への影響は極めて小さいと予測された。</p> <p>生態系の注目種(上位性、典型性、特殊性)への影響</p> <p>【上位性】 タガメが「影響を受ける(A)」と予測され、その他の種については「影響は極めて小さい(C)」と予測された。よって、工事の実施及び施設等の存在・供用により、止水域の上位性種が影響を受けると予測された。</p> <p>【典型性】 ウチワミミズ属が「影響を受ける(A)」、ニッポンヨコエビ、ウスイロコバントビケラ、モリアオガエルが「影響を受けるおそれがある(B)」と予測され、その他の種については「影響は極めて小さい(C)」と予測された。よって、工事の実施及び施設等の存在・供用により、止水域及び河川に生息する種及び集光性を有する昆虫類の典型性種が影響を受けると予測された。</p> <p>【特殊性】 ゲンジボタル、ヒメボタルが「影響を受けるおそれがある(B)」と予測され、その他の種については「影響は極めて小さい(C)」と予測された。よって、工事の実施及び施設等の存在・供用により、河川に生息する種及び光コミュニケーションを行う昆虫類の特殊性種が影響を受けると予測された。</p> <p>地域を特徴付ける生態系への影響</p> <p>都市計画対象事業実施区域及びその周辺の生態系全体には大きな影響はないものの、個々の注目種に対する影響が、当地の生態系の課題であるものと考えられる。</p>	<p>環境保全措置の検討</p> <p>・資材等運搬車両走行時の配慮:安全運転の励行及び車両管理を徹底する。</p> <p>・建設機械・工法の選定:できる限り低騒音型の建設機械・工法を採用するよう努める。</p> <p>・仮設沈砂池の設置:敷地内の雨水を仮設沈砂池に集めて沈砂後に下流河川へ放流する。</p> <p>・仮設沈砂池の浚渫:仮設沈砂池における濁水の沈降機能が維持されるよう、定期的な土砂の抜き取りをするなど適切な対応に努める。</p> <p>・仮設排水経路及び仮設沈砂池位置の検討:敷地造成工事における仮設排水経路及び仮設沈砂池の位置を検討し、敷地に隣接する2か所の注目すべき生息地(止水域)への濁水の流入を防ぐ。</p> <p>・排水のクローズド・リサイクル:ごみピット汚水、プラント排水及び生活排水は、排水処理後に再循環利用等を行い、周辺河川等へは放流しない。</p> <p>・植栽の実施:敷地内においても可能な限り植栽を施す。</p> <p>・敷地造成範囲の見直し:敷地造成範囲を見直すことで、改変により消失するおそれのある注目すべき生息地(止水域)を保存する。</p> <p>・施設内の排水経路の配慮:施設内の排水経路に配慮することで、注目すべき生息地(止水域)への集水域面積を維持する。</p> <p>・代償環境の整備:既存の注目すべき生息地(止水域)を改良したビオトープを造成する。</p> <p>・代償環境への水源導入:保全対象の注目すべき生息地(止水域③)への水源(地下浸透水)を整備するビオトープ(止水域⑤)に導入する。</p> <p>・照明器具への配慮:施設入口に設置する照明施設には、周辺への光の漏洩を極力抑える構造とし、光源の波長は昆虫類への影響が小さいものを採用する。</p> <p>・仮設沈砂池内の蛇行構造:仮設沈砂池内に壁を配置し、入口から出口の水の流れを蛇行させることにより、仮設沈砂池内の水の滞留時間を稼ぐ。</p> <p>・砂防堰堤及び既存沈砂池の適宜浚渫:沈砂池の役割を果たす下流の砂防堰堤及び既存沈砂池の土砂貯留容量を考慮し、適宜浚渫する。</p>	<p>回避・低減に係る評価</p> <p>調査及び予測の結果、並びに環境保全措置の検討結果をふまえると、工事の実施(建設機械の稼働(騒音・振動)・雨水の排水(水の濁り))及び敷地の存在(土地の改変)、機械等の稼働(照明の設置)に伴う生態系への影響は、左記の環境保全措置を講じることにより、事業者の実行可能な範囲内で回避又は低減が図られているものと評価した。</p>	<p>事業計画との重ね合わせにより行った予測の不確実性は小さく、採用する環境保全措置の効果にも不確実性は小さいと考えられる。ただし、都市計画対象事業実施区域周辺に分布するタガメ及びウチワミミズ属、ニッポンヨコエビ、モリアオガエル、ヒメボタルについては、影響が生じると予測されており、当該影響に対して実施する環境保全措置のうち「敷地造成範囲の見直し」、「施設内の排水経路の配慮」、「代償環境の整備」については、その効果に不確実性があると考えられることから、事後調査として、「ビオトープ及び既存生息地生息状況の調査」を実施する。</p>
分類群	概要																																																																																			
哺乳類	6目9科13種																																																																																			
鳥類(一般鳥類)	11目30科67種(猛禽類調査確認種を含む)																																																																																			
鳥類(猛禽類)	1目2科8種(一般鳥類との重複種含む)																																																																																			
両生類	2目7科12種																																																																																			
爬虫類	2目4科6種																																																																																			
陸上昆虫類	18目183科572種(底生動物との重複種含む)																																																																																			
クモ類	1目20科42種																																																																																			
陸産貝類	4目12科34種																																																																																			
魚類	3目4科5種																																																																																			
底生動物	6門25目96科244種(陸上昆虫類との重複種含む)																																																																																			
植物	114科501種																																																																																			
<選定した注目種>																																																																																				
区分	分類	種名																																																																																		
上位性	鳥類	フクロウ																																																																																		
	鳥類	サシバ																																																																																		
	爬虫類	ヤマカガシ																																																																																		
	昆虫類	タガメ																																																																																		
典型性	植物	ネザサ																																																																																		
	植物	コナラ																																																																																		
	植物	オオバヤシャブシ																																																																																		
	植物	ススキ																																																																																		
	底生動物	ニッポンヨコエビ																																																																																		
	底生動物	ウチワミミズ属																																																																																		
	魚類	ミナミメダカ																																																																																		
	陸産貝類	ニホンケンガイ																																																																																		
	昆虫類	ウスイロコバントビケラ																																																																																		
	昆虫類	クルマバツタモドキ																																																																																		
	両生類	モリアオガエル																																																																																		
	鳥類	ヒヨドリ																																																																																		
	鳥類	アトリ																																																																																		
	哺乳類	アカネズミ																																																																																		
	特殊性	哺乳類	キクガシラコウモリ																																																																																	
		昆虫類	ゲンジボタル																																																																																	
昆虫類		ヘイケボタル																																																																																		
昆虫類		ヒメボタル																																																																																		

表 6-14 環境影響評価の一覧

環境要素の区分	項目		調査結果	予測結果	環境保全措置	評価結果	事後調査
	環境要素の区分	影響要因の区分					
景観	景観（主要な眺望点及び景観資源並びに主要な眺望景観）	敷地の存在（土地の改変）、構造物の存在	<p>現地調査結果</p> <p>・主要な眺望点の状況 都市計画対象事業実施区域北西側約 3.8km に真幸ヶ丘公園展望台が、同東北東側約 3.0km に朝山森林公園展望台が分布している。また、中国自然歩道久奈子神社・花の郷周遊モデルコースは、踏査の結果、都市計画対象事業実施区域北北西側約 1.8km のハイキングコース脇に伐開地があり、本施設構造物を視認できるものと考えられた。</p> <p>・景観資源の状況 都市計画対象事業実施区域北側に国指定名勝及び天然記念物「立久恵」及び市指定天然記念物「立久恵峡特殊植物群落」が分布しており、立久恵峡付近の神戸川は都市計画対象事業実施区域の南側～東側～北側と流れて、日本海に流入している。芦谷滝は、都市計画対象事業実施区域西側の山間部に位置した滝である。十間川は、都市計画対象事業実施区域北東側で神戸川から分流し、都市計画対象事業実施区域北側を流れ、神西湖に流入している。</p> <p>・主要な眺望景観の状況 「主要な眺望点の状況」で選定した調査対象地点 3 地点を主要眺望点とし、四季の景観写真を撮影した。</p>  <p style="text-align: center;">< 真幸ヶ丘公園展望台 ></p>  <p style="text-align: center;">< 朝山森林公園展望台 ></p>  <p style="text-align: center;">< 中国自然歩道久奈子神社・花の郷周遊モデルコース ></p>	<p>敷地の存在及び構造物の存在に伴う主要な眺望点及び景観資源の分布への影響 主要な眺望点及び景観資源の分布位置は、都市計画対象事業実施区域から十分に離れており、主要な眺望点及び景観資源の改変は行わない。よって、本施設等の整備による主要な眺望点及び景観資源の分布への影響はないと予測される。</p> <p>敷地の存在及び構造物の存在に伴う主要な眺望景観の変化 本施設構造物は、煙突の高さ 59m、工場棟建屋の高さ 35m を想定しており、共に周辺の樹木より高くなることから、遠方からの視認が推定される。よって、遠方かつ高台で、都市計画対象事業実施区域周辺の樹林を視認可能な眺望点からは樹林景観の中に本施設構造物が出現することとなる。一方、都市計画対象事業実施区域は丘陵地の中腹にあり、周辺には住居はないこと、周辺集落は急峻な谷地形に立地していること、平野部から概ね 2km 以上離れていることから、視認可能な眺望点からは中景～遠景となり、眺望景観のごく一部として認識されるものと予測される。</p> <p>< 真幸ヶ丘公園展望台 > 真幸ヶ丘公園展望台は、都市計画対象事業実施区域の北西側、約 3.8km の遠景域に位置する。都市計画対象事業実施区域方向の眺望景観に入る景観資源は無い。 フォトモンタージュによる景観の変化の状況は、山間に煙突の上部が視認され、スカイラインを切断するものの、本施設構造物は輪郭がやっと分かる程度であり、眺望景観への変化は極めて小さい。また、景観資源の眺望への影響も無い。 以上より、真幸ヶ丘公園展望台からの眺望景観への影響は、極めて小さいと予測される。</p> <p>< 朝山森林公園展望台 > 朝山森林公園展望台は、都市計画対象事業実施区域の北東側、約 2.9km の中景域に位置する。都市計画対象事業実施区域方向の眺望景観は、神戸川が視認できる。 フォトモンタージュによる景観の変化の状況は、山間に煙突及び建屋の一部が視認され、スカイラインを切断する。本施設構造物は十分に見えるが、景観的にはほとんど気にならない。また、景観資源の眺望への影響も無い。 以上より、朝山森林公園展望台からの眺望景観への影響は、極めて小さいと予測される。</p> <p>< 中国自然歩道久奈子神社・花の郷周遊モデルコース > 中国自然歩道久奈子神社・花の郷周遊モデルコースの主要な眺望点は、都市計画対象事業実施区域の北北西側、約 1.6km の中景域に位置する。都市計画対象事業実施区域方向の眺望景観に入る景観資源は無い。 フォトモンタージュによる景観の変化の状況は、山間に煙突及び建屋の一部が視認され、スカイラインを切断する。本施設構造物はシルエットになっている場合はよく見えるが、視覚の変化の程度は小さい。また、景観資源の眺望への影響も無い。 以上より、中国自然歩道久奈子神社・花の郷周遊モデルコースの主要な眺望点からの眺望景観への影響は、極めて小さいと予測される。</p> <p>以上のことから、主要眺望点の代表点における圧迫感等の変化は、全ての地点で極めて小さいと予測された。</p>	<p>環境保全措置の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・構造物の意匠の検討：建屋・煙突の形状及び配色に配慮する。 ・植栽の実施：敷地内においても可能な限り植栽を施す。 ・出雲市景観計画との整合：上記「構造物の意匠の検討」及び「植栽の実施」の実施においては、出雲市景観計画との整合を図る。 	<p>回避・低減に係る評価 調査及び予測の結果、並びに環境保全措置の検討結果をふまえると、敷地の存在（土地の改変）及び構造物の存在が都市計画対象事業実施区域近傍からの眺望景観へ及ぼす影響は、左記の環境保全措置を講じることにより、事業者の実行可能な範囲内で回避又は低減が図られているものと評価した。</p>	<p>事業計画との重ね合わせにより行った予測の不確実性は小さく、また、採用する環境保全措置の効果にも不確実性は小さいと考えられることから、事後調査は実施しない。</p>

表 6-15 環境影響評価の一覧

環境要素の区分	項目		調査結果	予測結果	環境保全措置	評価結果	事後調査																																											
	環境要素の区分	影響要因の区分																																																
廃棄物等	廃棄物等	建設機械の稼働	<p>既存資料の整理及び事業計画に基づく推定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建設副産物 <建設発生土> 建設工事で発生する建設発生土量は、本施設で 375,600m³となる。 <その他の建設副産物> 建設工事に伴い発生するその他の建設混合廃棄物は、工場用途での規模別原単位が 18kg/m² となり、その内訳の割合は、コンガラが 25%、アスコンが 6%、ガラス陶磁器が 5%、廃プラが 8%、金属くずが 6%、木くずが 13%、紙くずが 7%、石膏ボードが 8%、その他が 22%となる。 	<p>建設副産物の処分内容 建設発生土は 375,600m³発生するが、そのうち 2,300m³については盛土として場内で再利用する。残土として 373,300m³が発生するが、「資源の有効な利用の促進に関する法律」に基づき、全て隣接する既存の採石場（操業中）の採掘跡地の窪地の埋め戻し土として有効利用を図る計画である。</p> <p>また、伐採木、コンクリート殻は、「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」に基づき可能な限り再利用及び再資源化に努めるとともに、再利用及び再資源化できない建設副産物は、産業廃棄物処理業者へ委託し、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に基づき適切に処分を行うことから、適正に処理・処分することができるものと予測する。</p> <p style="text-align: center;"><建設工事に伴う建設副産物の発生量と処分内容></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>発生量</th> <th>場内再利用</th> <th>残余量</th> <th>処分内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>建設発生土</td> <td>375,600 m³</td> <td>2,300 m³</td> <td>373,300 m³</td> <td>残土は隣接採石場で有効利用する。</td> </tr> <tr> <td>伐採木</td> <td>627 t</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>再資源化</td> </tr> <tr> <td>コンクリート殻</td> <td>64 m³</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>再資源化</td> </tr> </tbody> </table> <p>その他の建設副産物の処分内容 主要施設である工場棟、管理棟の延床面積及び算出した建設混合廃棄物の発生量以下に示すとおりであり、建築工事全体の合計で約 189 t の発生が予測される。</p> <p>これらの建設副産物は、「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」に基づき可能な限り再利用及び再資源化に努めるとともに、再利用及び再資源化できない建設副産物は、産業廃棄物処理業者へ委託し、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に基づき適切に処分を行うことから、適正に処理・処分することができるものと予測する。</p> <p style="text-align: center;"><主要施設の床面積と建設混合廃棄物の発生量></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>主要施設</th> <th>建物面積 (m²)</th> <th>階数</th> <th>延床面積 (m²)</th> <th>建設工事 排出原単位 (t/m²)</th> <th>建設副産物 発生量 (t)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>工場棟</td> <td>4,950</td> <td>—</td> <td>6,435</td> <td rowspan="2">0.023</td> <td>148</td> </tr> <tr> <td>管理棟</td> <td>600</td> <td>3</td> <td>1,800</td> <td>41</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>5,550</td> <td>—</td> <td>8,235</td> <td>—</td> <td>189</td> </tr> </tbody> </table>	種類	発生量	場内再利用	残余量	処分内容	建設発生土	375,600 m ³	2,300 m ³	373,300 m ³	残土は隣接採石場で有効利用する。	伐採木	627 t	—	—	再資源化	コンクリート殻	64 m ³	—	—	再資源化	主要施設	建物面積 (m ²)	階数	延床面積 (m ²)	建設工事 排出原単位 (t/m ²)	建設副産物 発生量 (t)	工場棟	4,950	—	6,435	0.023	148	管理棟	600	3	1,800	41	合計	5,550	—	8,235	—	189	<p>環境保全措置の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生土の再利用：建設発生土の一部は盛土として場内で再利用するとともに、発生する残土は全て隣接する既存の採石場の採掘跡地の窪地の埋め戻し土として有効利用を図る。 ・再資源化の促進：工事で発生する建設廃棄物は、再利用しやすい材料の使用や分別を徹底し、再資源化の促進に努める。 	<p>回避・低減に係る評価 調査及び予測の結果、並びに環境保全措置の検討結果をふまえると、建設機械の稼働に伴う廃棄物等の影響は、左記の環境保全措置を講じることにより、事業者の実行可能な範囲内で回避又は低減が図られているものと評価した。</p>	<p>予測では公表されている原単位等を用いており不確実性は小さく、また、採用する環境保全措置の効果に不確実性はほとんどないと考えられることから、事後調査は実施しない。</p>
		種類	発生量	場内再利用	残余量	処分内容																																												
建設発生土	375,600 m ³	2,300 m ³	373,300 m ³	残土は隣接採石場で有効利用する。																																														
伐採木	627 t	—	—	再資源化																																														
コンクリート殻	64 m ³	—	—	再資源化																																														
主要施設	建物面積 (m ²)	階数	延床面積 (m ²)	建設工事 排出原単位 (t/m ²)	建設副産物 発生量 (t)																																													
工場棟	4,950	—	6,435	0.023	148																																													
管理棟	600	3	1,800		41																																													
合計	5,550	—	8,235	—	189																																													
		廃棄物の発生	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の稼働に伴う廃棄物の発生量 施設の稼働に伴い発生する廃棄物（焼却灰）の発生量は、4,910 t/年となる。 	<p>施設の稼働に伴い発生する廃棄物（焼却灰）の発生量 施設の供用に伴って発生する廃棄物（焼却灰）の発生量は、下表に示すとおりであり、これらの廃棄物は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に基づき、適切に中間処理を行った上で、神西一般廃棄物埋立処分場に搬入し、適切に処分を行うことから、適正に処理・処分することができるものと予測する。</p> <p style="text-align: center;"><施設の供用に伴う廃棄物（焼却灰）量></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>廃棄物等の種類</th> <th>発生量 (t/年)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>焼却灰</td> <td>4,910</td> </tr> </tbody> </table>	廃棄物等の種類	発生量 (t/年)	焼却灰	4,910	<p>環境保全措置の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分別・減量化の推進：出雲市において、分別回収の徹底及びごみの減量化の取り組みを推進する。 	<p>回避・低減に係る評価 調査及び予測の結果、並びに環境保全措置の検討結果をふまえると、施設の供用に伴う廃棄物等の影響は、左記の環境保全措置を講じることにより、事業者の実行可能な範囲内で回避又は低減が図られているものと評価した。</p>	<p>予測及び採用する環境保全措置の効果に不確実性はほとんどないと考えられることから、事後調査は実施しない。</p>																																							
廃棄物等の種類	発生量 (t/年)																																																	
焼却灰	4,910																																																	

表 6-16 環境影響評価の一覧

環境要素の区分	項目		調査結果	予測結果	環境保全措置	評価結果	事後調査																																																																																
	環境要素の区分	影響要因の区分																																																																																					
温室効果ガス等	温室効果ガス等	施設の稼働(排ガス・機械等の稼働)、廃棄物の搬入等	<p>既存資料の整理及び事業計画に基づく推定</p> <p>・発生する温室効果ガス等の種類及びその量 本施設の事業計画及び既存施設(出雲エネルギーセンター)の状況に基づいて整理した。</p> <p><温室効果ガスの発生要因(既存施設及び本施設)></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">発生要因</th> <th colspan="2">既存施設</th> <th colspan="2">本施設</th> </tr> <tr> <th>直接排出</th> <th>間接排出</th> <th>直接排出</th> <th>間接排出</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">排出</td> <td>廃棄物運搬車両等の運行</td> <td>—</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>ごみの焼却</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>機械等の稼働(電気使用)</td> <td>—</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>機械等の稼働(燃料使用)</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>発電</td> <td>—</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table>	発生要因	既存施設		本施設		直接排出	間接排出	直接排出	間接排出	排出	廃棄物運搬車両等の運行	—	○	—	○	ごみの焼却	○	—	○	—	機械等の稼働(電気使用)	—	○	—	○	機械等の稼働(燃料使用)	○	—	○	—	削減	発電	—	○	—	○	<p>施設の供用時(平成34年度)の本施設から直接排出される温室効果ガスは21,251 tCO₂/年、本施設外で間接的に排出される温室効果ガスは-8,198 tCO₂/年と予測され、合計で13,053 tCO₂/年の温室効果ガスが排出されると予測される。</p> <p>本施設については、既存施設(平成28年度)と比較すると、17,673 tCO₂/年の削減効果があるものと予測される。</p> <p><温室効果ガス予測結果></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">発生要因</th> <th colspan="2">既存施設(tCO₂/年)</th> <th colspan="2">本施設(tCO₂/年)</th> </tr> <tr> <th>直接排出</th> <th>間接排出</th> <th>直接排出</th> <th>間接排出</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>廃棄物運搬車両等の運行</td> <td>—</td> <td>2,348</td> <td>—</td> <td>1,976</td> </tr> <tr> <td>ごみの焼却</td> <td>21,408</td> <td>—</td> <td>21,109</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>機械等の稼働(電気使用)</td> <td>—</td> <td>14,722</td> <td>—</td> <td>7,957</td> </tr> <tr> <td>機械等の稼働(燃料使用)</td> <td>6,322</td> <td>—</td> <td>142</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>発電</td> <td>—</td> <td>-14,074</td> <td>—</td> <td>-18,131</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>27,730</td> <td>2,996</td> <td>21,251</td> <td>-8,198</td> </tr> <tr> <td>総計</td> <td colspan="2">30,726</td> <td colspan="2">13,053</td> </tr> </tbody> </table>	発生要因	既存施設(tCO ₂ /年)		本施設(tCO ₂ /年)		直接排出	間接排出	直接排出	間接排出	廃棄物運搬車両等の運行	—	2,348	—	1,976	ごみの焼却	21,408	—	21,109	—	機械等の稼働(電気使用)	—	14,722	—	7,957	機械等の稼働(燃料使用)	6,322	—	142	—	発電	—	-14,074	—	-18,131	計	27,730	2,996	21,251	-8,198	総計	30,726		13,053		<p>環境保全措置の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エネルギー回収：焼却等の処理により発生した廃熱を利用して施設内で発電・利用するほか、余剰電力については売電等を行い、エネルギーを回収・循環利用する。 ・運転手の教育・指導：廃棄物運搬車両の運行等に当たっては、走行速度等の交通法規を遵守し、アイドリングストップの励行や空ぶかしを行わない等、運転手の教育・指導を徹底する。 ・分別・減量化の推進：出雲市において、分別回収の徹底及びごみの減量化の取り組みを推進する。 	<p>回避・低減に係る評価</p> <p>調査及び予測の結果、並びに環境保全措置の検討結果をふまえると、施設の稼働(排ガス及び機械等の稼働)及び廃棄物の運搬等に伴う温室効果ガス等の影響は、左記の環境保全措置を講じることにより、事業者の実行可能な範囲内で回避又は低減が図られているものと評価した。</p>	<p>予測では公表されている原単位及び算出方法等を用いており不確実性は小さく、また、採用する環境保全措置の効果に不確実性はほとんどないと考えられることから、事後調査は実施しない。</p>
発生要因	既存施設		本施設																																																																																				
	直接排出	間接排出	直接排出	間接排出																																																																																			
排出	廃棄物運搬車両等の運行	—	○	—	○																																																																																		
	ごみの焼却	○	—	○	—																																																																																		
	機械等の稼働(電気使用)	—	○	—	○																																																																																		
	機械等の稼働(燃料使用)	○	—	○	—																																																																																		
削減	発電	—	○	—	○																																																																																		
発生要因	既存施設(tCO ₂ /年)		本施設(tCO ₂ /年)																																																																																				
	直接排出	間接排出	直接排出	間接排出																																																																																			
廃棄物運搬車両等の運行	—	2,348	—	1,976																																																																																			
ごみの焼却	21,408	—	21,109	—																																																																																			
機械等の稼働(電気使用)	—	14,722	—	7,957																																																																																			
機械等の稼働(燃料使用)	6,322	—	142	—																																																																																			
発電	—	-14,074	—	-18,131																																																																																			
計	27,730	2,996	21,251	-8,198																																																																																			
総計	30,726		13,053																																																																																				

第7章 環境影響の総合的な評価

本事業の実施が環境に及ぼす影響の評価は、以下の2つの観点から行った。

調査及び予測の結果並びに環境保全措置の検討を行った場合においてはその結果をふまえて、対象事業の実施により当該選定項目に係る環境要素に及ぶおそれがある影響が、事業者により実行可能な範囲内でできる限り回避され、又は低減されており、必要に応じその他の方法により環境の保全についての配慮が適正になされているか。

国又は関係する地方公共団体が実施する環境の保全に関する施策によって、選定項目に係る環境要素に関して基準又は目標が示されている場合には、当該基準又は目標と調査及び予測の結果との間に整合が図られているか。

本事業の実施が環境に及ぼす影響については、既存の知見及び現地調査結果をふまえて予測を行うとともに、環境保全措置の検討を行った結果、環境の保全に係る基準又は目標との整合性は概ね図られ、環境への影響は環境保全措置の実施により事業者の実行可能な範囲内でできる限り回避・低減されることから、環境保全への配慮は適正であると判断した。

なお、工事中及び供用後において、現段階で予測し得なかった著しい環境への影響が生じた場合には、必要に応じて影響の把握のための調査を実施し、適切な措置を講じる。

第8章 準備書についての意見及び都市計画決定権者の見解

8.1 準備書についての環境の保全の見地からの意見を有する者の意見及び都市計画決定権者の見解

「出雲市次期可燃ごみ処理施設整備事業に係る環境影響評価準備書」(以下「準備書」という。)は、島根県環境影響評価条例(平成 11 年 10 月 1 日、島根県条例第 34 号)第 15 条の規定に基づき、平成 30 年 1 月 5 日～2 月 5 日までの 1 か月間縦覧に供した。

また、本準備書について、島根県環境影響評価条例(平成 11 年 10 月 1 日、島根県条例第 34 号)第 17 条の規定に基づき、平成 30 年 1 月 5 日～2 月 20 日までの期間において、準備書についての環境の保全の見地からの意見を求めた結果、3 件の意見書が提出された。

準備書についての環境の保全の見地からの意見の概要及び都市計画決定権者の見解は、表 8-1 に示すとおりである。

表 8-1(1) 準備書についての環境の保全の見地からの意見の概要及び都市計画決定権者の見解

環境の保全の見地からの意見の概要	都市計画決定権者の見解
騒音・振動	
<p>騒音、振動等の調査が「道路に面する家の前」で行われておらず、「平均値」にて評価しているため、再調査・再評価(MAX 値)を要請します。</p>	<p>騒音の測定位置については、「騒音に係る環境基準の評価マニュアル(道路に面する地域編)」(平成 27 年 10 月、環境省)によると、評価対象道路より発生する道路交通騒音の大きさを把握する場合は、概ね直線区間で見通しの良い道路端の位置とするものとされています。</p> <p>道路沿道における騒音・振動等の調査は、これも参考にしううえで、交通量が概ね同一と考えられる区間内において、騒音・振動等の状況が代表的と想定される位置として、道路沿道における保全対象の分布状況も考慮しつつ、主要な交差点や局所的な湾曲部等を避けた位置で行いました。</p> <p>また、同マニュアルでは、個別の住居等における騒音レベルを把握する場合にも、建物による反射の影響を避けうる位置で測定することとされていることから、壁面を有する家屋前の位置を避けた場所で調査を行いました。</p> <p>なお、騒音に係る環境基準はエネルギー的な平均値(L_{Aeq}: 等価騒音レベル)で、振動規制法に係る道路交通振動の限度は時間率振動レベル(L_{10}: 測定値の 80% レンジ上端値)で評価することとされていることから、当該指標により評価を行いました。</p>

表 8-1(2) 準備書についての環境の保全の見地からの意見の概要及び都市計画決定権者の見解

環境の保全の見地からの意見の概要	都市計画決定権者の見解
事後調査	
<p>私はアクセス道路（古志 104 号線）に面した住居と作業場を所有し、そこで家族が暮らしています。（他に同様な住民が合わせて 4 軒あります。）</p> <p>建設工事や供用開始のタイミングで通行車両による騒音、振動、大気汚染および車両速度を「道路に面した家の前」で測定し、その結果（平均でなく MAX 値）を公表して頂きたい。</p>	<p>工事中及び供用後の関係車両の走行に伴う騒音・振動・大気汚染の影響については、現況調査の結果を踏まえて影響の予測を行った結果、いずれの地点・時期についても環境基準等の環境保全目標を満足すると評価されました。</p> <p>さらに、環境保全措置として運転手の教育・指導（走行速度等の交通法規の遵守、アイドリングストップの励行、空ぶかしを行わない等）や車両の維持管理を徹底し、騒音・振動・大気汚染の影響低減に努めてまいります。</p> <p>また、本環境影響評価で採用した予測手法は、予測精度に係る知見が十分に蓄積されているものであり、予測の不確実性は小さいと考えられること等により、騒音・振動・大気汚染等に係る事後調査は実施しないこととしています。</p> <p>しかしながら、事後調査とは別に、環境モニタリング調査の実施を検討する方針です。ご意見にある車両速度も含め、調査対象項目・内容並びに調査結果の公表方法等については、今後、地域住民の皆様のご意見・要望等もお聞きしたうえで検討してまいります。</p> <p>なお、環境モニタリング調査での測定結果については、各項目に係る環境基準等で規定された指標により、適切に評価を行います。</p>
その他（交通安全）	
<p>交通安全は運転者への教育の徹底とあるが、その方法を公表願いたい。その方法で請負会社（一次、二次、・・・）すべてに教育が浸透することを説明願いたい。</p>	<p>工事の実施にあたっては、事業者（市）から元請業者に対し、工事用車両の運行に係る運転手の教育・指導及びその周知・徹底（走行速度等の交通法規の遵守、アイドリングストップの励行、空ぶかしを行わない等の環境保全対策のほか、地元住民の優先走行の徹底等）を図ります。下請業者に対しても、元請業者を通じて安全訓練や新規入場者教育の実施を徹底するよう指導します。</p> <p>施設供用後においても、施設の運営事業者や収集運搬事業者等に対し工事中と同様に指導を図り、交通安全の徹底に努めてまいります。</p> <p>事業者（市）としては、工事中及び施設供用後のいずれにおいても指導した交通安全等が守られているかの把握に努めてまいります。</p> <p>なお、これらの交通安全対策については、今後の工事説明会等で、地域住民の方々へ説明を行います。</p>

表 8-1(3) 準備書についての環境の保全の見地からの意見の概要及び都市計画決定権者の見解

環境の保全の見地からの意見の概要	都市計画決定権者の見解
その他（交通安全）	
<p>個人でゴミを持ち込む者にどうやって教育するのか説明願います。</p>	<p>一般の個人ドライバーへ直接的に安全教育を行うことは困難ですが、本事業に係る関係車両の運転手の教育・指導のほかに、さらなる交通安全性の向上、個人車両も含めたドライバーへの注意喚起の観点で、通行車両のスピード制限、とび出し注意のための看板設置などを検討することも考えられ、歩行者等の通行支障等の課題にも留意のうえ、関係機関等と協議のうえ、必要に応じ適切な対応を行います。</p>
<p>特に、高齢者や小学生がアクセス道路を横断する際の事故防止をどうするのか。通行車両のスピード制限や高齢者、小学生に対し事故発生を抑制するインフラの整備を強くお願いする。</p>	
その他（防犯対策）	
<p>「道路に面した車庫や作業場」には大切な米や農機具を保管しているが、防犯上の対策を講じて頂きたい。</p>	<p>一般市民を含めた歩行者や車両の走行に伴う防犯上の課題については、個人個人の法令遵守に係る個別的な側面であると考えられるため、本事業における個別の対策は困難と考えています。</p>
その他（道路整備）	
<p>前記の問題は、いずれも住居や作業場に対し、アクセス道路が一定の距離を保って設定されれば解決できると考えるが、何故これを実施しないのか。「アクセス道路に面する住民」への配慮が消極的であり、その姿勢を改めて頂きたい。</p>	<p>ご指摘のアクセス道路は、適正な交通を担うことのできる道路構造を有しており、本事業の実施に伴う道路の付け替え等は困難ですが、道路沿道に分布する住居への騒音・振動等の影響や交通安全性の向上に留意し、運転手の教育・指導（走行速度等の交通法規の遵守、アイドリングストップの励行、空ぶかしを行わない等の環境保全対策のほか、地元住民の優先走行の徹底等）や車両の維持管理の徹底を行います。</p>
その他（意見書の取り扱い）	
<p>本意見書の取り扱いが、概要をまとめて県に提出とあるが、どのように意見をまとめるのか、不明瞭かつ不透明であり、意見書は「原本」を県に提出して頂きたい。</p>	<p>島根県環境影響評価条例第 18 条に基づき提出する「準備書についての意見の概要等送付書」に合わせて意見書の「原本」も島根県に提出いたします。</p>

8.2 準備書についての島根県知事の意見及び都市計画決定権者の見解

島根県環境影響評価条例(平成11年10月1日、島根県条例第34号)第19条第1項の規定に基づき、準備書について、島根県知事の意見が平成30年6月22日に述べられた。

準備書についての知事の意見及び都市計画決定権者の見解は、表8-2に示すとおりである。

表8-2(1) 準備書についての知事の意見及び都市計画決定権者の見解

知事の意見	都市計画決定権者の見解
総括的事項	
<p>1 事業計画及び工事計画を具体化するにあたっては、大気汚染防止、水質汚濁防止、生物多様性保全等の観点から、環境の保全に関する最新の知見を踏まえ、利用可能な最良の技術の導入など、より一層の環境影響の低減について検討を行うとともに、必要に応じ、地元住民等の意見を伺うなど、地元とのコミュニケーションのとれた適切な計画となるよう努めること。</p>	<p>事業計画及び工事計画を具体化するにあたっては、大気汚染防止、水質汚濁防止、生物多様性保全等の観点から、環境の保全に関する最新の知見を踏まえ、利用可能な最良の技術の導入など、より一層の環境影響の低減に留意します。</p> <p>また、地元住民等より提出された準備書についての環境保全の見地からの意見に留意し、地元とコミュニケーションをとり、適切な計画となるよう努めます。</p>
<p>2 事業実施前、施工中及び供用後に、現時点で予測し得ない新たな環境への影響を及ぼす事態が発生、または発生するおそれのある場合には、速やかに関係機関と協力して、原因究明のための調査及び適切な環境保全措置を講じること。また、必要に応じて環境監視を行うこと。</p>	<p>事業実施前、施工中及び供用後において、現時点で予測し得なかった新たな環境への影響を及ぼす事態が発生、または発生するおそれの生じた場合には、速やかに関係機関と協力して原因究明のための調査を実施し、適切な環境保全措置を講じます。</p> <p>また、事後調査に加え、本市による自主的な環境監視のためのモニタリング調査を継続的に実施し、環境の状況の把握に努めます。</p>
<p>3 事業の実施に伴い、走行車両が増加することによる大気質、騒音、振動等の生活環境への影響を地元住民も懸念している。必要に応じ、主たる走行ルートとなる市道の建設・維持管理部局と連携し、影響の低減に努めること。</p>	<p>事業の実施に伴い、走行車両が増加することによる大気質、騒音、振動等の生活環境への影響については、地元住民の懸念にも留意し、運転手の教育・指導（走行速度等の交通法規の遵守、アイドリングストップの励行、空ぶかしを行わない等）や車両の維持管理を徹底するなどの環境保全措置を適切に実施します。</p> <p>また、主たる走行ルートとなる市道の建設・維持管理部局と連携し、運転手への注意喚起の観点で路面表示なども検討し、影響低減に努めます。</p>

表 8-2(2) 準備書についての知事の意見及び都市計画決定権者の見解

知事の意見	都市計画決定権者の見解
<p>4 水銀に関する水俣条約の趣旨に則り、可能な限り水銀の排出抑制が図られるよう、水銀使用廃製品の回収・廃棄や排ガス処理を適切に行うこと。</p>	<p>水銀に関する水俣条約の趣旨に則り、可能な限り水銀の排出抑制が図られるよう、本施設で処理対象となる廃棄物への混入防止のため、水銀使用廃製品の分別回収の周知徹底を図ります。</p> <p>また、混入してしまった水銀に対しては、排ガス中の公害防止基準を設定し、排ガス中の水銀除去処理を適切に行います。</p>
<p>個別的事項</p>	
<p>1．動植物</p>	
<p>(1) 確認された重要な種の子ゴモズについて、繁殖の可能性はおそらくないということであるが、本種は県内における繁殖分布が知られていない種であり、万一事業実施区域が繁殖エリアになっていた場合の影響が懸念されることから、繁殖状況について適切な調査・評価を行い、その結果を評価書に記載すること。</p>	<p>確認された重要な種の子ゴモズについては、平成 28 年～29 年に実施した調査において、繁殖についての情報は得られませんでした。平成 30 年に繁殖状況等に係る追加調査を実施したうえで影響の再評価を行い、その結果を本評価書に記載しました。</p>
<p>(2) 事業実施区域の周辺河川には第五種共同漁業権が設定されている。事業実施にあたっては、漁業権の対象生物も含め、水生生物への影響を回避・低減するよう保全対策を適切に行うこと。</p>	<p>事業実施区域の周辺河川に生息する水生生物への影響を可能な限り回避・低減するため、仮設沈砂池の設置・浚渫等の濁水対策を適切に実施します。</p>
<p>2．生態系</p>	
<p>(1) 生態系の維持にあたっては上位種の餌となる種が生育できる環境を保つ必要があることから、工事に伴う濁水対策等を適切に行い、水生生物等の生育環境の保全に努めること。</p>	<p>生態系の注目種としたホタル類に関しては、平成 30 年にゲンジボタルの餌生物であるカワニナの分布及び河川環境の概要を追加的に調査し、その結果を本評価書に記載しました。</p> <p>また、工事に伴う濁水対策等については、準備書に示した環境保全措置に加え、追加的な措置（沈砂池内の蛇行構造、砂防堰堤及び既存沈砂池の適宜浚渫）を検討・実施することにより、水生生物等の生息・生育環境の保全に努めます。</p>
<p>(2) 生態系保全のためのビオトープの設置等の代償措置については、その効果に不確実性があることから、適切に事後調査を実施し、事後調査の結果を踏まえて、必要に応じて専門家の意見を伺いながら、適切な措置を講ずること。</p>	<p>生態系保全のためのビオトープの設置等の代償措置については、その効果に不確実性があることから、適切に事後調査を実施します。</p> <p>また、事後調査の結果を踏まえて、必要に応じて専門家の意見を伺ったうえで、適切な環境保全措置を講じます。</p>